

---

# JD Edwards EnterpriseOne 調達 管理 9.0 製品ガイド

---

2008 年 12月

## 商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

## 保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

## 制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

### U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

## 危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

## 第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young ([ey@cryptsoft.com](mailto:ey@cryptsoft.com)).

This product includes software written by Tim Hudson ([tjh@cryptsoft.com](mailto:tjh@cryptsoft.com)). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

## Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.





# 目次

## はじめに

この PeopleBook について .....	xxi
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xxi
アプリケーションの基礎.....	xxi
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xxii
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xxii
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xxii
追加情報.....	xxii
表記規則.....	xxiv
表記規則.....	xxiv
注意事項の表示.....	xxv
国、地域、業種の表記.....	xxv
通貨コード.....	xxvi
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xxvi
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxvi

## まえがき

JD Edwards EnterpriseOne調達管理 – まえがき.....	xxix
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxix
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxix
この製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxx

## 第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne調達管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne調達管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne調達管理の統合.....	1
JD Edwards EnterpriseOne調達管理の導入.....	3
グローバル導入の手順.....	4
調達管理の導入手順.....	4

## 第 2 章

調達管理について.....	7
業務の概要.....	7

調達管理について.....	7
調達管理業務について.....	7
調達管理システムの概要.....	9
調達管理システムについて.....	10
機能、用語、概念.....	10
オーダー処理サイクル.....	12

### 第 3 章

Vertex Sales Tax Q Seriesについて.....	15
Vertex Sales Tax Q Seriesシステムの互換性.....	15

### 第 4 章

調達管理における価格設定について.....	17
調達管理における価格設定.....	17
マトリックス品目.....	18
価格マトリックス.....	18
最低価格または最高価格による価格調整.....	18
品質属性による価格設定.....	19
手入力による購入価格の一時変更.....	19
入荷時の価格設定.....	19
調達管理のための価格再設定.....	20

### 第 5 章

カスタマ/サプライヤ・セルフサービスの設定について.....	21
カスタマ/サプライヤ・セルフサービス.....	21
事前設定.....	21
セルフサービスの設定.....	22
セルフサービス設定の概要.....	22
セキュリティの問題.....	22
処理オプションのアクティブ化.....	23

### 第 6 章

調達管理システムの設定.....	25
システム設定について.....	25
調達の自動採番の設定について.....	27
オーダー行タイプの定義.....	27

オーダー行タイプについて.....	27
オーダー行タイプの定義に使用するフォーム.....	28
オーダー行タイプの定義.....	28
オーダー処理規則の設定.....	32
オーダー処理規則について.....	32
事前設定.....	32
オーダー処理規則の設定に使用するフォーム.....	33
オーダー処理規則の設定.....	33
調達固定情報の設定.....	34
調達固定情報について.....	34
事前設定.....	34
調達固定情報の設定に使用するフォーム.....	35
事業所固定情報の定義.....	35
価格管理固定情報の定義.....	37
在庫状況の定義.....	38
システム固定情報の定義.....	39
アプリケーション制御固定情報の定義.....	40
UDCの設定.....	41
AAIの設定.....	44
JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムのAAIテーブルについて.....	44
会計システムのAAIテーブルについて.....	47
AAIの設定に使用するフォーム.....	48
流通AAI(P40950)の処理オプションの設定.....	48
流通AAIの設定.....	48
許容規則の作成.....	49
許容規則について.....	49
許容規則の作成に使用するフォーム.....	49
許容規則の作成.....	49
オーダー保留情報の設定.....	50
オーダー保留情報について.....	50
事前設定.....	51
オーダー保留情報の設定に使用するフォーム.....	51
オーダー保留情報の入力.....	51
陸揚費用の設定.....	52
陸揚費用について.....	52
事前設定.....	53
陸揚費用の設定に使用するフォーム.....	53
陸揚費用の設定.....	53
非在庫品目の設定.....	54
非在庫品目について.....	54

非在庫品目の設定に使用するフォーム.....	55
非在庫品目マスター(P4101N)の処理オプションの設定.....	55
非在庫品目の設定.....	56
印刷メッセージの定義.....	57
印刷メッセージについて.....	57
印刷メッセージの定義に使用するフォーム.....	58
購買オーダー・テンプレートの設定.....	58
購買オーダー・テンプレートについて.....	59
事前設定.....	59
購買オーダー・テンプレートの設定に使用するフォーム.....	60
オーダー・テンプレートの改訂(P4015)の処理オプションの設定.....	60
購買オーダー用仕入先テンプレートの作成.....	61
購買オーダー用ユーザー・テンプレートの作成.....	61
バッチ・モードでのテンプレートの改訂.....	61
仕入先実績テンプレートの再作成(R43815)の処理オプションの設定.....	61
モデル・ログの作成.....	63
モデル・ログについて.....	63
事前設定.....	63
モデル・ログの作成に使用するフォーム.....	63
モデル・ログの作成.....	63
階層ログの設定.....	65
階層ログについて.....	65
階層ログの設定に使用するフォーム.....	65
ログ階層レベルの設定.....	66
ログ機能のアクティブ化.....	66
ログ表示オプションの設定.....	66

## 第 7 章

仕入先情報の設定.....	67
仕入先および品目情報の設定.....	67
仕入先および品目情報の設定について.....	67
事前設定.....	69
仕入先および品目情報の設定に使用するフォーム.....	70
仕入先マスター(P04012)の処理オプションの設定.....	71
仕入先購買指示の定義.....	72
仕入先/品目関係(P43090)の処理オプションの設定.....	73
仕入先/品目関係の作成.....	74
納入パフォーマンスのガイドラインの設定.....	75
仕入先分析サマリー(P43230)の処理オプションの設定.....	75

合格品目のガイドラインの設定.....	76
仕入先パフォーマンス集計情報の定義.....	76
仕入先価格および割引規則の定義.....	77
仕入先価格および割引規則について.....	78
事前設定.....	80
仕入先価格および割引規則の定義に使用するフォーム.....	80
仕入先カタログの管理プログラム(P41061)の処理オプションの設定.....	80
仕入先価格の入力.....	81
購買用価格割引規則の作成.....	81
品目および仕入先への価格割引規則の添付.....	83

## 第 8 章

リベートの設定.....	85
リベートの設定について.....	85
基本リベート契約情報の入力.....	85
基本リベート契約情報について.....	86
事前設定.....	86
リベート契約の基本情報の入力に使用するフォーム.....	86
基本リベート契約情報の入力.....	86
リベートの取得条件の定義.....	87
リベート条件について.....	87
事前設定.....	88
リベート取得条件の定義に使用するフォーム.....	88
リベート金額の購買限度額の定義.....	89
購買限度額について.....	89
リベート金額の購買限度額の定義に使用するフォーム.....	89
購買契約の変更(P4340)の処理オプションの設定.....	89
リベート金額の購買限度額の定義.....	90

## 第 9 章

購買オーダー・コミットメントの設定.....	91
コミットメントのトラッキング設定.....	91
コミットメント・トラッキングについて.....	91
コミットメント・トラッキングの設定に使用するフォーム.....	92
コミットメントの設定.....	92
コミットメント・リリースの設定.....	93

**第 10 章**

<b>購買オーダーの入力</b> .....	<b>95</b>
購買オーダー入力について.....	95
購買オーダー (P4310) の処理オプションの設定.....	97
オーダー見出し情報の入力.....	113
オーダー見出し情報の入力について.....	113
事前設定.....	116
オーダー見出し情報の入力に使用するフォーム.....	117
オーダー見出し情報の入力.....	117
追加のオーダー見出し情報の入力.....	119
オーダー明細情報の入力.....	121
オーダー明細情報の入力について.....	121
事前設定.....	126
オーダー明細情報の入力に使用するフォーム.....	127
品目番号別明細行の入力.....	128
勘定科目コード別明細行の入力.....	130
複数の勘定配賦の入力.....	131
明細行の税情報入力.....	131
明細行の値引条件入力.....	132
明細行のレポート・コード入力.....	132
変更オーダーの入力.....	132
代替品目または置換品目の入力.....	132
キット・オーダーの入力.....	132
変更オーダーのコピー.....	133

**第 11 章**

<b>購買オーダーの処理</b> .....	<b>135</b>
特殊オーダー入力機能の処理.....	135
特殊オーダー入力機能について.....	135
特殊オーダー入力機能の処理に使用するフォーム.....	139
オーダーの複写.....	140
購買オーダー・ワークベンチ (P43101) の処理オプションの設定.....	140
複数の仕入先に対するオーダー入力.....	156
品目に対する仕入先の選択.....	156
仕入先カタログを使用した品目入力.....	156
オーダー・テンプレートを使用した品目入力.....	156
既存明細行からの購買オーダー作成.....	156
予算の処理.....	156
予算チェックについて.....	156

事前設定.....	158
予算の処理に使用するフォーム.....	159
予算の検討.....	159
保留オーダーの処理.....	160
オーダー保留について.....	160
事前設定.....	160
保留オーダーの処理に使用するフォーム.....	160
オーダー保留の入力.....	160
保留オーダー・リリース (P43070) の処理オプションの設定.....	161
オーダー保留のリリース.....	163
ログ情報の処理.....	163
ログ情報について.....	163
事前設定.....	164
ログ情報の処理に使用するフォーム.....	165
ログ入力 (P4305) の処理オプションの設定.....	165
ログ情報の入力.....	166
ログ・レポート/更新の実行.....	166
ログ・レポート/更新 (R43300) の処理オプションの設定.....	167
モデル・ログからの情報のコピー.....	167
バッチによるオーダーの印刷.....	167
バッチ印刷について.....	167
バッチ印刷.....	169
購買オーダー印刷 (R43500) の処理オプションの設定.....	169
購買オーダー印刷出力 (R43501) の処理オプションの設定.....	173
オーダーの個別印刷.....	175
個別オーダー印刷について.....	175
オーダーの個別印刷に使用するフォーム.....	176
対話形式によるオン・デマンド印刷.....	176
オーダー情報の処理.....	176
オーダー関連タスクについて.....	176
オーダー情報の処理に使用するフォーム.....	178
財務状況情報の検討.....	178
オーダー明細情報の印刷.....	180
オーダー明細の印刷 (R4401P) の処理オプションの設定.....	180

## 第 12 章

入荷処理の利用.....	181
入荷処理について.....	181
非公式の入荷処理.....	181

公式の入荷処理.....	181
入荷確認書の印刷.....	182
入荷確認書について.....	182
入荷確認書印刷(R43510)の処理オプションの設定.....	183
バッチ・モードによる入荷確認書の印刷.....	184
個別オーダーの入荷確認書の印刷.....	184
入荷の入力.....	184
入荷情報について.....	184
事前設定.....	187
入荷の入力に使用するフォーム.....	187
入荷確認(P4312)の処理オプションの設定.....	187
入荷情報の入力.....	199
一括入荷の入力.....	199
一括入荷について.....	199
事前設定.....	201
一括入荷の入力に使用するフォーム.....	201
一括入荷情報の入力.....	202
複数の保管場所およびロットへの品目の割当.....	202
シリアル番号の割当.....	202
入荷確認照会(P43214)の処理オプションの設定.....	202
入荷の戻し(逆仕訳).....	204
入荷トランザクションに対する仕訳の検討.....	204
入荷トランザクションに対する仕訳の検討について.....	204
入荷トランザクションに対する仕訳の検討.....	205
入荷の転記.....	205
入荷情報の印刷.....	205
入荷情報の印刷について.....	205
発注残の印刷.....	206
発注残状況の印刷.....	206
発注残状況(R43525)の処理オプションの設定.....	206
仕入先別入荷情報の印刷.....	206

## 第 13 章

伝票の作成.....	209
伝票作成について.....	209
事前設定.....	209
伝票作成.....	209
入荷処理中オーダーの検討.....	210
入荷処理中オーダーの検討について.....	210



入荷処理中オーダーの検討に使用するフォーム.....	210
入荷処理中オーダーの検討.....	211
陸揚費用の入力.....	211
入荷処理時の陸揚費用の入力について.....	211
個別処理による陸揚費用の入力について.....	211
事前設定.....	212
陸揚費用の入力に使用するフォーム.....	212
陸揚費用選択(P43291)の処理オプションの設定.....	212
陸揚費用の入力.....	212
伝票の作成.....	213
伝票作成について.....	213
代替通貨で受け取った請求書の管理について.....	219
事前設定.....	219
伝票の作成に使用するフォーム.....	220
買掛金標準伝票入力(P0411)の処理オプションの設定.....	220
伝票照合(P4314)の処理オプションの設定.....	227
運賃配賦(P43147)の処理オプションの設定.....	236
伝票と照合する入荷レコードの選択.....	237
伝票と照合するオーダー明細行の選択.....	237
運賃のオーダー明細行の選択.....	237
運賃の伝票処理のためのオーダー明細行の選択.....	237
請求書に対する原価変更の記録.....	239
留保金の処理.....	239
留保金について.....	239
事前設定.....	243
留保金の処理に使用するフォーム.....	244
留保金のある伝票の入力.....	244
留保金をリリースする伝票の入力.....	244
入荷レコードからの複数伝票作成.....	244
入荷レコードからの複数伝票作成について.....	245
入荷レコードからの複数伝票作成.....	246
評価済入荷決済(R43800)の処理オプションの設定.....	246
伝票トランザクションに対する仕訳の検討と転記.....	247
伝票金額貸借一致の検証.....	247
伝票仕訳帳(R04305)の処理オプションの設定.....	248
商品入荷前の仮請求書作成.....	248
仮請求書について.....	248
商品入荷前の仮請求書作成に使用するフォーム.....	249
予備伝票を作成するための仮請求書の作成.....	249
予備伝票からの正式伝票の作成.....	249

仮請求書情報の印刷.....	249
仮伝票明細(R43428)の処理オプションの設定.....	250
伝票情報の印刷.....	250
明細行別の伝票情報印刷.....	250
入荷/伝票状況レポート(R43412)の処理オプションの設定.....	250
入荷別未決済伝票情報の印刷.....	251
仕入先の伝票金額の印刷.....	251
仕入先分析レポート(R04602)の処理オプションの設定.....	251

## 第 14 章

<b>特殊オーダー処理.....</b>	<b>253</b>
特殊オーダー処理について.....	253
購買要求の処理.....	255
購買要求について.....	255
購買要求明細行について.....	255
事前設定.....	256
購買要求の処理に使用するフォーム.....	257
購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース(P43060)の処理オプションの設定.....	257
一括オーダーの処理.....	260
一括オーダーについて.....	260
一括オーダーの処理に使用するフォーム.....	261
見積オーダーの処理.....	261
見積オーダーについて.....	261
見積オーダーの処理に使用するフォーム.....	264
見積要求の印刷.....	264
RFQレポート(R43530)の処理オプションの設定.....	265
見積回答の入力(P4334)の処理オプションの設定.....	265
価格見積からのオーダー作成.....	266
価格見積からのオーダー作成について.....	266
価格見積からのオーダー作成に使用するフォーム.....	267
見積オーダーのリリース(P43360)の処理オプションの設定.....	267
価格見積からのオーダー作成.....	268
オーダー改訂の処理.....	269
オーダー改訂について.....	270
オーダー改訂処理に使用するフォーム.....	271
オーダー改訂の作成.....	271
購買オーダー/変更オーダー集計(P4319)の処理オプションの設定.....	271
オーダー改訂情報の検討.....	272
オーダー改訂情報の印刷.....	273

オーダー改訂履歴レポート(R43535)の処理オプションの設定.....	273
購買オーダーの生成.....	273
購買オーダーの生成について.....	273
事前設定.....	274
購買オーダーの生成に使用するフォーム.....	275
購買オーダーの生成(P43011)の処理オプションの設定.....	275
購買オーダーの生成.....	279
在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成の処理.....	280
在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム(R437002)について.....	280
発注提示在庫品目プログラム(P4371)について.....	281
在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成に使用するフォーム.....	281
在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成の実行.....	281
在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成(R437002)の処理オプションの設定.....	281
発注提示在庫品目(P4371)の処理オプションの設定.....	284
再発注品目の提示の処理.....	284

## 第 15 章

承認処理.....	285
承認処理について.....	285
承認経路の処理.....	285
承認経路について.....	286
事前設定.....	287
承認経路の処理に使用するフォーム.....	288
承認レベルの改訂(P43008)の処理オプションの設定.....	288
承認経路の作成.....	288
承認権限の委任.....	289
承認待ちオーダーの処理.....	289
承認メッセージと承認待ちオーダーについて.....	289
承認待ちオーダーの処理に使用するフォーム.....	291
オーダーに対する承認メッセージの検討.....	291
購買オーダー承認(P43081)の処理オプションの設定.....	291
承認待ちオーダーの検討.....	292
オーダーの承認と却下.....	293
オーダーの承認と却下について.....	293
事前設定.....	293
オーダーの承認または却下に使用するフォーム.....	294
承認処理のフィールド固定情報の設定.....	294
承認処理のフィールド固定情報について.....	294
事前設定.....	294

承認処理のフィールド固定情報の設定に使用するフォーム.....	294
承認処理のフィールド固定情報の設定.....	295

## 第 16 章

<b>入荷工程.....</b>	<b>297</b>
入荷工程について.....	297
入荷工程の作成.....	298
作業の定義について.....	298
入荷工程の品目に対する仕訳作成について.....	299
事前設定.....	300
入荷工程の作成に使用するフォーム.....	301
入荷工程の作成.....	301
品目除去に対する支払適格性の定義.....	302
品目除去について.....	302
品目除去に対する支払適格性の定義に使用するフォーム.....	302
入荷工程のアクティブ化.....	302
入荷工程のアクティブ化について.....	302
事前設定.....	303
入荷工程のアクティブ化に使用するフォーム.....	303
品目に対する入荷工程の割当.....	303
抜き取り検査要件と品目仕様の定義.....	304
抜き取り検査要件と品目仕様について.....	304
事前設定.....	304
抜き取り検査要件と品目仕様の定義に使用するフォーム.....	304
抜き取り検査要件と品目仕様の定義.....	304
入荷工程の品目処理.....	305
品目関連タスクについて.....	305
入荷工程品目の処理に使用するフォーム.....	306
入荷工程の移動/処分(P43250)の処理オプションの設定.....	306
品目現行作業の検討.....	311
作業間の品目移動.....	311
入荷工程からの品目の除去.....	311
品目の除去および戻し(逆仕訳)について.....	311
入荷工程からの品目の除去に使用するフォーム.....	313
入荷工程からの品目の除去.....	313
入荷工程品目履歴の検討.....	313
品目履歴について.....	313
入荷工程品目履歴の検討に使用するフォーム.....	314
入荷工程履歴照会(P43252)の処理オプションの設定.....	314

入荷工程品目履歴の検討.....	314
------------------	-----

## 第 17 章

<b>仕入先の管理.....</b>	<b>317</b>
仕入先限度額の換算について.....	317
代替通貨での仕入先価格の生成.....	318
代替通貨での仕入先価格の生成について.....	318
代替通貨での仕入先価格の生成.....	320
通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成(R4106101)の処理オプションの設定.....	320
仕入先パフォーマンス情報の管理.....	321
仕入先パフォーマンス情報について.....	321
事前設定.....	323
仕入先パフォーマンス情報の管理に使用するフォーム.....	323
仕入先納入パフォーマンスの検討.....	324
仕入先品質パフォーマンスの検討.....	324
仕入先原価パフォーマンスの検討.....	324
仕入先および品目分析レコードの更新.....	324
仕入先および品目分析レコードの更新について.....	325
仕入先および品目分析レコードの更新.....	325
仕入先/品目関係の再作成(R43900)の処理オプションの設定.....	325

## 第 18 章

<b>リベートの処理.....</b>	<b>327</b>
リベートについて.....	327
リベート契約の集計情報の検討.....	327
リベートの状況に関する情報について.....	327
リベート契約の集計情報の検討に使用するフォーム.....	328
リベートの購買トランザクションの検討.....	328
リベートの購買トランザクションの検討に使用するフォーム.....	329
リベートに適用された数量または金額の変更.....	329
購買数量または金額について.....	329
リベートに適用された数量または金額の変更に使用するフォーム.....	329
リベートに適用された数量または金額の変更.....	329
リベート情報の更新.....	330
リベート情報の更新方法について.....	330
リベート・レポートの実行.....	330
リベート・レポート(R43400)の処理オプションの設定.....	330

**第 19 章**

<b>オーダーの更新</b> .....	<b>333</b>
オーダーの更新について.....	333
状況コードの更新.....	333
状況コードの更新について.....	333
状況コードの更新に使用するフォーム.....	333
状況スピード更新 (P43025) の処理オプションの設定.....	334
状況コードの更新.....	334
購買日付の改訂.....	335
購買日付の改訂について.....	335
購買日付の改訂に使用するフォーム.....	335
購買日付の改訂 (P43100) の処理オプションの設定.....	335

**第 20 章**

<b>購買オーダー・コミットメントの処理</b> .....	<b>337</b>
コミットメント処理について.....	337
オーダーに対するコミットメント情報の検討方法について.....	339
コミットメント整合性の検証プロセスについて.....	340
コミットメントおよび債務の処理.....	341
事前設定.....	341
コミットメントおよび債務の処理に使用するフォーム.....	341
コミットメント照会 (P40230A) の処理オプションの設定.....	341
オーダーに対するコミットメント情報の検討.....	342
コミットメント整合性レポートの実行.....	343
コミットメント整合性レポートについて.....	343
コミットメント整合性レポートの実行.....	344
コミットメント整合性レポート (R40910) の処理オプションの設定.....	344
PA元帳明細レコードの除去.....	345
PA元帳明細レコードの除去について.....	345
PA元帳明細レコードの除去.....	346
購買実績 (F43199) の除去 (R43199P) の処理オプションの設定.....	346
コミットメント監査証跡の再作成.....	346
コミットメント監査証跡について.....	346
事前設定.....	347
コミットメント監査証跡の再作成.....	347
作業へのコミット済原価の転記.....	348
作業へのコミット済原価の転記について.....	348
作業へのコミット済原価の転記.....	348
コミット済原価の再転記 (R00932) の処理オプションの設定.....	348

債務繰越の実行.....	349
債務繰越について.....	349
債務繰越の実行.....	350
債務繰越 (R4317) の処理オプションの設定.....	350

## 第 21 章

カスタマ/サプライヤ・セルフサービスの利用.....	353
Webでの入荷参照.....	353
事前設定.....	353
Webでの入荷参照に使用するフォーム.....	353
Webでのオーダー参照.....	353
オーダー参照について.....	353
オーダーの参照.....	354
見積要求への回答.....	354
見積要求へのセルフサービス回答について.....	354
事前設定.....	354
見積要求への回答に使用するフォーム.....	354
見積回答の入力 (P4334) の処理オプションの設定.....	354

## 第 22 章

データの除去.....	357
データの除去プログラムについて.....	357
事前設定.....	358
データの除去.....	358
データの除去に使用するフォーム.....	358
データの除去.....	358
F43001トランザクション・レコードの除去プログラム (R43001P) の実行.....	359
購買オーダー手配の除去プログラム (R4333WFP) の実行.....	359

## 付録 A

JD Edwards EnterpriseOne調達管理で使用するテーブル.....	361
JD Edwards EnterpriseOne調達管理で使用するテーブル.....	361

## 付録 B

JD Edwards EnterpriseOne調達管理の標準ワークフロー.....	367
JD Edwards EnterpriseOne調達管理の標準ワークフロー.....	367

購買オーダー承認.....	367
約束日付変更.....	368

## 付録 C

JD Edwards EnterpriseOne調達管理レポート.....	369
JD Edwards EnterpriseOne調達管理のすべてのレポート.....	369
JD Edwards EnterpriseOne調達管理の主なレポート.....	369
R43415 – 仕入先別購買オーダー集計.....	370
R43420 – 購買元帳レポート.....	370
R43640 – 要求日付別発注残.....	370
要求日付別発注残 (R43640) の処理オプション.....	370

JD Edwards EnterpriseOne用語集.....	373
----------------------------------	-----

索引 .....	389
----------	-----



# この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

---

**注意:** 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

---

## アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

---

## 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

### 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

---

**重要:** アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

---

#### 関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: [http://www.oracle.com/support/support\\_peoplesoft.html](http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html)

### ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

---

## 追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

## 表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

## 表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒( )で区切られています。
[ ] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。  また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

## 注意事項の表示

### 表記規則

#### 注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

---

**注意:** 注意事項は、このような形式で示しています。

---

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

---

**重要:** 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

---

#### 警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

---

**警告:** 警告は、このような形式で示しています。

---

#### 相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

## 国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

#### 国の表記

国際標準化機構(ISO)が定める国コードを使って表記しています。

#### 地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

#### 業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF(米国連邦政府)

- E&G(教育/公的機関)

## 通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

---

## ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn\_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

---

## 製品ガイドで使用する共通フィールド

### 住所録番号

エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合もあります。

### 仮定通貨コード

取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。

### バッチ番号

システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。

### バッチ日付

バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。

### バッチ状況

バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/1C)のコードが表示されます。値は次のとおりです。

空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。

A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。

D: バッチが正常に転記されています。

E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。

P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。

	U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。
<b>事業所</b>	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
<b>ビジネスユニット</b>	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
<b>カテゴリ・コード</b>	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
<b>会社</b>	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
<b>通貨コード</b>	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
<b>伝票会社</b>	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
<b>伝票番号</b>	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
<b>伝票タイプ</b>	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
<b>有効日付</b>	<p>住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 住所の変更が有効になる日付</li> <li>• 賃貸契約が有効になる日付</li> </ul>

- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

**会計期間、会計年度**

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

**元帳日付**

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。



# JD Edwards EnterpriseOne調達管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne製品
- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎
- この製品ガイドで使用する共通フィールド

---

## JD Edwards EnterpriseOne製品

この製品ガイドには、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOne製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne住所録
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理
- JD Edwards EnterpriseOneバルク在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne EDIデータ・インターフェイス
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達/外注管理
- JD Edwards EnterpriseOne製造管理 – 製造データ管理
- JD Edwards EnterpriseOne品質管理
- JD Edwards EnterpriseOne所要量計画
- JD Edwards EnterpriseOne購買要求セルフサービス
- JD Edwards EnterpriseOne輸送管理
- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne Project and Government Contract Accounting

---

## JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOneの最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOneは、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて<http://oracle.com/contracts/index.html>のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementアプリケーションの基礎 - まえがき」

## この製品ガイドで使用する共通フィールド

承認経路コード	オーダーの承認経路を指定するコードを入力します。
事業所	<p>原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。</p> <p>ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。</p> <p>ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。</p>
購買担当者	各在庫品目の適切な在庫レベルを設定および維持する担当者を識別する住所録番号を入力します。
値引係数	正味価格を決定するために在庫品目の単価に適用される係数を入力します。この品目に規則を割り当てた場合は、在庫価格設定規則からこの値が取得されます。価格設定規則の設定では、この値を単価に掛けるか、単価に加算するか、または単価から差し引くかどうかが決まります。
評価済み入荷	<p>オーダーが評価済入荷決済に適しているかどうかを示すコードを入力します。評価済入荷決済は、受け取った品目に基づいて伝票を作成するための仕入先との契約があることを表します。入荷レコードから伝票を作成するには、評価済入荷決済(R43800)の処理を使用します。その結果として、仕入先は請求書を送付しないため、伝票照合処理は省略できます。値は次のとおりです。</p> <p>N: 評価済入荷決済には適していません。</p> <p>Y: 評価済入荷決済に適しています。</p> <p>I: 入荷トランザクションの処理中です。</p> <p>T: 評価済入荷決済に適しています。ただし、入荷処理中に許容エラーが発生しました。</p> <p>R: 評価済入荷決済に適しています。ただし、現在、入荷工程処理中です。</p> <p>V: 評価済入荷決済処理を使用して、入荷トランザクションの伝票が作成されました。</p>
合計原価	数量に単価を掛けた値を入力します。
貨物取扱コード	仕入先出荷の配送手段を示す貨物/運賃取扱コード(42/FR)UDCにあるコードを入力します。たとえば、仕入先がドックに配送するか、または仕入

先のドックで出荷品を集荷できます。また、このコードを使用して、だれが運賃を支払うかを指定することもできます。たとえば、仕入先の倉庫から商品が搬出された時点で商品の法的な所有権が顧客に移り、出荷先までの輸送料金は顧客が支払うなどのコードを設定できます。

## 相手勘定

トランザクションの転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定を識別する元帳転記コード(41/9)UDCの値を入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(\*\*\*\*)入力してください。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システム、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne調達管理システム、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムについては、AAI(自動仕訳)を使用して、自動相手勘定のクラスを事前設定できます。次のように元帳クラス・コードを割り当てることができます。

IN20: 直送オーダー

IN60: 転送オーダー

IN80: 在庫販売

1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

販売在庫(借方) xxxxx.xx

売掛在庫販売(貸方) xxxxx.xx

転記カテゴリ: IN80

在庫品目(借方) xxxxx.xx

在庫売上原価(貸方) xxxxx.xx

クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。

## 保留コード

オーダーが保留された理由を識別する保留コード(42/HC)UDCにあるコードを入力します。

## 品目価格グループ

品目の在庫価格グループを識別する品目価格グループ(40/PI)UDCにあるコードを入力します。在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。値引や割増は、オーダーされた品目の数量、金額、または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てする必要があります。

## 陸揚費用規則

品目の陸揚費用規則を示す陸揚費用規則(41/P5)UDCにあるコードを入力します。陸揚費用規則により、業者手数料やコミッションなどの品目の実際の価格を超える購買価格が決まります。陸揚費用規則は、「陸揚費用の改訂」フォームで設定します。

## 前状況

このオーダー行が正常に完了した処理サイクルの最終ステップを示す処理状況コード(40/AT)UDCにあるコードを入力します。

## 元帳タイプ

AA(実績金額)、BA(予算金額)、またはAU(実績数量)など、元帳のタイプを指定する元帳タイプ(09/LT)UDCにあるコードを入力します。総勘定

元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。

## 行タイプ

取引行の処理方法を制御するコードを入力します。これによって、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業原価、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne買掛管理、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne売掛管理、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理など、トランザクションがやり取りをするJD Edwards EnterpriseOneシステムが制御されます。また、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定します。値は次のとおりです。

S: 在庫品目

J: 作業原価

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

## 次状況

行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを示す処理状況コード(40/AT)UDCにあるコードを入力します。

## オーダー・タイプ

伝票のタイプを識別する伝票タイプ(00/DT)UDCにあるコードを入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)

次の伝票タイプは事前定義されています。これらの伝票タイプは変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー処理伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー処理伝票

## 価格設定規則

価格設定規則によって在庫を分類するために、品目価格グループ(40/PI)UDCにあるコードを入力します。通常、これらのカテゴリは在庫価格表の主要セクションに対応しています。設定できる詳細カテゴリ数に制限はありません。販売、購買、オーダー/バスケット、および契約価格設定には1つのコードを使用できます。契約規則を設定する場合、そのコードは契約の下で品目の略式番号と等しくなければなりません。

## 印刷メッセージ

使用する印刷メッセージを指定するために印刷メッセージ(40/PM)UDCの値を入力します。メッセージで使用されるテキストとしては、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などがあります。

<b>補助元帳</b>	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類する補助的なコードを入力します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
<b>仕入先</b>	住所録レコードを識別する名前または番号を入力します。このフィールドは、情報の入力や検索に使用します。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードを検索すると、このフィールドに住所録番号が表示されます。
<b>税目コード</b>	税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用されるアルゴリズムを制御するUDC、税目コード(00/EX)にあるコードを入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせて税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。
<b>税率/税域</b>	共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、税域テーブル(F4008)に対して検証されます。この税率/税域は、請求書または伝票を作成する際に、税目コードおよび税規則と併せて税額と元帳配賦金額の計算に使用されます。
<b>単位原価</b>	単位に対して請求される価格を隣接するフィールドに入力します。たとえば、基本単位はEA(each)であるものの、通常は箱ごとの表示価格を使用する場合は、これらのフィールドを使用します。



# 第 1 章

## JD Edwards EnterpriseOne調達管理 – はじめに

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne調達管理の概要
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOne調達管理の導入

---

### JD Edwards EnterpriseOne調達管理の概要

調達とは、製品やサービスを仕入先から受け取るプロセスを指します。これには商品およびサービスに関する購買量やタイミングの決定、実際の購買や受領などの業務が伴います。購買サイクルでは、量および品質ともに適切な設備、資材、サービスなどを最適なソースから最も有利な価格で購入することを目的とします。調達業務は購買部門だけでなくその他の多くの部門が関係します。統合された調達管理システムがあれば、担当者は組織内のすべての機構および部署にまたがる情報にアクセスできます。アクセスする情報は、入荷トランザクションやオーダー改訂のデータ、仕入先のプロファイル、買掛金の状況、特殊なオーダー処理、入荷工程で処理される購買品のトラッキングといった処理状況やデータなどです。

---

### JD Edwards EnterpriseOne調達管理の統合

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、その他のJD Edwards EnterpriseOneシステムと連携し、すべての情報を完全に統合します。統合における考慮事項については、この製品ガイドの導入に関する章で説明します。サード・パーティ・アプリケーションとの統合についての補足情報は、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトを参照してください。

#### JD Edwards EnterpriseOne一般会計とJD Edwards EnterpriseOne買掛管理

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne一般会計システムおよびオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムと統合されています。AAI(自動仕訳)およびユーザーが入力する勘定科目コードを使用して、関連するトランザクション情報が会計システムに送られます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、仕入先支払情報、税情報などをJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムから取り込みます。

## JD Edwards EnterpriseOne住所録

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne住所録システムから次の情報を取り込みます。

- 仕入先住所
- 出荷先住所
- 倉庫住所
- ユーザーID情報

## JD Edwards EnterpriseOne製造管理およびSupply Chain Management

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムを、オラクル社の複数のJD Edwards EnterpriseOne製造管理システムと連携させることにより、部品引当可能数、作業オーダー、予測、計画および製造原価などの処理に役立てることができます。

## ロジスティクス

会社によっては、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムをJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムと統合する場合があります。システムの統合には、在庫品目に関連する情報の検証および交換が必要となります。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOneロジスティクス・システムと統合されています。

- JD Edwards EnterpriseOne倉庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne購買要求セルフサービス

購買要求および購買オーダーを、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne購買要求セルフサービスからJD Edwards EnterpriseOne調達管理に送信できます。

- JD Edwards EnterpriseOne予測管理
- JD Edwards EnterpriseOne所要量計画
- JD Edwards EnterpriseOne価格管理

## JD Edwards EnterpriseOne作業原価

またJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne作業原価システムと連携して、外注契約のコミットメントを参照できます。「作業状況の照会」を使用して、作業やプロジェクトに関するコミットメント明細をそれぞれの勘定科目別に表示できます。

## JD Edwards EnterpriseOne電子データ交換(EDI)

電子データ交換(EDI)とは、標準フォーマットを使用して、購買オーダー、請求書、出荷通知などのビジネス・トランザクションをコンピュータ間で行う機能です。



オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne EDIシステムは、システム47で構成されるアプリケーション・インターフェイスです（インターフェイス・ファイル、テーブル、プログラムを含む）。システム47と、EDIの標準フォーマットのデータをフラット・ファイル・フォーマットに変換するサード・パーティのソフトウェアとの連動によって、EDIのデータをJD Edwards EnterpriseOneのアプリケーション・ソフトウェアで 사용할 수 있습니다。伝票を受信すると、サード・パーティの変換ソフトウェアにより次の処理が実行されます。

- ネットワーク経由でのデータの取得
- EDI標準フォーマットからJD Edwards EnterpriseOneアプリケーション・テーブルのフォーマットへの変換
- JD Edwards EnterpriseOneのEDIフラット・ファイルへの変換データの移動

受信変換プログラムは、変換されたデータをJD Edwards EnterpriseOneのEDIインターフェイス・テーブルに移動します。そのデータは、JD Edwards EnterpriseOne EDIシステムによって該当するアプリケーション・テーブルに転送されます。伝票を送信する場合は、逆の順序で処理が実行されます。

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで現在サポートされているEDI伝票の一覧です。この表には、EDI標準化機構であるANSIおよびEDIFACTに対応するコードが含まれます。

トランザクション	ANSI	EDIFACT	受信(To)	送信(From)
購買オーダー	850	ORDERS	受注	調達管理
購買オーダー承認	855	ORDRSP	調達管理	受注
請求書	810	INVOIC	買掛管理、調達管理	受注
受取通知	861	RECADV	調達管理、受注管理	調達管理
購買オーダー変更	860	ORDCHG	受注	調達管理
購買オーダー回答 メッセージ	865	ORDRSP	調達管理	受注

## JD Edwards EnterpriseOne調達管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムを導入するために必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOneに関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理について、どのESU（電子ソフトウェア更新）をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistantを使用します。JavaベースのツールであるEnterpriseOne and World Change Assistantを使用すると、必要となるESUを検索してダウンロードするためにかかる時間を75%以上削減できます。さらに、複数のESUを一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

JD Edwards EnterpriseOne調達管理を導入するためのOracle Business Acceleratorソリューションの詳細は、公開されているドキュメンテーションを参照してください。

参照: [http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid\\_start/rapid\\_start\\_prtr\\_notes.jsp](http://www.peoplesoft.com/corp/en/iou/implement/rapid_start/rapid_start_prtr_notes.jsp)

## グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムのグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. グローバル・ユーザー定義コード(UDC)を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 System Administration Guide、「Working with User Defined Codes」
2. 会社、会計期間パターンおよびビジネスユニットを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「組織の設定」
3. 自動採番を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」
4. 勘定科目と勘定科目表を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「勘定科目表の作成」
5. 一般会計固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計固定情報の設定」
6. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	
7. 元帳タイプ規則を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「一般会計システムのセットアップ」、「一般会計システムの元帳タイプ規則の設定」
8. 住所録レコードを入力します。	JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」
9. 事業所固定情報、デフォルト事業所およびプリンタ、製造および流通AAI、伝票タイプなどの在庫情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「在庫管理システムの設定」
10. 製造現場カレンダーを設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造現場管理 9.0 製品ガイド、「製造現場管理システムの設定」
11. 製造固定情報を設定します。	JD Edwards EnterpriseOne 製造データ管理 9.0 製品ガイド、「製造データ管理の設定」、「製造固定情報の設定」

## 調達管理の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムのアプリケーション固有の推奨手順を示します。

手順	参照
1. オーダー行タイプを定義します。	第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、28 ページ

手順	参照
2. オーダー処理規則を設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー処理規則の設定」、33 ページ</a>
3. 調達固定情報を設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「調達固定情報の設定」、34 ページ</a>
4. 調達管理の自動採番を定義します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「調達の自動採番の設定について」、27 ページ</a>
5. ユーザー定義コードを設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「流通 AAI の設定」、48 ページ</a>
6. AAI を設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「UDC の設定」、41 ページ</a>
7. 許容規則を作成します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「許容規則の作成」、49 ページ</a>
8. オーダー保留情報を設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー保留情報の入力」、51 ページ</a>
9. 陸揚費用を設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「陸揚費用の設定」、53 ページ</a>
10. 非在庫品目を設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「非在庫品目の設定」、56 ページ</a>
11. 印刷メッセージを定義します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「印刷メッセージの定義」、57 ページ</a>
12. 購買オーダーのテンプレートを設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「購買オーダー・テンプレートについて」、59 ページ</a>
13. モデル・ログを作成します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「モデル・ログの作成」、63 ページ</a>
14. 階層ログを設定します。	<a href="#">第 6 章、「調達管理システムの設定」、「階層ログの設定」、65 ページ</a>



## 第 2 章

# 調達管理について

購買部門は、購買オーダーやクレジット・オーダー、返品を統括して処理する部門です。調達管理システムには、オーダーの入力から入荷した商品およびサービスに対する実際の支払までの一連の処理が含まれています。

この章では、次の内容について説明します。

- 業務の概要
- 調達管理システムの概要

---

## 業務の概要

ここでは、次の事項について説明します。

- 調達管理について
- 調達管理業務について

### 調達管理について

調達とは、製品やサービスを仕入先から受け取るプロセスを指します。これには商品およびサービスに関する購買量やタイミングの決定、実際の購買や受領などの業務が伴います。購買サイクルでは、量および品質ともに適切な設備、資材、サービスなどを最適なソースから最も有利な価格で購入することを目的とします。調達業務は購買部門だけでなくその他の多くの部門が関係します。統合された調達管理システムがあれば、担当者は組織内のすべての機構および部署にまたがる情報にアクセスできます。アクセスする情報は、入荷トランザクションやオーダー改訂のデータ、仕入先のプロファイル、買掛金の状況、特殊なオーダー処理、入荷工程で処理される購買品のトラッキングといった処理状況やデータなどです。

### 調達管理業務について

どの企業においても、調達管理業務に関するプロセスや手順があり、それにより発注元へのレスポンスを速くして付加価値の低い業務を減らすのが理想的な姿です。JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムは、組織のあらゆる側面を持ち合せた効果的なシステムであり、購買担当者に最新の情報を提供して、データの検索にかかる時間を短縮します。節約した時間を利用して、新たな供給ソースを探したり、現在の仕入先との関係の強化や調達プロセスの改善方法の調査などが可能です。

### オーダー生成

調達管理プロセスは、品目やサービスに対する需要が発生した時点から始まります。この需要は通常、購買要求という形で購買部門に渡されます。購買要求とは、いつ何が必要か、および必要なものやサービスに関連する実際原価を購買担当者が知るための伝票です。購買要求は、仕入先が見積を生成して価格を設定できるようにしたり、購買オーダーの生成に使用できます。購買要求から作成した購買オーダーは、商品またはサービスを、合意した価格で納期どおりに配送するという、売り手と買い手の間での文書による契約になります。

## 購買方式

ほとんどの購買部門では、次のような方法が使用されます。

- 在庫
- 非在庫品
- 外注

在庫品の購買には、再販目的のものや資材、製造品目も含まれます。これらの場合には、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムとJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムが完全に統合されている必要があります。統合システムにより、品目が在庫にあるかどうかを検証されます。在庫品目についての情報には、原価や記述、仕入先、単位などが含まれます。コンピュータのハードウェア・メーカーの場合、在庫品目は回路基板(PCB)などです。

非在庫品目の場合、商品や資材、サービスを購入して社内で使用したり、外部の企業に費用を請求する場合があります。通常これらの品目は総勘定元帳に記録されます。非在庫品目の例は、事務備品、メンテナンス、修理、消耗品、ビル管理サービスなどです。

外注による購買は、仕入先での外注作業や、多数のサービス業者を使用して請求先を1つの作業番号にまとめる社内プロジェクトなどに関連付けられます。たとえば、自社で製造したスチール部品を外部の仕入先がプレート加工する際の作業などです。

## 入荷処理

仕入先が購買オーダーの指示に従って商品を出荷したら、入荷部門ではそれを受領する必要があります。商品やサービスの入荷処理は日々行われています。入荷処理は通常、次の作業に分けられます。

- 荷下し、およびチェック
- 要求した数量と入荷数量があっているかどうかの確認
- 該当する購買オーダーについて、入荷した数量のシステムへの記録

社内での対応を迅速にするため、入荷部門は発注者または購買担当者に商品の受領を連絡する必要があります。

## 特殊オーダー処理

購買部門での日常的な業務の中では、様々なタイプの伝票を必要とする特殊な処理も発生します。伝票タイプには次のようなものがあります。

- 一括購買オーダー
- 見積オーダー
- 変更オーダー

一括オーダーは、品目やサービスを繰り返し購入する際に使用します。一括オーダーは、特定の期間内に使用すると考えられる金額または数量に基づいて作成します。1年分をオーダーするのが一般的です。一括オーダーから必要な数量がリリースされて、システムにより購買オーダーが作成されます。一括オーダーを使用すると、購買オーダーの処理にからむ管理費の削減や調達プロセスの合理化につながります。一括オーダーの例には、保守部門で1年間に製造現場用のタオルを1,200ケース使用する場合などがあげられます。この場合、購入者は毎月約100ケースをリリースすることになります。

見積オーダーは、複数の仕入先から入札形式でより有利な条件を求める際に使用します。見積要求(RFQ)には、数量、仕様、納入日や回答希望日付を記載します。見積要求が戻ってきたら、購買部門は内容を検討して見積要求で指定した原価や配送、品質の条件と最も合う仕入先を選んで発注します。見積オーダーは購買要求から直接生成できます。また、見積オーダーから購買オーダーを生成することも可能です。

変更オーダーを使用して、購買担当者は当初の購買オーダーや契約に変更を加えられます。変更オーダーは、当初の購買オーダーや契約への変更に対する監査証跡となるため重要です。

### 承認処理

承認処理とは、購買要求や購買オーダーが適切な許可を得て、指示された商品/サービスの購入に至るまでの処理を指します。購買要求や購買オーダーの段階で承認を必要とするケースが一般的になりつつあります。購買要求および購買オーダーの金額に応じて、異なるレベルの様々な担当者による承認が必要になります。

### 入荷工程

入荷工程処理により、購入した商品が仕入先から出荷された後のトラッキングが可能になります。入荷工程によって、倉庫への配送中、入荷処理中、入庫済など、製品の所在がわかります。入荷工程処理によって、入荷部門から社内の関連部署へのサービスを向上できます。また、購買オーダーの仕様に満たない商品の処分を入荷工程中に記録する場合があります。入荷工程で商品が通過するステップには、たとえば次のようなものがあります。

- 積送中
- 通関
- 検査
- 入庫

### 仕入先管理

サプライチェーンを構築する上で重要なステップの1つとして、仕入先とのパートナーシップの維持および強化があげられます。次のような情報を利用すると、仕入先との関係強化につながります。

- パフォーマンス分析
- 仕入先の価格比較データ
- 認定済仕入先の状況
- 契約条件
- 品目カタログ原価計算

仕入先のパフォーマンスのモニタリングでは、次のような点を考慮します。

- コスト
- 納入
- 品質

コストを考慮する際には、費用が安いだけでなく、質の高さを基準にします。納入実績を分析する際には、納期から遅れた分の日数および期日前納入の日数などを考慮します。品質分析の場合、仕入先が購買オーダー上の仕様を満たしているかどうかを評価します。

---

## 調達管理システムの概要

ここでは、次の事項について説明します。

- 調達管理システムについて

- 機能、用語、概念
- オーダー処理サイクル

## 調達管理システムについて

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムは、次のように広範囲にわたる購買業務に対応しています。

- 在庫の補充
- プロジェクト用の資材購入
- 特定の部署、作業、またはビジネスユニットに対する、購入した部材やサービスの費用配賦

調達業務には、オーダーの入力から入荷した商品およびサービスに対する実際の支払までの一連の処理が伴います。オーダーの処理サイクルを入念に計画し、それに従ってJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムを設定してください。設定項目は、オーダー・タイプ、行タイプ、オーダー処理規則などです。

特殊なオーダーの処理や承認処理、仕入先管理など、それぞれの会社特有な調達業務を実行できます。多彩な機能により、作業オーダーを迅速かつ効果的に処理できます。綿密な検討およびレポート機能は、現在だけでなく将来の購買戦略に関する意思決定に役立ちます。

## 機能、用語、概念

ここでは、次の事項について説明します。

- 在庫品目の購買
- 非在庫品目の購買
- 外注契約管理
- 調達管理環境

### 在庫品目の購買

次の例のような在庫または在庫基準業務を管理している会社もあります。

- 顧客に販売する小売品目
- 内部消費品目
- 製造品目
- 修理および保守用品目

在庫基準環境の商品を購入するには、在庫用購買方法を使用してください。この方法によって、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムとJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムの完全な統合が可能になります。この方法では、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムに存在する品目番号に基づいて品目を購入します。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは次の処理を行います。

- 品目がJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムに存在するかどうかを検証する
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムから、品目記述、単位原価、単位などの品目情報を取り込む
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムで手持数量、単位原価などの品目情報を更新する

在庫基準方法の環境では、品目が出庫されるまで、品目原価は貸借対照表で在庫として分類されます。品目が販売された時点で、これは売上原価となります。品目を内部で使用する場合、出庫時に品目を計上する経費勘定科目を確定します。



## 非在庫品目の購買

会社では、商品、資材、サービスを社内使用目的または販売目的のために購入する場合があります。この購買が行われる対象には次のようなものがあります。

- 職務
- プロジェクト
- 内部消費
- 修理およびメンテナンス
- 作業オーダーで請求できる部品

総勘定元帳の勘定科目コードに購買を計上するには、非在庫基準方法を使用します。それぞれの勘定科目コードは作業またはプロジェクトを表します。この方法は、非在庫基準とサービスおよび経費基準に適しています。

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムにある品目を購入する際に、非在庫基準方法を使用することもできます。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、品目番号を検証し、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムから品目記述および原価を取り込みますが、品目残高情報は更新されません。

コミットメントまたは債務のトラッキングは、非在庫基準環境、サービス/経費基準環境でよく使用する処理です。コミットメントまたは債務は、将来の債務を認識することです。総勘定元帳の勘定科目に購買を計上する場合、購買オーダーの入力時にコミットメントおよび債務の金額をトラッキングできます。

## 外注

外注契約管理方法を使用して、作業に関連する契約や支払、コミットメントの日常のおよび長期的な明細を管理します。さらに、次の処理が可能です。

- 作業の協力会社との契約作成およびその管理
- 支払のガイドライン確立および契約に対する支払
- 作業に対して支払った原価および将来引き当てる原価のトラッキング
- 契約情報の照会
- 契約コミットメントに対する変更オーダーの入力
- 契約およびコミットメントについての状況レポート生成

新規契約の作成時には、協力会社情報、実施作業、契約コミットメント、日付、ログ時間などを入力します。既存の契約については、コミットメント変更オーダーを入力して受理事項および送付事項をトラッキングできます。

また、出来高払いまたは保留の出来高払いの入力やリリースも可能です。出来高払いとは、作業の進捗に応じて外注先に支払を行うことです。

## 調達管理環境

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムには、購買業務の実行に対応した4つの異なる環境があります。

- 在庫基準
- 非在庫基準
- サービス/経費基準
- 外注基準

在庫基準環境は、在庫用に商品を購入する場合に使用します。非在庫基準環境とサービス/経費基準環境では、総勘定元帳の勘定科目コードに計上する購買業務を対象としています。外注契約基準環境は、外注により商品/サービスを調達する場合に使用します。

業務内容に適した環境を選択してください。たとえば、在庫基準環境では仕入先管理やリポート処理など在庫管理に共通する業務を実行できます。非在庫基準、サービス/経費基準環境では、コミットメントおよび債務をトラッキングできます。外注基準環境では、外注契約を入力したり変更できます。

この4つの環境には共通する業務も多数あります。ただし、メニューやフォームはそれぞれの環境に特有のプロセスおよび手順に対応するため、個別に設定されています。

使用する環境は、それぞれの会社によって異なります。すべての環境が必要になる場合もあれば、1つの環境で足りることもあります。

## オーダー処理サイクル

購買オーダーの処理サイクルは3つの基本ステップで構成されています。

- オーダーの作成
- 商品またはサービスの入荷
- 商品またはサービスに対する支払伝票の作成

オーダー入力後、入荷情報を入力(公式の入荷処理)し、商品またはサービスを入荷できます。非公式の入荷処理を実行する場合、伝票を作成する前に請求書の情報を元の購買オーダーと比較する必要があります。在庫品を仕入れる場合は公式の入荷処理を使用してください。総勘定元帳の勘定科目コードに購買を計上する場合、入荷処理は公式でも非公式でもかまいません。

使用する伝票の作成方法は、入荷処理により異なります。公式の入荷処理を使用する場合、次のようにして伝票を作成します。

- 請求書と入荷の情報と一致していることを個別に確認して作成
- 既存のレコードを利用してバッチ・モードで作成

オーダーを入力する際は常に、オーダーする品目およびサービスについての明細を入力する必要があります。各品目またはサービスについて、数量や原価などオーダーを記述する明細行を入力してください。

各明細行に対して行タイプを指定します。行タイプは、明細行の情報のシステムによる管理方法を示します。たとえば、行タイプS(在庫品目)は、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムの品目数量を補充し、総勘定元帳の原価およびJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムに反映することを示します。

各オーダー・タイプ(購買オーダー、購買要求、一括オーダーなど)の明細行について処理方法を指示するには、オーダー処理サイクルを設定してください。たとえば、購買オーダーに対しては次のように処理サイクルを設定できます。

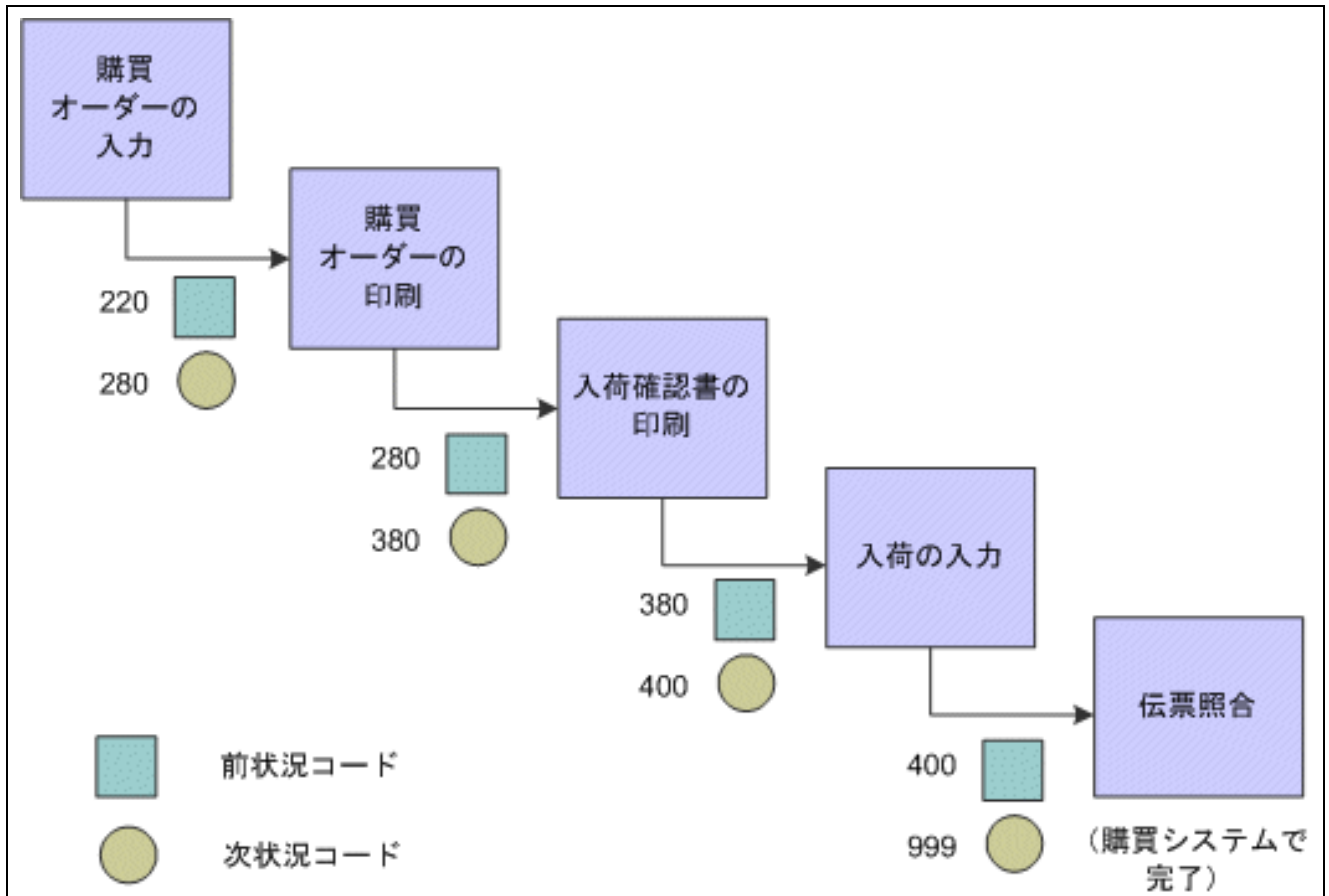
- 購買オーダーの入力
- 購買オーダーの印刷
- 入荷確認書の印刷
- 商品またはサービスの入荷
- 伝票の作成

オーダー処理規則を使用して、処理サイクルにそって実行される処理を定義し、ステップの進捗状況を示すことができます。

オーダー・タイプと行タイプのそれぞれの組合せに対して、オーダー処理規則を設定してください。このオーダー処理規則を設定するには、ユーザー定義状況コードを使用します。各状況コードは、たとえばオーダーの印刷など、処理サイクルの1ステップを表します。

それぞれのオーダー明細行では、2つの状況コードが1つの組合せになっています。このコードの組合せにより、行が処理される際の「前の状況」と「次の状況」が識別されます。前状況コードはオーダーに対して実行された前回の処理を表しています。次状況コードは処理サイクルの次のステップになります。

次の図は、典型的な状況コードの進行を表します。



状況コードの進行

設定した各処理サイクルに対して適用されるオーダー・タイプおよび行タイプを指定してください。たとえば、前述の処理サイクルが行タイプSを割り当てた購買明細行に対してのみ適用される場合があります。

### 任意の調達活動

任意の調達活動では次の処理を実行できます。

- 複数のオーダーの同時作成
- 処理前にオーダーが承認済であることの確認
- 購買要求や一括オーダーのような特殊オーダーの作成
- 品目およびサービスに対する価格見積の入手とその比較
- オーダー改訂のトラッキング
- 変更オーダーの作成

- 仕入先倉庫を出た時点からの品目のモニタリング
- 仕入先と品目間の関係の管理
- 予算の調整
- 承認処理

## 第 3 章

# Vertex Sales Tax Q Seriesについて

売上税を自動的に適用する場合は、Vertex Sales Tax Q Seriesシステムを使用できます。

この章では、Vertex Sales Tax Q Seriesシステムの互換性について説明します。

---

## Vertex Sales Tax Q Seriesシステムの互換性

Vertex Sales Tax Q Seriesシステムは、オラクル社の次のJD Edwards EnterpriseOneシステムと統合されます。

- JD Edwards EnterpriseOne一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne受注管理
- JD Edwards EnterpriseOne調達/外注管理
- JD Edwards EnterpriseOneサービス管理
- JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理

---

**重要:** オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne U.S. Payrollシステムを使用している場合は、Quantum for Payroll Tax Systemを使用する必要があります。

---



## 第 4 章

# 調達管理における価格設定について

この章では、調達管理における価格設定について説明します。

---

## 調達管理における価格設定

ここでは、次の事項について説明します。

- マトリックス品目
- 価格マトリックス
- 最低価格または最高価格による価格調整
- 品質属性による価格設定
- 手入力による購入価格の一時変更
- 入荷時の価格設定
- 調達管理のための価格再設定

価格設定は、おそらく業務において最も複雑な要素の1つであるため、価格設定情報の計画、設定、および管理には相当の時間を要する場合があります。購買オーダーを入力すると、事業所、仕入先、数量などの特性に基づいて単位原価が取得されます。購買オーダーに対して価格管理による価格調整が行われる前に、まず単位原価が取得されます。品目の購買価格レベルに応じて、仕入先/カタログ価格テーブル (F41061) または品目原価テーブル (F4105) のいずれかから単位原価が取得されます。単位原価の取得後、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 価格管理が有効であるか確認されます。調達管理用の価格管理が有効な場合、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理で標準の価格調整が省略され、適切なスケジュールと調整が検索されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「基本価格設定の使い方」、「JD Edwards EnterpriseOne 調達管理の価格設定について」

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理を使用すると、価格設定を柔軟に定義できます。調達管理に価格管理を設定すると、価格管理構造を使用して品目を価格設定できます。さらに、価格の設定と管理を能率化できます。個別の購買オーダーの価格を簡単に調整し、調整を価格構造やスケジュールに組み込むことができます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「価格管理について」

## マトリックス品目

製品には通常数多くのバリエーションがありますが、それらは同じ基本的な属性を共有しています。このため、瓶詰めの飲料水やTシャツのような製品は、1つの親品目と複数の子品目から構成されるマトリックス品目になることができます。親品目のすべてのバリエーション(子品目)を作成するには、品目マスター・プログラム(P4101)で親品目を入力します。親品目の入力方法は、テンプレートを指定して品目をマトリックス制御するかどうかを指定する点を除いて、在庫に品目を入力する場合と同じです。入力した情報に基づいて、各フォームが表示され、親品目のすべてのバリエーションを入力できます。

マトリックス・オーダー入力プログラム(P41902)では、マトリックス品目に対して購買オーダーを作成できます。また、既存の購買オーダーでマトリックス品目の数量をオーダーすることもできます。購買オーダーを入力するときは、マトリックス・オーダー入力プログラムにアクセスできます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理 9.0 製品ガイド、「品目情報の入力」、「マトリックスと親品目の処理」

### マトリックス品目の入荷と許容範囲

マトリックス品目が入荷されると、購買オーダー明細行と入荷確認で量に差異が存在しないように、購買オーダー入荷確認が生成されると同時に、マトリックス子品目によって新しい購買オーダー明細行が生成されます。許容範囲を正しく処理するには、子の行の合計を累計して、マトリックス親品目の購買オーダー明細行と比較する必要があります。

---

**重要:** 選択されたすべてのマトリックス子品目の数量が、マトリックス・オーダー入力の制御数量(マトリックス親品目の数量)と異なる場合、警告が表示されます。

---

参照: 第 12 章、「入荷処理の利用」、181 ページ

## 価格マトリックス

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理では、価格マトリックス・プログラム(P4590)を使用して、価格調整明細テーブル(F4072)複数の調整明細レコードを追加したり、編集することができます。このプログラムを使用すると、ビジネスのニーズに合ったビューを使用して、価格設定情報を迅速に入力して管理できます。価格マトリックスは、調達管理システム用の価格管理システムで使用できます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「価格設定の使い方」、「価格マトリックスの使い方」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」

## 最低価格または最高価格による価格調整

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理では、品目に支払う最低価格または最高価格を指示するために調整を追加します。最低価格または最高価格の調整を使用すると、特定の品目や顧客、品目グループ、顧客グループ、またはこれらの組合せの単価を調整できます。調整スケジュールでの最低価格調整または最高価格調整の順序によって、スケジュール内でその時点における価格が決まります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「スケジュールと調整について」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」



## 品質属性による価格設定

JD Edwards EnterpriseOne 価格管理では、価格設定はオーダーに入力される品目の数量や重量または金額に基づきます。また、価格設定は購入される製品の品質属性が基準にもなります。品質属性の価格設定は、品質のレベル区切りによる調整です。このため、品質のレベル区切りタイプの調整では、オーダーに入力された数量や重量または金額を使用する調整は処理されません。

品目が入荷する際は、品質試験を実行して試験結果を入荷確認に入力します。品質レベル区切り調整では、試験結果が検索され、調整定義を使用して価格が決まります。

---

**注意:** 品質属性機能は、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理の入荷確認でのみサポートされています。

---

品質属性による価格調整を定義する前に、次の処理を行います。

- オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システムが有効になっているかどうか確認します。
- 「品質管理セットアップ」メニュー (G3741) で品質試験を設定します。
- 文字タイプの試験結果に対応するように、文字から数値への UDC 変換を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「EnterpriseOne 価格管理の設定」、「価格管理の固定情報の設定」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「スケジュールと調整について」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の設定」

## 手入力による購入価格の一時変更

JD Edwards EnterpriseOne 調達管理では、オーダーの明細行に対して手入力による購入価格の一時変更を行えます。手入力で価格を一時変更する際は、JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムは価格に指定された調整をすべて適用します。

価格を一時変更して調整を適用する前に、次の処理を行います。

- 調達価格管理の固定情報を有効にします。
- 一時変更された価格に適用される個々の調整について一時変更価格の適用オプションを設定します。

システム固定情報を有効にした状態で手入力で価格を一時変更すると、品目の価格が再設定されます。一時変更された価格が開始価格になります。続いて、適用可能な調整が検索されて、これらの調整が手入力された価格に適用されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「EnterpriseOne 価格管理の設定」、「価格管理の固定情報について」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」

## 入荷時の価格設定

購入価格を読み込み、購入オーダーや契約に添付された調整スケジュールに合わせて調整を適用することによって入荷時に価格を再設定するために、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理は JD Edwards EnterpriseOne 価格管理に統合されています。入荷時の価格再設定では、入荷確認プログラム (P4312) を使用します。

入荷時に価格設定を行うには、次の手順に従います。

1. 調達価格管理の固定情報を有効にします。
2. 入荷確認の入力時に購入価格を再設定するように、入荷確認プログラム (P4312) の「処理」タブの「入荷時の価格計算」処理オプションを設定します。
3. 購買オーダーの入荷時に適用する調達タイプ調整または入荷確認タイプ調整を定義します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「EnterpriseOne価格管理の設定」、「価格管理の固定情報について」

参照: 第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷確認 (P4312) の処理オプションの設定」、187ページ

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「スケジュールと調整について」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「スケジュールと調整の使い方」、「調整定義の利用」

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「一時変更検索グループの定義」、「オーダー明細グループの定義」

## 調達管理のための価格再設定

購買オーダーまたは入荷確認に価格設定が行われた後は、価格調整明細や購入価格を変更し、最新の変更を購買オーダーや入荷確認レコードのバッチに含めることができます。調達価格の再設定/入荷バッチ・プログラム (R45620) の処理オプションを設定して、購買オーダー明細テーブル (F4311) からの購買オーダー・レコードまたは入荷確認テーブル (F4312) からの入荷レコードのどちらか一方、あるいは両方を処理するかを指定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 価格管理 9.0 製品ガイド、「価格再設定の使い方」、「購買オーダーと入荷の価格再設定」

## 第 5 章

# カスタマ/サプライヤ・セルフサービスの設定について

この章では、次の内容について説明します。

- カスタマ/サプライヤ・セルフサービス
- セルフサービスの設定

---

## カスタマ/サプライヤ・セルフサービス

WWW (World Wide Web) 上で商品/サービスの取引を行うインターネット・コマースを使用して、企業間および企業と消費者間と取引を行うことができます。インターネットによる取引は、低コストで安全性も向上しており、使用するプラットフォームを問いません。また、標準に従って構築されているため、仕入先や取引先、消費者とのやり取りが容易に行えます。購買や請求、支払や貨物のトラッキング、セールス・フォース・オートメーション (SFA) などの迅速な処理が必要な場面ではインターネットを活用できます。

Web サイトを作成して顧客や仕入先がいつでも最新情報にアクセスできるようにすることも可能です。

インターネット・コマースには次のような利点があります。

- 市場を世界規模に拡大
- 広範囲にわたる製品の流通
- 世界規模の24時間体制のアクセス
- コスト削減 (実地棚卸の削減など)、より少ない中間流通業者、カタログ制作および配布にかかるコストの削減
- 収益の増加

JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアでは、セキュリティの問題や新たな投資に頭を悩ませることなく、顧客がオーダーを入力/照会したり、サービス情報および請求情報を照会したりできるセルフサービス環境を提供します。同様に、仕入先もオーダーや入荷、支払情報をリアルタイムで参照して、見積要求に回答できるようになります。

Web トランザクション用のツール・アプリケーションを使用して、自社の環境およびビジネス・ニーズに合わせてセルフサービス用インターフェイスを設定できます。

---

**注意:** このドキュメンテーションは、Microsoft Windows 環境での JD Edwards EnterpriseOne カスタマ・セルフサービス機能に基づいて説明しています。このドキュメンテーションで使用するナビゲーション、フォーム、各ユーザー企業のニーズに合わせて設定したインターネット用セルフサービス機能のものとは異なる場合もあります。

---

## 事前設定

カスタマ/サプライヤ・セルフサービスを設定して使用する前に、次の作業を行う必要があります。

- 仕入先用に住所録マスターおよび仕入先マスター・レコードを設定したことを確認してください。
- 仕入先と品目の情報を設定したことを確認します。
- 各仕入先に事業所およびデフォルトの保管場所を割り当ててください。

オーダーや見積などについて仕入先から問合せがあった場合、その仕入先のユーザーIDに割り当てた事業所に基づいてこれらの情報が読み込まれます。

---

## セルフサービスの設定

ここでは、次の事項について説明します。

- セルフサービス設定の概要
- セキュリティの問題
- 処理オプションのアクティブ化

### セルフサービス設定の概要

顧客や仕入先がセルフサービスを使用して情報にアクセスするには、次の中で必要な処理を実行する方法を提供する必要があります。

- 品目情報へのアクセス
- 勘定科目情報の検討
- 既存のオーダーおよび出荷の検討
- 製品および保証情報へのアクセス
- 既存のコール情報の検討
- サービス・オーダーの検討

顧客および仕入先のユーザー・プロファイルを設定する際に、ユーザーIDを使用してアクセスをセルフサービス・メニューに限定できます。セルフサービス機能を使用しても、顧客および仕入先は住所録や顧客マスター、仕入先マスター情報への追加および修正はできません。

### セキュリティの問題

顧客と仕入先の住所録および住所録マスター・レコードを設定したら、ユーザー・プロファイルを設定してアクセスを限定する必要があります。顧客や仕入先がセルフサービス・アプリケーションにサインインするには、プロファイルの設定が必要です。

顧客や仕入先のユーザー・プロファイルでは次の情報を指定します。

- ユーザーID
- パスワード
- 言語やローカライゼーション情報などの優先情報

また、仕入先や顧客がアクセス可能なメニューを指定する必要があります。仕入先や顧客は、ユーザー・プロファイルに指定されたメニューのプログラムにしかアクセスできません。ユーザーのタイプに応じて、次のメニューのいずれかを指定してください。

- 「セルフサービス日次処理」(G1715): オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne サービス管理システムのセルフサービス・プログラムにアクセスする場合
- 「サプライヤ・セルフサービス」(G43S11): JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムのセルフサービス・プログラムにアクセスする場合

顧客や仕入先がセルフサービス・プログラムを使用してデータを入力すると、製品の選択やその他の情報はメモリーキャッシュ・ファイルに保存されます。顧客や仕入先はプログラム間を移動でき、キャッシュ・ファイルには最新のオーダーや見積の情報が保存されます。

## 処理オプションのアクティブ化

仕入先がセルフサービス機能を使用して見積の入力やオーダー、入荷、在庫レベルなどの情報を検討できるようにするには、まず次のプログラムのセルフサービスの処理オプションを有効にしてください。

- 住所録 (P01012)
- 購買オーダー (P4310)
- 入荷確認照会 (P43214)
- 見積回答入力 (P4334)
- サプライヤ・セルフサービス在庫 (P41201)
- 出荷の処理 (P4915)
- 仕入先スケジュールの改訂 (P34301)
- 買掛金標準伝票入力 (P0411)
- 積荷の処理 (P4960)
- 購買日付の改訂 (P43100)

サプライヤ・セルフサービスの処理オプションを有効にすると、仕入先に必要なフィールドだけが表示され、それ以外は表示されません。



## 第 6 章

# 調達管理システムの設定

この章では、システム設定および調達管理の自動採番の設定の概要と、次の方法について説明します。

- オーダー行タイプの定義
- オーダー処理規則の設定
- 調達固定情報の設定
- ユーザー定義コード(UDC)の設定
- AAI(自動仕訳)の設定
- 許容規則の作成
- オーダー保留情報の設定
- 陸揚費用の設定
- 非在庫品目の設定
- 印刷メッセージの定義
- 購買オーダーのテンプレートの設定
- モデル・ログの作成
- 階層ログの設定

---

## システム設定について

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムを使用する前に、セットアップ情報を定義する必要があります。この情報により、会社で固有のビジネス・ニーズにシステムを対応させます。たとえば、使用する各オーダー(購買要求、一括オーダー、購買オーダー)が処理される購買サイクルを定義する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理については、次の情報を設定します。

情報のタイプ	設定タスク
オーダー行タイプ	オーダー明細行の処理方法を確定するコードを定義します。
オーダー処理規則	購買サイクルの中でオーダーが処理される手順を確立します。

情報のタイプ	設定タスク
固定情報	<p>次のタイプのデフォルト情報について固定情報を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所固定情報 - 事業所内の日次トランザクションを制御</li> <li>事業所ごとの引当可能品目数量の計算方法を定義する在庫状況固定情報</li> <li>システム全体に適用するデフォルト情報を提供するシステム固定情報</li> <li>バッチ制御固定情報によって、アプリケーションに管理者承認とバッチ制御が必要かどうかが決まります。</li> </ul>
自動採番	自動採番機能を使用して、次に利用できる番号を伝票タイプ番号および住所録番号に自動的に割り当てることにより、自動採番を定義します。
AAI(自動仕訳)	購買トランザクション用に仕訳を作成する総勘定元帳勘定科目を確定するには、AAIを設定します。
ユーザー定義コード(UDC)	JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでオーダーを処理するために使用されるUDCを設定します。
許容規則	許容規則は、明細行で数量、単位原価、合計金額を変更できる数値またはパーセントを指定するために作成します。
オーダー保留情報	オーダーを保留にする際に使用される情報を設定します。
陸揚費用	陸揚費用は、配送料金や業者手数料など、品目の仕入価格以外の原価を指定するために設定します。
非在庫品目	在庫の一部として会計処理しない品目に対する情報を設定します。
印刷メッセージ	品目レコード、仕入先マスター・レコード、購買オーダー見出し、または購買オーダー明細行に添付できる事前定義済テキストで構成される印刷メッセージを定義します。
購買オーダー・テンプレート	購買オーダーの入力に使用するテンプレートを設定します。テンプレートには、仕入先から頻繁に発注する品目を組み込みます。
モデル・ログ	ログ作成時に使用するモデル・ログを作成します。モデル・ログにはログで頻繁に使用する品目を組み込みます。

次の情報は、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理やJD Edwards EnterpriseOne一般会計など他のシステムで設定します。



情報のタイプ	設定タスク
デフォルト事業所およびプリンタ	事業所、承認経路、プリンタ出力待ち行列など、特定のユーザーまたはワークステーションに対するデフォルト情報を定義します。
税処理	システムの税処理情報を設定します。
品目相互参照	品目相互参照番号を定義して、仕入先が使用している品目番号などに内部(自社)品目番号をリンクさせます。

## 調達の自動採番の設定について

自動採番によって、伝票番号が自動的に割り当てられます。自動採番プログラム(P0002)では、10桁の数字を使用して、伝票タイプごとに独自の番号が割り当てられます。自動採番テーブル(F0002)から次に使用可能な番号が取得され、伝票に割り当てられます。

自動採番の場合:

- 自動採番の値を省略しないでください。
- 取引の処理を開始した後は、自動採番の値を変更しないでください。

伝票番号は、システム別自動採番または会社/会計年度別自動採番によって割り当てることができます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムの場合、自動採番はシステム番号によって設定されます。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」、「自動採番について」

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「自動採番の設定」、「システム別自動採番の設定」

## オーダー行タイプの定義

この項では、オーダー行タイプの概要と定義方法について説明します。

### オーダー行タイプについて

購買オーダーには発注品目またはサービスに関する詳細を入力する必要があります。各品目またはサービスの数量や原価などを明細行に入力してください。明細行はその行タイプに基づいて処理されます。

明細行に入力した行タイプにより、そのレコードが次のシステムに与える影響が決まります。

- オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理
- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理

たとえば、在庫品目に対して行タイプを作成するとします。その行タイプを設定するときに、それがJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムの在庫状況に反映するように指定します。また、JD Edwards EnterpriseOne一般会計およびJD Edwards EnterpriseOne買掛管理の両システムに影響するようにも指定します。購買明細行にその行タイプを適用すると、次のような処理が実行されます。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムの品目数量を増加する(入荷時)
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムに仕訳を作成する
- JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムに仕訳を作成する

明細行の行タイプにより行が処理されるサイクルも確定されます(オーダー処理規則に基づく)。行タイプについて指定できるその他の情報には次のようなものがあります。

- 明細行を課税対象とするかどうか
- 明細行に運賃を適用するかどうか
- 明細行に入金を必須とするかどうか(この設定は2方向または3方向の伝票照合に適用できます)
- 非在庫品目のF4101テーブルを編集するかどうか

## オーダー行タイプの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
行タイプ固定情報の改訂	W40205B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、「オーダー行タイプ」</li> <li>「行タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。</li> <li>• 「受注管理システム・セットアップ」(G4241)、「オーダー行タイプ」</li> <li>「行タイプの処理」フォームで、「追加」をクリックします。</li> </ul>	オーダー行タイプを定義または変更します。

## オーダー行タイプの定義

「行タイプ固定情報の改訂」フォームにアクセスします。

### 在庫管理インターフェイス

JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムへのインターフェイスのタイプを識別するコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: この行タイプを含んだアクティビティの金額または単価は、在庫に反映されます。また、入力した品目が有効な品目になるよう編集も行われます。Yはデフォルト値です。

A: 入力した番号が総勘定元帳の勘定科目コードとして認識されます。このコードは、購買でのみ使用されます。このインターフェイス・コードを使用すると、予算チェックが十分な機能を果たします。

B: 総勘定元帳インターフェイスを使用して非在庫品目の編集が実行されます。

在庫テーブルから価格データが取り込まれますが、購買オーダーの数量は更新されません。このコードは、「一般会計インターフェイス」フィールドをYに設定した場合にのみ有効です。このインターフェイス・コードを使用すると、予算チェックが十分な機能を果たします。

C: F4101テーブルに対する在庫インターフェイス・アクティビティが編集され、購買オーダーの数量がトラッキングされます。また、総勘定元帳に対するトラッキングも行われます。このインターフェイス・コードを使用すると、予算チェックが十分な機能を果たします。

D: この行の品目は、在庫状況や数量には影響しない在庫品目です。この在庫インターフェイスは、直送オーダーにのみ使用してください。

N: この品目は在庫品目ではありません。

品目がF4101テーブルに存在するかどうかを確認するには、在庫インターフェイス値のNとともに「非在庫品用品目マスターの編集」チェックボックスを使用します。

## 相手勘定

取引の転記先となる勘定科目の検索に使用される相手勘定の値を、UDC 41/9から入力します。クラス・コードを指定しない場合には、このフィールドにアスタリスクを4つ(\*\*\*\*)入力してください。オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システム、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システム、JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムについては、AAIを使用して、自動相手勘定のクラスを事前設定できます。

元帳クラス・コードは次のように割り当てることができます。

IN20直送オーダー

IN60転送オーダー

IN80在庫販売

1件の取引に基づいて仕訳レコードが作成されます。たとえば、在庫1品目を販売すると、次のような仕訳レコードが作成されます。

販売在庫(借方) xxxxx.xx

売掛在庫販売(貸方) xxxxx.xx

転記カテゴリ IN80

在庫品目(借方) xxxxx.xx

在庫売上原価(貸方) xxxxx.xx

クラス・コードと伝票タイプに基づいて、該当するAAIが検索されます。

## 税額1に含める

このオーダー行の金額は適用可能な税の課税対象かどうか、また、どの税を適用するかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: この行は適用可能な税の課税対象です。

N: この行は適用可能な税の課税対象ではありません。

3から8: この行はグループ番号(3から8)で示される税率で課税されます。VAT(付加価値税)に対するグループ番号が使用されます。

## 売上仕訳カラム

売上高を印刷する売上仕訳レポートのカラムを入力します。値は次のとおりです。

1: カラム1に売上高(存在する場合)が適用されます。

2: カラム2に売上高(存在する場合)が適用されます。

	3: カラム3に売上高(存在する場合)が適用されます。
	4: カラム4に売上高(存在する場合)が適用されます。
<b>一般会計インターフェイス</b>	このオーダー行タイプが含まれているアクティビティの金額または単価を総勘定元帳に反映するように指示するときに選択します。
<b>売掛管理インターフェイス</b>	このオーダー行タイプが含まれているアクティビティの金額または単価を、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムに反映するように指示するときに選択します。
<b>買掛管理インターフェイス</b>	このオーダー行タイプが含まれているアクティビティの金額または単価を、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムに反映するように指示するときに選択します。
<b>サービス/ワランティ管理</b>	このオーダーに関連する4つの伝票の中の2番目の伝票にこのオーダー行を表示するときに選択します。たとえば、場合によっては、必要な商品処分に関する指示を示す入荷情報を購買オーダーに含める必要があります。この情報はオーダーの正しい処理にとって不可欠ですが、仕入先に送付される購買オーダーには表示されない必要があります。
<b>テキスト行</b>	行がテキストのみであることを指定するときに選択します。
<b>符号の反転</b>	行に含まれる数量の符号を反転するように指示するときに選択します。このコードを使用すると、クレジット・メモの入力が容易になります。
<b>運賃の適用</b>	行について運賃を計算するように指示するときに選択します。
<b>留保金の適用</b>	買掛金留保の計算に品目の値を含めるように指示するときに選択します。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムとJD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムの間のインターフェイスがアクティブな場合にのみ、このオプションを選択してください。
<b>作業オーダーの生成</b>	このオーダー明細行に対する内部作業オーダーを自動的に生成させるときに選択します。
<b>現金割引の適用</b>	現金割引または支払条件の割引計算にトランザクションの合計金額を含めるときに選択します。
<b>売上総利益に売上/売上原価を含める</b>	売上/売上原価を売上総利益計算に含めるときに選択します。
<b>伝票照合差異勘定</b>	伝票照合時に生じた差異を差異勘定に記帳するように指定するときに選択します。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、このオプションは在庫管理インターフェイスAまたはBとの組合せでのみ使用します。
<b>非在庫品用品目マスターの編集</b>	受注オーダー行および購買オーダー行の品目と品目マスターを照合するかどうかを指定するときに選択します。このオプションは、非在庫品目の在庫インターフェイスを使用する場合にのみ選択してください。
<b>受注オーダー価格の保護</b>	このオーダーに関連する4連伝票の1番目の伝票にこのオーダー行を表示するよう指定する場合に選択します。  たとえば、場合によっては、必要な商品処分に関する指示を示す入荷情報を購買オーダーに含める必要があります。この情報はオーダーの正しい処理にとって不可欠ですが、仕入先に送付される購買オーダーには表示されない必要があります。
<b>購買オーダーの生成</b>	行に対する購買オーダーを生成するかどうかを指定するときに選択します。一般に、このオプションはDおよびN在庫インターフェイスで使用されます。

**資材出庫プログラムの呼出し**

入荷機能の実行時に資材出庫機能をアクティブにするかどうかを指定するときに選択します。

このオプションはJD Edwards EnterpriseOne調達管理システム専用で、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注設計生産システムを使用している場合にのみ使用できます。

**入荷確認必須**

購買オーダー行が入荷確認を必須とするかどうかを指定するときに選択します。このオプションを選択した場合は、伝票照合処理の前に購買オーダー行が入荷される必要があります。

**伝票で経費処理**

伝票照合中に経費処理を実行するかどうかを指定する場合に選択します。

このオプションが選択された非在庫の購買オーダー行を入荷する場合、陸揚費用の仕訳以外の仕訳は作成されません。伝票照合中に入荷金額および税額が経費処理されます。入荷と伝票金額の差異があれば、行タイプ固定情報プログラム(P40205)の「伝票照合差異勘定」オプションの値に基づいて差異勘定または経費勘定に計上されます。伝票照合バッチを転記するときに、コミットメントがリリースされます。

このオプションは次の場合にのみ設定できます。

- 「在庫インターフェイス」の値がAまたはBのいずれかである。
- 「買掛管理インターフェイス」オプションが選択されている。

買掛管理インターフェイスは、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムで、このオーダー・タイプを含むすべてのアクティビティの金額または単価を反映するかどうかを指定するコードです。

「伝票で経費処理」オプションは、「入荷確認必須」チェックボックスとは関連していません。「伝票で経費処理」オプションが選択されていて、ユーザーが入荷処理を実行する場合、入荷確認によって仕訳は作成されません。伝票処理中に経費処理が行われます。入荷処理を省略する場合、標準の2方向伝票照合処理が実行されます。

**請求対象外留保金**

伝票照合中に留保金の処理について請求対象外AAI(財務AAI PCNBRT)を使用するかどうか指定するときに選択します。このオプションは、在庫インターフェイスAまたはBのみで選択可能です。3方向伝票照合の場合、請求対象外の経費AAIを使用するには、「請求対象外留保金」と「伝票で経費処理」オプションを両方選択する必要があります。

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「留保金の処理」、239ページ

**調達管理でサービス・ユニットを許可**

サービス数量およびサービス単位(UOM)の入力を許可するかどうか指定するときに選択します。

このフィールドは単独で機能し、合計原価を計算するための単位原価とは関係がありません。サービス数量を使用する場合、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムの「オーダー数量」フィールドは使用できません。

## オーダー処理規則の設定

この項では、オーダー処理規則の概要、事前設定、およびオーダー処理規則の設定方法について説明します。

### オーダー処理規則について

購買オーダーに入力する品目またはサービスの数量や原価など、オーダーに関する明細行情報を入力します。明細行を処理する次のような手順を確立するには、オーダー処理規則を設定する必要があります。

1. オーダー入力
2. オーダー承認
3. オーダー印刷
4. オーダー入荷

処理規則は複数設定できます。一連の規則を特定のオーダー・タイプ(購買オーダー、購買要求など)および行タイプに割り当ててください。たとえば、ある処理規則は、行タイプS(在庫品目)を持つ購買明細行のみに適用されるように指定できます。

オーダー・タイプと行タイプの現行の組合せにアクセスし、必要に応じて変更することにより、既存のオーダー処理規則をコピーできます。これにより入力時間を短縮できます。

状況コードは、処理規則の各手順に割り当てる必要があります。状況コードは、明細行の現行状況および行が進行する「次の状況」を識別します。状況コードは、昇順に定義する必要があります。たとえば、購買オーダーの在庫行タイプに状況コードを次のように設定できます。

前	次	記述
220	230	オーダーの入力
230	280	承認処理
280	400	購買オーダーの印刷
400	999	オーダー入荷

別の次状況コードを指示することにより、手順の進行を変更できます。たとえば、前述の処理規則を使用しながら、送信するオーダーに対してはオーダー印刷手順を省くことができます。この場合、承認処理手順に代替の次状況コード(400)を割り当ててください。こうすることで、承認処理で明細行にその代替コードを割り当てることができます。

明細行が処理規則の特定の手順に入るときにレコードをF43199テーブルに書き込むように指定できます。

オーダー処理規則に割り当てられた状況のいずれかに一致するレコードが存在する場合、そのオーダー処理規則は削除できません。

### 事前設定

オーダー処理規則を設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- 処理状況コード(40/AT)UDCテーブルで状況コードが設定されていることを確認します。

- 伝票タイプ(00/DT)UDCテーブルでオーダー・タイプが設定されていることを確認します。
- 正しいオーダー行タイプが存在することを確認します。

## オーダー処理規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー処理規則の改訂	W40204A	「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、「オーダー処理規則」  「オーダー処理規則の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	オーダー処理規則を設定または変更します。

## オーダー処理規則の設定

「オーダー処理規則の改訂」フォームにアクセスします。

**オーダー処理規則 - オーダー処理規則の改訂**

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)






オーダー・タイプ  *購買オーダー*      使用する自動採番

行タイプ  *Stock Inventory Item*

**レコード 1 - 14**      [グリッドのカスタマイズ](#)

	前 状況	前状況 記述	次 状況	他 1	他 2	他 3	他 4	他 5	履歴 (Y/N)
<input checked="" type="radio"/>	216	Order Outside Purchasing	220	400					N
<input type="radio"/>	220	Enter Purchase Order	230	280	400				Y
<input type="radio"/>	225	Order Rejected	230						N
<input type="radio"/>	230	Approval Process #1	280	220	400				N
<input type="radio"/>	280	Print Purchase Order	380	400		300	370		N
<input type="radio"/>	282	Receive EDI P O Acknowledgment	380	400	300				N
<input type="radio"/>	300	Record Supplier Acknowledgment	380	400					N
<input type="radio"/>	325	Order Revised by Acknowledge	362	370	380	400			N
<input type="radio"/>	362	Receive EDI PO Change Ack.	370	325	380	400			N
<input type="radio"/>	370	Record Supplier Shipment	380	400					N
<input type="radio"/>	380	Print Purchase Receiver	400						N
<input type="radio"/>	400	Record Purchase Receipt	999	400					N
<input type="radio"/>	999	Complete - Ready to Purge							N
<input type="radio"/>									

「オーダー処理規則の改訂」フォーム

### 使用する自動採番

このオーダー・タイプでオーダー番号を作成するときに使用する自動採番を指定します。使用できる自動採番は10個あります。

このフィールドには、次のように指定します。

**「他1」から「他5」**

- 入札要求と購買オーダーとは異なるオーダー番号の購買要求
- 標準の受注オーダーとは異なる番号範囲の一括受注オーダー

オーダー処理の次の手順として実行できる追加の状況を入力します。これらのフィールドは任意です。

これは優先される次の手順や予期される次の手順ではありませんが、このフィールドは変更可能です。予期される次の状況または許可された状況として定義されていないオーダー行の手順または状況は開始できません。その他の許可状況コードでは、処理手順を省略できます。多くの場合、処理オプションでは、これらのコードは一時変更用次状況コードと呼ばれます。

**履歴 (Y/N)**

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 受注管理の F42199 テーブルと、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理の F43199 テーブルにレコードを書き込むかどうかを決定するコードを入力します。値は次のとおりです。

Y: 選択したフィールドのレコードが履歴テーブルに書き込まれます。

N: 履歴テーブルにレコードは書き込まれません。

---

## 調達固定情報の設定

この項では、調達固定情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 事業所固定情報の定義
- 価格管理固定情報の定義
- 在庫状況の定義
- システム固定情報の定義
- アプリケーション制御固定情報の定義

### 調達固定情報について

固定情報とは、システム全体または特定の事業所に関連付ける情報のことです。固定情報は、多くの JD Edwards EnterpriseOne システムでデフォルト情報として使用されます。

システム全体で使用するデフォルト情報を定義した後、個別に適切な値を入力したり、事前定義した値を変更したりできます。

### 事前設定

調達固定情報を設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- 各事業所に対して住所録レコードを作成します。
- ALL (すべて) という名称の事業所を設定します。
- 各事業所をビジネスユニットとして設定します。



## 調達固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
事業所固定情報の処理	W41001B	「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、「事業所固定情報」	既存の事業所固定情報を確認または選択します。
事業所固定情報	W41001H	「事業所固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	事業所固定情報を設定します。
価格管理固定情報	W41001D	「事業所固定情報の処理」フォームで事業所を選択し、「フォーム」メニューから「価格管理固定情報」を選択します。	価格管理固定情報を設定します。
在庫状況の定義	W41001G	「事業所固定情報の処理」フォームで事業所を選択し、「ロー」メニューから「在庫状況」を選択します。	在庫状況を定義します。
システム固定情報	W41001F	「事業所固定情報の処理」フォームで事業所を選択し、「フォーム」メニューから「システム固定情報」を選択します。	システム固定情報を設定します。
アプリケーション固定情報	W41001E	「事業所固定情報の処理」フォームで事業所を選択し、「フォーム」メニューから「アプリケーション固定情報」を選択します。	アプリケーション固定情報を設定します。

## 事業所固定情報の定義

「事業所固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報により、流通/製造管理システムの各事業所で発生する日次トランザクションの処理をカスタマイズできます。

**注意:** オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne倉庫管理システムを使用する場合、事業所固定情報プログラム(P41001)の「事業所保管場所の定義」フォームで倉庫情報を定義する必要があります。倉庫管理システムを使用しない場合でも、少なくとも保管場所の長さ情報は定義してください。

### 顧客/仕入先の識別記号

顧客または仕入先の番号を識別する文字を入力します。この文字から始まる番号を入力すると、顧客または仕入先の番号として認識されます。入力した番号は、相互参照テーブルに基づいて品目番号と照合されます。相互参照機能を実行する場合は、このフィールドに値を入力してください。

### 引当方法

在庫引当方式(H40/CM)UDCにあるコードを入力して、在庫からのロット品目の引当に使用する方法を指定します。値は次のとおりです。

1: 標準の在庫引当方法。最初に基本保管場所、次に2次保管場所の順序で在庫が引き当てられます。

最大数量の保管場所からの在庫引当が、最小数量の保管場所からの引当より先に行われます。バックオーダーは基本保管場所に引き当てられません。

2: ロット番号による在庫引当方法。最小のロット番号から開始して引当可能なロットに対して順にオーダーの引当が行われます。

3: ロット満了日付による在庫引当方法。最も早い満了日のロットがある保管場所から在庫の引当が行われます。引当の対象となるのは、満了日が受注オーダー日付または部品リスト要求日付以降の在庫がある保管場所のみです。

**指定引当(日数)**

受注オーダー処理で在庫の引当の時期の決定に使用する数値を入力します。この値(日数)は現行日付に加算され、オーダー行の約束出荷日付と比較されます。約束出荷日付がシステム算出日付より後の場合、オーダー行はF41021テーブルで、将来引き当てられます。将来引当を行わない場合は、「999」を入力します。

**年間日数**

1年のうちで会社が営業している日数を入力します。このフィールドは必須です。252から365までの数値を指定してください。JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムでは、この数値を使用して経済的発注数量(EOQ)を計算します。

**仕入先相互参照コード**

この仕入先の相互参照設定のタイプを識別する相互参照タイプ・コード(41/DT)UDCにある値を入力します。たとえば、次の値があります。

- 1: 代替品目
- 2: 置換品目
- 3: バーコード
- 4: 顧客番号
- 5: 仕入先番号

**購買原価方式**

購買オーダーの品目原価を決定する場合に使用する原価計算方法を示す原価計算方法(40/CM)UDCにある値を入力します。01から19までは予約済です。

**原価計算方法(売上/在庫)**

品目の売上原価の計算に使用する原価計算方法を示す原価計算方法(40/CM)UDCにある値を入力します。01から19までは予約済です。

**現行在庫期間**

現行の会計期間を識別する番号(1から14)を入力します。この番号は、PBCO(過去期間)やPACO(未来期間)などのエラー・メッセージの作成に使用されます。

**購買オーダー発注費用**

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでEOQの計算に使用する金額を入力します。この費用は、1件の購買オーダーを発注するときの資材費、労務費、および間接費の見積になります。デフォルト値は.00です。

**在庫維持費(%)**

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでEOQの計算に使用する在庫投資のパーセント値を入力します。デフォルト値は00です。パーセント値は小数で入力してください。

**仕訳摘要の指定**

総勘定元帳の摘要(H41/PR)UDCにあるコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムでは、この値を使用して、総勘定元帳の仕訳の2行目に表示されるデフォルト記述が選択されます。値は次のとおりです。

- 1: 品目マスター記述(デフォルト)

## 2: 基本品目番号

承認経路コード	オーダーの承認経路を指定するコードを入力します。
バックオーダー許可	この品目のバックオーダーを許可するには、このオプションを選択します。バックオーダーは、品目マスター (P4101) または事業所品目 (P41026) プログラムを使用して品目別に許可したり、顧客請求指示プログラム (P03013) を使用して顧客別に、または事業所固定情報プログラム (P41001) を使用して事業所別に許可できます。
一般会計インターフェイス	この事業所で処理される在庫トランザクションで仕訳を作成する場合に選択します。
総勘定元帳への数量書込み	仕訳を記録した後に総勘定元帳に数量を計上するように指定する場合に選択します。
保管場所制御	保管場所マスター (F4100) に存在する保管場所だけを使用するように指定する場合に選択します。
倉庫管理制御	事業所の倉庫トランザクションを作成するように指定する場合に選択します。
品質制御	事業所の JD Edwards EnterpriseOne 品質管理システム (システム 37) を有効にするように指定する場合に選択します。
製品原価明細の使用	流通管理システムのプログラムで製造原価計算の明細製造原価計算方法を使用することを指定する場合に選択します。このオプションを選択しなかった場合、流通管理プログラムでは合計原価計算方法が使用されます。
他社デポ	事業所が他社の所有であることを示す場合を選択します。バルク/パッケージ製品の積荷確認プログラムでは、このコードを使用して、製品が積載されたデポが他社デポであるかどうかを識別します。他社デポの場合は、積荷確認時に有効な借入契約を入力する必要があります。
在庫ロットの作成	在庫トランザクション・プログラムでシステムの新しいロットまたはシリアル番号を作成することを指定する場合に選択します。  このオプションを選択しなかった場合は、在庫トランザクション・プログラムでシステムの新規ロット番号は作成できません。

## 価格管理固定情報の定義

「価格管理固定情報」フォームにアクセスします。

価格管理固定情報を定義すると、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 受注管理システムで上級価格設定情報を入力できるようになります。

販売価格管理を使用する (Y/N)	販売価格管理を使用するように指定する場合に選択します。上級価格設定モジュールがシステムに組み込まれている場合は、この機能を使用できます。
調達価格管理を使用する (Y/N)	調達管理用に JD Edwards EnterpriseOne 価格管理システムを使用するか指定する場合に選択します。
価格承認必須 (Y/N)	すべての価格変更が価格承認ワークフローによって提供されることを指定する場合に選択します。

<b>販促管理システムの指定</b>	販促管理システムの指定 (40P/PS) UDCのコードを入力して、プロモーション・システムを使用するかどうかを指定します。
<b>販促が複数ある場合の指定</b>	販促解決フラグ (40P/PR) UDCのコードを入力して、複数の販促が存在する場合にどの販促を使用するかを指定します。

## 在庫状況の定義

「在庫状況の定義」フォームにアクセスします。

事業所ごとに在庫状況の計算方法を定義する必要があります。在庫状況は、システムによるバックオーダー、取消、顧客納入時期の計算方法に影響します。

**注意:** オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne コンフィギュレータ・システムを使用している場合、コンフィギュレータ固定情報プログラム (P3209) の「在庫確認」フィールドを設定して、受注オーダー入力中に在庫状況をチェックする必要があります。品目とストリングが完全に一致するものが検索されると、ウィンドウに特定の構成のある保管場所がすべて表示されます。

<b>受注/作業オーダーのソフト・コミット数量</b>	受注オーダーまたは作業オーダーに対してソフト・コミットされた数量を品目引当可能数量の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>受注オーダーのハード・コミット数量</b>	受注オーダーに対してハード・コミットされた数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>受注オーダーの将来日付引当数量</b>	要求出荷日付が特定の引当期間を超える受注オーダーの数量を品目引当可能数量に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>作業オーダーのハード・コミット数量</b>	作業オーダーに対して特定の保管場所およびロットにハード・コミットされた数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>その他数量1 - SO (その他数量1 - 受注オーダー)</b>	在庫状況の計算で追加削減として指定された数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>その他数量2 - SO (その他数量2 - 受注オーダー)</b>	在庫状況の計算で追加削減として指定された数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>保留数量</b>	保留中の数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>安全在庫</b>	安全在庫として確保された数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は減少します。
<b>購買オーダー入荷数量</b>	購買オーダー上の数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は増加します。
<b>その他数量1 - 購買オーダー</b>	他の購買オーダー上の数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は増加します。
<b>作業オーダー入荷数量</b>	作業オーダー上の数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は増加します。

<b>積送中数量</b>	積送中の数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は増加します。
<b>検査中数量</b>	検査中の数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は増加します。
<b>作業1数量</b>	入荷工程の特定の作業における数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は増加します。
<b>作業2数量</b>	入荷工程の特定の作業における数量を在庫状況の計算に含めるようにする場合に選択します。このオプションを選択すると、引当可能数量は増加します。

## システム固定情報の定義

「システム固定情報」フォームにアクセスします。

事業所固定情報 - システム固定情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

☐ 事業所別に単位を換算する  
☒ 平均原価のリアルタイム更新  
☐ ECSシステムの使用  
☐ インターネットPPATメッセージ使用  
☐ 科学計算法  
☐ 顧客セットの使用  
☐ 出荷日付規則(昇順)

重複ロットの許可 2  
販売価格の計算に使用する単位 1  
購買価格の計算に使用する単位 2  
販売価格基準日  
購買レポートのカテゴリ・コード 3  
優先スケジュール  
優先調整の計算に使用する単位  
価格設定エンジン

「システム固定情報」フォーム

システム固定情報を設定して、各機能の実行方法を確定してください。たとえば、事業所が複数あり、それぞれの事業所で異なる単位を使用するとします。この場合、システム固定情報を設定して、単位を事業所別に自動換算できます。

<b>事業所別に単位を換算する</b>	特定の事業所に品目を追加するときに品目固有の換算テーブルを表示できるようにする場合に選択します。このオプションを選択しなかった場合は、品目マスターの全事業所に対して品目固有の換算テーブルが表示されます。
<b>平均原価のリアルタイム更新</b>	品目の平均原価に影響するトランザクションが発生した直後に新しい平均原価を計算できるようにする場合に選択します。このオプションを選択しなかった場合は、平均原価の更新プログラムを実行すると新しい平均原価が計算されます。
<b>ECSシステムの使用 (Energy and Chemical Systemの使用)</b>	オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne Energy and Chemical Systemのアプリケーションを使用可能にする場合に選択します。
<b>重複ロットの許可</b>	重複ロットの使用(40/DU)UDCの値を入力して、同じロットを複数の品目に割り当てることを可能にするかどうかを指定します。
<b>購買価格の計算に使用する単位</b>	購買価格の読み込み単位(40/PU)UDCテーブルの値を入力して、購買オーダーの処理時に仕入先/カタログ価格(F41061)に対してシステムが取得する単位を示します。トランザクションや価格設定の処理で指定した単位のレコードが存在しない場合は、その品目の基本単位を使用して処理が繰り返されます。
<b>購買リポートのカテゴリ・コード</b>	リポート固定情報 - 流通(43/RU)UDCテーブルの値を入力して、組込み比較の基準に使用されるカテゴリ・コードを指定します。
<b>価格設定エンジン</b>	<p>価格設定エンジンを使用する場合に選択します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランクまたは0: 使用可能にしない。</p> <p>1: 使用可能にする。</p> <p>2: 自動読み込み。</p> <p>自動読み込みでは、任意のユーザーがキャッシュ化されたテーブルのいずれかを使用してトランザクションを処理すると、自動的にキャッシュが読み込まれます。</p>

---

**注意:** この機能を有効にする前に、価格設定エンジンのしくみや制限、管理方法を十分に読んで理解することをお勧めします。

---

## アプリケーション制御固定情報の定義

「アプリケーション固定情報」フォームにアクセスします。

アプリケーション固定情報を定義することにより、権限を持たない従業員による総勘定元帳への変更が適用されないようにできます。また、バッチ・ジョブの実行前にバッチ制御情報の入力要求する固定情報を指定することもできます。バッチ制御情報を入力して、ジョブの予測サイズと実行結果を比較できます。

使用する流通および製造管理の各システムについて、管理者承認とバッチ制御をそれぞれ定義します。

事業所固定情報 - アプリケーション固定情報

OK(O) 取消(L) ツール(T)

レコード 1 - 4		グリッドのカスタマイズ			
		システム コード	記述	管理者 承認	バッチ 制御
<input checked="" type="radio"/>		31	製造現場管理	Y	
<input type="radio"/>		41	在庫管理	N	N
<input type="radio"/>		42	受注管理	Y	
<input type="radio"/>		43	調達管理	N	N

「アプリケーション固定情報」フォーム

**管理者承認**

表示されたシステム内で作成するバッチごとに保留の状況を割り当てるには、「Y」と入力します。バッチごとに承認済の状況を割り当てるには、「N」と入力します。

**バッチ制御**

バッチ制御情報の入力を要求するには、「Y」と入力します。

## UDC の設定

この項では、購買オーダーを処理する場合に設定するUDCについて説明します。

**伝票タイプ (00/DT)**

調達に使用する伝票タイプを示すために使用する値によって、このUDCを設定します。たとえば、OPは購買オーダーを示します。

**スケジュール名 (40/AS)**

上級価格設定調整の識別に使用される価格調整スケジュールの名前を使って、このUDCを設定します。スケジュール名の定義後には、価格設定調整をスケジュールに添付できます。調整名は、価格設定調整の設定前または設定後に定義できます。

**在庫の平均価格計算 (40/AV)**

購買オーダーの処理時に税金を処理するために実行されるプログラムを使用して、このUDCを設定します。

**陸揚費用構成要素 (40/CA)**

品目またはサービスに適用された陸揚費用のタイプを示すコードを使用して、このUDCを設定します。入荷の陸揚費用を入力すると、これらの値が使用されます。

## コミットメント伝票タイプ (40/CT)

JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアは、コミットメントの処理時に使用される伝票タイプについて、ハードコード化された値を提供します。コミットメント伝票タイプ (40/CT) UDCに伝票タイプが存在し、行タイプにAまたはBの在庫インターフェイスがある場合は、オーダー明細行を作成すると、コミットメントと債務が自動的に作成されます。

## 品目変更テーブル - (P40821X) (40/IC)

品目番号情報の変更時に更新されるテーブルを表示するには、このUDCを使用します。品目マスター・プログラム (P4101) および非在庫品目マスター・プログラム (P4101N) の処理オプションでは、このUDCを使用して、選択済テーブルの更新オプションを選択した場合に更新されるテーブルを指定します。

## オーダー・テンプレート (40/OT)

オーダー・テンプレートの名前を使用して、このUDCの値を設定します。仕入先テンプレートの改訂プログラム (P4015) を使用して購買オーダー・テンプレートを作成すると、定義したコードが使用されます。

## 顧客価格グループ (40/PC)

仕入先に関連付けた価格設定グループを識別するコードを使用して、このUDCを設定します。仕入先請求指示を定義するときには、価格設定グループを仕入先に割り当てます。

## 品目価格グループ (40/PI)

品目の在庫価格グループを識別する値を使用して、このUDCを設定します。在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。値引や割増は、オーダーされた品目の数量、金額、または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。

受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。

## 印刷メッセージ (40/PM)

オーダーに印刷されるテキスト・メッセージを使用して、このUDCを設定します。テキスト・メッセージの例としては、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などがあります。

## 元帳転記カテゴリ (41/9)

流通AAIの元帳クラス記述に対するコードを設定します。元帳転記カテゴリUDCテーブル (41/9) では、品目の在庫トランザクションの通貨金額を記録する勘定科目が指定されます。

## 相互参照タイプ・コード (41/DT)

このUDCの値を設定して、仕入先の品目番号の印刷時に使用される相互参照のタイプを指定します。相互参照情報は、F4013テーブルに保存されます。

販促品の特殊取扱コードは、JD Edwards EnterpriseOne価格管理で使用されます。

## 商品クラス・コード (41/P1)

このUDCでは、商品タイプや計画ファミリなどの品目の特性タイプや分類を表す値を設定します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。



### 商品補助クラス・コード(41/P2)

このUDCでは、商品タイプや計画ファミリなどの品目の特性タイプや分類を表す値を設定します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。

### 仕入先リベート・コード(41/P3)

仕入先と交渉済の様々なリベートを表すには、このUDCの値を設定します。購買分類コードを品目マスター・プログラムで入力するときには、このUDCを使用できます。これらのコードは、品目のソートや分類に使用されます。

### 基準計画ファミリ(41/P4)

システムで品目の基準計画ファミリを定義するには、このUDCの値を設定します。基準計画ファミリを使用すると、計画のために品目をグループ化できます。

### 陸揚費用規則(41/P5)

陸揚費用のタイプを識別するには、このUDCの値を設定します。陸揚費用規則により、業者手数料やコミッションなどの品目の実際の価格を超える購買価格が決まります。陸揚費用規則は、「陸揚費用の改訂」フォームで設定します。

### 価格カテゴリ・タイプ(42/CT)

購買オーダー割引やオーダー価格再設定などの価格規則の基準を識別するには、このUDCの値を設定します。調達管理では、仕入先の価格割引規則を設定するときに、このUDCから適切な値を選択します。

### 貨物/運賃取扱コード(42/FR)

運送業者に運賃を支払う担当者と、どの時点で所有権が移行されるかを示すには、このUDCの値を設定します。このUDCは、仕入先の購買指示で使用します。

### 保留コード(42/HC)

オーダーが保留中である理由を識別するには、このUDCの値を設定します。このUDCはハードコード化されておらず、特殊取扱コード・ロジック也没有。

### 認可状況(43/CR)

仕入先にこの品目の販売資格があるかどうかを示すには、このUDCの値を設定します。入力したコードによって、仕入先および品目について入力したオーダーの管理方法が決まります。

### 移動コード(43/MC)

JD Edwards EnterpriseOneは、入荷工程の使用時にシステムによって使用されるこのUDCのハードコード化された値を提供します。

### モデル・ログ・タイプ(43/ML)

モデル・ログの作成時に使用される値を設定するには、このUDCの値を設定します。

### 作業コード(43/OC)

入荷工程内の作業またはステップを識別するには、このUDCの値を設定します。

### 未処理ログ・タイプ(43/OL)

JD Edwards EnterpriseOneは、ログ情報の入力時にシステムによって使用されるこのUDCのハードコード化された値を提供します。

### 購買リポート・オーダー・タイプ(43/RB)

リポートのタイプを識別するには、このUDCの値を設定します。

### 工程コード(43/RC)

入荷工程を識別するには、このUDCの値を設定します。各入荷工程は、入荷時に品目に対して行われる一連の作業で構成されます。入荷工程の設定時に指定した値が使用されます。

### リポート状況(43/RS)

リポート契約の状況を定義するには、このUDCの値を設定します。この状況は、保留中または有効にすることができます。A(有効)という値は、リポート情報が更新されることを示すためにハードコード化されています。

### リポート・タイプ(43/RT)

JD Edwards EnterpriseOneは、リポートが購買数量のパーセントまたは固定通貨金額かどうかを示す場合に使用するハードコード化された値を提供します。

### 進捗支払の表示(43B/VW)

このUDCでは、伝票照合プログラム(P4314)で指定する伝票照合のタイプのデフォルトとして使用する値を設定します。

### トランザクション・セット目的コード(47/PU)

送信または受信するJD Edwards EnterpriseOne電子データ交換(EDI)トランザクションの目的を定義するには、このUDCの値を設定します。

---

## AAIの設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムのAAIの概要、会計システムのAAIテーブル、および次の方法について説明します。

- 流通AAI(P40950)の処理オプションの設定
- 流通AAIの設定

### JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムのAAIテーブルについて

AAIを設定して、仕訳を計上する勘定科目を確定します。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、在庫品目を入荷すると仕訳が作成されます。仕訳を作成する勘定科目を指示するには、AAIを設定します。また、各AAIについてメモ・テキストを入力できます。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne外注管理システムでは、AAIによってJD Edwards EnterpriseOne外注管理、JD Edwards EnterpriseOne作業原価およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計システム間のリンクを定義します。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムのAAIテーブルは複数あり、それぞれが特定のタイプの取引に適用されます。各テーブルでは、会社、伝票タイプ、および元帳クラスの固有の組合せごとに勘定科目を指定します。

たとえば、在庫入荷トランザクションに適用するAAIテーブルを設定できます。在庫品目の入荷を入力するたびに、その会社、伝票タイプ、元帳クラスに基づいて、入荷仕訳を計上する借方勘定科目が決まります。

AAIは、流通/製造AAI値テーブル(F4095)に保存されます。

### 購買オーダー入力のAAI

これらのAAIテーブルによって、購買オーダーの入力時に作成される仕訳の借方と貸方になる勘定科目が決まります。

テーブル	説明
4310	C(在庫基準購買)の在庫インターフェイスからコミットメントまたは購買オーダー行に対して得られた勘定科目
4315	B(非在庫基準購買)の在庫インターフェイスからコミットメントまたは購買オーダー行に対して得られた勘定科目
4318	A(サービス基準購買)の在庫インターフェイスからコミットメントまたは購買オーダー行に対して得られた勘定科目

### 入荷および伝票照合用AAI

これらのAAIテーブルにより、購買オーダー入荷の入力時または伝票作成時に作成される仕訳の借方と貸方の勘定科目が決まります。

テーブル	説明
4310	入荷確認プログラム(P4312)により、(借)在庫評価勘定に仕訳が作成されます。
4315	購買オーダーに勘定科目コードを使用していない場合に、入荷確認プログラムにより(借)非在庫勘定に仕訳が作成されます。
4320	入荷確認および伝票照合プログラム(P4314)により、入荷請求仮勘定(貸方または借方)に仕訳が作成されます。
4322	4320 AAIの勘定科目を使用するかわりに、4322 AAIの勘定科目の貸方に仕訳が作成されます。行タイプ固定情報で買掛管理インターフェイスが無効になっているため、入荷行に対して伝票が作成されません。  <b>注意:</b> 「買掛管理インターフェイス」チェックボックス(API)は、行タイプ固定情報プログラム(P40205)で選択解除します。

### 差異用AAI

これらのAAIテーブルにより、品目原価に差異があるときに借方および貸方になる勘定科目が確定します。

テーブル	説明
4330	伝票照合プログラム (P4314) で作成される入荷原価 / 実際支払原価差異勘定の仕訳は貸方または借方に作成されます。
4332	伝票照合プログラムで作成される実際支払原価差異 / 売上原価勘定の仕訳が貸方または借方に作成されます。
4335	入荷確認プログラム (P4312) で作成される標準原価 / 実際原価差異勘定の仕訳は貸方または借方に作成されます。
4337	入荷確認プログラムで作成される製造資材間接費勘定の仕訳は借方に作成されます。(標準原価とともに使用)
4340	伝票照合プログラムで作成された為替レートの差異を借方または貸方に記録します。この差異は、入荷時と伝票作成時で購買為替レートに違いがある場合に生じるものです。

AAI 4338 (差異 / 在庫の価格再設定) および AAI 4339 (差異 / 非在庫の価格再設定) は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne Grower Management システムおよび JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムで使用されます。

### 消費税用 AAI

これらの AAI テーブルにより、消費税の処理時に作成される仕訳の借方と貸方になる勘定科目を確定します。

テーブル	説明
4350	入荷確認プログラム (P4312) および伝票照合プログラム (P4314) で作成された仮払消費税勘定の仕訳は借方に作成されます。
4355	入荷確認プログラムで作成された税請求仮勘定の仕訳は貸方に作成されます。

### 入荷工程用 AAI

この AAI テーブルにより、入荷工程で品目処理をするときに作成される仕訳の借方と貸方になる勘定科目を確定します。

テーブル	説明
4375	入荷工程処理中に作成される在庫処分勘定の仕訳は借方に作成されます。通常、これは商品に破損がある場合に発生します。ただし、支払は実行する必要があります。

## 陸揚費用AAI

これらのAAIテーブルによって、陸揚費用の処理時に作成される仕訳の借方と貸方になる勘定科目を確定します。

テーブル	説明
4385	入荷確認プログラム (P4312)、入荷確認照会プログラム (P43214)、または伝票照合プログラム (P4314) のいずれかの実行中に作成される陸揚費用/経費調整勘定の仕訳が借方に作成されます。
4390	入荷確認プログラム、入荷確認照会プログラム、または伝票照合プログラムのいずれかの実行中に作成される陸揚費用/経費調整勘定の仕訳が貸方に作成されます。

## 貸借一致調整用AAI

これらのAAIテーブルにより、貸借一致(残高ゼロ)の調整処理を実行する際に作成される仕訳の借方と貸方になる勘定科目が確定されます。

テーブル	説明
4400	入荷の結果が手持数量ゼロで総勘定元帳に原価が残っている場合に、入荷確認プログラム (P4312) で作成される在庫評価勘定の仕訳が貸方に作成されます。通常、これは、当初トランザクションと異なる原価でトランザクションの逆仕訳があった場合に発生します。
4405	入荷確認プログラム (P4312) で作成された在庫評価勘定の仕訳が借方に作成されます。これは、入荷の結果が手持数量ゼロとなっても原価勘定が残っているときに生じます。通常、これは、当初トランザクションと異なる原価でトランザクションの逆仕訳があった場合に発生します。

## 会計システムのAAIテーブルについて

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムには、2つのカテゴリのAAIが関係します。これらのカテゴリにはそれぞれ、システムでの使用方法を定義する固有のプレフィックスがあります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「AAI (自動仕訳) の設定」

### 運賃配賦用AAI(PCFRTD)

このAAIを使用して、運賃の配賦を入力する際に使用する勘定科目を決定します。

PCFRTD AAIは、伝票照合プログラム (P4314) で運賃の配賦を処理する前に定義する必要があります。

### 請求対象外留保金のAAI(PCNBRT)

このAAIを使用して、請求対象外の留保金に使用する勘定科目を決定します。

PCNBRT AAIは、出来高払いプログラム(P4314)で請求対象外の留保金を持つ伝票を処理する前に定義する必要があります。

## AAIの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
勘定科目の改訂	W40950D	<ul style="list-style-type: none"> <li>「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、 「AAI(自動仕訳)」</li> <li>「AAIの処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「AAIの設定」を選択します。</li> <li>「外注管理システム・セットアップ」(G43D41)、 「AAI(自動仕訳)」</li> <li>「AAIの処理」フォームでローを選択して、「ロー」メニューの「AAIの設定」を選択します。</li> </ul>	AAIを設定します。

## 流通AAI(P40950)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト情報

この処理オプションでは、流通AAIプログラム(P40950)にアクセスする際のデフォルト情報を指定できます。

**AAIテーブル番号** 勘定科目情報の順序指定と取得に使用する番号を入力します。

**流通AAIテーブルに対して使用可能にする** 4122、4124、4134、4136、4220、4240および4310の流通AAIテーブルに対して「原価タイプ」フィールドを使用可能にするには、1を入力します。

## 流通AAIの設定

「勘定科目の改訂」フォームにアクセスします。

**主科目** 勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分を入力します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。

任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

## 許容規則の作成

この項では、許容規則の概要と作成方法について説明します。

### 許容規則について

明細行の変更が許容限度を超過しないよう範囲を確定するには、許容規則を作成します。たとえば、購買オーダーに入力した数量の10%を超過する数量の入荷を入力することがあります。許容限度を超過するトランザクションが作成されないように、システムを設定できます。

許容規則は、品目、品目カテゴリ・コード、または会社ごとに設定できます。許容規則を設定して、次の値を変更できる数値またはパーセントを指定します。

- 数量
- 単位原価
- 合計金額

3タイプのトランザクションに対して許容規則を設定できます。

- 入荷
- 伝票作成
- 購買要求の連結/一括オーダーのリリースによる購買オーダー作成

明細行が許容限度を超過した場合、処理オプションでの設定に従って、エラー・メッセージが表示されるか、入力できなくなります。伝票照合の際に、許容範囲を超過する行に対して支払状況コードを割り当てるように指定できます。

数量、単位原価、合計金額カテゴリに対してパーセントまたは数値を指定しない場合、ブランクにしたカテゴリに対して、システムによる許容度チェックは実行されません。許容規則範囲を超過するトランザクションにのみ許容度チェックが実行されます。

許容度をゼロと指定することにより、システムが何も許容しなくなるように設定できます。パーセントまたは金額の許容度をゼロと入力すると、入荷、伝票作成、当初購買オーダー行の金額リリースができなくなります。

### 許容規則の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買許容規則の改訂	W4322A	「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、「許容規則」  「購買許容規則の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	許容規則を作成します。

### 許容規則の作成

「購買許容規則の改訂」フォームにアクセスします。

#### 機能タイプ

機能タイプ(43/FT)UDCテーブルの値を入力して、許容規則を適用する機能を指定します。

品目No.、商品クラス、会社番号	これらのフィールドのいずれかに値を入力します。これらのフィールドの2つ以上に値を入力して「OK」をクリックすると、エラー・メッセージが表示されます。
ゼロ許容度	許容率を入力していない許容フィールドについてバリエーションを認めないことを指定する場合に選択します。
許容率	<p>ここに入力したパーセント値を超えている場合は、警告メッセージの表示なしに購買オーダー行が承認されます。このパーセント値は、行数量に基づいており、入荷処理時に使用されます。このフィールドをブランクにした場合は、該当する「ゼロ許容度」オプションを選択して差異が許されないことを指定しないかぎり、許容度チェックは実行されません。</p> <p>このパーセント値は整数で入力してください。たとえば、10%の場合は「10」と入力します。</p>
許容数量	ここに入力した数量を超えている場合は、警告メッセージの表示なしに購買オーダー行が承認されます。この数量は、行数量に基づいており、入荷処理時に使用されます。このフィールドをブランクにした場合は、該当する「ゼロ許容度」オプションを選択して差異が許されないことを指定しないかぎり、許容度チェックは実行されません。
許容金額	ここに入力した金額を超えている場合は、警告メッセージの表示なしに購買オーダー行が承認されます。この金額は、行の価格に基づいており、入荷処理時に使用されます。このフィールドをブランクにした場合は、該当する「ゼロ許容度」オプションを選択して差異が許されないことを指定しないかぎり、許容度チェックは実行されません。

## オーダー保留情報の設定

この項では、オーダー保留情報の概要、事前設定、およびオーダー保留情報の入力方法について説明します。

### オーダー保留情報について

オーダーが処理されないように、オーダーを保留にできます。オーダーに保留コードを割り当てると、保留状態を解除するまではオーダーの処理ができなくなります。

**注意:** 調達管理の保留はオーダー・レベルで設定する必要があります。調達管理では、行レベルの保留はサポートされません。

オーダーに割り当てる予定の保留コードを個別に設定する必要があります。各保留コードは、特定の保留タイプを識別します。たとえば、予算を超過する購買オーダーを識別する保留コードを設定できます。また、管理上の保留と承認保留もあります。また、これとは別に最大オーダー金額を超過する購買オーダーを識別する保留コードを設定することもできます。

さらに、システムが割り当てる事前定義された保留コードもあります。購買オーダー・プログラム(P4310)の処理オプションを設定している場合、予算保留がオーダーに自動的に割り当てられます。購買オーダー(P4310)の処理オプションを設定し、オーダーが承認待ちになると、承認保留が自動的に割り当てられます。また、仕入先に対して保留コードを入力した場合も、保留コードがオーダーに自動的に割り当てられます。



特定のオーダー保留タイプを検討およびリリースする担当者を指定できます。各保留コードに対してパスワードを指定してください。このパスワードを知る個人のみが、保留コードを割り当てたオーダーをリリースできます。

## 事前設定

保留コード(42/HC)UDCテーブルで保留コードが設定されていることを確認します。

## オーダー保留情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
保留オーダー固定情報の処理	W42090A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、</li> <li>「オーダー保留情報」</li> <li>「外注管理システム・セットアップ」(G43D41)、</li> <li>「オーダー保留情報」</li> </ul>	既存のオーダー保留コードを表示または選択します。
オーダー保留情報	W42090B	「保留オーダー固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オーダー保留情報を入力します。

## オーダー保留情報の入力

「保留オーダー固定情報の処理」フォームにアクセスします。

保留コード	保留コード(40/HC)UDCテーブルのコードを入力して、オーダーが保留されている理由を指定します。
担当者No.	保留中のオーダーを検討し、リリースする担当者の住所録番号を入力します。
制限タイプ	限定タイプ(42/LM)UDCテーブルの値を入力して、検証される値のタイプを指定します。たとえば、値を入力して金額またはパーセントを指定できます。
コード・タイプ	コード・タイプ(42/TC)UDCテーブルの値を入力して、オーダー・レベルで適用する保留コードを指定します。与信保留の場合、保留コードは全オーダーに適用されます。調達管理の保留では、行レベルの保留はサポートされません。
経過開始	経過計算期間(H40/AP)UDCコードの値を入力して、顧客の売掛金の経過に基づいて与信チェックを指定するときに使用される経過計算期間を指定します。
経過%	<p>「経過開始」フィールドで指定したカラムで受け入れる売掛金合計のパーセントをシステムに通知する数値を入力します。経過与信チェックを使用する場合は、「経過%」フィールドに値を入力する必要があります。</p> <p>たとえば、顧客の売掛金残高合計が10,000で、そのうちの2,500が31-60日カラムにあるとします。経過開始値は3(31から60日)、経過パーセント値は10(10%)です。したがって、この顧客は、カラム3から6で1,000(10,000 × 10%)を保持でき、引き続きこの与信チェックの基準を満たします。この顧客の残高はさらに多いため、オーダーは保留されます。</p>

上限	許容マージン率または許容マージン額の範囲の上限として使用される値を入力します。オーダーや個別オーダー行の最大粗利益率または最大粗利益額を設定する場合は、このフィールドに入力してください。
下限	許容マージン率または許容マージン額の範囲の下限として使用される値を入力します。オーダーや個別オーダー行の最大粗利益率または最大粗利益額を設定する場合は、このフィールドに入力してください。
パスワード	保留オーダーをリリースする前にシステムによって要求される値を入力します。パスワードへのアクセス権を持つユーザーのみがオーダーをリリースできます。パスワードには空白を入力しないでください。

---

## 陸揚費用の設定

この項では、陸揚費用の概要、事前設定、および陸揚費用の設定方法について説明します。

### 陸揚費用について

陸揚費用は品目の仕入価格以外の費用です。通常はオーダーにかかる配送運賃に関連する費用ですが、業者手数料、コミッションなどの場合もあります。陸揚費用とは、個々の品目を在庫へと配送するために発生する追加費用です。陸揚費用は、購買オーダーの合計費用には適用できません。また、陸揚費用は非課税です。

特定の品目および事業所、あるいは費用規則（名称を付ける陸揚費用のグループ）に割り当てることができます。陸揚費用規則は、陸揚費用規則（41/P5）UDCテーブルで設定します。作成した費用規則は、在庫品目、仕入先、購買オーダー、または明細行に割り当てます。陸揚費用を割り当てることによって、品目の購買にかかる実際原価をトラッキングできます。

陸揚費用を品目または費用規則に割り当てるとき、品目ごとに各陸揚費用の計算方法を定義します。次の情報を基準にして、品目に対して陸揚費用を加算できます。

- 単価のパーセント
- 金額
- 品目の重量または容量に乘算する特定のレート

各陸揚費用に対して、次の情報を指定できます。

- 有効日付
- 費用の支払先となる仕入先
- 費用を充当する元帳クラス・コード

元帳クラス・コードにより、作成される陸揚費用の仕訳の勘定科目が決まります。陸揚費用勘定科目を指定するにはAAIテーブルの4385と4390を使用します。

また、次の情報も指定できます。

- 伝票入力プログラムを使用して原価を照合するかどうか
- 品目原価更新にその原価を含めるかどうか

明細行に充当される陸揚費用は、次の順序で検索されます。

1. 「陸揚費用の改訂」で品目/事業所に割り当てられた陸揚費用

2. 明細行に割り当てられた費用規則
3. 購買オーダーに割り当てられた費用規則
4. 「品目/事業所情報」フォームで品目および事業所に割り当てられた費用規則
5. 「品目マスターの改訂」フォームで品目に割り当てられた費用規則

明細行に陸揚費用が加算されるタイミングを確定します。たとえば、入荷処理時、伝票照合処理時、または独立型処理時に陸揚費用を加算できます。

## 事前設定

陸揚費用を設定する前に、次の作業を行う必要があります。

- UDCテーブル41/P5で陸揚費用規則を設定します。
- UDCテーブル40/CAで陸揚費用レベルを設定します。

## 陸揚費用の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
陸揚費用の処理	W41291B	「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、「陸揚費用の改訂」	陸揚費用を処理します。
陸揚費用の改訂	W41291A	「陸揚費用の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	陸揚費用パラメータを設定し、それらを品目または費用規則に添付します。

## 陸揚費用の設定

「陸揚費用の改訂」フォームにアクセスします。

陸揚費用のパラメータ(元帳カテゴリ・コードなど)を陸揚費用規則または品目に関連付けます。パラメータを陸揚費用規則に関連付けるには、「陸揚費用規則」フィールドに入力します。パラメータを品目に関連付けるには、「品目No.」および「事業所」フィールドに入力します。

<b>陸揚費用規則</b>	陸揚費用パラメータを関連付ける陸揚費用規則(41/P5)UDCテーブルの値を入力します。
<b>原価レベル</b>	陸揚費用構成要素(40/CA)UDCテーブルの値を入力して、追加費用を識別します。このコードでは、特定の品目または品目グループに対する費用追加の順序も指定されます。
<b>原価率</b>	購買オーダーで示された品目の基準原価に陸揚費用構成要素として追加される品目の主購買原価のパーセントを入力します。
<b>加算金額</b>	合計原価と等しくするために指定の原価に加算される金額を入力します。
<b>重量レート</b>	在庫品目に対して指定した単位重量で乗算される重量を入力します。この値を使用して陸揚費用構成要素が計算されます。
<b>容量レート</b>	在庫品目に対して指定した単位容量で乗算される容量を入力します。この値を使用して陸揚費用構成要素が計算されます。

基準レベル	陸揚費用構成要素(40/CA)UDCテーブルの値を入力して、品目の原価の基準を識別します。このコードを使用した場合は、前レベルの合計に基づいて原価を積み上げることができます。
原価に含める(Y/N)	陸揚費用を品目の単位原価に含めるには、「Y」と入力します。
伝票(Y/N)	<p>伝票照合時に陸揚費用を表示するには、「Y」と入力します。入荷レコードがF43121テーブルに作成され、場合によっては、伝票照合プログラムで陸揚費用が伝票入力されることがあります。入荷レコードの「陸揚費用コード」(LAND)フィールドには、値として「2」が入ります。</p> <p>レコードをF43121テーブルに作成し、伝票照合プログラムで陸揚費用が伝票入力されないようにするには、「N」と入力します。入荷レコードの「陸揚費用コード」(LAND)フィールドには、値として「3」が入ります。入荷の戻し(逆仕訳)を行う場合は、入荷レコードが必要です。</p>
<p><b>注意:</b> 値がNであっても、仕訳は作成されます。そのため、仕訳を取り消すためには、同じ勘定科目を対象とした陸揚費用AAI(4385/4390)が必要になることがあります。</p>	

## 非在庫品目の設定

この項では、非在庫品目の概要と次の方法について説明します。

- 非在庫品目マスター・プログラム(P4101N)の処理オプションの設定
- 非在庫品目の設定

### 非在庫品目について

在庫として会計処理をしない品目に関して情報を定義できます。非在庫品目情報は、事業所レベルではなく品目レベルでのみ追加、管理します。「非在庫品目の改訂」フォームは「品目マスターの改訂」フォームと似ています。ただし、非在庫品目に関連するフィールドのみが含まれます。

運営資源とは、企業が管理する非在庫の商品やサービス、および社内の業務プロセスなどで、これらは組織の日々の業務に必要となります。次の表に、運営資源の例を示します。

リソース・タイプ	例
商品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メンテナンスや修理などに必要な消耗品</li> <li>・ 資本設備</li> <li>・ 車両</li> <li>・ コンピュータ機器やソフトウェア</li> <li>・ 事務機器や消耗品</li> <li>・ 雑誌や書籍</li> <li>・ マーケティングや販促用マテリアル</li> <li>・ 不動産</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保守</li> <li>・ 広告</li> <li>・ 資本サービス</li> <li>・ 契約</li> <li>・ 印刷</li> <li>・ 人材雇用および転職斡旋</li> </ul>

その他のフォームにアクセスして、非在庫品目に関する次のような詳細情報を定義し、管理できます。

- ・ デフォルトの単位
- ・ 多言語による記述
- ・ テキスト・メッセージ

設定した各非在庫品目に対して、F4101テーブルにレコードが作成されます。

## 非在庫品目の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
非在庫品目の改訂	W4101NA	「調達管理システム(非在庫品目)セットアップ」(G43B41)、「非在庫品目マスター」  「非在庫品目の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	非在庫品目を設定します。

## 非在庫品目マスター(P4101N)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、非在庫品目マスター・プログラム(P4101N)で使用されるデフォルト情報を指定します。

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1. 基本単位(デフォルト = EA) | EA(個)やKG(キログラム)など、品目の数量を表すために使用される単位を識別する単位(00/UM)UDCの値を入力します。   |
| 2. 重量単位(デフォルト = LB) | この品目の重量を示すために使用される単位を識別する単位(00/UM)UDCの値を入力します。オンスやグラム、キログラムなどを重量基準として指定できます。この単位は品目に使用されたり、個別の品目やコンテナの単位に合わせて一時変更されます。 |

## 処理

この処理オプションでは、非在庫品目マスター・プログラム(P4101N)における情報の処理方法を指定します。

1. F4102への変更の転送      第2(LITM)および第3(AITM)品目番号に対する変更を事業所品目(F4102)品目レコードに転送するには、「1」と入力します。

## バージョン

この処理オプションでは、非在庫品目マスター・プログラム(P4101N)のバージョンを指定します。

1. 品目マスター      品目マスター・プログラム(P4101)に対して使用されるバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

## 非在庫品目の設定

「非在庫品目の改訂」フォームにアクセスします。

非在庫品目マスター - 非在庫品目の改訂			
非在庫品目の処理		非在庫品目の改訂	
OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T) 			
製品 No.	<input type="text" value="701712"/>	品目 No.(略式)	<input type="text" value="701712"/>
カタログ No.	<input type="text" value="701712"/>		
記述	<input type="text" value="Non-Stock Item"/>	重量	<input type="text" value="LB"/>
記述 2	<input type="text"/>	検索テキスト	<input type="text" value="Inventory"/>
在庫タイプ	<input type="text" value="N"/> 非在庫品目	商品クラス	<input type="text"/> 購買カテゴリ・コードP2を
元帳クラス	<input type="text" value="IN30"/> 製造完成品	商品補助クラス	<input type="text"/> 購買カテゴリ・コードP2を
単位	<input type="text" value="EA"/> 個	仕入先リポート・コード	<input type="text"/> 仕入先リポート・コードP3を
行タイプ	<input type="text" value="S"/> Stock Inventory Item	基準計画ファミリ	<input type="text"/> 基準計画ファミリ・コードP4を
購買担当者No.	<input type="text"/>	陸揚費用規則	<input type="text"/> 陸揚費用規則P4をここに
優先運送業者	<input type="text"/>		
商品コード	<input type="text"/>	UNSPSCコード	<input type="text"/>

「非在庫品目の改訂」フォーム

## 優先運送業者

品目のデフォルト運送業者として使用される住所録番号を入力します。

<b>商品クラス</b>	<p>商品タイプや計画ファミリなどの品目の特性タイプまたは分類を表す商品クラス(41/P1)UDCの値を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。</p> <p>このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。</p>
<b>商品補助クラス</b>	<p>商品タイプや計画ファミリなどの品目の特性タイプまたは分類を表す商品補助クラス・コード(41/P2)UDCテーブルの値を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。</p> <p>このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。</p>
<b>基準計画ファミリ</b>	<p>商品タイプや計画ファミリなどの品目の特性タイプや分類を表すUDCテーブル(41/P4)の値を入力します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。</p> <p>このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。</p>
<b>商品コード</b>	<p>レポート専用の値を入力します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne購買要求セルフサービスを購入した場合は、商品ツリーを設定して、そのツリーに品目を追加できます。それにより、購買オーダー明細では商品コードが自動的に入力されます。</p>
<b>UNSPSCコード（国連標準製品およびサービス・コード）</b>	<p>参照専用の値が表示されます。UNSPSCコードには標準設定があります。これらの値のダウンロードは保存されます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne購買要求セルフサービスを購入した場合は、このコードを商品コード・ツリーに関連付けることができます。</p>

## 印刷メッセージの定義

この項では、印刷メッセージの概要と、印刷メッセージの定義に使用するフォームについて説明します。

### 印刷メッセージについて

印刷メッセージは、従業員や仕入先に特定の情報を通知するための、社内用および対外用に使用できるメッセージです。印刷メッセージは事前定義テキストから構成され、次の項目に添付できます。

- 品目レコード
- 仕入先マスター
- 購買オーダー見出し
- 購買オーダー見出し条項

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「オーダー見出し情報の入力に使用するフォーム」、117 ページ

- 購買オーダー明細行

印刷メッセージは、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理およびJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで共有されます。メッセージに使用されるテキストの例には、次があります。

- 設計仕様
- 危険物情報シート

- 休日の作業時間数
- 特殊配送指示

印刷メッセージは、メッセージ名、記述、および添付情報で構成されます。

印刷メッセージの作成が完了した後、そのメッセージをどの伝票に表示するかを指定する必要があります。

## 印刷メッセージの定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ユーザー定義コード	W0004AI	「略式コマンド」フィールドにUDCと入力します。	UDC 40/PMを検索して、印刷メッセージを識別するためのコードを追加します。
印刷メッセージの改訂	W40162C	「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、「印刷メッセージの改訂」  「印刷メッセージの処理」フォームで、「追加」をクリックします。  「印刷メッセージの処理」フォームで印刷メッセージを選択して、「選択」をクリックします。	印刷メッセージの設定と管理を行います。
メディア・オブジェクト・ビューア	なし	「印刷メッセージの改訂」で、「フォーム」メニューから「添付」を選択します。	印刷メッセージ・テキストを添付に入力します。
伝票選択	W40162A	「印刷メッセージの改訂」で、「フォーム」メニューから「伝票選択」を選択します。	メッセージを印刷する伝票を選択します。
伝票タイプの例外	W40162B	「伝票選択」で、「ロー」メニューの「伝票タイプの例外」を選択します。	伝票タイプの例外を定義します。

## 購買オーダー・テンプレートの設定

この項では、購買オーダー・テンプレートの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- オーダー・テンプレートの改訂 (P4015) の処理オプションの設定
- 購買オーダー用仕入先テンプレートの作成
- 購買オーダー用ユーザー・テンプレートの作成
- バッチ・モードでのテンプレートの改訂
- 仕入先実績テンプレートの再作成 (R43815) の処理オプションの設定



## 購買オーダー・テンプレートについて

オーダー入力処理を合理化するために、テンプレートを設定できます。テンプレートには頻繁に発注する品目およびその品目の通常オーダー数量が含まれます。購買オーダー入力中にテンプレートにアクセスして、オーダーする品目を選択できます。

それぞれのテンプレートには、特定の品目グループが含まれます。汎用の標準テンプレートを作成するか、テンプレートを適用する仕入先を指定できます。ユーザーが最もよく発注する品目に基づいてユーザー・テンプレートを作成することもできます。

オーダー・テンプレートを設定する際、テンプレートに組み込む品目および品目数量を入力します。選択する既存購買オーダーに基づいて、品目をテンプレートに自動入力できます。また、既存購買オーダーからの情報を使用して、バッチ・モードでテンプレートを作成および改訂することもできます。

オーダー・テンプレートは、頻繁に発注する品目をまとめたものです。購買オーダー入力中にオーダー・テンプレートを使用して、オーダーする品目を選択できます。

仕入先固有のテンプレートを作成できます。このようなテンプレートは、仕入先に同じ品目を頻繁に発注する場合に役立ちます。仕入先を特定しない標準テンプレートも作成できます。そのかわり、これには様々な仕入先から頻繁に発注される品目が含まれます。特定のユーザーおよびそのユーザーが最も多く発注する品目を基準にしてテンプレートを作成すると便利です。

既存購買オーダーの品目および品目数量を基準にすると、仕入先テンプレートの作成時間を短縮することや既存テンプレートを更新できます。選択した購買オーダーに基づいて、品目および品目数量がテンプレートに追加されます。

## 事前設定

購買オーダー・テンプレートを作成する前に、次の作業を行う必要があります。

- オーダー・テンプレート(40/OT)UDCテーブルで、オーダー・テンプレートの名称を設定します。
- 仕入先実績テンプレートの再作成プログラム(R43815)の処理オプションを設定して、購買実績を読み込み、購買オーダーのテンプレートに追加できるようにします。
- ユーザーが最も多く発注する品目に基づいて購買オーダーのユーザー・テンプレートを作成する場合、仕入先テンプレートの改訂プログラム(P4015)の処理オプションで、使用フォーマットを4(ユーザー)に設定してください。

## 購買オーダー・テンプレートの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー・テンプレートの処理	W4015A	「上級/技術的操作」(G43A31)、「仕入先テンプレートの改訂」	使用可能なオーダー・テンプレートを処理します。
オーダー・テンプレートの改訂	W4015B	「オーダー・テンプレートの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	オーダー・テンプレートを改訂します。 既存の購買オーダーを使用したテンプレートの作成
購買実績の処理	W40215D	「オーダー・テンプレートの改訂」フォームで、「フォーム」メニューから「オーダー実績」を選択します。	購買実績を処理します。
オーダー明細の処理	W4310G	「購買実績の処理」フォームでオーダーを選択して、「ロー」メニューの「明細」を選択します。	オーダー明細を処理します。

## オーダー・テンプレートの改訂(P4015)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

この処理オプションでは、オーダー・テンプレートの改訂プログラム(P4015)における情報の表示方法を指定します。

- 1. 使用するフォーマットを入力します。**  
 入力できるオーダー・テンプレートのフォーマットを決定するコードを入力します。値は次のとおりです。
  - 1: 販売先
  - 2: 出荷先
  - 3: 仕入先
  - 4: ユーザー
- 2. カスタマ・セルフサービス・モード**  
 カスタマ・セルフサービス情報の処理方法を決定するコードを入力します。値は次のとおりです。
 

ブランク: 標準の処理が使用されます。

  - 1: Java/HTML処理が使用されます。
  - 2: Microsoft Windows処理が使用されます。

### バージョン

この処理オプションでは、システムで使用される様々なプログラムのバージョンを決定します。これらの処理オプションのどちらかをブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

- 1. 受注残/完了オーダー照会(P4210)**  
 システムが使用する受注残/完了オーダー照会プログラム(P4210)のバージョンを指定します。

2. 購買オーダー(P4310) システムが使用する発注残プログラム(P4310)のバージョンを指定します。

## 購買オーダー用仕入先テンプレートの作成

「オーダー・テンプレートの改訂」フォームにアクセスします。

仕入先テンプレートの改訂 - オーダー・テンプレートの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

仕入先

オーダー・テンプレ

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	品目 No.	通常オーダー 数量	単位	順序No.	有効 開始日付	有効 終了日付	品名
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	210	10		5	1997/03/27	2010/12/31	Mountain Bike, Red
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	220	5		10	1997/03/27	2010/12/31	Touring Bike, Red
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	221	5		15	1997/03/27	2010/12/31	Touring Bike, Blue
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	222	5		20	1997/03/27	2010/12/31	Touring Bike, Green
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				25			

「オーダー・テンプレートの改訂」フォーム

**仕入先** 作成中のオーダー・テンプレートが仕入先に特定したものでない場合、このフィールドはblankにしてください。

## 購買オーダー用ユーザー・テンプレートの作成

「オーダー・テンプレートの改訂」フォームにアクセスします。

**ユーザー** ユーザーの値を指定します。このフィールドは、仕入先テンプレートの改訂プログラム(P4015)の処理オプションでユーザー・フォーマットを指定した場合にのみ使用できます。

## バッチ・モードでのテンプレートの改訂

「上級/技術的操作」(G43A31)の「仕入先テンプレートの再作成」を選択します。

仕入先実績テンプレートの再作成プログラム(R43815)を使用して、バッチ・モードで新しいオーダー・テンプレートを作成します。既存オーダーに基づいて品目が新規のテンプレートに追加されます。新規テンプレートの作成に使用する基準を定義するには、処理オプションを使用します。

仕入先実績テンプレートの再作成プログラムは、F4311テーブルの仕入先品目履歴を収集および適用してテンプレートを作成します。

## 仕入先実績テンプレートの再作成(R43815)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## デフォルト

この処理オプションでは、仕入先実績テンプレートの再作成プログラム (R43815) のデフォルト情報を指定します。

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| <b>1. 作成するオーダー・テンプレート名</b> | テンプレート名を指定します。テンプレートには、頻繁に発注する品目のリストが含まれています。多くの場合、品目は製品タイプ (燃料、潤滑剤、パッケージ製品など) に基づいてグループ化されます。 |
| <b>2. 有効開始日付</b>           | トランザクション、契約、義務、優先情報、ポリシー規則などが有効になる日付を指定します。  |
| <b>3. 有効終了日付</b>           | トランザクション、テキスト・メッセージ、契約、義務、優先情報などが完了または失効する日付を指定します。  |

## 処理

この処理オプションでは、仕入先実績テンプレートの再作成プログラム (R43815) における情報の処理方法を指定します。

- |                                   |   |
|-----------------------------------|---|
| <b>1. テンプレートを作成するレコード</b>         | <p>履歴を適用する相手を決定するコードを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 仕入先履歴に基づいて新規テンプレートが作成されます。</p> <p>2: 購買担当者履歴に基づいて新規テンプレートが作成されます。</p> <p>3: 出荷先履歴に基づいて新規テンプレートが作成されます。</p> <p>4: トランザクション入力者履歴に基づいて新規テンプレートが作成されます。</p> |
| <b>2. 通常数量に対して平均数量を計算する</b>       | <p>通常数量に対する平均数量を計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 通常数量に対する平均数量は計算されません。</p> <p>1: 通常数量に対する平均数量が計算されます。</p>   |
| <b>3. データ順序</b>                   | <p>データ順序と最も頻繁に発注する品目のどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>1: データ順序を使用します。</p> <p>2: 最も頻繁に発注する品目を使用します。</p>   |
| <b>4. テンプレートの最大行数</b>             | テンプレートに表示できる最大行数を入力します。   |
| <b>5. テンプレートへの組込みに必要な最少オーダー回数</b> | テンプレートに品目を含めるために必要な最小発注回数を入力します。  |
| <b>6. 仕入先/品目情報を含める</b>            | <p>仕入先/品目関係をテンプレートに含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 仕入先/品目関係をテンプレートに含めません。</p> <p>1: 仕入先/品目関係をテンプレートに含めます。</p>   |

## モデル・ログの作成

この項では、モデル・ログの概要、事前設定、およびモデル・ログの作成方法について説明します。

### モデル・ログについて

モデル・ログは1組の標準受理事項および送付事項情報、またはオーダーにコピー可能なその他の情報です。受理事項情報は、保険証明書など協力会社または仕入先から受け取る必要のある情報です。送付事項は、進行許可など、ユーザーの会社から協力会社に送付する必要のある情報です。同じ標準ログ情報を使用するオーダーが複数ある場合に、モデル・ログを作成します。

### 事前設定

モデル・ログ・タイプ(43/ML)UDCテーブルにモデル・ログが設定されていることを確認します。

### モデル・ログの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
モデル・ログ	W4303C	<ul style="list-style-type: none"> <li>「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、 「オーダー・モデル・ログの改訂」  「モデル・ログの処理」 フォームにモデル・ログを入力して、「追加」をクリックします。</li> <li>「外注管理システム・セットアップ」(G43D41)、 「オーダー・モデル・ログの改訂」  「モデル・ログの処理」 フォームにモデル・ログを入力して、「追加」をクリックします。</li> </ul>	モデル・ログを作成します。

### モデル・ログの作成

「モデル・ログ」フォームにアクセスします。

オーダー・モデル・ログの改訂 - モデル・ログ

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

モデル・ログ PO 購買オーダー・モデル・ログ

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ログ タイプ	記述	状況 タイプ	備考	記録 日付	有効 期限	要求 日付
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	S	Signed Order		Submit Signed Purchase Order			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	S	Approval Drawings		Submit Drawings for Approval			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	S	As Built Drawings		Submit Final Drawings			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	T	Manufacturing Schedule		Review Manufacturing Schedule			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

「モデル・ログ」フォーム

**モデル・ログ**

モデル・ログ・タイプ (43/ML) UDCテーブルの値を入力して、ログ・タイプを追加するモデル・ログを識別します。「モデル・ログ」フォームにアクセスする前に、このフィールドに値を入力する必要があります。

**ログ・タイプ**

コミットメント・ログ・タイプ (00/LG) UDCテーブルの値を入力して、ログ・エントリの情報のタイプを識別します。このログ・タイプは、類似したタイプのエントリをグループ化するために使用されます。

**状況タイプ**

STSC (H00/SX) UDCテーブルの値を入力して、附帯項目行の要件を満たしているかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 要件が満たされていないか、附帯項目行が非アクティブであるか、または必須の状況がありません。

Y: 要件が満たされています。

N: 要件が満たされていません。

**記録日付**

ログ・エントリが発行された日付を入力します。たとえば、保険契約の有効日付は、「記録日付」フィールドに入力します。

**有効期限**

ログ・エントリの有効終了日付を入力します。たとえば、保険契約証の受理事項要件の場合は、保険契約の終了日を「有効終了日付」フィールドに入力します。この後で終了日は、ログ・レポート/更新プログラム (R43300) またはログ (F4305) レポート/更新プログラム (R43540) で状況フィールドの更新に使用されます。有効終了日付がプログラムの実行日より前の場合は、ログ・エントリに対して状況がNに設定されます。

**警告（支払時警告）**

ログ要件が満たされない場合に警告メッセージを発行するには、「Y」と入力します。未処理のログ要件が存在する場合は、進捗支払の入力中に、様々な警告メッセージが表示されます。

一般に、受理事項要件が非常に重要なために、受理事項要件が適切に満たされないとき外注業者への通常支払が停止される可能性がある場合は、「Y」と入力します。通常、このコードは受理事項ログ・エントリと組み合わせて使用します。

**関連ID**

ログ・エントリに関連付けられている識別コードを入力します。このフィールドは、短縮レポートIDのために使用できます。

## 階層ログの設定

この項では、階層ログの概要と次の方法について説明します。

- ログ階層レベルの設定
- ログ機能のアクティブ化
- ログ表示オプションの設定

### 階層ログについて

ログ情報は、オーダー情報に対する補足データです。ログへの準拠を徹底するために、出来高払い機能の実行中には抑制と均衡が導入されます。ログ情報は一般的に仕入先に固有であり、契約ごとに基準が変わりません。ただし、結合は作業または契約レベルで行えます。ログは複数の階層レベルで入力や変更が可能です。ログ詳細は、会社や外注業者、プロジェクト、作業など個々の契約レベルやグローバル・レベルで追加できます。これらの個々のレベルは、業務のプロセスに基づいてアクティブ化または非アクティブ化することができます。

ログの入力はプロジェクト中いつでも使用でき、契約の入力からも利用可能です。ログおよび階層は、ログ・マスター(F4305)で管理します。

**注意:** 契約レベルで単一レベルのログに現在ログ・マスターの改訂プログラム(P4303)を使用している場合、変換プログラムを実行して階層ログ機能を使用できます。

**注意:** ログ・マスターの改訂プログラム(P4303)またはログ入力プログラム(P4305)のどちらかを使用して、ログ情報の作成と管理を行えます。システム内の両方のログ・プログラムを使用することはできません。購買オーダー入力および伝票照合は、UDC 40/VFを読み込み、UDCの設定に基づいてログ・マスターの改訂プログラムまたはログ入力プログラムを呼び出します。

### 階層ログの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ユーザー定義コードの処理	W0004AA	「略式コマンド」フィールドにUDCと入力します。	ログ階層レベルを設定します。 ログ機能をアクティブ化します。 ログ表示オプションを設定します。
ログ階層固定情報	W4304A	「外注管理システム・セットアップ」(G43D41)、「ログ階層固定情報」	ログ階層レベルをアクティブ化します。

## ログ階層レベルの設定

「ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

UDC 43/LLを検索してログ階層レベルを設定します。

## ログ機能のアクティブ化

「ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

UDC 40/VFを検索して、バーティカル機能UDCでログ・コード04を指定することにより、システムのログ機能をアクティブ化します。

---

**注意:** 購買オーダー入力および伝票照合は、UDC 40/VFを読み込み、UDCの設定に基づいてログ・マスターの改訂プログラム (P4303) またはログ入力プログラム (P4305) を呼び出します。

---

## ログ表示オプションの設定

「ユーザー定義コードの処理」フォームにアクセスします。

UDC 43/VOを検索して、調達管理のログ表示オプションを設定します。



## 第 7 章

# 仕入先情報の設定

この章では、次の方法について説明します。

- 仕入先および品目情報の設定
- 仕入先価格および値引規則の定義

---

## 仕入先および品目情報の設定

この項では、仕入先および品目情報の設定の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先マスター (P04012) の処理オプションの設定
- 仕入先購買指示の定義
- 仕入先/品目関係 (P43090) の処理オプションの設定
- 仕入先/品目関係の作成
- 納入パフォーマンスのガイドラインの設定
- 仕入先分析サマリー (P43230) の処理オプションの設定
- 合格品目のガイドラインの設定
- 仕入先パフォーマンス集計情報の定義

## 仕入先および品目情報の設定について

オーダーは購入する品目および仕入先に基づいて自動処理されます。たとえば、仕入先に購買指示を定義すると、オーダーを入力するたびにその仕入先のデフォルト値が検索されます。

仕入先から購入する品目を指定して、仕入先と品目の相互関係を作成できます。各品目に関して、仕入先が品目を販売する資格があるかどうかなどの情報を入力します。仕入先に品目販売資格がない場合は、その仕入先への購買オーダーにその品目を入力できなくなります。

納入パフォーマンスや入荷時の品目状態など、仕入先のサービスの質についての情報を検討できます。この処理を確実にするには、システムが期日どおりの納品と受入可能な(合格)品目を認識できるようにガイドラインを設定してください。

パフォーマンス情報のサマリーを検討することにより、仕入先の品目の原価とサービスを比較できます。この情報を検討する前に、返品数量や最終仕入原価、平均リードタイムなどパフォーマンス係数を定義する必要があります。

## 仕入先購買指示

仕入先に対して購買指示を定義すると、仕入先に対してオーダーを入力するたびに、陸揚費用、価格規則、印刷メッセージなど、そのオーダーに関連する仕入先のデフォルト値を検索できます。

購買指示を使用して、仕入先に対して品目の制約を指定できます。品目を制約することにより、仕入先から購入できる品目、できない品目が確定されます。特定品目の購買を制限する場合、仕入先に対する購買オーダーにその品目は入力できません。

仕入先と同様に出荷先住所についても購買指示を定義できます。出荷先住所用に設定した購買指示に基づいて、購買オーダーに対する運送業者や配送指示が検索されます。

また、購買指示を定義する際に調整スケジュールを入力して、価格管理システムの情報を設定できます。この情報を設定する前に、価格設定固定情報がアクティブになっていることを確認してください。

購買指示を定義する際に、仕入先に対してJD Edwards EnterpriseOne価格管理システムをアクティブにできます。

また、仕入先への最小/最大オーダー金額などの制限も指定できます。さらに、入荷情報に基づいて伝票を作成するかどうかも指定できます。

購買オーダーに価格のみを印刷するか、価格と調整の両方を印刷するかを指定できます。

購買指示に変更を加えても、作成済のオーダーには影響ありません。

## 仕入先/品目関係の管理

仕入先とその仕入先から購入する品目の相互関係を作成できます。たとえば、A社から商品を購入する場合、A社とその商品との間に相互関係を作成できます。相互関係に関する次のような情報を定義します。

- 相互関係の状況(仕入先から品目を購入できるかどうか)
- 相互関係の入荷工程
- 品目価格(仕入先から品目を購入する場合)

仕入先と品目の相互関係情報は手作業でユーザーが作成するか、または仕入先から品目を購入する際に自動作成できます。

次の操作を行うときには、仕入先/品目関係をシステムに作成させることもできます。

- 購買オーダーの入力
- 入荷の入力
- 伝票作成

仕入先分析情報を取り込むには、該当するプログラムの処理オプションを設定してください。

また、マスター情報がまだ存在していない品目に対する相互関係情報も作成できます。仕入先/品目関係プログラム(P43090)の処理オプションを使って、標準品目マスター情報または非在庫品目マスター情報を入力するようにプロンプトを出すかどうかを指定します。

品目/仕入先関係の情報は、F43090テーブルに保存されます。このテーブルのフィールドを最初に更新する場合は、仕入先/品目関係の再作成プログラム(R43900)を実行してください。

## 仕入先納入パフォーマンスのモニタリング

納入パフォーマンス情報を検討することにより、仕入先が特定の品目を期日どおりに納入した実績があるかどうかを確認できます。この情報が正確であることを確認するには、期日どおりの納品に対する計算方法を定義する必要があります。

仕入先の約束納期と同日に品目を入荷する場合、オーダーは期日どおりの入荷になります。約束期日の前後に、オーダーの納入が期日どおりと考慮されるある特定の猶予日数を設定できます。たとえば、期日前に2日、期日後に2日の猶予を設定することが可能です。オーダーの納入予定日が3月15日の場合、納期は3月13日から17日の間は期日どおりと認識されます。

入荷日を自動的に確定するために必要なオーダー中の入荷パーセントを指定してください。たとえば、納品が期日どおりか期日の前後かどうかをシステムが確定する際、オーダーの90%が入荷日に入荷されている必要があることを指定できます。

### 仕入先品質のモニタリング

品質パフォーマンス情報を検討することにより、仕入先が特定の品目を良好な状態で納入した実績があるかどうかを確認できます。この情報が正確であることを確認するには、システムが品目の合否をどう認識するか定義する必要があります。

品質パフォーマンス情報には、ある会計期間において合格/不合格であった品目のパーセントが含まれます。各パーセントの計算の基準になる入荷工程からの除去品目カテゴリには次のようなものがあります。

- 返品
- 再作業
- 仕損
- 却下
- 調整

合否を反映するカテゴリを指定する必要があります。たとえば、仕損のカテゴリを不合格とすると、入荷工程から仕損品を除去するたびにその品目が不合格として分類されます。

品質情報を取り込むには、入荷工程を使用する必要があります。

### 仕入先パフォーマンス集計情報の定義

パフォーマンス情報のサマリーを検討することにより、仕入先の品目の原価とサービスを比較できます。この情報を検討する前に、比較に使用する次のパフォーマンス係数を定義してください。

- 品目の平均単位原価
- 品目に支払った最終原価
- 期日どおり納入パーセント
- 品目の納入にかかる平均日数(リードタイム)

検討するパフォーマンス係数のカラムを設定する必要があります。値、計算方法、カラム・タイトルを指定してください。また、小数点以下桁数および数字フォーマットを指定し、ヘルプ・テキストを割り当てることもできます。

複数のパフォーマンス係数(カラム)を検討するためにフォーマットを作成できます。フォーマットには最高4つまでカラムを設定できます。複数フォーマットをスクロールするためにパスを作成することもできます。カラム、フォーマット、パスを設定した後、「仕入先分析サマリー」フォームに割り当てます。

## 事前設定

この項のタスクを実行する前に、次のユーザー定義コード(UDC)が設定されていることを確認してください。

- 品目制約(H40/ED)

- 数量品質状況 (H43/AC)
- 単位 (00/UM)
- 評価済入荷 (40/ER)
- オーダー・テンプレート (40/OT)
- 顧客価格グループ (40/PC)
- 認可状況 (43/CR)
- 公式記述 (43/FM)
- 仕入先リポート・コード (43/RA)
- 工程コード (43/RC)
- リポート・レベル (43/RL)
- 工程タイプ・コード (43/RY)

## 仕入先および品目情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先マスターの処理	W04012D	「仕入先分析」(G43A16)、 「仕入先マスター」	既存の購買指示を確認 します。
仕入先マスターの改訂	W04012A	「仕入先マスターの処理」 フォームで「追加」をク リックします。	仕入先購買指示を定義 します。
品目制約の改訂	W40131B	「仕入先マスターの改訂」 フォームで、「フォーム」メ ニューから「品目制約」 を選択します。	仕入先購買指示を定義 します。
仕入先/品目関係の処理	W43090A	「仕入先分析」(G43A16)、 「仕入先/品目情報」	納入パフォーマンスのガイ ドラインを設定します。  既存の仕入先/品目関係 を確認します。
仕入先/品目関係	W43090B	「仕入先/品目関係の処 理」フォームで「追加」をク リックします。	仕入先/品目関係を作成 し、納入パフォーマンスの ガイドラインを設定します。
仕入先/品目の追加工程	W43094A	「仕入先/品目関係」フォー ムで、「フォーム」メニュー から「追加工程」を選択 します。	仕入先からの品目の工程 を作成します。
品質分析	W43230L	「仕入先分析」(G43A16)、 「品質分析」	仕入先の既存の品質情報 を確認します。
品質分類	W43230J	「品質分析」フォームの 「フォーム」メニューから「品 質定義」を選択します。	合格品目のガイドラインを 設定します。
照会カラムの処理	W51COLC	「仕入先分析」(G43A16)、 「照会カラムの定義」	既存の照会カラムを確認 します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
照会カラムの定義	W51COLD	「照会カラムの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	仕入先パフォーマンス集計情報を定義します。 照会カラムと、それらの照会カラムを定義する情報を追加します。
照会フォーマットの処理	W51FMTI	「仕入先分析」(G43A16)、「照会フォーマット」	既存の照会フォーマットを確認します。
照会フォーマット定義	W51FMTQ	「照会フォーマットの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	作成するフォーマットにカラムを追加します。
照会パスの処理	W51PTB	「仕入先分析」(G43A16)、「照会パス」	既存のパスを確認します。
照会パスの定義	W51PTC	「照会パスの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	新規パスを作成します。
仕入先分析サマリー	W43230A	「仕入先分析」(G43A16)、「分析サマリー」	「照会カラムの定義」フォームで設定したカラムごとに仕入先分析情報を確認します。

## 仕入先マスター(P04012)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 入力

#### 1. 税ID

仕入先レコードの追加時に「税ID」フィールドを表示するかどうかを指定します。表示しないよう選択する場合、このフィールドを非表示にするか、または無効にするかを指定できます。フィールドを無効にすると、フィールドはグレー表示になり、ユーザーはデータを入力できません。値は次のとおりです。

ブランク: このフィールドを表示する。

1: このフィールドを表示しない。

2: このフィールドを無効にする。

### デフォルト値

#### 1. 検索タイプ

「仕入先マスターの処理」フォームの「検索タイプ」フィールドのデフォルト値を指定します。検索ボタンを使用して有効な検索タイプを一覧表示します。この処理オプションをブランクにすると、「V」(仕入先)がデフォルトとして使用されます。

#### 2. 住所録通貨コード

「住所録通貨コード」フィールドのデフォルト値を指定します。この処理オプションをブランクにすると、「仕入先マスターの改訂」フォームの「住所録通貨コード」フィールドをブランクにした場合に、「住所録の改訂」フォームの「ビジネスユニット」フィールドに割り当てられている会社の通貨コードが使用されます。一般会計固定情報プログラムで多通貨の設定が有効な場合

にのみ、「住所録通貨コード」フィールドが「仕入先マスターの改訂」フォームに表示されます。

## バージョン

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| <b>1. 仕入先マスターMBF (P0100043)バージョン</b> | 仕入先マスターMBF(マスター・ビジネス関数)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。 |
| <b>2. 住所録(P01012)バージョン</b>           | 使用する住所録プログラム(P01012)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、デフォルトのバージョンZJDE0001が使用されます。    |

## 仕入先購買指示の定義

「仕入先マスターの改訂」フォームにアクセスします。

### 購買1

「購買1」を選択します。

### 仕入先価格グループ

顧客グループを識別する顧客価格グループ(40/PC)UDCの値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化できます。

### オーダー・テンプレート

オーダー・テンプレート(40/OT)UDCの値を入力して、頻繁に発注する品目のテンプレートを指定します。多くの場合、品目は製品タイプ(燃料、潤滑剤、パッケージ製品など)に基づいてグループ化されます。

### 購買2

「購買2」を選択します。

### 請求書コピー枚数

顧客が必要とする請求書コピーの枚数を表示します。

### 品目制約

品目制約(H40/ED)UDCの値を入力して、この顧客に対する品目の販売に制約が加えられているかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 品目の販売に制約がありません。

I: 品目制約フォームで設定されている品目だけを顧客に販売できます。

E: 品目制約フォームで設定されている品目は顧客に販売できません。

### 最高オーダー数

それを超えた場合にオーダーが保留となる限界値を入力します。合計が最高オーダー数よりも多いオーダーを入力しようとすると、エラー・メッセージが表示されます。

このフィールドは整数として指定し、小数点以下は伴いません。

### 最低オーダー数

それを下回った場合にオーダーが保留となる限界値を入力します。合計が最低オーダー数よりも少ないオーダーを入力しようとすると、エラー・メッセージが表示されます。

このフィールドは整数として指定し、小数点以下は伴いません。

<b>容量表示単位</b>	この事業所に対する容量の表示に使用される単位を識別する単位 (00/UM) UDCの値を入力します。事業所固定情報 - ページ2 (P410012) から、このフィールドに値が入力されます。このデフォルト値は一時変更できます。
<b>重量表示単位</b>	オーダー集計フォームの使用時に、この顧客について個別オーダー行とオーダーの重量を表示するために全体として使用される単位を識別する単位 (00/UM) UDCの値を入力します。
<b>P/Lに価格を印刷</b>	<p>購買オーダーに正味価格情報を印刷するかどうかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>Y: 正味価格を印刷する。</p> <p>N: 印刷しない。</p> <p>2: 基本価格調整と正味価格を印刷します。</p>
<b>評価済み入荷</b>	<p>オーダーが評価済み入荷決済に適しているかどうかを示す評価済み入荷 (40/ER) UDCの値を入力します。評価済み入荷決済は、受け取った品目に基づいて伝票を作成するための仕入先との契約があることを表します。入荷レコードから伝票を作成するには、評価済み入荷決済 (R43800) の処理を使用します。その結果として、仕入先は請求書を送付しないため、伝票照合処理は省略できます。値は次のとおりです。</p> <p>N: 評価済み入荷決済には適していません。</p> <p>Y: 評価済み入荷決済に適しています。</p> <p>I: 入荷トランザクションの処理中です。</p> <p>T: 評価済み入荷決済に適しています。ただし、入荷処理中に許容エラーが発生しました。</p> <p>R: 評価済み入荷決済に適しています。ただし、現在、入荷工程処理中です。</p> <p>V: 評価済み入荷決済処理を使用して、入荷トランザクションの伝票が作成されました。</p>
<b>リポート・レベル</b>	リポート・システムの基準となる組織レベルを示すリポート・レベル (43/RL) UDCの値を入力します。
<b>リポート使用</b>	リポートが有効かどうかを示す仕入先リポート・コード (43/RA) UDCの値を入力します。

## 仕入先/品目関係 (P43090) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

この処理オプションでは、このアプリケーションのデフォルト値を指定します。

<b>仕入先品目用の相互参照タイプ (デフォルトはVN)</b> (仕入先品目用の相互参照タイプ (デフォルトは仕入先部品番号))	仕入先品目の相互参照タイプを指定します。デフォルト値はVNです。
<b>標準品目マスター</b>	新規品目の追加時に自動的に標準品目マスター・アプリケーションを表示するには、「1」を入力します。

**非在庫品目マスター** 新規品目の追加時に自動的に非在庫品目マスター・アプリケーションを表示するには、「1」を入力します。

**仕入先価格** 新規品目の追加時に自動的に仕入先価格アプリケーションを表示するには、「1」を入力します。

**作業オーダーの完了モード** 作業オーダーの完了モードには「1」を入力してください。

## バージョン

この処理オプションでは、システムが呼び出す各プログラムのバージョンを指定します。

**品目マスター(P4101)** 使用する品目マスター・プログラム(P4101)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、ZJDE0001が使用されます。

## 仕入先/品目関係の作成

「仕入先/品目関係」フォームにアクセスします。

「仕入先/品目関係」フォーム

**認可状況** この品目を販売する資格が仕入先にあるかどうかを示す認可状況(43/CR)UDCの値を入力します。入力したコードによって、仕入先および品目について入力したオーダーの管理方法が決まります。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先からの品目を発注できます。

1: 仕入先からのこの品目の購買は禁止されます。

2: 仕入先からのこの品目のオーダーを入力した場合は、警告メッセージが表示されます。

## 通常工程コード

工程を識別する工程コード(43/RC)UDCの値を入力します。各入荷工程は、入荷時に品目に対して行われる一連の作業で構成されます。



<b>代替工程コード</b>	代替工程コードを識別する工程コード(43/RC)UDCの値を入力します。各入荷工程は、入荷時に品目に対して行われる一連の作業で構成されます。 品目では、通常工程と代替工程を使用できます。品目は、指定した日数または入荷数に基づいて断続的に代替入荷工程で管理されます。
<b>工程タイプ・コード</b>	品目/仕入先の組合せに対する工程を限定する工程タイプ・コード(43/RV)UDCの値を入力します。例としては、事前出荷通知(ASN、EDI 856出荷通知/積荷目録トランザクション)や転送に対する特定の工程タイプがあります。

## 納入パフォーマンスのガイドラインの設定

「仕入先/品目関係の処理」フォームにアクセスします。

<b>リードタイム数量%</b>	リードタイムの計算前に受け取る必要があるオーダーのパーセントを入力します。リードタイムは、オーダー明細行の入力日からオーダーの入荷日までの日数です。 入荷工程における品目の場合は、入荷通知のフラグが付けられた作業で品目が到着する日付に基づいて入荷日付が決定されます。
<b>早期納入可能日数</b>	品目の納入が受け入れ可能になる、約束日付より前の日数を入力します。たとえば、仕入先が最大で2日早く品目を納入して期日どおりの納入の資格を得られることを示すには、「2」と入力します。
<b>遅延可能日数</b>	品目の納入が受け入れ可能になる、約束日付より後の日数を入力します。たとえば、仕入先が約束納入日付より最大で2日遅く品目を納入して期日どおりの納入の資格を得られることを示すには、「2」と入力します。

## 仕入先分析サマリー(P43230)の処理オプションの設定

この処理オプションでは、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示オプション

この処理オプションでは、表示する情報のタイプを制御します。

<b>1. 品目に関する仕入先を表示するには“1”を入力してください。</b>	仕入先に関連する品目の表示方法を指定します。値は次のとおりです。 空白: 仕入先に関連するすべての品目が表示されます。 1: 品目に関連する仕入先が表示されます。
<b>2. 品質情報を表示するには“1”、配送情報を表示するには“2”、原価情報を表示するには“3”を入力してください。</b>	表示する情報のタイプを指定します。値は次のとおりです。 空白: 1が使用されます。 1: 品質情報が表示されます。 2: 納入情報が表示されます。 3: 原価情報が表示されます。
<b>3. 在庫原価として表示する特定の原価計算方法(01 - 08)を入力してください。</b>	品目原価を計算する際の基準を指定するユーザー定義コード(40/CM)の値を入力します。原価計算方法01から19までは、JD Edwards EnterpriseOneにより予約されています。

4. 差異情報用に支払済み原価と比較する原価を入力してください。1 = 在庫原価、2 = オーダー原価、3 = 入荷原価。ブランクの場合は“2”が使用されます。

差異情報で支払原価と比較する原価を入力します。

ブランク: 2が使用されます。

1: 在庫原価。

2: オーダー原価。

3: 入荷原価。

5. 表示するデフォルトの照会形式を入力してください。または

最高4つまでのカラムからなるフォーマットを指定する値を入力します。英数字のコードです。

6. デフォルト照会パスを入力します。

複数のフォーマットからなるパスを指定する値を入力します。英数字のコードです。

---

**注意:** フォーマットまたはパスの処理オプションの両方ではなく、どちらか一方に値を入力してください。両方の処理オプションに値を入力すると、パスはフォーマットによって上書きされます。

---

## 合格品目のガイドラインの設定

「品質分類」フォームにアクセスします。

名称（受入/非受入）

数量品質状況(H43/AC)UDCの値を入力して、入荷数量が受け入れ可能かどうかを指定します。

## 仕入先パフォーマンス集計情報の定義

「照会カラムの定義」フォームにアクセスします。

このフォームで選択したカラムごとに、仕入先分析情報を確認します。

カラム名

カラムを識別する英数字コードを入力します。カラムは、品目の平均単位原価や品目に支払った最終原価などのパフォーマンス係数を表します。たとえば、パフォーマンス係数を確認して、特定の品目に対する仕入先の原価とサービスを比較できます。

入力した値は、使用可能なカラム名のリストに追加されます。

カラム見出し1

「作業状況照会」フォーム上のカラムを表す見出しの1行目の名前を入力します。この行は、カラムに対して自動的に中央揃えされます。

計算式

このカラムの金額または数量を決定するために必要な演算子とともに公式記述(43/FM)UDCテーブルの値を入力します。単一の事前定義値または複数の事前定義値を演算子とともに使用して計算式を入力できます。

---

**注意:** 43/FM UDCにアクセスするには、「フォーム」メニューから「計算式値」を選択します。

---

使用可能な演算子は次のとおりです。

+: 加算

-: 減算

\*: 乗算

	<p>/: 除算</p> <p>( ): 入れ子にする場合の左かっこと右かっこ</p> <p>たとえば、次の計算式を入力して、期日数量%を計算させることができます。</p> $20 / (20 + 21 + 22)$ <p>前述の計算式は、次の理由により、期日数量%に等しくなります。</p> <p>20は期日数量に対するUDC 43/FMの値です。</p> <p>21は期日前数量に対するUDC 43/FMの値です。</p> <p>22は期日後数量に対するUDC 43/FMの値です。</p>
小数点以下の桁数	<p>小数点の右側に表示される文字の数を入力します。たとえば、「2」と入力した場合、このカラムの金額または数量は、7.00のように小数点の右側が2文字になります。</p>
編集コード	<p>数値データのフォーマットを決定する編集コード(98/EC)UDCの値を入力します。異なるコードを入力することにより、表示または印刷する値の外観を変更できます。</p>
乗数	<p>カラムの金額または数量に掛ける係数を入力します。</p> <p>「計算式」フィールドの計算結果は、この係数で乗算されてから、「作業状況照会」フォームに表示されます。</p> <p>たとえば、非常に大きな数値を千単位にスケール・ダウンする場合は、「001」と入力します。パーセントを整数として表示する場合は、「100」と入力します。</p>
用語解説項目	<p>カラムが表す情報を記述するF9201テーブルの項目を入力します。一般に、カラムには、特定の品目について仕入先の原価とサービスを比較できるようにするために仕入先のパフォーマンスに関する情報が含まれています。</p> <p>カラムのフィールド・ヘルプにアクセスすると、関連する用語解説記述が表示されます。</p>
順序	<p>順序(昇順/降順)(H43/SQ)UDCの値を入力して、昇順と降順のどちらで情報を表示するかを指定します。</p>

## 仕入先価格および割引規則の定義

この項では、仕入先価格と割引規則の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先カタログの管理プログラム(P41061)の処理オプションの設定
- 仕入先価格の入力
- 購買価格値引規則の作成
- 品目および仕入先への価格割引規則の添付

## 仕入先価格および割引規則について

オーダーは購入する品目および仕入先に基づいて自動処理されます。たとえば、仕入先に購買指示を定義すると、オーダーを入力するたびにその仕入先のデフォルト値が検索されます。仕入先から発注する方法と各仕入先の価格および割引をオーダーに適用する方法を管理するには、仕入先価格、カタログ、価格規則、および割引規則を設定します。

### 仕入先価格およびカタログの定義

仕入先や品目に割引を適用するかどうかにより、品目の支払価格が異なる場合があります。購買オーダーの入力時に品目の正確な単位原価が読み込まれるように、品目に対する仕入先価格を管理して割引情報を入力できます。

品目価格は購入する仕入先によっても異なります。たとえば、同じ品目でも価格が1.25の仕入先もあれば、1.00の仕入先もあります。1つの品目に対して、各仕入先の請求価格を入力できます。

購買する数量に応じて割引が適用されることがあります。たとえば、100個以上の品目を購入すると20%の値引を受ける場合などです。価格規則を設定し、その価格規則を品目および品目の仕入先に適用すると、品目価格に対して自動的に割引が適用されます。

品目を購入する仕入先に基づいて、品目価格を入力できます。たとえば、A社の掛時計が5.00とします。アクミサプライ社から同じ掛時計を購入する場合の価格は7.00です。購買オーダーを入力すると、仕入先別に入力してある価格に基づいて品目の単位原価が読み込まれます。

仕入先価格はカタログ別に入力する必要があります。カタログとは、各品目とその価格をグループにまとめたものです。各カタログは仕入先に固有のものです。仕入先から購入する品目のすべてを1つのカタログにまとめたり、季節要因による変動や製品ラインなどの条件別に仕入先品目を分類して、複数のカタログを作成することもできます。

カタログの名称を指定しないで仕入先の品目価格を入力すると、その仕入先のデフォルト・カタログが自動作成されます。仕入先に対して1つのカタログのみを設定する場合は、デフォルト・カタログを使用するのが便利です。

仕入先は、品目の購入時期により、同じ品目でも異なる価格を請求することがあります。たとえば、同じカレンダーでも1月には価格10.00なのが、10月には5.00になる場合があります。同じ品目で価格が異なる場合は、それぞれの価格の有効日付を設定して複数のカタログに入力できます。

購買オーダーに品目を入力すると、単位原価を取り込むために仕入先のカタログが検索されます。まず、存在する場合はデフォルトのカタログが最初に検索され、次にその他のカタログがアルファベット順に検索されます。品目が検索された後、有効日付の妥当性が検証されます。現在日付が有効日付範囲内にある場合は、購買オーダーにその単位原価が入力されます。

行の取引単位または購買単位のどちらかに基づいて、購買明細行の単位が取り込まれます。システムの固定情報で、価格の読み込みに使用される単位 (UOM) を指定します。

### 価格規則および割引

品目価格は、購入する数量により異なることがあります。たとえば、1個の掛時計を購入し、その価格が5.00とします。100個購入すると、掛時計の単価が4.00になります。1つのカタログに品目を入力する場合、購買する数量に基づいて数量別価格を指定できます。

購入する品目数量に基づいて、割引が適用されることがあります。たとえば、品目の単価が5.00で、100個購入すると20%、200個購入すると30%の値引がある場合です。購買オーダーの入力時に、品目の単価に割引を自動的に適用できます。

割引情報を適用するには、在庫価格設定規則を作成する必要があります。各価格規則に対して、次の情報を指定します。

- 購入数量
- それぞれの購買数量に基づく値引（パーセント、金額、または固定レート）
- 各割引の有効日付

価格規則は、1つまたは複数の品目に対して適用できます。たとえば、特定の事務用品または事務用品のグループに対して価格規則を設定できます。設定した価格規則は、その規則を適用する品目および品目の仕入先に対して割り当てる必要があります。

1つの価格規則に対して複数のレベルを設定でき、これらのレベルは、特定の購買数量を表しています。たとえば、次のようにレベルを設定できます。

- レベル1 - 20%の値引（品目を100個まで購入する場合）
- レベル2 - 30%の値引（101個以上200個以下を購入する場合）
- レベル3 - 固定レート（201個から1,000個の品目を購入する場合）

前述の規則を添付した仕入先および品目に対する購買オーダーを入力する場合、購入した数量に基づいて品目の単価に割引が適用されます。たとえば、通常原価が10.00の品目を150個購入する場合は、単価は7.00で計算されます。

仕入先が特定の品目に対して最高購買限度額までの割引を実施することがあります。たとえば、特別価格4.00で、ハンマーを最高200個まで購入できるという契約を結ぶことがあります。200個のハンマーを購入した後は、価格は通常の価格に戻ります。契約価格規則を作成して、このタイプの割引をカバーできます。

契約価格規則は次の処理を実行する以外、標準価格規則の作成と同じ方法で作成します。

- 規則が契約価格であることを指定する
- 規則を適用する略式品目番号を名称にする
- 契約価格で購入できる品目数を指示する

契約価格規則は品目に対して添付する必要はありません。購買オーダーを入力すると、略式品目番号に基づいて契約価格が取り込まれます。

品目に対して契約価格規則を作成した場合、その価格はその他のすべての価格規則に優先します。

契約価格規則の累計数量に対して購入済の数量がトラッキングされます。

### 品目および仕入先に対する価格割引規則の添付

在庫価格設定規則を作成すると、品目の単価に対し割引を適用できます。作成した価格規則は、それを適用する品目および品目の仕入先に添付してください。購買オーダーの入力時、品目の単位原価に割引が適用されます。

在庫価格設定規則を作成した後、それを品目の事業所情報または購買明細行に添付できます。価格規則が品目に対して標準のものである場合は、それを事業所情報に添付するのが普通です。品目に対して異なる価格規則を適用する場合は、それを購買オーダー入力時に指定できます。

品目に対して価格規則を設定する場合は、品目の仕入先に対しても価格規則を設定する必要があります。仕入先に対して価格規則を添付する前に、「価格設定規則の処理」で現在仕入先に対して適用されている価格レベルを検討できます。たとえば、入力した事業所品目情報に価格規則を添付した場合などです。

新規の価格規則を仕入先に適用する前に、「顧客価格設定規則」フォームの「ロー」メニューの「レベルの除去」を選択して既存の価格規則を除去することがあります。

仕入先に対して価格規則を設定するには、次の2つのうちどちらかの方法を使用します。

- 特定の仕入先に対して価格規則を添付する
- 仕入先価格グループに価格規則を添付してから、仕入先に価格グループを添付する

同じ価格規則を複数の仕入先に適用する場合、価格グループに価格規則を設定してから、その価格グループを仕入先に割り当てることにより、入力時間を短縮できます。価格規則が仕入先によって変化する場合は、仕入先別に価格規則を設定できます。

## 事前設定

仕入先価格および値引規則を定義する前に、次の作業を行います。

- 品目マスターで、仕入先価格を入力するすべての品目価格レベルが1または2に設定されていることを確認してください。  
これにより、仕入先に基づいて、購買オーダーの単位原価が取り込まれます。
- 処理オプションを設定し、新規の品目をカタログに追加してF4101テーブルにレコードを作成するかどうかを指定します。
- UDCテーブル(40/CN)にカタログ名を入力します。
- UDCテーブル(40/PI)で価格規則の名称を設定します。

価格割引規則を品目および仕入先に添付する前に、UDCテーブル(40/PC)で価格グループの名称を設定する必要があります。

## 仕入先価格および割引規則の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先カタログの改訂	W41061A	「価格管理」(G43A17)、 「仕入先カタログの管理」  「仕入先カタログの処理」 フォームで「追加」ボタンを クリックします。	仕入先価格を入力します。
在庫価格設定規則	W4271A	「価格管理」(G43A17)、 「在庫価格設定規則」  「価格設定規則の処理」 フォームで、「追加」をク リックします。	購買価格値引規則を作成 します。
顧客価格設定規則	W4271B	「価格管理」(G43A17)、 「仕入先価格設定規則」  「価格設定規則の処理」 フォームで、添付する価格 割引規則が含まれている 行を選択し、「フォーム」メ ニューから「顧客規則」 を選択します。	品目および仕入先に価格 割引規則を添付します。

## 仕入先カタログの管理プログラム(P41061)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## デフォルト

この処理オプションでは、購買オーダーの処理に使用されるデフォルト情報を指定します。

<b>品目マスター作成処理</b>	品目マスター・レコードの作成を有効化するかどうか、および警告メッセージを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。 ブランク: レコードの作成は有効化されません。 1: レコードが作成され、警告が表示されます。 2: エラーや警告なしにレコードが作成されます。
<b>在庫タイプ</b>	在庫タイプ・コード(41/I)UDCの値を入力して、在庫のデフォルト・タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、N(非在庫)が値として使用されます。
<b>行タイプ(必須)</b>	行タイプ制御固定情報テーブル(F40205)に存在する値を指定します。入力した値は、デフォルト値として使用されます。この処理オプションをブランクにすると、Bが行タイプとして使用されます。
<b>元帳クラス・コード(必須)</b>	元帳転記カテゴリ(41/9)UDCにある値を入力して、転記カテゴリ・コードのデフォルト値を指定します。この処理オプションの入力は必須です。

## 仕入先価格の入力

「仕入先カタログの改訂」フォームにアクセスします。

<b>カタログ</b>	カタログ名(40/CN)UDCの値を入力して、仕入先の品目に対する価格グループの名前を設定します。
<b>数量区切り</b>	このトランザクションの影響を受ける数量を入力します。
<b>有効開始日付</b>	価格が有効になる日付を入力します。有効日付を入力しない場合は、開始日付が現行日付、終了日付として今世紀最後の日付がそれぞれ入力されます。
<b>有効終了日付</b>	価格に対する日付範囲の最終日を入力します。有効日付を入力しない場合は、開始日付が現行日付、終了日付として今世紀最後の日付がそれぞれ入力されます。

## 購買用価格割引規則の作成

「在庫価格設定規則」フォームにアクセスします。

<b>価格設定規則コード</b>	価格設定規則によって在庫を分類するために使用される品目価格グループ(40/PI)UDCの値を入力します。  通常、これらのカテゴリは在庫価格表の主要セクションに対応しています。設定できる詳細カテゴリ数に制限はありません。販売、購買、オーダー/バスケット、および契約価格設定には1つのコードを使用できます。契約規則を設定する場合、そのコードは契約の下で品目の略式番号と等しくなければなりません。
<b>価格設定方式コード</b>	価格規則の基準を示す(42/CT)UDCの値を入力します。購買オーダー割引の場合は「P」と入力する必要があります。

契約価格設定コード	<p>価格設定タイプ(42/PT)UDCの値を入力して、品目と1つまたは複数の顧客の間の特殊な価格設定関係を指定します。契約の在庫価格設定規則コードは品目番号です。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 契約がありません。</p> <p>C: 契約価格を示します。</p> <p>契約の価格設定タイプを指定する場合は、この契約価格で販売可能な数量、および契約番号(ある場合)を入力する必要があります。また、規則を有効にするために、契約価格設定規則を顧客または顧客グループに結び付ける必要があります。</p>
レベル	<p>価格設定グループ内で規則を表示する順序を指定する英数字コードを入力します。レベルは、価格設定グループの設定時に定義します。</p> <p>規則に適用できる各割引に対する「レベル」フィールドに値を入力してください。</p>
上限数量	<p>価格設定テーブルで通常使用する容量区切りまたは数量区切りを入力します。規則の第1レベルの数量が5の場合、このレベルの価格設定論理は5個以下の品目にのみ適用されます。次レベルの数量が10の場合、この価格設定論理は、6から10個の品目に対して適用されます。99,999,999はすべての数量を表します。</p>
基準	<p>原価/価格基準(H42/CB)UDCの値を入力します。入力した値を使用して、オーダーの正味価格が決定されます。</p> <p>価格設定および価格再設定の場合、値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1: 最終仕入原価</li><li>5: 将来原価</li><li>P: 単価</li><li>2: 平均原価</li><li>6: ロット原価</li><li>3: メモ原価1</li><li>7: 標準原価</li><li>4: 現行原価</li></ul> <p>受注オーダー価格再設定では、受注明細の単位原価または単価に基づいてすべての価格再設定計算が行われます。受注オーダーで価格再設定計算の基準として単価を使用する場合は、Pを入力します。</p> <p>すべての価格再設定計算の基準値として受注明細で単位原価を使用するには、1から8の値を入力します。</p>
係数	<p>この在庫価格設定規則に添付された品目の価格を計算するときに使用する割引を入力します。割引率は乗数、追加金額、または控除可能金額として表すことができます。たとえば、10%の割引は、「0.90」と表されます。同じ係数を、原価割増しに使用できます。たとえば、10%の割増しは、「1.10」と表されます。</p>
タイプ	<p>オーダーの価格に適用する係数値が乗数(パーセント)または減算(USD)かどうかを示すFVTY(H00/FV)UDCの値を入力します。</p>
変更価格	<p>他のすべての規則または価格に優先される価格を入力します。</p>



## 品目および仕入先への価格割引規則の添付

「顧客価格設定規則」フォームにアクセスします。

**在庫価格設定規則 - 顧客価格設定規則** i ?

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

☒
☐
☒
☐
☐
☒

---

在庫価格設定規則コード  自転車

価格設定方式コード  ブランク - 価格カテゴリ 42/CT

契約価格設定コード  ブランク - 価格設定タイプ 42/PT

---

顧客価格グループ  ブランク 40/PC

または顧客No.  ☐ 適用レベルのみ

---

レコード 1 - 3 グリッドのカスタマイズ

	価格設定規則コード	レベル	上限数量	基準	係数	タイプ	変更価格	有効開始日付	有効期限	基本単位	契約数量	累出
<input checked="" type="radio"/>	BICYCLE	1	99	P	1.0000	%		1997/04/17	2010/12/31	1	0	
<input type="radio"/>	BICYCLE	2	499	P	.9000	%		1997/04/17	2010/12/31	1	0	
<input type="radio"/>	BICYCLE	3	99,999,999	P	.8500	%		1997/04/17	2010/12/31	1	0	

「顧客価格設定規則」フォーム

### 顧客価格グループ

顧客グループを識別する顧客価格グループ(40/PC)UDCの値を入力します。同等の価格設定などの類似した特性を持つ顧客をグループ化できます。

### 適用レベルのみ

指定した顧客番号に関連する優先顧客グループ情報を含める場合に選択します。

価格規則に複数のレベルがある場合、すべての下位レベルを適用するために規則の最上位レベルを選択する必要があります。特定のレベルを選択するには「適用レベルのみ」を選択してください。これを選択すると、選択したレベルのみが適用されます。



## 第 8 章

# リベートの設定

この章では、リベートの設定の概要と次の方法について説明します。

- 基本リベート契約情報の入力
- リベートの取得条件の定義
- リベート金額の購買限度額の定義

---

## リベートの設定について

システムでリベートをトラッキングするには、仕入先との契約についての情報を提供する必要があります。この情報には次のものがあります。

- リベートを提供する仕入先やリベートの有効期間など、それぞれの契約の基本情報
- リベートを取得するために購入の必要がある品目や、購入対象の勘定科目番号
- リベートのために購入しなければならない数量または金額
- リベート金額またはリベート金額を決定する購入のパーセント

複数の仕入先が同じ親会社を持つ場合、仕入先レベルではなく親レベルでリベート情報をトラッキングする方が便利です。各仕入先に購買指示を設定して、リベート情報をトラッキングするレベルを指定できます。

オーダーの入力時に、購買数量および金額がリベートに対して適用されます。リベートに適用する購買のオーダー・タイプを指定する必要があります。たとえば、購買オーダーと一括オーダーの一方、または両方の数量と金額を適用するように設定できます。

---

**重要:** リベートに適用する購買のオーダー・タイプを正しく指定するようにしてください。たとえば、一括オーダーを使用して品目を購入する場合、一括オーダー・タイプを指定する必要があります。一括オーダーが購買オーダーの前提条件である場合、購買オーダー・タイプのみを指定します。そうしなければ、一括オーダーおよび購買オーダーに両方から同じ数量と金額が適用されます。

---

---

## 基本リベート契約情報の入力

この項では、リベート契約の基本情報の概要、事前設定、およびリベート契約の基本情報の入力方法について説明します。

## 基本リベート契約情報について

仕入先が特定の商品やサービスについてリベートを提供する場合は、リベート契約を設定します。リベート契約は各仕入先について必要なだけ設定できます。それぞれの契約に次のような基本情報を指定します。

- 契約番号
- リベートを提供する仕入先
- 契約の有効期間
- アクティブや保留など契約の状況
- リベートの条件が満たされたときにメッセージを送信する先の担当者

また、リベートが購買数量と購買金額のどちらに基づくのか、リベートが金額または購買金額の割合のどちらかも指定できます。

リベート契約が購買数量に基づくよう指定する場合、リベート契約に単位を入力する必要があります。

各リベート契約に番号を自動的に割り当てるか、独自の番号を入力できます。自動的に番号を割り当てる場合、その仕入先の直前のリベート契約番号が1ずつ繰り上がります。仕入先にとって最初のリベート契約であれば、1が割り当てられます。

リベート契約に通貨を指定することもできます。指定する場合は、契約に対してその通貨でしきい値か購買限度を入力する必要があります。リベート品目に別の通貨で購買オーダーを入力する場合、購買オーダーの通貨はリベート通貨に自動換算されます。

リベート契約にはメモを入力できます。メモが存在する場合、「購買契約の処理」フォームの詳細グリッドで、リベート契約の横にペーパークリップのアイコンが表示されます。

契約条件が確定していない場合は、仕入先に保留リベート契約を設定できます。また、特定の仕入先についてすべてのリベート契約を保留とするよう指定もできます。購買指示を使用して、ある仕入先のすべてのリベート契約を保留（非アクティブ）に指定する場合、その仕入先に新しいアクティブなリベート契約を入力すると状況がアクティブに変わります。

リベート契約情報はF4340テーブルに保管されます。

## 事前設定

購買をリベートに適用するオーダー・タイプを、リベート・オーダー・タイプ(43/RB)のユーザー定義コード(UDC)テーブルで設定します。

## リベート契約の基本情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買リベート契約の改訂	W4340B	「価格管理」(G43A17)、 「購買リベート契約」  「購買契約の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	基本リベート契約情報を入力します。  購買リベート契約を改訂します。

## 基本リベート契約情報の入力

「購買リベート契約の改訂」フォームにアクセスします。

契約順序No.	特定の仕入先のリベート契約を識別する順序番号を入力します。契約番号を入力するか、仕入先の前回の契約番号を1つ繰り上げた番号が自動的に割り当てられます。
リベート状況	リベート契約の状況を定義するリベート状況(43/RS)UDCテーブルから値を入力します。この状況は、保留中または有効にすることができます。A(有効)という値は、リベート情報が更新されることを示すためにハードコード化されています。
しきい値タイプ	しきい値タイプ(43/TT)UDCテーブルからしきい値が数値と金額のどちらかを指示する値を入力します。指定するタイプに応じて、「しきい値数量」か「しきい値金額」という名前が使用されます。
リベート・タイプ	リベート・タイプ(43/RT)UDCテーブルから、リベートが購買数量の割合なのか固定金額なのかを指示する値を入力します。
担当者	管理者または計画担当者の住所録番号を入力します。  一部のフォームの処理オプションでは、カテゴリ・コード1(フェーズ)、2、および3の値に基づいてこのフィールドのデフォルト値を入力できます。「管理者と監督者の自動入力」フォームでデフォルト値を設定します。デフォルト値および処理オプションを設定すると、カテゴリ・コードの基準が満たされた場合は作成したすべての作業オーダーでデフォルトの情報が自動的に表示されます。デフォルト値は、そのまま使用するか、一時変更できます。
停止メッセージ	停止メッセージ(43/SM)UDCテーブルから、「担当者」フィールドで指定した人物にメッセージを送信するかどうかを指定する値を入力します。

## リベートの取得条件の定義

この項では、リベート条件の概要、事前設定、およびリベートの取得条件の定義に使用するフォームについて説明します。

### リベート条件について

リベート契約に関する基本情報を入力したら、リベートを取得するために何を購入しなければならないかを指定する組込規則を指定する必要があります。次の条件に基づいて、リベート契約に購入が適用されます。

- 品目番号
- 購入対象に対する勘定科目番号
- 特定のカテゴリ・コード値に割り当てた品目

リベート取得のために特定の品目やサービスを購入しなければならないときに、品目番号または勘定科目番号を入力できます。リベート契約には在庫品目か非在庫品目を入力できます。

カテゴリ・コード値を入力して、購入する品目グループを指定できます。このカテゴリ・コード値が割り当てられた品目を購入するたびに、購入がリベート契約に適用されます。

購入された品目やサービスを各リベート契約に設定された組込規則と比較することによって、購買オーダーのトランザクションがリベート契約に適用されます。順序番号の小さいものから契約が検索されます。

購買をリベート契約に適用するには次の条件が満たされる必要があります。

- 契約の状況がアクティブである。
- 購買トランザクションの日付が契約に指定された有効期間内である。
- 購買指示 (P04012) の仕入先リベート・コードがアクティブに設定されている。

1つの購買トランザクションを複数の購買契約に適用することはできません。

オーダー明細行を入力するたびに、行タイプを指定する必要があります。オーダー行タイプ (P40205) で指定する行タイプの在庫インターフェイスによって、リベート契約の組込規則の検索順序が決まります。

- A: 勘定科目番号およびカテゴリ・コード
- B: 勘定科目番号および品目番号
- D: 品目番号およびカテゴリ・コード
- N: カテゴリ・コード
- Y: 品目番号およびカテゴリ・コード

リベート契約に適用される品目、勘定科目番号、購買コードの値に関する情報は、F4342テーブルに保管されます。

## 事前設定

リベートへのカテゴリ・コード値の入力時に使用する購買カテゴリ (P1からP5) を指定します。この値は、システム固定情報プログラム (P41001) で指定します。購買カテゴリを指定しない場合、購買カテゴリ・コードにデフォルト値として1 (P1) が使用されます。

## リベート取得条件の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
組込規則の変更	W4340E	<p>「価格管理」(G43A17)、「リベート組込規則」</p> <p>「購買契約の処理」フォームで仕入先を選択して、「ロー」メニューの「組込規則」を選択します。</p>	<p>リベートの取得条件を定義します。</p> <p>組込規則を管理します。</p> <p>主科目を指定します。主科目とは、勘定科目の中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分です。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。</p> <p>任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。</p>

## リベート金額の購買限度額の定義

この項では、購買限度額の概要と次の方法について説明します。

- 購買契約の変更 (P4340) の処理オプションの設定
- リベート金額の購買限度額の定義

### 購買限度額について

リベート取得条件を定義したら、リベートを受け取るために購入しなければならない品目の数量または金額を入力する必要があります。たとえば、製品500個または500.00相当の製品というように入力します。それぞれの数量または金額は、しきい値として参照されます。複数のしきい値を入力する場合、しきい値の数量または金額を昇順で入力する必要があります。

複数のしきい値を設定する場合、仕入先から受け取ったリベート金額の合計を「リベート調整の改訂」フォームの「購買金額」フィールドに入力する必要があります。契約の次のリベートしきい値に達すると、現在支払の対象となっているリベート金額から受け取った金額が差し引かれます。

次に、受け取るリベートのタイプに関する情報を入力します。リベート・タイプでは、リベートがあらかじめ決められた特定の金額なのか、合計購入金額の割合なのかを指定します。たとえば、100個の製品を購入した場合に仕入先が50.00のリベートを提供するとします。ただし、500個の製品を購入した場合は、製品の合計購入金額の15%を仕入先が支払います。

すでにリベートを受け取った他のしきい値に関係なく、各しきい値について受け取る金額または割合のすべてを入力する必要があります。たとえば、100個の製品に対して100.00、500個の製品について500.00をる受け取るとします。500個の製品を購入する場合、すでに100.00を受け取っていたとしても、500.00のリベートを受け取る資格があります。

購入の数量または金額に関係なくリベートを受け取る資格がある場合、しきい値の数量をゼロと入力できます。

**重要:** しきい値の数量の基準を、購買リベート契約に指定する単位にする必要があります。リベート品目に購買オーダーを入力する場合、必要に応じて購買単位がリベートの単位に変換されます。

リベート契約に適用されるしきい値およびリベートの情報は、F4341テーブルに保管されます。

### リベート金額の購買限度額の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
しきい値の変更	W4340D	「価格管理」(G43A17)、 「購買リベート契約」  「購買契約の処理」フォームで仕入先を選択して、 「ロー」メニューの「しきい値」を選択します。	リベート金額の購買限度額を定義します。

### 購買契約の変更 (P4340) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 表示オプション

この処理オプションでは、リベート調整フォームに表示される情報のタイプを指定します。

1. **リベート調整**                      リベート調整フォームで数量および金額を入力できるようにするには、“1”を入力します。ブランクにした場合、フォームが表示されるのみです。

## リベート金額の購買限度額の定義

「しきい値の変更」フォームにアクセスします。

**しきい値数量**                      リベートを受け取るために必要な品目の合計数量を入力します。1つのリベート契約に複数のしきい値を設定できます。

**リベート率**                      関連するリベートしきい値に達したときに仕入先が支払う実際の購入金額の割合を入力します。  
パーセント値を整数で表す必要があります(たとえば、10%なら「10」など)。  
リベート・タイプで固定金額が指定されている場合、仕入先はリベート金額を支払います。



## 第 9 章

# 購買オーダー・コミットメントの設定

コミットメントとは、将来の債務に対する認識です。この章では、コミットメント・トラッキングの設定方法について説明します。

---

## コミットメントのトラッキング設定

この項では、コミットメント・トラッキングの概要と次の方法について説明します。

- コミットメントの設定
- コミットメント・リリースの設定

### コミットメント・トラッキングについて

コミットメントのトラッキングを設定すると、特定の作業やプロジェクトに対する購買の支払義務をモニタリングできます。オーダー明細行を入力するたびに、その行の金額がコミットメントとして認識され、作業またはプロジェクトに対して充当されます。特定の作業やプロジェクトについて、コミットメント金額と未決済コミットメント合計金額を個別に検討できます。

コミットメント・トラッキングは、非在庫品目やサービスの購買に対してのみ使用できます。各オーダー明細行を、それぞれ、勘定科目コードに計上する必要があります。この番号は、コミットメントをトラッキングする作業やプロジェクトを示しています。

コミットメントのトラッキングに使用するオーダー・タイプは、UDCテーブル(40/CT)で指定してください。たとえば、オーダーと購買要求のコミットメントをトラッキングする場合、該当するオーダー・タイプを指定する必要があります。

明細行のコミットメントをトラッキングするには、その行タイプの在庫インターフェイス・コードに「A」、「B」、または「C」を設定してください。これらのコードは、行金額が直接、勘定科目コードに計上されます。

コミットメントのトラッキングが可能な購買明細行にデータを入力するたびに、購買金額(PA)元帳および購買数量(PU)元帳に入力金額が記録されます。

購買金額元帳にはコミットした購買金額が保存されます。購買数量元帳にはコミットした購買数量が保存されます。

商品を入荷したり、購買伝票を作成すると、作業やプロジェクトのコミットメント合計金額からコミットメント金額を減算することによりコミットメントがリリースされます。

コミットメント・リリースを設定して、自動的にコミットメントをリリースするかどうかを確定します。自動コミットメント・リリースを指定して公式な入荷を使用している場合は、入荷または伝票を総勘定元帳に転記した時点でコミットメントがリリースされます。非公式の入荷処理の場合は、支払伝票を転記した際にリリースされます。

**重要:** 非作業原価環境で処理する場合、コミットメント・リリースの完了時に「作業原価予測」フィールドは No に設定します。「作業原価予測」フィールドのデフォルト値は Yes であることに注意してください。

## コミットメント・トラッキングの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ユーザー定義コード	W0004AI	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コミットメントの設定/再作成」(G43B411)、「コミットメント伝票タイプ」</li> <li>「ユーザー定義コードの処理」フォームの「追加」をクリックします。</li> <li>「債務の設定/再作成」(G43C411)、「債務伝票タイプ」</li> <li>「ユーザー定義コードの処理」フォームの「追加」をクリックします。</li> <li>「外注管理セットアップ/再作成」(G43D411)、「コミットメント伝票タイプ」</li> <li>「ユーザー定義コードの処理」フォームの「追加」をクリックします。</li> </ul>	コミットメントを設定します。
作業原価固定情報	W0026A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コミットメントの設定/再作成」(G43B411)、「コミットメントリリース」</li> <li>「作業原価固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。</li> <li>「債務の設定/再作成」(G43C411)、「債務リリース固定情報」</li> <li>「作業原価固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。</li> <li>「外注管理セットアップ/再作成」(G43D411)、「コミットメント・リリース固定情報」</li> <li>「作業原価固定情報の処理」フォームで、「追加」をクリックします。</li> </ul>	コミットメント・リリースを設定します。

## コミットメントの設定

「ユーザー定義コード」フォームにアクセスします。

UDC 40/CTを検索します。

## コミットメント・リリースの設定

「作業原価固定情報」フォームにアクセスします。

### コミットメント・リリース

総勘定元帳に買掛金伝票を転記する際に未決済コミットメントを自動的にリリースするかどうかを指定するコードを入力します。

買掛金伝票は、非在庫購買オーダーおよび契約進捗支払に関連した伝票です。値は次のとおりです。

Y: 未決済コミットメントを自動的にリリースします。

N: 未決済コミットメントを自動的にリリースしません。



## 第 10 章

# 購買オーダーの入力

この章では、購買オーダー入力の概要と、次の方法について説明します。

- 購買オーダー(P4310)の処理オプションの設定
- オーダー見出し情報の入力
- オーダー明細情報の入力

---

## 購買オーダー入力について

商品またはサービスを購入するたびに、購買オーダーを入力する必要があります。オーダーを入力して、発注する商品またはサービスを詳細に指定したり、発注する仕入先を指定したり、その他関連情報を指定します。

購買オーダーは次の2つの情報で構成されています。

- 見出し情報 - オーダー全般に関する基本的な情報(仕入先名、オーダー日付など)
- 明細情報 - 購買する品目やサービスに関する明細行単位の情報(品目番号、数量、費用など)

見出し情報および明細情報は別々に入力できます。オーダーの規模や入力する見出し情報の量に応じて、処理オプションで次のどちらかの方法を選択してオーダーを入力します。

- 最初に見出し情報、次に明細情報を入力する
- 明細情報のみ入力し、見出し情報には一定のデフォルト値を使用する

次の2つのテーブルで見出しおよび明細情報が管理されます。

- 購買オーダー見出しテーブル(F4301)
- 購買オーダー明細テーブル(F4311)

購買オーダーを作成する際に役立つツールがいくつかあります。これらのツールを使用して、複数の購買オーダーを同時に生成したり品目や仕入先情報などを検索できます。

原価が予算限度額を超過しないように、購買オーダーを自動的に検証するように設定できます。予算を超過した場合や、その他の理由により、オーダーを保留にすることもできます。最新のコミットメント、予算、ログ、およびオーダー保留情報を検討できます。

購買オーダーを生成した後、オーダーの変更および印刷ができます。

### 仕入先分類コード

分類コードは、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの仕入先の住所録レコードにある仕入先情報を読み込みます。購買オーダーが作成されると、購買オーダーのオーダー見出しおよびオーダー明細セクションの分類コードのフィールドにデータが読み込まれます。

分類コードは、「オーダー見出し - 追加情報」フォーム (W4310H) と「オーダー見出し - 追加情報II」フォーム (W4310M) にあります。分類コードは、購買オーダー入力時および伝票照合時の表示専用です。仕入先情報は続いて買掛管理元帳レコードに渡されます。

分類コード・フィールドの値は購買オーダー見出しテーブル (F4301) に保管されます。

購買オーダーをコピーすると、分類コードは仕入先の住所録レコードから読み込まれてオーダーに追加されます。

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「追加のオーダー見出し情報の入力」、119 ページ

## 追加プロパティおよびカテゴリ・コード

追加プロパティおよびカテゴリ・コードは、購買オーダーのユーザー定義情報を読み込みます。購買オーダーの作成時に、「オーダー見出し」フォームまたは「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブおよび「カテゴリ・コード」タブでフィールドに値を入力します。

「追加プロパティ」タブには、次のような複数のユーザー定義フィールドがあります。

- サイズおよび形式が異なる。
- テーブル検証と合せて使用するものと、そうでないものがある。
- 任意のものと必須のものがある。

---

**注意:** 「オーダー見出し」フォームの「追加プロパティ」タブおよび「カテゴリ・コード」タブのユーザー定義フィールドに値を入力する場合、「オーダー明細」フォームではこれらのタブのフィールドは表示専用です。

---

ユーザー定義フィールドにアクセスするには、P4310 プログラムの「表示」タブで「追加プロパティ・タブの表示」と「見出しタブと詳細グリッドでのカテゴリ・コードの表示」の処理オプションを有効にする必要があります。

また、「住所録フィールドを必須にする」処理オプションを設定して、「追加プロパティ」タブの「住所録01」と「住所録02」フィールドを必須にするかどうかを指定できます。この処理オプションは、P4310 プログラムの「表示」タブの「追加プロパティ・タブの表示」処理オプションと合せて使用します。住所録のフィールドが必須の場合、「追加プロパティ・タブの表示」処理オプションを有効にする必要があります。

「追加プロパティ」タブおよび「カテゴリ・コード」タブのユーザー定義フィールドの値は、購買オーダー見出しテーブル (F4301) に保管されます。ユーザー定義フィールドは、入荷確認テーブル (F43121) には保管されません。

「カテゴリ・コード01」から「カテゴリ・コード04」のフィールドは、フォームの詳細グリッドに表示されます。これらのフィールドは、「オーダー見出し」フォームのカテゴリ・コードには依存していません。「オーダー見出し」フォームのフィールドの値は、「オーダー明細」フォームのフィールドには読み込まれません。ユーザー定義フィールドは、購買オーダー明細テーブル (F4311) に保管されます。

---

**注意:** P4310 で直接作成された購買オーダーからは、「オーダー見出し」または「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブと「カテゴリ・コード」タブのユーザー定義フィールドにアクセスできます。転送オーダーや直送オーダー、オーダー生成プログラムなど、P4310 で直接作成されていない購買オーダーからは、ユーザー定義フィールドにアクセスできません。購買オーダーが作成されたら、P4310 でそのオーダーにアクセスして、ユーザー定義フィールドに値を入力できます。

---



---

**注意:** イベントの分析プログラム (P43Q50) を使用してソーシングを介して作成されたり、SRM - 購買オーダー通知プログラム (P43S01) を使用して仕入先セルフサービスを介して作成された購買オーダー、あるいは EDI 受信購買通知プログラム (R47021) を使用して EDI により作成された購買オーダーでは、ユーザー定義フィールドは処理されません。さらに、ソーシングではサービス・ユニットのフィールドは処理しません。

---

また、P4310プログラムの「表示」タブにある「ジョブまたはプロジェクトの保管場所とロットの表示」処理オプションを設定することもできます。この処理オプションを設定すると、ジョブまたはプロジェクトのグリッドに保管場所やロットのフィールドが表示されます。この処理オプションは、「表示」タブの「代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションと合せて使用されます。「代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションが1または2に設定されていると、この処理オプションが使用されます。「代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションが1または2以外の値に設定されていると、この処理オプションは使用されません。

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「オーダー見出し情報の入力」、117ページ

## 購買オーダーの条項

条項によって、購買オーダーに関連する印刷メッセージを指定します。メッセージで使用されるテキストとしては、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などがあります。それぞれの印刷メッセージにUDC 40/PMのユーザー定義コード(UDC)を割り当てます。「条項」フォーム(W4310K)で、特定の購買オーダーに印刷メッセージを関連付けます。購買オーダー条項は、購買オーダー条項テーブル(F4320)に保管されます。

「条項」フォームにアクセスするには、P4310プログラムの「表示」タブで「条項へのフォーム・エグジットの有効化」処理オプションを選択する必要があります。有効にした場合、「オーダー見出し」および「オーダー明細」フォームの「フォーム」メニューから「条項」フォームにアクセスできます。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「印刷メッセージの定義」、57ページ

## 保留

外注契約留保金とは、オーダー完了後の特定の日付まで保留にされるコミットメントの割合を指します。保留処理は、進行中のプロジェクトに適用され、AおよびBの在庫インターフェイスにのみ適用されます。

保留を含むオーダーを入力する前に、購買オーダー・プログラム(P4310)の「表示」タブにある「留保金インジケータの表示」処理オプションを選択します。留保金を持つオーダーを入力する際は、「オーダー見出し」フォームの「留保金インジケータ」チェックボックスを選択します。このフィールドによって、伝票照合プロセス中に買掛管理の担当者に通知が送られ、請求書に保留となっている金額がないかどうか仕入先からの請求書を二重に確認できます。「留保金インジケータ」チェックボックスは、「留保率」フィールドと組み合わせて使用することも、単独で使用することもできます。

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「留保金の処理」、239ページ

---

# 購買オーダー(P4310)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

各プログラムについて、特定のトランザクションのデフォルト値、フォームに表示するフィールド、実行するプログラムのバージョンなどのオプションを指定できます。

## デフォルト

この処理オプションでは、購買オーダーの処理に使用されるデフォルト情報を入力できます。

### 1. オーダー・タイプ

“伝票タイプ - すべての伝票”(00/DT)UDCに設定されている値を入力して、オーダー・タイプのデフォルト値を指定します。「オーダー見出し」フォームの「オーダー・タイプ」フィールドには、この値が入力されます。

- 2. 行タイプ**      トランザクションの行の処理方法を指定する値を入力します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム (JD Edwards EnterpriseOne 一般会計、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、および JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理) に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。行タイプは、オーダー行タイプ・プログラム (P40205) で定義します。
- 「オーダー明細」フォームの「行タイプ」フィールドには値が自動的に入力されます。
- 3. 開始状況**      処理状況コード (40/AT) UDCにある値を入力して、オーダーの開始状況のデフォルト値を指定します。入力する値は、使用しているオーダー・タイプおよび行タイプに対して設定する必要があります。
- 4. 一時変更用次状況**      処理状況コード (40/AT) UDCにある値を入力して、すべての新規または変更済購買オーダー行に対する次状況コードを指定します。オーダー処理規則プログラム (P40204) を使用して、オーダー・タイプと行タイプの組合せに対する次状況コードを入力します。この処理オプションを空白のままにすると、オーダー処理規則の次状況コードがデフォルト値として使用されます。
- 承認処理を使用している場合は、この処理オプションを使用しないでください。
- 5. 単位**      単位 (00/UM) UDCにある値を入力して、「レコード単位」フィールドに表示されるデフォルト単位を指定します。
- 6. 行番号増分**      オーダーのオーダー行を自動的に増分する場合に使用する整数を入力します。
- 7. デフォルトの税率/税域**      オーダー入力時のデフォルトとして使用する税率/税域情報の検索場所を指定します。値は次のとおりです。
- 空白: 仕入先の住所録番号に関連付けられている税率/税域が使用されます。税目コードは、F0401 テーブルの仕入先住所録番号レコードから取得されます。これがオーダー・リリース・プログラムから呼び出されているバージョンの場合は、元のオーダーではなく F0401 テーブルから税情報が取得されます。
- 1: 出荷先住所番号に対する住所録番号のデフォルト税率/税域が使用されます。システムによって使用される情報は、F0401 テーブルの税情報セクションにあります。
- 8. 取引単位**      オーダー入力時のデフォルトとして使用する取引単位情報の検索場所を指定します。値は次のとおりです。
- 空白: F4101 テーブルの購買単位が使用されます。取引単位は、「購買オーダー入力」フォームの「数量」フィールドに入力した数値に直接関係します。「購買オーダー入力」のカタログから品目を選択した場合、そのカタログの単位は、このフィールドに入力した値より優先されます。「単位」フィールドに値を入力した場合は、このフィールドに値を入力しないでください。
- 1: F4101 テーブルの基本単位が取引単位のデフォルトとして使用されます。
- 9. 陸揚費用規則**      陸揚費用規則 (41/P5) UDCの値を入力して、「オーダー見出し - 追加情報」フォームの「陸揚費用規則」フィールドに入力される陸揚費用規則を指定します。



**10. 見出しが変更されたときの明細への反映**

見出し情報を変更したときに明細行の情報を自動的に更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「オーダー見出し」フォームの「自動入力」フォーム・エグジットを使用して、手動で見出しを明細変更に適用する必要があります。「オーダー見出し」フォームの「定義」フォーム・エグジットを使用して、「オーダー明細」フォームのどのフィールドを見出し情報の変更で更新するかを選択します。見出し情報を変更すると、「オーダー明細」フォームが表示されます。

1: 見出しの変更が明細行に自動的にロードされます。

**11. 作業オーダー状況**

購買オーダー数量または約束日付の変更時にデフォルト値として使用される作業オーダー状況 (00/SS) UDCにある値を入力します。この処理オプションは、オーダー処理プログラム (R31410) で作業オーダーを処理することによって外注作業用に作成された購買オーダーに適用されます。購買オーダーが作成された後に数量または約束日付を変更すると、作業オーダー状況は、この処理オプションで入力した値に更新されます。この処理オプションをブランクのままにすると、作業オーダー状況は変更されません。

**12. 勘定科目名**

オーダー入力のデフォルト値として使用する勘定科目名の検索場所を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ビジネスユニット、主科目、および補助科目で構成される勘定科目から勘定科目名が取得されます。

1: ビジネスユニットと補助科目で構成される勘定科目から勘定科目名が取得されます。通常、この勘定科目は未転記の見出し勘定科目です。勘定科目名の取得時に主科目が使用されないことに注意してください。

**13. 行順序**

変更オーダーに行番号を割り当てる方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 連続した増分に基づいて固有の行番号が割り当てられます。複数の変更オーダーがある場合は、変更オーダーごとに行番号の順序設定を最初からやりなおすのではなく、連続した増分に基づいて行番号が割り当てられます。

1: 変更オーダーごとに順序設定処理が最初からやりなおされます。1を入力した場合、各変更オーダー内では行番号順序が保持および増分されますが、次の変更オーダーでは、行番号の順序設定が最初からやりなおされます。

**14. 費用規則の選択**

オーダー入力時のデフォルトとして使用する費用規則選択情報の検索場所を指定します。これがオーダー・リリース・プログラムから呼び出されているバージョンの場合は、元のオーダーではなくF0401テーブルから費用規則情報が取得されることに注意してください。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先の住所録番号に関連付けられている費用規則選択が使用されます。費用規則の説明コードは、F0401テーブルの仕入先住所録番号レコードから取得されます。

1: 出荷先に対する住所録番号のデフォルト費用規則選択が使用されます。システムによって使用される情報は、F0401テーブルの費用規則情報セクションにあります。

**表示**

この処理オプションでは、表示する情報のタイプを制御できます。

- 1. 終了行の表示**                      終了行を非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
    ブランク: 終了行または取消行が表示されます。  
    1: 終了行または取消行が非表示になります。終了行または取消行が非表示になると、状況コードが999の行は詳細グリッドに表示されません。ただし、行のレコードはF4311テーブルに残ります。
- 2. 状況コードの保護**                状況コードの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
    ブランク: 状況コードを変更できます。  
    1: 状況コードは変更できません。コードは検討できますが、変更できません。状況コードの保護を有効にした場合は、状況コードにかかわらず、前の状況と次の状況は保護されます。
- 3. オーダー・タイプの保護**          オーダー・タイプの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
    ブランク: オーダー・タイプを変更できます。  
    1: オーダー・タイプ(伝票タイプとも呼ばれる)は変更できません。オーダー・タイプは確認できますが、変更できません。
- 4. キット表示**                        キット構成品行を表示するか、または親行のみ表示するかを指定します。値は次のとおりです。  
    ブランク: 親行だけが表示されます。ただし、F4311テーブルには親行とすべての構成品行が書き込まれます。  
    1: キット構成品行が表示されます。キット構成品行を表示するには、購買オーダーを作成してから、その購買オーダーを照会する必要があります。
- 5. 原価の保護**                        原価の変更を可能にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
    ブランク: 原価のフィールドがフォームに表示され、変更可能になります。  
    1: 原価のフィールドがフォームに表示されますが、変更できません。  
    2: 原価情報が表示されません。F4311テーブルには引き続き原価情報が書き込まれますが、「原価」フィールドは表示されません。原価テーブルの原価情報がデフォルトとして使用されます。原価テーブルの例としては、F4105テーブルやF41061テーブルがあります。デフォルト情報に使用される原価テーブルは、システムの設定方法によって異なります。
- 6. 明細行の保護**                      処理状況コード(40/AT)UDCの値を入力して、明細行の変更が防止される次の状況を指定します。次の状況がこの状況以上の場合は、明細行全体が保護されます。この処理オプションをブランクのままにすると、明細行の変更は防止されません。
- 7. 無償品カタログ**                   無償品カタログの警告を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
    ブランク: 警告を表示しません。  
    1: 警告を表示します。
- 8. オーダー見出しの保護**            オーダー見出し情報が読取専用か、または変更可能かを指定します。値は次のとおりです。  
    ブランク: オーダー見出し情報は変更できます。  
    1: オーダー見出し情報は読取専用です。

**9. 代替ラベルおよび見出し  
ビジネスユニット**

「オーダー見出し」フォームと「オーダー明細」フォームに表示される「ビジネスユニット」フィールドの記述を指定します。たとえば、この処理オプションをブランクのままにした場合は、「事業所」という記述がMCUフィールドに表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 事業所

1: 作業

2: プロジェクト

3: ビジネスユニット

**10. 勘定科目コードの保護**

明細行が部分的に入荷または伝票発行された後に勘定科目コード情報を保護するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 勘定科目コード情報は保護されません。

1: 勘定科目コード情報は保護されます。

**11. 追加プロパティ・タブ  
の表示**

「追加プロパティ」タブを有効にするかどうかを指定します。この処理オプションは、購買オーダー見出しフォームおよび購買オーダー明細フォームの「追加プロパティ」タブの表示を制御します。値は次のとおりです。

ブランク: 無効にする。「追加プロパティ」タブを表示しません。

1: 有効にする。「追加プロパティ」タブを表示します。

**12. 見出しタブと詳細グ  
リッドでのカテゴリ・コード  
の表示**

「カテゴリ・コード」タブを有効にするかどうかを指定します。この処理オプションは、購買オーダー見出しフォームおよび購買オーダー明細フォームの「カテゴリ・コード」タブの表示を制御します。また、この処理オプションは詳細グリッドでのカテゴリ・コードの表示も制御します。値は次のとおりです。

ブランク: 無効にする。「カテゴリ・コード」タブを表示しません。

1: 有効にする。「カテゴリ・コード」タブを表示します。

**13. 条項へのフォーム・エグ  
ジットの有効化**

条項へのフォーム・エグジットを有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 無効にする。

1: 有効にする。

**14. ジョブまたはプロジェク  
トの保管場所とロットの表示**

ジョブまたはプロジェクトのグリッドに「保管場所」と「ロット」のフィールドを表示するかどうかを指定します。この処理オプションは、「表示」タブの「代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションと合せて使用されます。「代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションが1または2に設定されていると、この処理オプションが使用されます。「代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションが1または2以外の値に設定されていると、この処理オプションは使用されません。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

**15. 住所録フィールドを必  
須にする**

「追加プロパティ」タブで「住所録01」と「住所録02」フィールドを必須にするかどうかを指定します。この処理オプションは、「表示」タブの「追加プロパティ・タブの表示」処理オプションと合せて使用します。住所録のフィールドが必須の場合、「追加プロパティ・タブの表示」処理オプションを有効にする必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 必須でない。

- 1: 住所録1が必須。
- 2: 住所録2が必須。
- 3: 住所録1と住所録2が必須。

#### 16. 留保金インジケータの表示

「留保金インジケータ」フィールドを「オーダー見出し」フォームおよび「オーダー明細」フォームに表示するかどうかを指定します。

この処理オプションは、行タイプ固定情報と合せて使用されます。行タイプ固定情報で「請求対象外留保金」オプションが選択されていると、保留が使用されます。

「留保金インジケータ」フィールドは、請求書に留保金が発生したかどうか、留保金を伝票に適用すべきかどうかを確認するために買掛管理の担当者を使用する視覚的なインジケータです。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

- 1: 表示する。

#### 17. サービス・ユニットの表示

「オーダー明細」フォームでグリッドに「サービス数量」および「サービス単位」フィールドを表示するかどうかを指定します。この処理オプションは、行タイプ固定情報と合せて使用されます。行タイプ固定情報で「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションが選択されている場合、サービス数量とサービス単位を使用できます。「オーダー数量」と「サービス数量」フィールドは同時には使用できません。サービス数量はメモ用フィールドであり、検証は何も行われません。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

- 1: 表示する。

### インターフェイス

この処理オプションでは、インターフェイス情報を入力できます。

#### 1. ビジネスユニット検証

事業所の検証方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 事業所はF0006テーブルと照合されます。通常は、サービスの経費購買を実行している場合に、この処理オプションを使用します。この処理オプションをブランクのままにした場合は、F0006テーブルにおける住所録番号の出荷先住所録番号が使用されます。ビジネスユニット・マスターには、単一ビジネスユニットの改訂プログラムを通じてアクセスできます。

1: 事業所はF41001テーブルと照合されます。在庫購買を実行している場合は、1を入力します。1を入力すると、F41001テーブルの住所録番号が出荷先住所録番号のデフォルトとして使用されます。

#### 2. 過去期間警告

PBCO(過去期間)警告を受け取るかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーの元帳日付と、購買オーダーにある会社およびビジネスユニットの一般会計期間が比較されます。過去期間警告では、前の一般会計期間に購買を記録していないことが確認されます。

1: 警告しない。通常は、サービスまたは経費タイプの購買を実行している場合に、この値を使用します。

#### 3. 未来期間警告

PACO(未来期間)警告を受け取るかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーの元帳日付と、購買オーダーにある会社およびビジネスユニットの一般会計固定情報に含まれている現行期間が比較されます。現行の総勘定元帳期間を2期間分超過している元帳日付を使用して購買オーダーを作成しようとすると、未来期間警告が発生します。

1: 警告しない。

#### 4. 数量の更新

システムによって更新される数量フィールドを指定します。この処理オプションを設定する前に、事業所固定情報プログラムで在庫状況を定義したときの方法を必ずチェックしてください。値は次のとおりです。

ブランク: 「購買オーダー数量」フィールド(エイリアスPREQ)が更新されます。

1: F4102またはF4100テーブルの「その他数量」フィールド(エイリアスOT1A)を更新します。購買要求、見積、一括オーダー、または現在の購買オーダー数量に影響しない他のオーダー・タイプを入力する場合は、この値を使用します。

#### 5. 仕入先分析

仕入先分析情報を取得するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先分析情報を取り込みません。

1: 各購買オーダーの品目番号、日付、および数量などの情報がF43090テーブルに記録されます。最も効果的に仕入先情報を記録するには、この処理オプションで「1」を入力し、入荷確認プログラム(P4312)および伝票照合プログラム(P4314)の処理オプションで、これと同じ情報を取り込むよう設定してください。

#### 6. 仕入先マスターにより編集

F4330テーブルに対して仕入先番号を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先番号は検証されません。

1: 仕入先番号が検証されます。

#### 7. 会計AAIの検証

会計AAI(自動仕訳)または流通AAIを使用するかどうかを指定します。また、この処理オプションを使用して、「オーダー見出し」フォームと「オーダー明細」フォームに表示される「ビジネスユニット」フィールド(MCU)の記述が設定されます。たとえば、この処理オプションをブランクのままにした場合は、「事業所」という記述がMCUフィールドに表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 流通AAIが使用されます。

1: 会計AAI CD、CT、またはCRが使用されます。

### 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を制御できます。

#### 1. 新規仕入先情報

住所録の改訂プログラム(P0101)で新規仕入先情報を追加できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システムは、住所録の改訂プログラム(P0101)にアクセスしません。

1: 自動的に住所録の改訂プログラム(P0101)にアクセスします。実行中のタスクを停止して仕入先を追加するのではなく、必要に応じて仕入先を追加できます。住所録レコードに対するセキュリティ制限を検討してください。

場合によっては、仕入先住所録レコードの入力機能をすべてのユーザーに提供しないようにする必要があります。

## 2. オーダー・テンプレート

オーダー・テンプレートを確認するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 使用可能なオーダー・テンプレートを表示しません。

1: 使用可能なオーダー・テンプレートを自動的に表示します。この処理オプションで、使用可能なオーダー・テンプレートを自動的に表示するように設定して、「オーダー見出し」フォームにアクセスすると、「オーダー明細」フォームの前にオーダー・テンプレートが表示されます。先に「オーダー明細」フォームにアクセスした場合は、カーソルを詳細グリッドに初めて移動したときにオーダー・テンプレートが表示されます。

## 3. サブシステム印刷

サブシステムを使用して購買オーダーを自動印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: サブシステムによる購買オーダーの印刷は行いません。

1: サブシステムを使用して購買オーダーを自動的に印刷します。サブシステム処理用に指定された購買オーダー印刷プログラム (R43500) のバージョンを投入する必要があることに注意してください。

## 4. 一括リリース

一括リリースを自動的に処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 一括リリースは自動的に処理されません。

1: すべての事業所に対して、自動的に一括リリースを処理します。仕入先と品目の組合せに対して複数の一括オーダーがある場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにチェックマークが表示され、「一括オーダー複数あり」カラムに「X」が表示されます。一括オーダーを選択するには、該当するオプションを「ロー」メニューから選択します。

2: 特定の事業所に対して、自動的に一括リリースを処理します。仕入先と品目の組合せに対して複数の一括オーダーがある場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにチェックマークが表示され、「一括オーダー複数あり」カラムに「X」が表示されます。一括オーダーを選択するには、該当するオプションを「ロー」メニューから選択します。

## 5. 見出し表示

「オーダー明細」フォームの前に「オーダー見出し」フォームを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「オーダー明細」フォームを表示します。

1: 「オーダー明細」フォームの前に「オーダー見出し」フォームを表示します。

## 6. 契約検索

契約の検索方法を指定します。この処理オプションは、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 契約管理システムを併用している場合にのみ適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 契約を検索しません。

1: システムに1つの契約しか存在しない場合は契約を割り当てます。複数の契約が見つかったら、詳細グリッドにあるロー見出しにはチェック・マークが表示され、「契約複数あり」カラムには「X」が表示されます。契約を選択するには、ロー・エグジットを使用する必要があります。

- 2: すべての契約を表示します。  
 3: 最も早い終了日付の契約を検索します。
- 7. 基本オーダーの保護** 基本オーダー情報を変更できるかどうかを指定します。基本オーダーは当初の契約またはオーダーです。基本オーダー明細行は、変更オーダー番号000として識別されます。通常は、この処理オプションを使用して、当初のオーダーに対する変更を禁止します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 基本オーダー情報を変更できます。  
 1: 基本オーダー情報は変更できません。
- 8. プロジェクト/作業の検証** 事業所および勘定科目ビジネスユニットの値が同じである必要があるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 勘定科目ビジネスユニットと見出しビジネスユニットは異なる値にすることができます。  
 1: 勘定科目ビジネスユニットと見出しビジネスユニット(事業所や作業など)の値は同じです。
- 9. 排他調整保留** 上級価格設定を品目に適用し、その品目の調整グループに対する相互排他調整を選択した場合は、この処理オプションを使用してオーダーを保留にします。
- 10. ログ・エントリの表示** オーダーまたは契約の追加時に自動的にログを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: ログは自動的に表示されません。  
 1: ログは自動的に表示されます。

## 複写

この処理オプションでは、オーダーの複写処理に使用されるデフォルト情報を入力できます。

- 1. 重複オーダー・タイプ** 伝票のタイプを入力します。このUDC(00/DT)はトランザクションの起点も指定します。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている値を入力してください。各伝票タイプに対して、次のプレフィックスが事前定義されています。これらのプレフィックスは、変更しないでください。  
 P: 買掛金伝票  
 R: 売掛金伝票  
 T: 給与計算伝票  
 I: 在庫伝票  
 O: 購買オーダー伝票  
 J: 一般会計/共有利息請求伝票  
 S: 受注オーダー処理伝票
- 2. 開始状況コード** オーダー処理の最初のステップである開始状況を指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用します。

3. 次状況コード(任意)      オーダー処理の次のステップを指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用します。この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう1つのステップになります。
4. コピー選択      コピーする情報を指定します。見積または購買要求を購買オーダーに生成するときに行添付テキストとオーダー添付テキストをコピーする場合は、この処理オプションを有効にしてください。値は次のとおりです。  
     ブランク: 情報をコピーしません。  
     1: 行テキストだけをコピーします。  
     2: 行テキストとオーダー・テキストをコピーします。  
     3: オーダー・テキストだけをコピーします。

## 相互参照

この処理オプションでは、相互参照コードを入力できます。

1. 代替品目      代替品目を取得するために使用されるデフォルトの相互参照コードを指定します。入力した値は、代替品目の検索/選択フォームのデフォルトとして使用されます。  
     複数の代替品目が存在する場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにはチェックマークが表示され、「代替品目あり」カラムには「X」が表示されます。
2. 旧品目      旧品目に対する置換品目を取得するための相互参照コードを指定します。入力した値は、代替品目の検索/選択フォームのデフォルトとして使用されます。  
     複数の置換品目が存在する場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにはチェックマークが表示され、「置換品目あり」カラムには「X」が表示されます。
3. 販促品      販促品を取得するために使用される相互参照コードを指定します。

## 発注残オーダー照会の処理オプション

この処理オプションでは、状況および日付情報を入力できます。

1. 開始状況コード      オーダー明細行に対する状況コードの範囲内の最初のコードを指定します。「追加選択」フォームでは、この状況がデフォルトとして使用されます。
2. 終了状況コード      オーダー明細行に対する状況コードの範囲内の最後のコードを指定します。「追加選択」フォームでは、この状況がデフォルトとして使用されます。
3. 前状況      発注残照会プログラム(P4310)に対して前の状況と次の状況のどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。  
     ブランク: 次状況コードが開始状況コードと終了状況コードのデフォルトとして使用されます。  
     1: 前状況コードが開始状況コードと終了状況コードのデフォルトとして使用されます。
4. 日付      日付が日付範囲内であることを確認するためにチェックされる日付を指定します。値は次のとおりです。  
     ブランク: 要求日付がチェックされます。



- 1: トランザクション日付がチェックされます。
- 2: 約束日付がチェックされます。
- 3: 当初納入約束日付がチェックされます。
- 4: 入荷日付がチェックされます。
- 5: 取消日付がチェックされます。
- 6: 元帳日付がチェックされます。

## 実行バージョンの入力

この処理オプションでは、システムが使用する様々なプログラムのバージョンを制御できます。

1. 需要/供給照会 (P4021) 需要/供給照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
2. 仕入先分析 (P43230) 仕入先分析プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
3. 仕入先マスター (P04012) 仕入先マスター・プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
4. 購買オーダーのオン・デマンド印刷 (R43500) 購買オーダーのオン・デマンド印刷プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。フォーム上の該当するロー・エグジットにアクセスすると、選択したバージョンを使用してオーダーが印刷されます。
5. 在庫集計照会 (P41202) 在庫集計照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
6. 承認の検討 (P43081) 承認の検討プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
7. 入荷工程 (P43250) 入荷工程プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
8. 入荷処理中オーダー (P43214) 入荷処理中オーダー・プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
9. 監査集計の改訂 (P4319) 監査集計の改訂プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
10. 購買履歴照会 (P43041) 購買履歴照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
11. 発注残照会 (P4310) 発注残照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
12. 財務状況照会 (P44200) 財務状況照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
13. インバウンド輸送 (P4915) インバウンド輸送プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
14. 優先プロファイル (R40400) 「優先情報選択」フォームで有効化された優先情報に基づいてオーダーを処理する場合に使用される優先プロファイル・プログラムのバージョンを指定します。

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| 15. コンフィギュレータ (P3210)    | コンフィギュレーション品目の改訂プログラムを使用する際のバージョンを指定します。       |
| 16. 一括リリース (P43216)      | 一括オーダーのリリース・プログラムで使用するバージョンを指定します。             |
| 17. ログ入力 (P4305)         | ログ入力プログラムで使用するバージョンを指定します。                     |
| 18. 購買要求セルフサービス (P43E10) | セルフサービス購買要求プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。 |

## 通貨

この処理オプションでは、通貨情報を入力できます。

- |          |   |
|----------|---|
| 1. 許容度   | <p>通貨許容限度パーセントを指定し、F0015テーブルと比較して通貨金額の変動額が許容パーセントより大きくならないようにします。</p> <p>複数通貨を使用する場合は、このプログラムの通貨別のバージョンを作成します。この処理オプションで指定する金額は通貨固有です。</p>  |
| 2. 通貨コード | <p>仮定金額を表示する場合の通貨コードを指定します。この設定により、取引の当初入力時の通貨以外の国内通貨または外貨で金額を表示できます。</p> <p>ブランクにした場合、初期入力されている通貨で仮定金額が表示されます。</p> <p>仮定通貨建ての金額は一時メモリーに保存され、テーブルには書き込まれません。</p>  |
| 3. 基準日   | <p>仮定「通貨コード」処理オプションの基準日を指定します。この日付を使用してF0015テーブルから為替レートが取得されます。</p> <p>「通貨コード」処理オプションで通貨コードを指定し、この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。</p> <p>国内通貨または外貨と仮定通貨の有効な為替レートがF0015テーブルに含まれる必要があります。このレートは基準日に基づきます。</p> |

## 承認

この処理オプションでは、承認処理の情報を入力できます。

- |            |   |
|------------|---|
| 1. 承認経路コード | <p>承認処理に使用するコードを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 承認処理は実行されません。</p> <p>1: 入力者の住所をデフォルト値として使用します。</p> <p>2: 入力者のユーザー・プロファイルをデフォルト値として使用します。</p> <p>3: 事業所経路コードをデフォルト値として使用します。</p> <p>4: デフォルト事業所経路コードをデフォルト値として使用します。</p> |
| 2. 承認待ち状況  | <p>オーダーが承認経路に入るときにシステムが使用する次の状況を入力します。</p>  |
| 3. 承認済み状況  | <p>オーダーが自動的に承認されるときにシステムが使用する次の状況を入力します。</p>  |

#### 4. 変更行の再承認

承認済の購買オーダー行に対して特定のタイプの変更が加えられた場合に、承認処理をアクティブ化するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 承認処理はアクティブ化されません。

1: 購買オーダー行のフィールドが変更されると、承認処理がアクティブ化されます。

2: 承認フィールド固定情報プログラム (P43080) でアクティブ化される特定の必須フィールドが変更された場合にのみ、承認処理がアクティブ化されます。

3: 標準必須フィールドが変更された場合にのみ承認処理がアクティブ化されます。

#### 5. 承認保留コード

承認処理でオーダーを保留する際にシステムで使用する保留コードを指定します。この処理オプションをblankにすると、オーダーは保留されません。

### 予算

この処理オプションでは、予算情報を入力できます。

#### 1. 予算保留コード

予算保留のためにシステムで使用する保留コードを指定します。保留コードを入力すると、予算チェック処理がアクティブ化されます。予算チェックでは、明細行が勘定科目の予算を超過しているとオーダー全体が保留になります。

#### 2. 予算元帳タイプ

予算が含まれている元帳タイプを指定します。

予算元帳タイプを指定した場合は、その予算元帳タイプだけが取得されます。この処理オプションをblankのままにした場合は、元帳タイプ・マスターの設定プログラム (P0025) で指定されてF0025テーブルに入っているすべての予算元帳タイプが取得されます。

#### 3. 詳細レベル

予算チェック処理時に使用する詳細レベルの値 (3から9) を指定します。この処理オプションをblankにすると、デフォルト値「9」が使用されます。

この処理オプションは、詳細レベル累計の処理オプションとともに使用できます。

#### 4. 予算合計方法

予算の計算方法を指定します。この処理オプションをblankにすると、作業原価予算計算方法が使用されます。値は次のとおりです。

blank: 作業原価予算計算方法が使用されます。

1: 次の作業原価予算計算方法が使用されます。

当初予算 + 現行年度の期間金額 + 前年度の転記額

2: 次の標準財務予算計算方法が使用されます。

現行年度の期間金額の合計

3: 次の標準財務配賦計算方法が使用されます。

当初予算 + 現行年度の期間金額

#### 5. 期間累計方法

予算の累計時に使用する期間を指定します。値は次のとおりです。

blank: 合計年次予算を使用して予算を累計します。

- 1: 現行期間で予算を累計します。
- 6. 許容パーセント**      オーダーが予算保留になる前に明細行金額が予算を超過できるパーセントを指定します。
- 7. 保留警告**      予算を超過している明細行金額について警告メッセージを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 警告は表示されませんが、オーダーは保留になります。  
 1: 警告が表示され、オーダーは保留になります。  
 2: 警告は表示されますが、オーダーは保留になりません。
- 8. 予算累計詳細レベル**      「予算」タブにある「詳細レベル」処理オプションの値を使用して予算金額を累計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 「詳細レベル」処理オプションの値が使用されます。  
 1: 購買オーダー明細行に対して指定された詳細レベルから「詳細レベル」処理オプションの値までの予算金額が累計されます。
- 9. 補助元帳/タイプの除外**      予算情報の検証時に補助元帳および補助元帳タイプを除外するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 補助元帳と補助元帳タイプは含まれます。  
 1: 補助元帳と補助元帳タイプは除外されます。明細行勘定科目に対するすべての補助元帳について予算の合計が計算され、その行が予算を超過していないかどうか判断されます。
- 10. 作業原価の勘定科目順序**      予算作成に使用する作業原価勘定科目の順序を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 標準の勘定科目順序が使用されます(たとえば、ビジネスユニット、主科目、および補助科目)。  
 1: 作業原価順序が使用されます(たとえば、作業、原価コード、および原価タイプ)。
- 11. 税額**      課税対象行の税額を予算計算に含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 税額を含めません。  
 1: 税額を含めます。

## インタオペラビリティ

この処理オプションでは、インタオペラビリティ情報を入力できます。

- 1. 変更前/後トランザクション処理**      トランザクションの変更前にそのトランザクションのレコードを取り込むかどうか、またはトランザクションの変更前および変更後にそのトランザクションのレコードを取り込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: トランザクションの変更後にそのトランザクションのレコードを取り込みます。  
 1: 2つのレコードを取り込みます。1つは変更前のトランザクションのレコード、もう1つは変更後のトランザクションのレコードです。
- 2. 購買オーダー取引タイプ**      エクスポート取引の取引タイプを入力します。

このフィールドを空白にすると、エクスポート処理は実行されません。

- 3. 作業オーダー変更前/後  
トランザクション** 作業オーダー見出しの変更前トランザクションを出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 変更前トランザクションを含めません。

1: 変更前トランザクションを含めます。

- 4. 作業オーダー取引タイプ** トランザクションのエクスポート処理時に使用される作業オーダー見出しのデフォルト・トランザクション・タイプを指定します。このフィールドを空白にすると、エクスポート処理は実行されません。

## オーダー改訂

この処理オプションでは、オーダーへの改訂を制御できます。

- 1. 改訂のトラッキング** オーダーの改訂をシステムで許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: オーダー改訂のトラッキングは実行されません。

1: 既存のオーダーに対する改訂だけを許可します。

2: 既存のオーダーに対する改訂と、オーダーへの新規行の追加を許可します。

- 2. 次状況** オーダー改訂監査情報のトラッキングが開始される次状況コードを指定します。明細行の状況が、この処理オプションで入力した状況コードに先行している場合、その明細行に改訂は記録されません。

改訂情報は、F43199テーブルに保存されます。このテーブルには、オーダー改訂照会プログラム(P4319)を通じてアクセスできます。

- 3. テキスト入力** 改訂の入力時にテキストの入力を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: ユーザーは改訂の入力時にテキストを入力できません。

1: ユーザーは改訂の入力時に自動的にテキストを入力できます。

オーダーが受け入れられると、テキスト入力ウィンドウが表示されます。

## セルフサービス

この処理オプションでは、セルフサービス機能を有効にするかどうかを指定できます。

- 1. サプライヤ・セルフサービス** Java/HTML環境で使用するサプライヤ・セルフサービスを有効にするかどうかを指定します。この機能により、仕入先はオーダーをオンラインで表示できます。値は次のとおりです。

空白: サプライヤ・セルフサービスを有効にしません。

1: サプライヤ・セルフサービスを有効にします。

## マトリックス

この処理オプションでは、「マトリックス・オーダー」フォームの表示を指定できます。

- 1. マトリックス・オーダー・  
フォームの表示(親在庫)** マトリックス親品目での作業中に、「マトリックス・オーダー」フォームを表示するかどうかを指定します。オーダー詳細のマトリックス親品目を入力する

ときに「マトリックス・オーダー」フォームが表示されていない場合、その親品目はマトリックス親品目ではなく在庫品目として扱われます。値は次のとおりです。

ブランク: 「マトリックス・オーダー」フォームが表示されます。

1: 「マトリックス・オーダー」フォームは表示されません。

## ワークフロー

この処理オプションでは、システムによるワークフロー情報の処理方法を指定できます。

### 1. 価格変更の通知

オーダーの単位原価/総額が変わったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。

2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。

3: 購買担当者に電子メールを送信します。

4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

### 2. 計画配送日付変更の通知

オーダーの約束納入日付が変わったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。

2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。

3: 購買担当者に電子メールを送信します。

4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

### 3. 数量変更の通知

オーダーの数量が変わったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。

2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。

3: 購買担当者に電子メールを送信します。

4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

#### 4. オーダー保留の通知

オーダーが保留になったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。
- 2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。
- 3: 購買担当者に電子メールを送信します。
- 4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

#### 転送オーダー

この処理オプションでは、転送オーダーの処理方法を指定できます。

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 転送オーダー入力時に、受取り事業所に事業所品目レコードが存在しなければ作成する</p> <p>2. プロジェクト転送オーダーの行タイプ</p> | <p>事業所品目レコードが受け取り事業所に存在しない場合に事業所品目レコードを作成するかどうかを指定します。</p> <p>受注転送オーダーから作成された購買オーダーに使用する行タイプを指定します。行タイプ固定情報プログラム (P40205) にアクセスして、Cの在庫インターフェイスで行タイプが定義されていることを確認してください。行タイプにCの在庫インターフェイスがある場合は、製造管理 - 受注設計生産 (エンジニアリング・プロジェクト管理) システムに関連付けられている購買オーダーに対して会計のコミットメントが実行されます。</p> |
|---|---|

---

**注意:** エンジニアリング・プロジェクト管理 (EPM) システムは、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

## オーダー見出し情報の入力

この項では、オーダー見出し情報入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- オーダー見出し情報の入力
- 追加のオーダー見出し情報の入力

### オーダー見出し情報の入力について

オーダーを生成するためには、オーダーを充当する仕入先、オーダーを要求している事業所、出荷先住所などの情報を提供する必要があります。これをオーダー見出し情報といいます。

この見出し情報により、オーダーの処理方法が確定されます。次に例を示します。

- 仕入先情報により、オーダーの送付先住所、オーダーに対する支払期間などが確定される

- 発注元情報により、オーダーを出したビジネスユニットおよび商品とサービスの納入先住所が確定される
- 税情報により、オーダーに対する税計算方法が確定される

見出し情報には、オーダー日付、支払期日、およびオーダー入力した従業員などの参照情報も含まれます。

「購買オーダー入力」の処理オプションを使用して、明細フォームの前に見出しフォームを表示できます。処理オプションの設定に応じて、特定のフィールドが見出しフォームに表示されます。見出し情報を入力しない場合は、ある程度の見出し情報を明細フォームに入力する必要があります。入力する仕入先および事業所に基づいて、見出しフォームのフィールドにデフォルト値が入力されます。

## 外貨建てオーダーの見出し情報

海外仕入先から商品またはサービスを購入する場合、カナダ・ドルや円、ユーロなど、異なる通貨でオーダー金額を入力することがあります。これを実行する前に、見出しフォームに次の情報を入力してください。

- 仕入先の外貨使用の有無
- 仕入先が使用する通貨のタイプ

仕入先に対して設定したデフォルト通貨があれば、その通貨が「オーダー見出し」フォームの「通貨」フィールドに入力されます。この値は仕入先マスターからのデフォルト値です。

- 自社の基本通貨
- 通貨の為替レート

この情報は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理システムから表示されます。

## 仕入先情報

支払条件、貨物取扱、請求方法などに関して各仕入先とそれぞれ個別の取り決めを行うことがあります。購買オーダーの見出し情報を入力する際に、オーダーの仕入先、およびその仕入先との間で合意が成立している特定の購買契約を指定する必要があります。

購買指示を設定して、各仕入先との購買契約を指定できます。購買オーダーに仕入先を入力すると、その仕入先に対する指示が検索されます。また、特定の購買オーダーに合わせて指示を修正することもできます。

オーダーの仕入先を入力するには、その仕入先が JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムに存在している必要があります。存在しない場合は、購買オーダーの見出し情報を入力する際に JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムに入力できます。仕入先情報がまだ存在しない場合、仕入先に対してマスター情報を入力することもできます。

仕入先に購買指示を設定した場合、オーダーに対して入力する仕入先に基づいて「オーダー見出し」フォームのいくつかのフィールドにデフォルト値が入力されます。また、「仕入先マスターの処理」フォームには、「オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューから「仕入先マスター」を選択するとアクセスできます。

「オーダー住所情報」フォームにアクセスすると、仕入先の仮住所を入力できます。

## 特定の事業所の情報

自社における特定の事業所、ビジネスユニット、プロジェクト、作業に対してオーダーを生成します。ほとんどの場合、商品はオーダーを要求した同じ事業所に発送されます。しかし、別の場所に商品を発送する場合もあります。



オーダーを入力する際は、事業所、ビジネスユニット、プロジェクト、作業を指定する必要があります。事業所を入力すると、出荷先住所が住所録に存在する場合には、出荷先住所が事業所固定情報から取り込まれます。オーダーを入力した事業所とは異なる出荷先に出荷する場合は、出荷先住所番号を一時変更します。

### 配送指示と出荷指示

また、オーダーの配送に対する指示を入力できます。たとえば、商品を倉庫の特定ドックに配送するように指定できます。仕入先マスター(F0401)で出荷先住所に設定したデフォルトの配送指示を取り込むように設定できます。

オーダーを入力するときに、仕入先に対して納入日を指定することがあります。仕入先が要求した日付までに納品できない場合、仕入先が約束した納入の日付を指定できます。さらに、オーダーする日付およびオーダーが失効する日付も指定することもできます。

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで直送オーダーを作成すると、対応する直送購買オーダーが自動的に作成されます。直送購買オーダーに対して仕入先が約束した納入日を変更する場合、対応する受注オーダーの納期が自動的に変更されます。

### オーダーの税

ほとんどのビジネス環境で、購買品目に対して税金を支払うことが要求されます。オーダーに入力した税情報に基づいて、購買オーダーに対する税額を計算できます。

仕入先に対して設定したマスター情報に基づき、税フィールドにデフォルト値が入力されます。購買オーダー・プログラム(P4310)の処理オプションを使用して、出荷先住所に対して設定したマスター情報から税率/税域用にデフォルト値を取り込むように指定できます。

Vertex Sales Tax Q SeriesシステムをJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアと連携させて使用している場合、オーダーに適用される税率を確定する際にデフォルトの地理コードが取り込まれます。

オーダーに複数の品目がある場合は、税情報を各品目またはサービスに対応するように変更できます。明細行が課税対象であると指定した場合にのみ、その品目またはサービスに対して税が適用されます。

### 承認処理

調達サイクルに従って処理を進める際にオーダーの承認が必要な場合には承認処理を使用しますが、この処理を使用するには、「購買オーダー入力」の処理オプションの「承認」を設定します。承認処理を使用する場合、承認経路の名称が見出しフォームに表示されます。オーダー入力後に承認経路の名称は変更できないため、処理オプションの設定時にその経路名称が正しいことを確認してください。

### 上級価格設定情報

また、「追加情報」フォームで調整スケジュールを入力して、上級価格設定情報を設定できます。このフォームには「仕入先マスターの改訂」からアクセスできます。この情報を設定する前に、価格設定固定情報がアクティブになっていることを確認してください。

### 追加のオーダー見出し情報

オーダーに対して情報を追加する場合があります。たとえば、次の情報を組み込むことができます。

- オーダーの担当者
- オーダーの購買品目およびサービスの調達を担当する購買担当者
- オーダーの配送を請け負っている会社
- オーダーの確認番号、伝票番号、作業番号
- その他の注記

見出し情報を入力するときにオーダー用の参照情報を入力できます。参照情報は主に、情報提供の目的に使用します。

オーダーに印刷するために、その他の注記を添付できます。

### 関連項目:

第 7 章、「仕入先情報の設定」、「仕入先および品目情報の設定について」、67ページ

第 10 章、「購買オーダーの入力」、「明細行の税情報入力」、131ページ

JD Edwards EnterpriseOne 住所録 9.0 製品ガイド、「住所録レコードの入力」、「住所録レコードの追加」

## 事前設定

「処理」タブの適切な処理オプションを設定して、JD Edwards EnterpriseOne住所録にアクセスできるようにしてください。

## オーダー見出し情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」	既存のオーダー見出し情報を確認します。
オーダー見出し	W4310B	「オーダー見出しの処理」フォームで、「追加」をクリックします。  または、「オーダー見出しの処理」フォームでオーダーを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	税金、メッセージ、オーダー日付、その他の仕入先/オーダー情報を入力します。  <b>注意:</b> 「オーダー見出し」フォームは、購買オーダー入力プログラムの「処理」タブにある「見出し表示」処理オプションを設定して見出しフォームを最初に表示するようにした場合にのみ表示されます。
条項	W4310K	「オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューから「条項」を選択します。	購買オーダーに関連する印刷メッセージの条項を指定します。
オーダー見出し - 追加情報	W4310H	「オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。	オーダーの追加情報(運賃および陸揚費用規則や配送情報など)を入力します。仕入先分類コードを表示します。
オーダー住所情報	W4006B	「オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューから「オーダー住所」を選択します。	このオーダーだけに適用する仕入先の仮住所を入力します。また、出荷先の仮住所の変更も入力できます。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックします。	オーダー明細を表示します。
オーダー見出し - 追加情報II	W4310M	「オーダー明細」フォームの「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。	仕入先分類コードを表示します。
メディア・オブジェクト・ビューア	なし	「オーダー見出し」フォームの「フォーム」メニューから「添付」を選択します。	オーダーの参照情報を入力します。

## オーダー見出し情報の入力

「オーダー見出し」フォームにアクセスします。

### オーダー見出し

**オーダー番号/オーダー・タイプ** 「オーダー見出し」フォームで「OK」をクリックすると、システム43の購買オーダーに対して設定した自動採番方法のオーダー番号が表示されます。オーダー番号は手入力することもできます。

「オーダー・タイプ」処理オプションでデフォルト値として設定したオーダー・タイプが表示されます。

オーダー日付	変更可能な現行日付を表示します。この日付によって、在庫価格設定に使用される有効レベルが決まります。
要求日付	品目の到着予定日付、または作業の完了予定日付を入力します。
約束納入日付	購買オーダーの約束出荷日付を入力します。需要/供給プログラムでは、この日付を使用して約束可能数量が計算されます。この日付は、品目を倉庫から出荷できる日を表します。
取消日付	商品が仕入先から入荷されない場合にオーダーを取り消す日付を入力します。これはメモ専用のフィールドであり、このフィールドによってなんらかの自動処理が実行されることはありません。
印刷メッセージ	印刷メッセージ(40/PM)UDCの値を入力して、オーダーに印刷するメッセージを識別します。
税目コード	税目コード(00/TX)UDCの値を入力して、税額と総勘定元帳の配賦金額の計算方法を識別します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせて税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。
税率/税域	税率と納税先が共通している税域または地域を識別する税域テーブル(F4008)の値を入力します。この税率/税域は、請求書または伝票を作成する際に、税目コードおよび税規則と併せて税額と元帳配賦金額の計算に使用されます。
免税証明	免税対象の個人または法人に対して課税当局が発行した、免税状況を識別する番号を入力します。
支払条件	請求書が割引期日内に支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を指定する値を入力します。
保留コード	保留コード(42/HC)UDCの値を入力して、オーダーが保留されている理由を識別します。
留保率	契約に適用される留保率(支払留保率)を入力します。この留保率は、支払ごとのパーセントです。これは、小数として表されます。たとえば、留保率が10%の場合は、10と表されます。留保率は、99.9%(.999)を超えたり、ゼロを下回ることはできません。
留保金インジケータ	このオプションを選択すると、請求書に留保金が発生したかどうか、留保金を伝票に適用すべきかどうかを確認するために買掛管理の担当者が使用する視覚的なインジケータが表示されます。この値は、「留保率」フィールドの値に制約されません。「留保金インジケータ」が選択されている場合、「留保率」フィールドに値は必要ありません。このフィールドの設定に基づいて機能が実行されることはありません。

## 追加プロパティ

「追加プロパティ」タブは、P4310プログラムの「表示」タブにある「追加プロパティ・タブの表示」処理オプションで有効になっている場合にのみ表示されます。

プロパティ01 から プロパティ12	購買オーダーに関連する1文字のユーザー定義の値を入力します。
--------------------	--------------------------------

プロパティ13	購買オーダーに関連する30文字のユーザー定義の値を入力します。
日付01、日付02	購買オーダーに関連するユーザー定義の日付を入力します。
日付/時刻01、日付/時刻02	購買オーダーに関連するユーザー定義の共通の日付を入力します。この日付と時刻は、時間帯に関連付けられています。
住所録01、住所録02	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号を入力します。この番号は、住所録レコードに関する情報の検索および入力に使用できます。詳細住所や税IDなど、住所録番号(AN8)以外の値を入力した場合は、住所録固定情報で定義した特殊文字を前に付ける必要があります。レコードが検出されると、そのレコードの住所録番号がこのフィールドに表示されます。</p> <p>たとえば、住所録番号4100(Total Solutions)の詳細住所がTOTALで、住所録固定情報で定義した詳細住所を区別する記号が*(アスタリスク)の場合、このフィールドに「*TOTAL」と入力して検索すると、4100が表示されます。</p> <p>購買オーダー入力プログラムの「表示」タブで「住所録フィールドを必須にする」処理オプションを設定して、フィールドの値が必須かどうかを指定する必要があります。</p>

## カテゴリ・コード

「カテゴリ・コード」タブは、P4310プログラムの「表示」タブにある「見出しタブと詳細グリッドでのカテゴリ・コードの表示」処理オプションで有効になっている場合にのみ表示されます。

カテゴリ・コード01	購買オーダーに関連する値をUDC 43/C1から入力します。
カテゴリ・コード02	購買オーダーに関連する値をUDC 43/C2から入力します。
カテゴリ・コード03	購買オーダーに関連する値をUDC 43/C3から入力します。
カテゴリ・コード04	購買オーダーに関連する値をUDC 43/C4から入力します。
カテゴリ・コード05	購買オーダーに関連する値をUDC 43/C5から入力します。
カテゴリ・コード06	購買オーダーに関連する値をUDC 43/C6から入力します。
カテゴリ・コード07	購買オーダーに関連する値をUDC 43/L1から入力します。
カテゴリ・コード08	購買オーダーに関連する値をUDC 43/L2から入力します。
カテゴリ・コード09	購買オーダーに関連する値をUDC 43/L3から入力します。
カテゴリ・コード10	購買オーダーに関連する値をUDC 43/L4から入力します。
カテゴリ・コード11	購買オーダーに関連する値をUDC 43/L5から入力します。
カテゴリ・コード12	購買オーダーに関連する値をUDC 43/L6から入力します。

## 追加のオーダー見出し情報の入力

「オーダー見出し - 追加情報」フォームにアクセスします。

### 追加情報

価格設定グループ	この顧客または仕入先に関連付けられている価格設定グループを識別する顧客価格グループ(40/PC)UDCにある値を入力します。
----------	--

貨物/運賃取扱コード	貨物/運賃取扱コード(42/FR)UDCにある値を入力します。これにより、いつ商品の責任を負い、それに応じて運賃が適用されるかが識別されます。
陸揚費用規則	<p>品目の陸揚費用規則を示す陸揚費用規則(41/P5)UDCにある値を入力します。</p> <p>陸揚費用規則により、業者手数料やコミッションなどの品目の実際の価格を超える購買価格が決まります。陸揚費用規則は、「陸揚費用の改訂」フォームで設定します。</p>
送付方法	仕入先に伝票を送付する場合に使用する方法を示す送付方法(00/SM)UDCにある値を入力します。このフィールドに関連付けられている自動処理はありません。かわりに、コードを特定の手順のデータ選択基準として使用できます。
評価済み入荷	オーダーが評価済入荷決済に適しているかどうかを示す評価済入荷(40/ER)UDCにある値を入力します。評価済入荷決済は、受け取った品目に基づいて伝票を作成するための仕入先との契約があることを表します。入荷レコードから伝票を作成するには、評価済入荷決済(R43800)プログラムを使用します。その結果として、仕入先は請求書を送付しないため、伝票照合処理は省略できます。
仕入先受注オーダー	相互参照番号または2次参照番号として使用する英数値を入力します。通常は、顧客番号、仕入先番号、または作業番号を入力します。
参照	仕入先の入札伝票番号、見積伝票、受注オーダー、作業オーダー、作業番号などの参照番号を入力します。
配送指示1	このオーダーの配送指示を表すテキストを入力します。この情報を設定した場合、この情報は出荷先住所の購買指示から取得されます。
配送指示2	このオーダーの配送指示を表す追加のテキストを入力します。この情報を設定した場合、この情報は出荷先住所の購買指示から取得されます。
価格調整スケジュール	価格および調整スケジュールを識別する調整スケジュール(40/AS)UDCにある値を入力します。価格調整スケジュールには、顧客または品目に適用される調整タイプが1つ以上含まれます。調整は、スケジュールで指定した順序に従って適用されます。顧客請求指示を使用して、価格調整スケジュールに顧客に関連付けます。受注オーダーを入力すると、販売先住所に添付されたスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。このスケジュールは、明細行レベルで一時変更できます。
仕入先分類コード	
分類コード01	JD Edwards EnterpriseOne住所録システムからの仕入先分類コードが表示されます。このコードは、UDC 01/CAの値を使用して住所録の法人を分類します。
分類コード02	JD Edwards EnterpriseOne住所録システムからの仕入先分類コードが表示されます。このコードは、UDC 01/CBの値を使用して住所録の法人を分類します。
分類コード03	JD Edwards EnterpriseOne住所録システムからの仕入先分類コードが表示されます。このコードは、UDC 01/CCの値を使用して住所録の法人を分類します。

**分類コード04**

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムからの仕入先分類コードが表示されます。このコードは、UDC 01/CDの値を使用して住所録の法人を分類します。

**分類コード05**

JD Edwards EnterpriseOne住所録システムからの仕入先分類コードが表示されます。このコードは、UDC 01/CEの値を使用して住所録の法人を分類します。

---

## オーダー明細情報の入力

この項では、オーダー明細情報入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 品目番号別明細行の入力
- 勘定科目コード別明細行の入力
- 複数の勘定配賦の入力
- 明細行の税情報入力
- 明細行の値引条件入力
- 明細行のレポート・コード入力
- 変更オーダーの入力
- 代替品目または置換品目の入力
- キット・オーダーの入力
- 変更オーダーのコピー

### オーダー明細情報の入力について

オーダーを充当する仕入先やオーダーを要求する事業所など、オーダーの見出し情報を入力したら、調達する各品目またはサービスに関する情報を「オーダー明細」フォームに入力します。各品目またはサービスに関し、次の情報を明細行に入力してください。

- 調達する品目またはサービス
- 調達する数量
- 品目またはサービスの原価

会社の業務目的に合せて、次のオーダー明細行の入力方法を使用できます。

- 品目番号別
- 総勘定元帳の勘定科目コード別

小売り、内部使用、製造目的で品目を保管する在庫作業を実行する場合、品目番号別に明細行を入力する必要があります。内部用に、または特定の作業やプロジェクトのために商品やサービスを購入する場合、勘定科目コード別、品目番号別、あるいは両方で明細行に入力できます。

在庫品目の場合は、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムで設定した品目番号を入力して購入します。明細行に品目番号を入力した後、システムは次の処理を実行します。

- 品目がJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムに存在するかどうかを検証する
- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムからの品目に対する情報を取り込む

明細行のデフォルト値は、オーダーの見出し情報に基づいて自動入力されます。各品目の仕入原価、名称、単位などの情報は自動的に明細行に表示されます。購買目的に合った情報を基に、各明細行に対する情報を追加および変更できます。たとえば、在庫用に品目を購入する場合、品目の単位を指定する必要があります。また、入荷時に品目を保管する保管場所や品目の重量、容量、ロット、製造情報の指定も可能です。資産IDと陸揚費用規則を指定できます。各明細行には注記や説明テキストを添付できます。

仕入先が提供する品目用にインターネットのホームページを開設している場合、オーダー明細情報を入力する前に、仕入先の情報を電子カタログでプレビューできます。「オーダー明細」からフォーム・エグジットを選択して、仕入先情報をプレビューします。

各明細行に税情報を入力して、購入する商品やサービスにかかる税額を計算できます。仕入先がオーダーに値引を適用する場合、値引条件を入力できます。明細行にレポート・コードを割り当てることにより、レポート用に品目をグループ化できます。

仕入先が自社の基本通貨とは別の通貨を使用する場合、外貨で原価を入力してください。

明細行の既存品目を、代替品目または置換品目に置き換えることができます。たとえば、明細行に入力した品目が仕入先で品切れの場合、代替品目のリストを検討してかわりの品目を選択できます。

既存のオーダーについては、「オーダー明細」フォームを使用して、品目や勘定科目コード、オーダー数量、価格、合計容量および重量、税合計、合計金額などオーダー集計情報を検討します。

購入の必要がなくなった品目またはサービスが明細行に含まれる場合は、明細行の取消が必要になります。行を取り消すと「前の状況」には980(オーダー入力時の取消し)、「次の状況」には999が割り当てられ、購買処理は完了したことになり行が締められます。オーダーの検討時に締切済行を表示する場合は、「購買オーダー入力」の処理オプションでそのように設定できます。終了行を削除する場合、除去を実行してください。

ソフトウェアの出荷時には、システムは数多くのグリッド・フォーマットを備えています。多くの対話型バージョンでは、Webパフォーマンスを節約するために一部のグリッド・カラムが非表示になっています。バージョンと対話していて、特定のグリッド・カラムが非表示になっている場合は、「すべてのカラムを表示」のグリッド・オプションを選択します。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで直送オーダーを作成すると、対応する直送購買オーダーが自動的に作成されます。直送購買オーダーの原価を変更した場合、対応する受注オーダーの原価も自動的に変更されます。

購買オーダーのすべての明細行を入力すると、オーダー値が購買指示の仕入先に対して特定した最大オーダー値を上回る場合、または最小オーダー値を下回る場合には、警告メッセージが表示されます。

各明細行の処理方法を確定します。たとえば、入荷時にJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムの在庫状況を更新するようにシステムに指示できます。また、行タイプ(Y、B、Dなど)を明細行に割り当ててJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムとJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムがインターフェイスをとるように指示していれば、発注する品目の単位原価を自動的に読み込ませることも可能です。行タイプは、そのトランザクションが他のJD Edwards EnterpriseOneシステムとどのように連動するかを明細行ごとに指示します。

非在庫環境では、特定の作業またはプロジェクトで使用する品目を頻繁に購入する場合があります。また、在庫環境においても、事務用品などの在庫管理を行わない品目を購入することがあります。いずれの場合も、行タイプをNまたはBに指定してトランザクションがJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムに影響しないように指示すると、品目番号を入力して非在庫品目を購入できます。

入力する明細行情報が他のシステムに影響するもう1つの例として、総勘定元帳情報があります。明細行に入力した元帳クラス・コードにより、仕訳が作成される対象になる棚卸資産勘定および入荷請求仮勘定が確定されます。これらの仕訳は、入荷を入力した時点で作成されます。



## 勘定科目コード別の明細行

内部使用、または特定の作業やプロジェクト用にサービスや商品を購入する環境では、購買費用を総勘定元帳の勘定科目コードに計上します。購買を計上する各勘定科目に対して明細行を入力します。これにより、作業やプロジェクト別に元帳に費用を反映させられます。

勘定科目コード別に明細行を入力すると、コミットメントおよび予算のトラッキングを実行できます。たとえば、事務用品を表す特定の勘定科目コードがあります。勘定科目コードに対して商品の購買を計上する際には常に、次の処理を実行できます。

- 購買コミット済事務用品の金額および数量のトラッキング
- 事務用品の原価が事務用品の予算を超過していないことの検証

各明細行の処理方法を確定します。たとえば、勘定科目コードと品目番号の両方を基に行を処理するようにシステムに設定できます。行タイプは、そのトランザクションが他のJD Edwards EnterpriseOneシステムとどのように連動するかを明細行ごとに指示します。

勘定科目コードを基に入力する場合、在庫インターフェイスをAまたはBにしてください。

明細行に総額を入力する場合は、在庫インターフェイスにAまたはNを入力してください。

入力する明細行情報が他のシステムに影響する最後の例には、総勘定元帳情報があげられます。明細行に入力する元帳クラス・コードを基に、総勘定元帳の購買経費がトラッキングされます。この元帳クラス・コードにより、公式な入荷情報を入力する場合に与信が適用される入荷請求仮勘定が確定されます。

## 複数勘定配賦

AまたはBの在庫インターフェイスがあるオーダー明細行を入力する場合、勘定配賦の入力プログラム(P4316)を使用して、パーセント別、金額別、または数量別に複数の勘定科目間で配賦できます。JD Edwards EnterpriseOne調達管理機能は、次の複数勘定配賦と組み合わせて使用できます。

- 引当
- 承認プロセス
- 予算
- 税(F4311テーブル・レベルで割り当てられる)
- オーダー改訂
- 監査履歴
- 買掛(A/P)照合のためのサービス・ユニット
- 伝票照合時の経費処理
- 運賃の配賦

この機能を複数勘定配賦と合せて使用している場合、情報はF4316テーブル・レベルで処理されます。(複数勘定配賦を使用していなければ、情報はF4311レベルで処理されます。)

購買オーダー明細行の数量または金額を変更し、複数勘定配賦機能を使用している場合は、勘定配賦の入力プログラム(P4316)で自動的に数量または金額が再配賦され、コミットメントが更新されます。

複数勘定配賦が含まれている購買オーダーをコピーした場合は、新しい購買オーダーでも複数勘定配賦が維持されます。

F4311テーブルの複数配賦が含まれている明細行にアクセスすると、F4311テーブル・レベルで\*\*\*勘定配賦\*\*\*として勘定科目コードが表示されます。

## 出荷情報

オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムを使用している場合、処理オプションを設定するとUDCテーブル(49/SD)で定義したオーダー・タイプと行タイプの組合せに基づいて、購買オーダーの出荷が自動作成されます。ここで言う出荷は、事業所から顧客へ商品を配送する要求を指します。オーダー入力時に運送業者と輸送モードを入力しない場合、デフォルトの運送業者と輸送情報が次のいずれかから取得されます。

- 事業所品目情報
- 顧客マスター情報
- 在庫引当優先情報

JD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムで配送経路オプションを検討するときに、運送業者と輸送モードも検討および改訂できます。前述のマスター・テーブルまたはオーダー入力時のどちらにも運送業者を指定しない場合には、「運送業者」優先情報に基づいて運送業者と輸送モードの値が自動入力されます。

## 明細行の税情報

明細行に特定の税情報を入力できます。この税情報は、明細行の品目またはサービスに税が適用されるかどうか、および税がシステム上でどのように計算されるかを確定します。

オーダーに対して入力した税情報に基づいて、各明細行のデフォルト税情報が取り込まれます。明細行の税情報がオーダーの他の部分の情報と異なる場合は、その明細行に対応するように税情報を変更できます。

Vertex Sales Tax Q SeriesシステムをJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアと連携させて使用している場合、オーダーに適用される税率を確定する際にデフォルトの地理コードが取り込まれます。

参照: 第 3 章、「Vertex Sales Tax Q Seriesについて」、「Vertex Sales Tax Q Seriesシステムの互換性」、15ページ

## 明細行の値引条件

明細行に値引条件を入力することにより、仕入れる品目の値引額を計算できます。たとえば、仕入先が特定の品目について10%値引すると仮定します。

このとき、明細行に特定の値引係数を入力できます。品目の原価は、値引係数に基づいて明細行に入力されます。たとえば、品目の値引率を10%と指定するには、値引係数は90と入力します。品目の単位原価が通常10.00の場合、単位原価は9.00と入力されます。

また、価格規則に基づいて品目に対する値引を指定することもできます。品目の単位原価に対し、価格規則で設定した値引に基づいて値引が適用されます。次のような場合、デフォルトの価格規則が取り込まれます。

- 品目の事業所情報に価格規則を添付した場合
- 品目を購入する仕入先(または仕入先の価格グループ)に価格規則を添付した場合

## 明細行のレポート・コード

類似した特徴を持つ明細行をグループ化し、グループを指定してレポートを生成する場合があります。たとえば、電気工事品目用の明細行をグループ化して、電気工事品目の発注残レポートを作成できます。明細行をグループ化するには、各行にレポート・コードを割り当てます。レポート・コードは、「品目/事業所情報」フォームで品目の分類コードに関連付けられたデフォルトのコードです。

レポート・コードのうち5つのカテゴリを購買用に使用できます。それぞれのカテゴリは特定のコード・グループを示します。たとえば、商品用のカテゴリがあるとします。このカテゴリ内に異なるコードがあり、それぞれがアルミニウムまたは銅など、商品の特定タイプを表します。

## 変更オーダー

変更オーダーを作成すると、入力したコミットメントの詳細を変更できます。変更オーダーによりコミットメントの情報が更新され、そのオーダーの変更レコードが作成されます。たとえば、オーダーのコミット済金額を100だけ増加するには、その100に対して変更オーダーを入力します。

「購買オーダー入力」の処理オプションの「表示」および「処理」タブで、行品目別に当初のコミットメント情報を変更できるかどうか、または変更オーダーを入力する必要があるかどうかを指定できます。

変更履歴はシステムにより管理されます。変更オーダー情報を入力した後、契約の各行品目に対して記述テキストを入力できます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムとJD Edwards EnterpriseOne価格管理システムを併用している場合、変更オーダーの価格設定に調整スケジュールは使用されません。

## 代替品目または置換品目

品目のオーダーを入力しても、仕入先がそのオーダーを満たすだけの数量を持っていないことがあります。代替品目のリストを検討して、明細行の品目を置き換える品目を選択できます。明細行の品目が旧品目であることが通知された場合には、その品目に対する置換品目を選択できます。

表示される代替品目または置換品目は、購買オーダー入力プログラムおよび購買オーダー・ワークベンチ・プログラムの処理オプションで指定する、JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムとの相互参照タイプを基準にしています。

明細行を入力した後で代替品目または置換品目を検討するかどうかを指定できます。明細行の品目番号、品目記述、および原価を、代替品目または置換品目のものに自動更新させることもできます。

## キット・オーダー

キット品目は親品目と関連する構成品目で構成されています。キットは、組合せになっている製品を販売する際に役に立ちます。たとえば、ステレオ・システムを販売する場合、ステレオという親名でキットを設定できます。ステレオ・キットには、スピーカーやCDプレーヤーなど、通常はセットで販売する構成品が含まれます。ステレオ・キットの品目番号は、購買オーダーに入力する際には使用できますが、ステレオは在庫品目としては保管されません。

品目番号を入力する際に、事前を選択したキットの構成品とその数量を検討できます。また、この際に購買オーダーに含めるオプション品目を選択することも可能です。

キットの数量情報を変更する場合は、対応する原価情報は手作業で調整してください。構成品行を取り消す場合は、各行を別々に取り消す必要があります。

## 買掛金照合のためのサービス・ユニット

AおよびBの在庫インターフェイスを持つサービス購買オーダー行にのみ、一括処理を実行できます。一括処理とは、行項目(金額や単位時間または単価など)によって買掛管理(A/P)に必要な照合の基準を識別して強制する機能です。そのため、1つのサービス行にユニットを入力するだけで、合計金額に基づいて伝票処理を実行し、数量を記録のためだけに使用できます。

「サービス数量」と「サービス単位」のフィールドを使用して、参照用(メモのみ)のサービス・ユニットを入力します。サービス・ユニットによって、計算のロジックなしにオーダー上に数量と単位を持つことができます。値の検証は行われず、これらのフィールドへの変更によって合計金額が再計算されることはありません。

あらゆる点で、コミットメントや入荷、伝票照合およびその行と連携する他のプログラムとのインターフェイスをすべて持ち合せた、純粋に勘定に基づいたものとして行が処理されます。伝票照合中に入力されたユニットの検証は省略され、金額のみが照合されます。オーダー入力時にサービス・ユニットが追加されていなくても、伝票照合時にサービス・ユニットを追加できます。コミットメントは、合計金額フィールドに変更があった場合にのみ作成およびリリースされます。こうすることで、サービス・ユニット情報は総勘定元帳レコードに読み込まれますが、コミットメント処理には何の関係もありません。

サービス・ユニットは、仕訳を書き込む際に取引明細 (F0911)、購買オーダー明細実績テーブル (F43199) および勘定残高 (F0902) テーブルに読み込まれます。

サービス・ユニットを有効にするには、「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションを選択します。非在庫インターフェイス A および B に対してのみ、サービス・ユニットのフラグがチェックされているかどうかを検証されます。また、P4310 の処理オプションの「表示」タブで「サービス・ユニットの表示」処理オプションを設定してください。

この処理オプションが設定されている場合、「サービス数量」と「サービス単位」のフィールドが「オーダー明細」フォーム (W4310A) に表示されます。「オーダー明細」フォームに「サービス数量」と「当初数量」のフィールドが表示されますが、同じ行で両方のフィールドを使用することはできません。

コミットメント用に購買オーダー元帳を作成するために購買オーダー明細実績テーブル (F43199) が更新されるときに、サービス・ユニットは通常のユニットに影響しません。

---

**注意:** 転送オーダーや直送オーダー、オーダー生成プログラムなど、P4310 で直接作成されていない購買オーダーからは、「サービス数量」および「サービス単位」フィールドにアクセスできません。購買オーダーが作成されたら、P4310 でそのオーダーにアクセスして、これらのフィールドに値を入力できます。

---

さらに、イベントの分析プログラム (P43Q50) を使用したソーシングでもサービス・ユニットのフィールドは処理されません。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、27 ページ

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「購買オーダー (P4310) の処理オプションの設定」、97 ページ

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「品目番号別明細行の入力」、128 ページ

## 事前設定

オーダー明細情報を入力する前に、次の作業を行ってください。

- 「購買オーダー入力」の処理オプションを使用して、各明細行に現行の状況コードおよび次状況コードが入力されるように設定します。

これらのコードにより、購買処理における明細行の次の処理が確定されます。

- 「購買オーダー入力」の処理オプションを使用して、見出し情報への変更により明細行が更新する方法を設定します。

見出し情報を自動更新するように処理オプションを設定しない場合、「オーダー見出し」フォームで手入力が必要があります。「フォーム」メニューで「見出しから明細へ」→「定義」を選び、更新するフィールドを指定して、「見出しから明細へ」→「自動入力」を選択してください。

- キット・オーダーを入力する前に、購買オーダー・プログラム (P4310) で、キット構成品行を表示する処理オプションが正しく設定されているか確認してください。

また、キット品目が設定されていることも確認します。

## オーダー明細情報の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー明細	W4310A	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」 「オーダー見出しの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。 または、「オーダー見出しの処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューから「明細の改訂」を選択します。	オーダー明細情報を入力します。 追加プロパティおよびカテゴリ・コードにユーザー定義の値を入力します。  参照: 第 10 章、「 <u>購買オーダーの入力</u> 」、「 <u>オーダー見出し情報の入力</u> 」、117 ページ
条項	W4310K	「オーダー明細」フォームの「フォーム」メニューから「条項」を選択します。	購買オーダーに関連する印刷メッセージの条項を指定します。
オーダー明細 (ページ 1)	W4310F	「オーダー明細」フォームの「ロー」メニューから「追加情報 1」を選択します。	オーダー明細情報を入力します。
オーダー明細 (ページ 2)	W4310E	「オーダー明細」フォームの「ロー」メニューから「追加情報 2」を選択します。	オーダー明細情報を入力します。
オーダー見出し - 追加情報 II	W4310M	「オーダー明細」フォームの「フォーム」メニューから「追加情報」を選択します。	仕入先分類コードを表示します。  参照: 第 10 章、「 <u>購買オーダーの入力</u> 」、「 <u>追加のオーダー見出し情報の入力</u> 」、119 ページ
勘定配賦の入力	W4316A	「オーダー明細」フォームでオーダー明細行を選択し、「ロー」メニューから「勘定配賦」を選択します。	パーセント別、数量別、または金額別に複数の勘定科目間で配賦します。  <b>注意:</b> 勘定配賦情報を入力するときには、方法 (パーセント、数量、または金額) を選択できます。ただし、オーダー明細行を変更した場合は、複数の勘定科目間で配賦したときの当初の方法は変更できません。
代替品目	W41043C	「オーダー明細」フォームの「ロー」メニューから「代替品目」または「旧品目」を選択します。	代替品目または置換品目を入力します。
キット選択	W41351A	「オーダー明細」フォームの「ロー」メニューから「キット品」を選択します。	キット・オーダーを入力します。

品目番号別明細行の入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

購買オーダーの入力 - オーダー明細

OK(O) 取消(L) フォーム(E) ロー(R) ツール(T)

オーダー明細

行デフォルト

追加プロパティ

カテゴリ・コード

オーダー番号

501

OP

00200

事業所

M30

仕入先

4242

Capital System

出荷先

4242

Capital System

オーダー日付

2008/03/26

保留コード

プランタ - 保留コード 42/HC

オーダー添付

留保率

通貨

USD

為替レート

基本通貨

USD

外貨

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

	変更オーダー	品目 No.	オーダー数量	レコード単位	2次単位オーダー数量	2次単位	単価	合計原価	購買単位	行タイプ	記述1
<input type="checkbox"/>	000	210	1	EA	1	EA	530.1000	530.10	EA	S	Mountain Bik

「オーダー明細」フォーム

事業所

原価のトラッキング対象となるビジネスの個別の組織を表すコードを入力します。たとえば、倉庫保管場所、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、事業体、または個人に割り当てて、管轄別のレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別の未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの設備をトラッキングできます。ビジネスユニットにセキュリティが設定されていると、権限のないユーザーにはビジネスユニットに関する情報が表示されない場合があります。

レコード単位（取引単位）

表示される在庫品目の数量単位を示すUDC 00/UMの値を入力します。レコード単位の例としては、CS（ケース）やBX（箱）があります。

2次単位オーダー数量

品目の代替数量を指示する値を入力します。このフィールドは、「2次単位」フィールドと合せて使用されます。

2次単位

品目の代替単位を示すUDC 00/UMの値を入力します。

合計原価

数量に単価を掛けた値を表示します。

行タイプ

取引行の処理方法を制御するコードを入力します。行タイプは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理など、トランザクションがやり取りをするシステムを制御します。また、行タイプでは、行をレポートに印刷する場合や、行を計算に組み込む場合の条件も指定されます。値は次のとおりです。

S: 在庫品目

J: 作業原価

	<p>N: 非在庫品目</p> <p>F: 運賃</p> <p>T: テキスト情報</p> <p>M: その他の料金および貸方</p> <p>W: 作業オーダー</p>
資産ID	<p>代替資産ID番号として使用できる25文字の英数字コードを入力します。場合によっては、この番号を使用して、製造業者のシリアル番号で資産をトラッキングできます。シリアル番号を使用して資産を識別することは必須ではありません。入力するシリアル番号は、それぞれ固有である必要があります。</p>
レポート・コード1	<p>組織内の購買機能担当者にとって意味のある方法で在庫のセグメントを区別するコードを入力します。在庫の性質によっては、このコードを使用して、色、生産国、主内容、季節要因、リポート・グループなどの属性を設定できます。</p>
相手勘定	<p>請求書や伝票の転記時に相手勘定として使用する取引勘定科目を決定するコードを入力します。AAI項目RC(売掛管理)またはPC(買掛管理)とこの値を組み合わせて、取引勘定科目が検索されます。たとえば、TRADと入力すると、AAI項目RCTRAD(売掛管理)またはPCTRAD(買掛管理)が検索されます。</p> <p>相手勘定を表す最大4文字の英数字、または(多通貨環境でトランザクションを入力する場合は)3文字の通貨コードを割り当てることができます。ただし、対応するAAI項目をシステムに設定しておく必要があります。この設定がない場合は相手勘定は無視され、指定された会社のPCまたはRCに設定されている勘定科目が使用されます。</p> <p>顧客または仕入先レコードの「相手勘定」フィールドにデフォルト値を設定した場合、一時変更しないかぎり、取引入力中はこのデフォルト値が使用されます。</p> <p>コード9999は使用しないでください。これは、転記プログラム用の予約コードで、相殺を行わないように指定するものです。</p>
職務タイプ	<p>JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理システムからの職務タイプが表示されます。職務タイプは購買オーダー行で一時変更できます。</p> <p>職務タイプを一時変更する場合、組織内の職務を定義する値を入力してください。UDC 06/Gの値を使用できます。給与と福利厚生情報を職務タイプに関連付け、その情報をその職務タイプに関連する従業員に適用します。</p> <hr/> <p><b>注意:</b> サービス請求管理固定情報プログラム(P48091)で「米国公共事業契約勘定使用」オプションを選択した場合、「オーダー明細」フォーム(W4310A)および契約明細フォーム(W4310A)で「職務タイプ」フィールドが表示され、有効になります。</p> <hr/>
カテゴリ・コード01	<p>購買オーダーに関連する値をUDC 43/C1から入力します。</p>
カテゴリ・コード02	<p>購買オーダーに関連する値をUDC 43/C2から入力します。</p>
カテゴリ・コード03	<p>購買オーダーに関連する値をUDC 43/C3から入力します。</p>

<b>カテゴリ・コード04</b>	購買オーダーに関連する値をUDC 43/C4から入力します。
<b>サービス数量</b>	購買オーダー上の非在庫品目またはサービス行に対して引き当てられたユニット数を表す値を入力します。このフィールドは単独で機能し、合計原価を計算するための単位原価とは関係がありません。サービス・ユニットを使用する場合、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムの「オーダー明細」フォームにある「オーダー数量」フィールドは使用できません。
<b>サービス単位</b>	購買オーダー上の非在庫品目またはサービス行に対して引き当てられた数量の単位を指定する値をUDC 00/UMから入力します。

## 勘定科目コード別明細行の入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

### 行デフォルト

「行デフォルト」を選択します。

<b>勘定科目コード</b>	<p>総勘定元帳の勘定科目を識別する値を入力します。勘定科目コードの入力には、次のいずれかの形式を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準勘定科目コード(ビジネスユニット・主科目・補助科目または任意形式)。</li> <li>第3勘定科目(最大25桁)。</li> <li>略式ID。8桁の数字です。</li> <li>スピード・コード(AAI項目SPに付ける2文字のコード)。勘定科目コードのかわりにこのコードを入力できます。</li> <li>最初の文字は勘定科目コードの形式を示します。勘定科目コードの形式は、一般会計固定情報で定義します。</li> </ul>
<b>補助科目</b>	<p>主科目の下の科目区分を識別する値を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。</p> <p>任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力する場合と「456」と入力する場合は異なります。「456」と入力すると、スペースが3つ追加されるため結果が異なります。</p>
<b>主科目</b>	<p>勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分の値を入力します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。</p> <p>任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力する場合と「456」と入力する場合は異なります。「456」と入力すると、スペースが3つ追加されるため結果が異なります。</p>
<b>補助元帳</b>	<p>総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類する補助的なコードを入力します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。</p>
<b>補助元帳タイプ</b>	<p>「補助元帳」フィールドで使用されるUDC(00/ST)の値を入力し、補助元帳タイプおよび補助元帳の検証方法を指定します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコード</p>



はハードコードされているか、またはユーザーが定義します。次の値があります。

A: 英数字フィールド(編集なし)

N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)

C: 英数字フィールド(右揃えブランク補填)

**注意:**「検索」ボタンを「レコード単位」フィールドおよび「購買単位」フィールドでクリックすると、「単位表」フォームにアクセスでき、購買オーダーに入力中の品目に使用できる有効な単位のリストから選択ができます。

## 複数の勘定配賦の入力

「勘定配賦の入力」フォームにアクセスします。

**購買オーダーの入力 - 勘定配賦の入力**

取消(L) ロー(R) ツール(T)

**オーダー明細**

オーダー番号: 4886 OP: 00050

変更オーダー: 000

行番号: 1.000

オーダー数量:

合計原価: 210.00

**配賦**

配賦タイプ: % リフレッシュ

パーセント: 100.0000

数量:

金額: 210.00

配賦済み: 残状況

**レコード 1-2**

勘定科目 コード	元帳 日付	配賦率	配賦額	配賦 数量	勘定科目 記述	ビ ユ
5252.1344	2005/06/06					
	2005/06/06					

「勘定配賦の入力」フォーム

### 配賦タイプ

複数勘定配賦タイプを入力します。値は次のとおりです。

- 1: パーセントによる分割(デフォルト)
- 2: 固定金額による分割
- 3: 固定数量による分割

### 配賦率

勘定科目情報の作成に使用するパーセントを入力します。

### 配賦額

勘定科目情報の作成に使用する金額を入力します。

### 配賦数量

勘定科目情報の作成に使用する数量を入力します。

## 明細行の税情報入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

<b>課税対象</b>	購買時に品目が課税対象になるかどうかを示すコードを入力します。仕入先も課税対象である場合にのみ、品目の税額が計算されます。
<b>税目コード</b>	ハードコード化されたUDC (00/EX) の値を入力します。この値により、税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用するアルゴリズムが制御されます。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせることで税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。
<b>税率/税域</b>	共通の税率と納税先が割り当てられる税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、F4008テーブルに対して検証されます。この税率/税域は、請求書または伝票を作成する際に、税目コードおよび税規則と併せて税額と元帳配賦金額の計算に使用されます。

## 明細行の値引条件入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

<b>値引係数</b>	正味価格を決定するために在庫品目の単価に適用される係数の値を入力します。この品目に規則を割り当てた場合は、在庫価格設定規則からこの値が取得されます。価格設定規則の設定では、この値を単価に掛けるか、単価に加算するか、または単価から差し引くかが決定されます。
<b>品目価格グループ</b>	<p>品目の在庫価格グループを識別するUDC (40/PI) の値を入力します。</p> <p>在庫価格グループには、独自の価格設定構造があり、この構造により、受注オーダーや購買オーダーの品目に組み込まれた値引や割増が適用されます。値引や割増は、オーダーされた品目の数量、金額、または重量に基づいています。品目に価格グループを割り当てると、その品目は在庫価格グループに対して定義されたものと同じ価格設定構造を持ちます。</p> <p>受注オーダーや購買オーダーの値引と割増は、対話形式で計算されるため、品目だけでなく、仕入先や顧客にも在庫価格グループを割り当てる必要があります。</p>
<b>価格カテゴリ・レベル</b>	価格レベルを識別する値を入力します。価格カテゴリや価格規則には、様々なレベルを含めることができます。各価格規則内では、有効日付範囲と許容数量によって、および品目の原価、価格、または一時変更として指定された金額に基づいているかどうかによって、各レベルが定義されます。

## 明細行のレポート・コード入力

「オーダー明細 (ページ 2)」フォームにアクセスします。

## 変更オーダーの入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

## 代替品目または置換品目の入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

## キット・オーダーの入力

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

<b>SEL (選択)</b>	オーダーに含める構成品を選択します。「*」は、構成品が選択されていることを表します。
<b>オプション</b>	<p>部品表またはキット処理内の構成品が標準かオプションかを示します。値は次のとおりです。</p> <p>S: 標準 (デフォルト)</p> <p>この品目は標準であり、部品表またはキット品目に関連するすべてのトランザクションに常に含まれます。</p> <p>O: (任意)</p> <p>オーダー入力では、この品目は任意です。この品目が特定の販売に含まれるかどうかを指定できます。</p> <p>F: フィーチャ品目</p> <p>品目には、オーダーの入力時に指定する必要があるフィーチャがあります。</p>

## 変更オーダーのコピー

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

変更オーダーは、コピーして変更できます。この機能を使えば、複数のオーダーにわたって重複する変更オーダーがある場合に入力時間を短縮できます。

<b>オーダー数量</b>	処理された数量または単位を表示します。
<b>単価</b>	単位に対して請求される価格を隣接するフィールドに表示します。たとえば、基本単位はEA(個)であるものの、通常は箱ごとの表示価格を使用する場合にこのフィールドを使用します。
<b>合計原価</b>	数量に単価を掛けた値を表示します。

オーダーに新規行を追加する場合、既存のすべての明細行から最初のブランク行までスクロールして、正しい番号が各行に割り当てられていることを確認してください。



## 第 11 章

# 購買オーダーの処理

この章では、次の方法について説明します。

- 特殊オーダー入力機能の処理
- 予算の処理
- 保留オーダーの処理
- ログ情報の処理
- バッチによるオーダーの印刷
- オーダーの個別印刷
- オーダー情報の処理

---

## 特殊オーダー入力機能の処理

この項では、特殊オーダー入力機能の概要と次の方法について説明します。

- オーダーの複写
- 購買オーダー・ワークベンチ (P43101) の処理オプションの設定
- 複数の仕入先に対するオーダー入力
- 品目に対する仕入先の選択
- 仕入先カタログを使用した品目入力
- オーダー・テンプレートを使用した品目入力
- 既存明細行からのオーダー作成

## 特殊オーダー入力機能について

時間節約機能をいくつか使用して、オーダー情報を入力できます。たとえば、オーダーを複写して別のオーダーを作成したり、複数の仕入先に対するオーダーを同時に作成したりすることができます。品目および仕入先情報を検索して、購買明細行にその情報を入力する機能もあります。

オーダー入力には、いくつかの特殊な機能があります。

### オーダーの複写

複数のオーダーに同じ情報を入力する手間を省くため、購買オーダーを複写できます。たとえば、購買要求から購買オーダーを作成するように、オーダーを複写して既存のオーダーから新しいタイプのオーダーを作成することもできます。保留中のオーダーは複写できません。

また、複写により、当初オーダーから特定のタイプのオーダーを作成することもできます。「購買オーダー入力」の処理オプションで、複写するオーダーに対してオーダー・タイプを指定します。たとえば、購買要求を複写するたびに購買オーダーを自動作成する場合、購買オーダー用のオーダー・タイプ・コード(通常OP)を入力します。さらに、複写オーダーの明細行に対する状況コードを指定し、当初オーダーに添付されている注記の複写を行うかどうかを指示する必要もあります。

---

**注意:**「留保金インジケータ」チェックボックスが選択されている購買オーダーをコピーすると、処理オプションに関係なく、複製された購買オーダーでもこのチェックボックスが選択されます。

---

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「オーダー見出し情報の入力」、113ページ

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「留保金の処理」、239ページ

---

**注意:** 元の購買オーダーにサービス・ユニットがある場合、処理オプションに関係なく、複製されたオーダーもサービス・ユニットを持ちます。

---

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「購買オーダー(P4310)の処理オプションの設定」、97ページ

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「品目番号別明細行の入力」、128ページ

## 複数の仕入先に対するオーダー

各仕入先に対してそれぞれ購買オーダーを入力するかわりに、同時に複数の仕入先に対して購買オーダーを入力できます。「購買オーダー・ワークベンチ」フォームで、購買する品目と仕入先を指定します。

仕入先が提供する品目用にインターネットのホームページを開設している場合、オーダー明細情報を入力する前に、仕入先および品目情報を電子カタログでプレビューできます。

無許可の状況を持つ仕入先には発注できません。仕入先が部分的に許可されている場合、オーダーを生成する前に警告メッセージが表示されます。仕入先の認可状況は「仕入先/品目関係」フォームで変更できます。

品目の入力後、購買オーダーを作成してください。個々の購買オーダーでは、各仕入先の品目が組み合されます。各明細行の情報は、品目のマスター情報または仕入先の購買指示から取得されます。自動作成された購買オーダーは「オーダー明細」フォームで照会できます。

## 仕入先の選択

品目の発注時に、品目を購入する仕入先を指定します。「仕入先の価格比較」フォームで、特定の品目を提供するすべての仕入先および各仕入先が提示する価格を検討できます。次の条件を満たす品目のみ表示されます。

- 原価を事業所レベルで管理する。
- 仕入価格を仕入先レベルで管理する。

品目を発注する仕入先と数量を決めたら、その値を購買オーダー・ワークベンチ(P43101)にロードします。

## 仕入先カタログ

仕入先では、季節によって変わる製品や異なる製造ラインなどを理由に別々のカタログに製品を登録することがあります。システムでカタログの品目を管理する場合、カタログを使用して発注する品目を検索し、選択できます。

カタログを検索した後で、発注する品目を選択できます。カタログで指定された品目単価と、明細行で選択した各品目が入力されます。仕入先が販売する品目用にWebサイトを開設している場合、仕入先や品目の情報を電子カタログで参照できます。「カタログ品目の選択」フォームからフォーム・エグジットを選択して、品目の情報を参照できます。

注意: 1つの品目の価格が仕入れる数量によって変わる場合があります。「カタログ品目の選択」フォームで、カタログにある品目についてすべての価格を検討できます。複数の価格を持つ品目は数回にわたり表示され、それぞれのリスト項目にその数量に対応した異なるオーダー数量および価格が表示されます。

## オーダー・テンプレート

発注する品目を選択する際に、オーダー・テンプレートを使用して頻繁に発注する品目のリストを検索できます。

それぞれのオーダー・テンプレートには、特定の品目グループが含まれます。購買オーダーの入力時には、特定のテンプレートを選択して検討できます。テンプレートから発注する品目を選択すると、その品目が購買オーダーにロードされます。

オーダー・テンプレートで仕入先を特定することもできますが、特定の仕入先からテンプレート上の品目を仕入れることがあまりない場合は汎用にすることもできます。購買オーダーに仕入先を入力する前にオーダー・テンプレートにアクセスすると、汎用テンプレートのリストを検討できます。

## 既存明細行からのオーダー作成

既存の明細行情報に基づいて新規購買オーダーを自動作成することにより、購買オーダーを手作業で入力する手間が省けます。処理中の明細行が複数の仕入先に適用できる場合、それぞれの仕入先に対して購買オーダーが個別に作成されます。

仕入先1社に対して複数の明細行が存在しているのは、各明細行が異なる事業所に対応しているためです。購買オーダー番号は、仕入先別に自動採番プログラムにより割り当てられます。オーダー番号は手作業で割り当てすることもできます。

作成するオーダーのデフォルト値は、処理オプションで指定できます。指定できる値にはオーダー・タイプおよび開始状況コードがあります。承認経路や予算チェックなど、新規オーダーに対して特殊な処理を指示することもできます。

既存の明細行からの購買オーダーを作成することは、次のようなプログラムを含む JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムのプログラムにおける最終手順です。

- 購買オーダー・ワークベンチ
- 購買要求からの購買オーダー生成
- 一括オーダーからの購買オーダー生成
- 購買要求からの見積生成
- 購買オーダーの生成

## 仕入先分類コード

購買オーダーの生成 (P43032)、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース (P43060)、および見積オーダーのリリース (P43360) プログラムを使用して一括オーダーや購買要求、見積オーダーをリリースする場合、生成される購買オーダーには JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムにある仕入先の住所録レコードからの仕入先分類コードが含まれます。

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「追加のオーダー見出し情報の入力」、119 ページ

## 追加プロパティおよびカテゴリ・コード

追加プロパティおよびカテゴリ・コードは、購買オーダーのユーザー定義情報を読み込みます。購買オーダーの作成時に、「オーダー見出し」フォームまたは「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブおよび「カテゴリ・コード」タブでフィールドに値を入力します。

P4310で直接作成された購買オーダーからは、「オーダー見出し」または「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブと「カテゴリ・コード」タブのユーザー定義フィールドにアクセスできます。転送オーダーや直送オーダー、オーダー生成プログラムなど、P4310で直接作成されていない購買オーダーからは、ユーザー定義フィールドにアクセスできません。購買オーダーが作成されたら、P4310でそのオーダーにアクセスして、ユーザー定義フィールドに値を入力できます。

追加プロパティおよびカテゴリ・コードのユーザー定義フィールドに値を持つ購買オーダーをコピーする場合、処理オプションに関係なく、複製された購買オーダーのフィールドにも値が入ります。

---

**注意:** イベントの分析プログラム (P43Q50) を使用してソーシングを介して作成されたり、SRM - 購買オーダー通知プログラム (P43S01) を使用して仕入先セルフサービスを介して作成された購買オーダー、あるいはEDI受信購買通知プログラム (R47021) を使用してEDIにより作成された購買オーダーでは、ユーザー定義フィールドは処理されません。

---

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「オーダー見出し情報の入力」、117ページ

## 買掛金照合のためのサービス・ユニット

購買オーダーの入力処理中に、サービス購買オーダー行にサービス・ユニットの情報を入力できます。サービス・ユニットは参照専用のため、値の検証は一切行われません。

「購買オーダー・ワークベンチ」(W43101B) フォームおよび「オーダーの選択品目」(W43032B) フォームで「サービス数量」と「サービス単位」フィールドを表示するには、購買オーダー・ワークベンチ・プログラム (P43101) の「表示」タブで「サービス・ユニットの表示」処理オプションを設定します。

イベントの分析プログラム (P43Q50) を使用してソーシングを介して作成されたり、SRM - 購買オーダー通知プログラム (P43S01) を使用して仕入先セルフサービスを介して作成された購買オーダー、あるいはEDI受信購買通知プログラム (R47021) を使用してEDIにより作成された購買オーダーでは、サービス・ユニットのフィールドは処理されません。



## 特殊オーダー入力機能の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」	オーダー見出しを処理します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームでオーダーを選択し、「コピー」ボタンをクリックします。	オーダー明細の検討と変更を行います。オーダーを複写します。
購買オーダー・ワークベンチ	W43101B	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダー・ワークベンチ」	フォームにアクセスして、購買オーダーを処理します。
仕入先の価格比較	W43103C	「購買オーダー・ワークベンチ」で、「フォーム」メニューから「価格比較」を選択します。	品目の仕入先を検索して、価格を比較します。
仕入先カタログの処理	W41061CA	「購買オーダー・ワークベンチ」で、「フォーム」メニューから「カタログ」を選択します。	使用可能なカタログのリストにアクセスします。
カタログ品目の選択	W41061WB	「仕入先カタログの処理」フォームでカタログを選択し、「選択」ボタンをクリックします。	購買オーダーの個々の明細行にある品目を表示します。「OK」をクリックして、購買オーダーを仕入先ごとに自動生成します。個別の購買オーダーを自動生成しない場合、「購買オーダー・ワークベンチ」を終了する前に、その購買オーダーを取り消す必要があります。
オーダー・テンプレートの処理	W4015A	「購買オーダー・ワークベンチ」フォームで、「フォーム」メニューから「オーダー・テンプレート」を選択します。	使用可能なオーダー・テンプレートを処理します。
オーダー・テンプレート	W40215A	「オーダー・テンプレートの処理」フォームでテンプレートを選択し、「選択」ボタンをクリックします。	テンプレートで品目を発注します。「フォーム」メニューから「通常数量の事前ロード」を選択すると、テンプレートのすべての品目を通常数量で発注できます。
オーダーの選択仕入先	W43032A	「購買オーダー・ワークベンチ」フォームで、「フォーム」メニューから「オーダー検討」を選択します。	仕入先および事業所ごとに、すべてのリリースが個別行にまとめられていることを確認します。
オーダーの選択品目	W43032B	「オーダーの選択仕入先」フォームで、「ロー」メニューから「明細」を選択します。	オーダーに含めるように、個々の品目または勘定科目に関する情報を変更します。

## オーダーの複写

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

「オーダー明細」で、必要に応じてオーダー日付およびその他の情報を変更します。オーダーに新規行を追加する場合、既存のすべての明細行から最初のブランク行までスクロールして、正しい番号が各行に割り当てられているか確認してください。

## 購買オーダー・ワークベンチ(P43101)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、購買オーダーの処理に使用されるデフォルト情報を入力できます。

- 1. オーダー・タイプ**

“伝票タイプ - すべての伝票”(00/DT)ユーザー定義コード(UDC)テーブルに設定されている値を入力して、オーダー・タイプのデフォルト値を指定します。「オーダー見出し」フォームの「オーダー・タイプ」フィールドには、この値が入力されます。
- 2. 行タイプ**

トランザクションの行の処理方法を指定する値を入力します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne 一般会計、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne 在庫管理)に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。行タイプは、オーダー行タイプ・プログラム(P40205)で定義します。

「オーダー明細」フォームの「行タイプ」フィールドには値が自動的に入力されます。
- 3. 開始状況**

処理状況コード(40/AT)UDCの値を入力して、オーダーの開始状況のデフォルト値を指定します。入力する値は、使用しているオーダー・タイプおよび行タイプに対して設定する必要があります。
- 4. 一時変更用次状況**

処理状況コード(40/AT)UDCにある値を入力して、すべての新規または変更済購買オーダー行に対する次状況コードを指定します。オーダー処理規則プログラム(P40204)を使用して、オーダー・タイプと行タイプの組合せに対する次状況コードを入力します。この処理オプションをブランクのままにすると、オーダー処理規則の次状況コードがデフォルト値として使用されます。

承認処理を使用している場合は、この処理オプションを使用しないでください。
- 5. 単位**

単位(00/UM)UDCにある値を入力して、「トランザクション単位」フィールドに表示されるデフォルト単位を指定します。
- 6. 行番号増分**

オーダーのオーダー行を自動的に増分する場合に使用する整数を入力します。
- 7. デフォルトの税率/税域**

オーダー入力時のデフォルトとして使用する税率/税域情報の検索場所を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先の住所録番号に関連付けられている税率/税域が使用されます。税目コードは、F0401テーブルの仕入先住所録番号レコードから取得されます。これがオーダー・リリース・プログラムから呼び出されています。

るバージョンの場合は、元のオーダーではなくF0401テーブルから税情報が取得されます。

1: 出荷先住所番号に対する住所録番号のデフォルト税率/税域が使用されます。システムによって使用される情報は、F0401テーブルの税情報セクションにあります。

## 8. 取引単位

オーダー入力時のデフォルトとして使用する取引単位情報の検索場所を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: F4101テーブルの購買単位が使用されます。取引単位は、「購買オーダー入力」フォームの「数量」フィールドに入力した数値に直接関係します。「購買オーダー入力」のカタログから品目を選択した場合、そのカタログの単位は、このフィールドに入力した値より優先されます。「単位」フィールドに値を入力した場合は、このフィールドに値を入力しないでください。

1: F4101テーブルの基本単位が取引単位のデフォルトとして使用されます。

## 9. 陸揚費用規則

陸揚費用規則(41/P5)UDCの値を入力して、「オーダー見出し - 追加情報」フォームの「陸揚費用規則」フィールドに入力される陸揚費用規則を指定します。

## 10. 見出しが変更されたときの明細への反映

見出し情報を変更したときに明細行の情報を自動的に更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「オーダー見出し」フォームの「自動入力」フォーム・エグジットを使用して、手動で見出しを明細変更に適用する必要があります。「オーダー見出し」フォームの「定義」フォーム・エグジットを使用して、「オーダー明細」フォームのどのフィールドを見出し情報の変更で更新するかを選択します。見出し情報を変更すると、「オーダー明細」フォームが表示されます。

1: 見出しの変更が明細行に自動的にロードされます。

## 11. 作業オーダー状況

購買オーダー数量または約束日付の変更時にデフォルト値として使用される作業オーダー状況(00/SS)UDCの値を入力します。この処理オプションは、オーダー処理プログラム(R31410)で作業オーダーを処理することによって外注作業用に作成された購買オーダーに適用されます。購買オーダーが作成された後に数量または約束日付を変更すると、作業オーダー状況は、この処理オプションで入力した値に更新されます。この処理オプションをブランクのままにすると、作業オーダー状況は変更されません。

## 12. 勘定科目名

オーダー入力のデフォルト値として使用する勘定科目名の検索場所を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ビジネスユニット、主科目、および補助科目で構成される勘定科目から勘定科目名が取得されます。

1: ビジネスユニットと補助科目で構成される勘定科目から勘定科目名が取得されます。通常、この勘定科目は未転記の見出し勘定科目です。勘定科目名の取得時に主科目が使用されないことに注意してください。

## 13. 行順序

変更オーダーに行番号を割り当てる方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 連続した増分する固有の行番号が割り当てられます。複数の変更オーダーについては、変更オーダーごとに行番号の順序設定を最初からやりなおすのではなく、連続した増分に基づいて行番号が割り当てられます。

1: 変更オーダーごとに順序設定処理が最初からやりなおされます。1を入力した場合、各変更オーダー内では行番号順序が保持および増分されますが、次の変更オーダーでは、行番号の順序設定が最初からやりなおされます。

## 14. 費用規則の選択

オーダー入力時のデフォルトとして使用する費用規則選択情報の検索場所を指定します。これがオーダー・リリース・プログラムから呼び出されているバージョンの場合は、元のオーダーではなくF0401テーブルから費用規則情報が取得されることに注意してください。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先の住所録番号に関連付けられている費用規則選択が使用されます。費用規則の説明コードは、F0401テーブルの仕入先住所録番号レコードから取得されます。

1: 出荷先に対する住所録番号のデフォルト費用規則選択が使用されます。システムによって使用される情報は、F0401テーブルの費用規則情報セクションにあります。

## 表示

この処理オプションでは、表示する情報のタイプを制御できます。

### 1. 終了行の表示

終了行を非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 終了行または取消行が表示されます。

1: 終了行または取消行が非表示になります。終了行または取消行が非表示になると、状況コードが999の行は詳細グリッドに表示されません。ただし、行のレコードはF4311テーブルに残ります。

### 2. 状況コードの保護

状況コードの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 状況コードを変更できます。

1: 状況コードは変更できません。コードは検討できますが、変更できません。状況コードの保護を有効にした場合は、状況コードにかかわらず、前の状況と次の状況は保護されます。

### 3. オーダー・タイプの保護

オーダー・タイプの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー・タイプを変更できます。

1: オーダー・タイプ(伝票タイプとも呼ばれる)は変更できません。オーダー・タイプは確認できますが、変更できません。

### 4. キット表示

キット構成品行を表示するか、または親行のみ表示するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 親行だけが表示されます。ただし、F4311テーブルには親行とすべての構成品行が書き込まれます。

1: キット構成品行が表示されます。キット構成品行を表示するには、購買オーダーを作成してから、その購買オーダーを照会する必要があります。

### 5. 原価の保護

原価の変更を可能にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 原価のフィールドがフォームに表示され、変更可能になります。

1: 原価のフィールドがフォームに表示されますが、変更できません。

2: 原価情報が表示されません。F4311テーブルには引き続き原価情報が書き込まれますが、「原価」フィールドは表示されません。原価テーブルの原価情報がデフォルトとして使用されます。原価テーブルの例としては、F4105テーブルやF41061テーブルがあります。デフォルト情報に使用される原価テーブルは、システムの設定方法によって異なります。

## 6. 明細行の保護

処理状況コード(40/AT)UDCの値を入力して、明細行の変更が防止される次の状況を指定します。次の状況がこの状況以上の場合、明細行全体が保護されます。この処理オプションをブランクのままにすると、明細行の変更は防止されません。

## 7. 無償品カタログ

無償品カタログの警告を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 警告を表示しません。

1: 警告を表示します。

## 8. オーダー見出しの保護

オーダー見出し情報が読取専用か、または変更可能かを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー見出し情報は変更できます。

1: オーダー見出し情報は読取専用です。

## 9. 代替ラベルおよび見出しビジネスユニット

「オーダー見出し」フォームと「オーダー明細」フォームに表示される「ビジネスユニット」フィールドの記述を指定します。たとえば、この処理オプションをブランクのままにした場合は、「事業所」という記述がMCUフィールドに表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 事業所

1: 作業

2: プロジェクト

3: ビジネスユニット

## 10. 勘定科目コードの保護

明細行が部分的に入荷または伝票発行された後に勘定科目コード情報を保護するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 勘定科目コード情報は保護されません。

1: 勘定科目コード情報は保護されます。

## 11. 追加プロパティ・タブの表示

「追加プロパティ」タブを有効にするかどうかを指定します。この処理オプションは、購買オーダー見出しフォームおよび購買オーダー明細フォームの「追加プロパティ」タブの表示を制御します。値は次のとおりです。

ブランク: 無効にする。「追加プロパティ」タブを表示しません。

1: 有効にする。「追加プロパティ」タブを表示します。

## 12. 見出しタブと詳細グリッドでのカテゴリ・コードの表示

「カテゴリ・コード」タブを有効にするかどうかを指定します。この処理オプションは、購買オーダー見出しフォームおよび購買オーダー明細フォームの「カテゴリ・コード」タブの表示を制御します。また、この処理オプションは詳細グリッドでのカテゴリ・コードの表示も制御します。値は次のとおりです。

ブランク: 無効にする。「カテゴリ・コード」タブを表示しません。

1: 有効にする。「カテゴリ・コード」タブを表示します。

### 13. 条項へのフォーム・エグジットの有効化

条項へのフォーム・エグジットを有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 無効にする。

1: 有効にする。

### 14. ジョブまたはプロジェクトの保管場所とロットの表示

ジョブまたはプロジェクトのグリッドに「保管場所」と「ロット」のフィールドを表示するかどうかを指定します。この処理オプションは、「表示」タブの「9. 代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションと合せて使用されます。「9. 代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションが1または2に設定されていると、この処理オプションが使用されます。「9. 代替ラベルおよび見出しビジネスユニット」処理オプションが1または2以外の値に設定されていると、この処理オプションは使用されません。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

### 15. 住所録フィールドを必須にする

「追加プロパティ」タブで「住所録01」と「住所録02」フィールドを必須にするかどうかを指定します。この処理オプションは、「表示」タブの「11. 追加プロパティ・タブの表示」処理オプションと合せて使用します。住所録のフィールドが必須の場合、「11. 追加プロパティ・タブの表示」処理オプションを有効にする必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 必須でない。

1: 住所録1が必須。

2: 住所録2が必須。

3: 住所録1と住所録2が必須。

### 16. 留保金インジケータの表示

「留保金インジケータ」フィールドを「オーダー見出し」フォームおよび「オーダー明細」フォームに表示するかどうかを指定します。このフィールドは、「オーダー明細」フォームでは表示専用です。

「留保金インジケータ」フィールドは、請求書に留保金が発生したかどうか、留保金を伝票に適用すべきかどうかを確認するために買掛管理の担当者が使用する視覚的なインジケータです。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

### 17. サービス・ユニットの表示

グリッドに「サービス数量」および「サービス単位」フィールドを表示するかどうかを指定します。この処理オプションは、行タイプ固定情報と合せて使用されます。行タイプ固定情報で「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションが選択されている場合、サービス数量とサービス単位を使用できます。「オーダー数量」と「サービス数量」フィールドは同時には使用できません。サービス数量はメモ用フィールドであり、検証は何も行われません。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

## インターフェイス

この処理オプションでは、インターフェイス情報を入力できます。

## 1. ビジネスユニット検証

事業所の検証方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 事業所はF0006テーブルと照合されます。通常は、サービスの経費購買を実行している場合に、この処理オプションを使用します。この処理オプションをブランクのままにした場合は、F0006テーブルにおける住所録番号の出荷先住所録番号が使用されます。ビジネスユニット・マスターには、単一ビジネスユニットの改訂プログラムを通じてアクセスできます。

1: 事業所はF41001テーブルと照合されます。在庫購買を実行している場合は、1を入力します。1を入力すると、F41001テーブルの住所録番号が出荷先住所録番号のデフォルトとして使用されます。

## 2. 過去期間警告

PBCO(過去期間)警告を受け取るかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーの元帳日付と、購買オーダーにある会社およびビジネスユニットの一般会計期間が比較されます。過去期間警告では、前の一般会計期間に購買を記録していないことが確認されます。

1: 警告しない。通常は、サービスまたは経費タイプの購買を実行している場合に、この値を使用します。

## 3. 未来期間警告

PACO(未来期間)警告を受け取るかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーの元帳日付と、購買オーダーにある会社およびビジネスユニットの一般会計固定情報に含まれている現行期間が比較されます。現行の総勘定元帳期間を2期間分超過している元帳日付を使用して購買オーダーを作成しようとすると、未来期間警告が発生します。

1: 警告しない。

## 4. 数量の更新

システムによって更新される数量フィールドを指定します。この処理オプションを設定する前に、事業所固定情報プログラムで在庫状況を定義したときの方法を必ずチェックしてください。値は次のとおりです。

ブランク: 「購買オーダー数量」フィールド(エイリアスPREQ)が更新されます。

1: F4102またはF4100テーブルの「その他数量」フィールド(エイリアスOT1A)を更新します。購買要求、見積、一括オーダー、または現在の購買オーダー数量に影響しない他のオーダー・タイプを入力する場合は、この値を使用します。

## 5. 仕入先分析

仕入先分析情報を取得するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先分析情報を取り込みません。

1: 各購買オーダーの品目番号、日付、および数量などの情報がF43090テーブルに記録されます。最も効果的に仕入先情報を記録するには、この処理オプションで「1」を入力し、入荷確認プログラム(P4312)および伝票照合プログラム(P4314)の処理オプションで、これと同じ情報を取り込むよう設定してください。

## 6. 仕入先マスターにより編集

F4330テーブルに対して仕入先番号を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先番号は検証されません。

1: 仕入先番号が検証されます。

## 7. 会計AAIの検証

会計AAI(自動仕訳)または流通AAIを使用するかどうかを指定します。また、この処理オプションを使用して、「オーダー見出し」フォームと「オーダー明細」フォームに表示される「ビジネスユニット」フィールド(MCU)の記述が設定されます。たとえば、この処理オプションをブランクのままにした場合は、「事業所」という記述がMCUフィールドに表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 流通AAIが使用されます。

1: 会計AAI CD、CT、またはCRが使用されます。

## 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を制御できます。

### 1. 新規仕入先情報

住所録の改訂プログラム(P0101)で新規仕入先情報を追加できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: システムは、住所録の改訂プログラム(P0101)にアクセスしません。

1: 自動的に住所録の改訂プログラム(P0101)にアクセスします。実行中のタスクを停止して仕入先を追加するのではなく、必要に応じて仕入先を追加できます。住所録レコードに対するセキュリティ制限を検討してください。場合によっては、仕入先住所録レコードの入力機能をすべてのユーザーに提供しないようにする必要があります。

### 2. オーダー・テンプレート

オーダー・テンプレートを確認するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 使用可能なオーダー・テンプレートを表示しません。

1: 使用可能なオーダー・テンプレートを自動的に表示します。この処理オプションで、使用可能なオーダー・テンプレートを自動的に表示するように設定して、「オーダー見出し」フォームにアクセスすると、「オーダー明細」フォームの前にオーダー・テンプレートが表示されます。先に「オーダー明細」フォームにアクセスした場合は、カーソルを詳細グリッドに初めて移動したときにオーダー・テンプレートが表示されます。

### 3. サブシステム印刷

サブシステムを使用して購買オーダーを自動印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: サブシステムによる購買オーダーの印刷は行いません。

1: サブシステムを使用して購買オーダーを自動的に印刷します。サブシステム処理用に指定された購買オーダー印刷プログラム(R43500)のバージョンを投入する必要があることに注意してください。

### 4. 一括リリース

一括リリースを自動的に処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 一括リリースは自動的に処理されません。

1: すべての事業所に対して、自動的に一括リリースを処理します。仕入先と品目の組合せに対して複数の一括オーダーがある場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにチェックマークが表示され、「一括オーダー複数あり」コラムに「X」が表示されます。一括オーダーを選択するには、該当するオプションを「ロー」メニューから選択します。



2: 特定の事業所に対して、自動的に一括リリースを処理します。仕入先と品目の組合せに対して複数の一括オーダーがある場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにチェックマークが表示され、「一括オーダー複数あり」カラムに「X」が表示されます。一括オーダーを選択するには、該当するオプションを「ロー」メニューから選択します。

#### 5. 見出し表示

「オーダー明細」フォームの前に「オーダー見出し」フォームを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 「オーダー明細」フォームを表示します。

1: 「オーダー明細」フォームの前に「オーダー見出し」フォームを表示します。

#### 6. 契約検索

契約の検索方法を指定します。この処理オプションは、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 契約管理システムを併用している場合にのみ適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 契約を検索しません。

1: システムに1つの契約しか存在しない場合は契約を割り当てます。複数の契約が見つかったら、詳細グリッドにあるロー見出しにはチェック・マークが表示され、「契約複数あり」カラムには「X」が表示されます。契約を選択するには、ロー・エグジットを使用する必要があります。

2: すべての契約を表示します。

3: 最も早い終了日付の契約を検索します。

#### 7. 基本オーダーの保護

基本オーダー情報を変更できるかどうかを指定します。基本オーダーは当初の契約またはオーダーです。基本オーダー明細行は、変更オーダー番号 000 として識別されます。通常は、この処理オプションを使用して、当初のオーダーに対する変更を禁止します。値は次のとおりです。

ブランク: 基本オーダー情報を変更できます。

1: 基本オーダー情報は変更できません。

#### 8. プロジェクト/作業の検証

事業所および勘定科目ビジネスユニットの値が同じである必要があるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 勘定科目ビジネスユニットと見出しビジネスユニットは異なる値にすることができます。

1: 勘定科目ビジネスユニットと見出しビジネスユニット(事業所や作業など)の値は同じです。

#### 9. 排他調整保留

上級価格設定を品目に適用し、その品目の調整グループに対する相互排他調整を選択した場合は、この処理オプションを使用してオーダーを保留にします。

#### 10. ログ・エントリの表示

オーダーまたは契約の追加時に自動的にログを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ログは自動的に表示されません。

1: ログは自動的に表示されます。

### 複写

この処理オプションでは、オーダーの複写処理に使用されるデフォルト情報を入力できます。

1. **重複オーダー・タイプ**

伝票のタイプを入力します。このUDC(00/DT)はトランザクションの起点も指定します。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている値を入力してください。各伝票タイプに対して、次のプレフィックスが事前定義されています。これらのプレフィックスは、変更しないでください。

  - P: 買掛金伝票
  - R: 売掛金伝票
  - T: 給与計算伝票
  - I: 在庫伝票
  - O: 購買オーダー伝票
  - J: 一般会計/共有利息請求伝票
  - S: 受注オーダー処理伝票
2. **開始状況コード**

オーダー処理の最初のステップである開始状況を指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用します。
3. **次状況コード(任意)**

オーダー処理の次のステップを指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用します。この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう1つのステップになります。
4. **コピー選択**

コピーする情報を指定します。見積または購買要求を購買オーダーに生成するときに行添付テキストとオーダー添付テキストをコピーする場合は、この処理オプションを有効にしてください。値は次のとおりです。

  - ブランク: 情報をコピーしません。
  - 1: 行テキストだけをコピーします。
  - 2: 行テキストとオーダー・テキストをコピーします。
  - 3: オーダー・テキストだけをコピーします。

## 相互参照

この処理オプションでは、相互参照コードを入力できます。

1. **代替品目**

代替品目を取得するために使用されるデフォルトの相互参照コードを指定します。入力した値は、代替品目の検索/選択フォームのデフォルトとして使用されます。

複数の代替品目が存在する場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにはチェックマークが表示され、「代替品目あり」カラムには「X」が表示されます。
2. **旧品目**

旧品目に対する置換品目を取得するための相互参照コードを指定します。入力した値は、代替品目の検索/選択フォームのデフォルトとして使用されます。

複数の置換品目が存在する場合は、詳細グリッドにあるロー見出しにはチェックマークが表示され、「置換品目あり」カラムには「X」が表示されます。
3. **販促品**

販促品を取得するために使用される相互参照コードを指定します。

## 発注残オーダー照会の処理オプション

この処理オプションでは、状況および日付情報を入力できます。

1. 開始状況コード      オーダー明細行に対する状況コードの範囲内の最初のコードを指定します。「追加選択」フォームでは、この状況がデフォルトとして使用されます。
2. 終了状況コード      オーダー明細行に対する状況コードの範囲内の最後のコードを指定します。「追加選択」フォームでは、この状況がデフォルトとして使用されます。
3. 前状況      発注残照会プログラム (P4310) に対して前の状況と次の状況のどちらを使用するかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 次状況コードが開始状況コードと終了状況コードのデフォルトとして使用されます。  
 1: 前状況コードが開始状況コードと終了状況コードのデフォルトとして使用されます。
4. 日付      日付が日付範囲内であることを確認するためにチェックされる日付を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 要求日付がチェックされます。  
 1: トランザクション日付がチェックされます。  
 2: 約束日付がチェックされます。  
 3: 当初納入約束日付がチェックされます。  
 4: 入荷日付がチェックされます。  
 5: 取消日付がチェックされます。  
 6: 元帳日付がチェックされます。

## 実行バージョンの入力

この処理オプションでは、システムが使用する様々なプログラムのバージョンを制御できます。

1. 需要/供給照会 (P4021)      需要/供給照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
2. 仕入先分析 (P43230)      仕入先分析プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
3. 仕入先マスター (P04012)      仕入先マスター・プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
4. 購買オーダーのオン・デマンド印刷 (R43500)      購買オーダーのオン・デマンド印刷プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。フォーム上の該当するロー・エグジットにアクセスすると、選択したバージョンを使用してオーダーが印刷されます。
5. 在庫集計照会 (P41202)      在庫集計照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
6. 承認の検討 (P43081)      承認の検討プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。
7. 入荷工程 (P43250)      入荷工程プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| 8. 入荷処理中オーダー (P43214)    | 入荷処理中オーダー・プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。                            |
| 9. 監査集計の改訂 (P4319)       | 監査集計の改訂プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。                               |
| 10. 購買履歴照会 (P43041)      | 購買履歴照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。                                |
| 11. 発注残照会 (P4310)        | 発注残照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。                                 |
| 12. 財務状況照会 (P44200)      | 財務状況照会プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。                                |
| 13. インバウンド輸送 (P4915)     | インバウンド輸送プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。                              |
| 14. 優先プロファイル (R40400)    | 「優先情報選択」フォームで有効化された優先情報に基づいてオーダーを処理する場合に使用される優先プロファイル・プログラムのバージョンを指定します。 |
| 15. コンフィギュレータ (P3210)    | コンフィギュレータ・プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを指定します。                            |
| 16. 一括リリース (P43216)      | 一括オーダーのリリース・プログラムで使用するバージョンを指定します。                                       |
| 17. ログ入力 (P4305)         | ログ入力プログラムで使用するバージョンを指定します。   |
| 18. 購買要求セルフサービス (P43E10) | セルフサービス購買要求プログラムの使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。                           |

## 通貨

この処理オプションでは、通貨情報を入力できます。

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 許容度   | <p>通貨許容限度パーセントを指定し、F0015テーブルと比較して通貨金額の変動額が許容パーセントより大きくならないようにします。</p> <p>複数通貨を使用する場合は、このプログラムの通貨別のバージョンを作成します。この処理オプションで指定する金額は通貨固有です。</p>   |
| 2. 通貨コード | <p>仮定金額を表示する場合の通貨コードを指定します。これにより、取引の当初入力時の通貨以外の国内通貨または外貨で金額を表示できます。</p> <p>ブランクにした場合、初期入力されている通貨で仮定金額が表示されます。</p> <p>仮定通貨建ての金額は一時メモリーに保存され、テーブルには書き込まれません。</p>                                       |
| 3. 基準日   | <p>「仮定通貨コード」処理オプションの基準日を指定します。この日付を使用してF0015テーブルから為替レートが取得されます。</p> <p>「通貨コード」処理オプションで通貨コードを指定し、この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。</p> <p>国内通貨/外貨と仮定通貨との有効な為替レート(基準日時点)がF0015テーブルに保存されている必要があります。</p> |

## 承認

この処理オプションでは、承認処理の情報を入力できます。

1. 承認経路コード  
承認処理に使用するコードを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 承認処理は実行されません。  
1: 入力者の住所をデフォルト値として使用します。  
2: 入力者のユーザー・プロフィールをデフォルト値として使用します。  
3: 事業所経路コードをデフォルト値として使用します。  
4: デフォルト事業所経路コードをデフォルト値として使用します。
2. 承認待ち状況  
オーダーが承認経路に入るときにシステムが使用する次の状況を入力します。
3. 承認済み状況  
オーダーが自動的に承認されるときにシステムが使用する次の状況を入力します。
4. 変更行の再承認  
承認済の購買オーダー行に対して特定のタイプの変更が加えられた場合に、承認処理をアクティブ化するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 承認処理はアクティブ化されません。  
1: 購買オーダー行のフィールドが変更されると、承認処理がアクティブ化されます。  
2: 承認フィールド固定情報プログラム (P43080) でアクティブ化される特定の必須フィールドが変更された場合にのみ、承認処理がアクティブ化されます。  
3: 標準必須フィールドが変更された場合にのみ承認処理がアクティブ化されます。
5. 承認保留コード  
承認処理でオーダーを保留する際にシステムで使用する保留コードを指定します。この処理オプションを空白にすると、オーダーは保留されません。

## 予算

この処理オプションでは、予算情報を入力できます。

1. 予算保留コード  
予算保留のためにシステムで使用する保留コードを指定します。保留コードを入力すると、予算チェック処理がアクティブ化されます。予算チェックでは、明細行が勘定科目の予算を超過しているとオーダー全体が保留になります。
2. 予算元帳タイプ  
予算が含まれている元帳タイプを指定します。  
予算元帳タイプを指定した場合は、その予算元帳タイプだけが取得されます。この処理オプションを空白のままにした場合は、元帳タイプ・マスターの設定プログラム (P0025) で指定されて F0025 テーブルに入っているすべての予算元帳タイプが取得されます。
3. 詳細レベル  
予算チェック処理時に使用する詳細レベルの値 (3 から 9) を指定します。この処理オプションを空白にすると、デフォルト値「9」が使用されます。

この処理オプションは、詳細レベル累計の処理オプションとともに使用できます。

#### 4. 予算合計方法

予算の計算方法を指定します。この処理オプションを空白にすると、作業原価予算計算方法が使用されます。値は次のとおりです。

空白: 作業原価予算計算方法が使用されます。

1: 次の作業原価予算計算方法が使用されます。

当初予算 + 現行年度の期間金額 + 前年度の転記額

2: 次の標準財務予算計算方法が使用されます。

現行年度の期間金額の合計

3: 次の標準財務配賦計算方法が使用されます。

当初予算 + 現行年度の期間金額

#### 5. 期間累計方法

予算の累計時に使用する期間を指定します。値は次のとおりです。

空白: 合計年次予算を使用して予算を累計します。

1: 現行期間で予算を累計します。

#### 6. 許容パーセント

オーダーが予算保留になる前に明細行金額が予算を超過できるパーセントを指定します。

#### 7. 保留警告

予算を超過している明細行金額について警告メッセージを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 警告は表示されませんが、オーダーは保留になります。

1: 警告が表示され、オーダーは保留になります。

2: 警告は表示されますが、オーダーは保留になりません。

#### 8. 予算累計詳細レベル

「予算」タブにある「詳細レベル」処理オプションの値を使用して予算金額を累計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 「詳細レベル」処理オプションの値が使用されます。

1: 購買オーダー明細行に対して指定された詳細レベルから「詳細レベル」処理オプションの値までの予算金額が累計されます。

#### 9. 補助元帳/タイプの除外

予算情報の検証時に補助元帳および補助元帳タイプを除外するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 補助元帳と補助元帳タイプは含まれます。

1: 補助元帳と補助元帳タイプは除外されます。明細行勘定科目に対するすべての補助元帳について予算の合計が計算され、その行が予算を超過していないかどうか判断されます。

#### 10. 作業原価の勘定科目順序

予算作成に使用する作業原価勘定科目の順序を指定します。値は次のとおりです。

空白: 標準の勘定科目順序が使用されます(たとえば、ビジネスユニット、主科目、および補助科目)。

1: 作業原価順序が使用されます(たとえば、作業、原価コード、および原価タイプ)。

**11. 税額**

課税対象行の税額を予算計算に含めるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 税額を含めません。

1: 税額を含めます。

**インタオペラビリティ**

この処理オプションでは、インタオペラビリティ情報を入力できます。

**1. 変更前/後トランザクション処理**

トランザクションの変更前にそのトランザクションのレコードを取り込むかどうか、またはトランザクションの変更前および変更後にそのトランザクションのレコードを取り込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: トランザクションの変更後にそのトランザクションのレコードを取り込みます。

1: 2つのレコードを取り込みます。1つは変更前のトランザクションのレコード、もう1つは変更後のトランザクションのレコードです。

**2. 購買オーダー取引タイプ**

エクスポート取引の取引タイプを入力します。

このフィールドをブランクにすると、エクスポート処理は実行されません。

**3. 作業オーダー変更前/後トランザクション**

作業オーダー見出しの変更前トランザクションを出力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 変更前トランザクションを含めません。

1: 変更前トランザクションを含めます。

**4. 作業オーダー取引タイプ**

トランザクションのエクスポート処理時に使用される作業オーダー見出しのデフォルト・トランザクション・タイプを指定します。このフィールドをブランクにすると、エクスポート処理は実行されません。

**オーダー改訂**

この処理オプションでは、オーダーへの改訂を制御できます。

**1. 改訂のトラッキング**

オーダーの改訂をシステムで許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー改訂のトラッキングは実行されません。

1: 既存のオーダーに対する改訂だけを許可します。

2: 既存のオーダーに対する改訂と、オーダーへの新規行の追加を許可します。

**2. 次状況**

オーダー改訂監査情報のトラッキングが開始される次状況コードを指定します。明細行の状況が、この処理オプションで入力した状況コードに先行している場合、その明細行に改訂は記録されません。

改訂情報は、F43199テーブルに保存されます。このテーブルには、オーダー改訂照会プログラム(P4319)を通じてアクセスできます。

**3. テキスト入力**

改訂の入力時にテキストの入力を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: ユーザーは改訂の入力時にテキストを入力できません。

- 1: ユーザーは改訂の入力時に自動的にテキストを入力できます。  
オーダーが受け入れられると、テキスト入力ウィンドウが表示されます。

## セルフサービス

この処理オプションでは、セルフサービス機能を有効にするかどうかを指定できます。

### 1. サプライヤ・セルフサービス

Java/HTML環境で使用するサプライヤ・セルフサービスを有効にするかどうかを指定します。この機能により、仕入先はオーダーをオンラインで表示できます。値は次のとおりです。

ブランク: サプライヤ・セルフサービスを有効にしません。

- 1: サプライヤ・セルフサービスを有効にします。

## マトリックス

この処理オプションでは、「マトリックス・オーダー」フォームの表示を指定できます。

### 1. マトリックス・オーダー・フォームの表示(親在庫)

マトリックス親品目での作業中に、「マトリックス・オーダー」フォームを表示するかどうかを指定します。オーダー詳細のマトリックス親品目を入力するときに「マトリックス・オーダー」フォームが表示されていない場合、その親品目はマトリックス親品目ではなく在庫品目として扱われます。値は次のとおりです。

ブランク: 「マトリックス・オーダー」フォームが表示されます。

- 1: 「マトリックス・オーダー」フォームは表示されません。

## ワークフロー

この処理オプションでは、システムによるワークフロー情報の処理方法を指定できます。

### 1. 価格変更の通知

オーダーの単位原価/総額が変わったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。
- 2: プロジェクト管理者(MPMのみ)に電子メールを送信します。
- 3: 購買担当者に電子メールを送信します。
- 4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者(MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理(MPM)は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne受注設計生産になりました。

---

### 2. 計画配送日付変更の通知

オーダーの約束納入日付が変わったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。
- 2: プロジェクト管理者(MPMのみ)に電子メールを送信します。
- 3: 購買担当者に電子メールを送信します。



4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

### 3. 数量変更の通知

オーダーの数量が変わったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。
- 2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。
- 3: 購買担当者に電子メールを送信します。
- 4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

### 4. オーダー保留の通知

オーダーが保留になったときに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。
- 2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。
- 3: 購買担当者に電子メールを送信します。
- 4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

## 転送オーダー

この処理オプションでは、転送オーダーの処理方法を指定できます。

1. 転送オーダー入力時に、受取り事業所に事業所品目レコードが存在しなければ作成する

事業所品目レコードが受け取り事業所に存在しない場合に事業所品目レコードを作成するかどうかを指定します。

2. プロジェクト転送オーダーの行タイプ

受注転送オーダーから作成された購買オーダーに使用する行タイプを指定します。行タイプ固定情報プログラム (P40205) にアクセスして、C の在庫インターフェイスで行タイプが定義されていることを確認してください。行タイプに C の在庫インターフェイスがある場合は、製造管理 - 受注設計生産 (エンジニアリング・プロジェクト管理) システムに関連付けられている購買オーダーに対して会計のコミットメントが実行されます。

---

**注意:** エンジニアリング・プロジェクト管理 (EPM) システムは、JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

## 複数の仕入先に対するオーダー入力

「購買オーダー・ワークベンチ」フォームにアクセスします。

## 品目に対する仕入先の選択

「購買オーダー・ワークベンチ」フォームにアクセスします。

## 仕入先カタログを使用した品目入力

「オーダー見出しの処理」フォームにアクセスします。

## オーダー・テンプレートを使用した品目入力

「購買オーダー・ワークベンチ」フォームにアクセスします。

## 既存明細行からの購買オーダー作成

「オーダー明細」フォームにアクセスします。

---

## 予算の処理

作業、プロジェクト、部署などの予算を設定する場合、購買金額が予算を超過しないかどうか確認する必要があります。予算と支出金額、または予算と将来発生するコミット金額とを比較できます。

この項では、予算チェックの概要と事前設定の一覧、および予算の検討方法について説明します。

### 予算チェックについて

予算チェックを使用して、明細行金額が特定の作業、プロジェクト、部署などの予算を超過していないかどうかを識別できます。

---

**注意:** 予算チェックを行うには、購買明細行を勘定科目コード別に入力します。

---

購買オーダーの入力時または変更時には毎回、各明細行の勘定科目コードがチェックされ、勘定科目に対して使用できる予算と比較されます。明細行金額が使用可能な予算額を超過する場合、オーダー全体が保留になります。購買オーダー・プログラム (P4310) の予算作成処理オプションを設定すると、明細行金額が使用可能な予算額を超過した場合に警告メッセージは表示できますが、この場合もオーダーは保留にされます。予算保留を解除するまで、オーダーに関するそれ以降の処理は実行できません。各ビジネスユニットに対して予算保留コードを設定する必要があります。

勘定科目コードに対して指定した予算額から実績金額 (AA元帳) およびコミット金額 (PA元帳) を減算して、使用可能な予算額が算出されます。次の予算計算が使用されます。

使用可能な予算額 = 当初予算変更額 - 実績金額 - コミットメント - 債務

元帳については、次の予算計算が使用されます。

使用可能な予算額 = BA元帳金額またはJA元帳金額 - AA元帳金額 - PA元帳金額

「購買オーダー入力」の処理オプションの「予算作成」タブを設定して予算チェックを有効にし、次のような情報を指定します。

- 予算額を取り込む予算元帳
- 予算を超過する明細行に割り当てられる保留コード
- 保留になる前に明細行が予算を超過できるパーセント
- 予算額を確定する方法

予算の作成にはJA元帳タイプを使用しないでください。この元帳タイプは、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システム用に予約されています。

予算チェックの理解を深めるには、次のトピックを参照してください。

- 詳細レベルの検索シナリオ
- 予算合計
- 会計年度の使用可能累計予算の算出

### 詳細レベルの検索シナリオ

勘定科目の作成時に、各勘定科目コードを詳細レベルに割り当てます。詳細レベル範囲は1から9までで、最上位は1、最下位は9になります。

処理オプションに詳細レベルを入力すると、使用できる予算の検索が実行されます。またこの処理オプションにより、勘定科目に対する実績金額、コミット金額、および債務金額の累積方法が制御されます。

### 予算額の累積

2つの検索シナリオがあります。

- オーダーに入力する勘定科目コードが予算勘定科目コードと一致し、この勘定科目の詳細レベルが処理オプションに入力する詳細レベルと等しい場合、予算は積み上げられません。

勘定科目の使用可能予算が算出されます。明細行が使用可能予算を超過する場合、その行に対して予算保留が適用されます。

- オーダーに入力する勘定科目コードが処理オプションに入力する詳細レベルと一致せず、勘定科目の詳細レベルが処理オプションの詳細レベルを下回る場合、処理オプションに入力する詳細レベルと一致する勘定科目から予算が取り込まれます。

### 実績およびコミット金額の累積

処理オプションで予算が累積されるように設定すると、処理オプションに入力した詳細レベルを開始レベルとして、最下位の詳細レベルまでの予算が累積されます。

勘定科目の実績金額、コミット金額、および債務額を累積する際には、まず勘定科目表の上位の詳細レベルから検索されます。処理オプション入力した詳細レベルと一致する詳細レベルを持つ最初の勘定科目コードが検索されます。この勘定科目コードは、オーダーの勘定科目コードの詳細レベルより上位にある必要があります。

次に、勘定科目表のさらに下位にある詳細レベルを検索して、処理オプションで指定した詳細レベルと同じレベルの最初の勘定科目コードを選択します。この勘定科目コードは、オーダーの勘定科目コードの詳細レベルより下位にある必要があります。

さらに、識別された勘定科目範囲に対する実績、コミット/債務の勘定残高を累計し、予算元帳から合計額を計算して、使用可能予算が算出されます。オーダーの金額と使用可能予算が比較されます。

明細行が使用可能予算を超過する場合、その行に対して予算保留が適用されます。

## 予算合計

購買オーダー・ワークベンチの処理オプションの「予算合計方法」で、予算の合計方法を指定します。

予算作成については、F0902テーブルの次のフィールドが使用されます。

- BORG – 当初または期首予算
- AN01からAN12 – 現行年度における変更を含む転記額フィールド
- AYPC – 繰越残高フィールド。このフィールドには現行年度に繰り越される前年度変更分の合計が含まれます。

作業原価計算の場合は、この処理オプションに「1」を入力します。フィールドには金額が追加されます。これらのフィールドの合計は、予算チェックに使用される予算額になります。

---

**注意:** この処理オプションに「1」を入力すると、当初予算は配賦できません。

---

公共部門および非営利団体の場合は、この処理オプションに「2」を入力します。この方法は、当初予算が正味額フィールドに配賦されるときに使用してください。正味額フィールドから合計予算が算出され、予算チェック時に使用されます。

営利団体の場合は、この処理オプションに「3」を入力します。転記額フィールドに予算の変更を入力します。転記額フィールドと当初予算が追加され、予算チェック時に使用する予算額が確定されます。これは当初予算が転記額フィールドに配賦されない場合に使用してください。

## 現行期間までの使用可能予算額の算出

「期間累計方法」処理オプションを使用して、使用可能な予算の算出方法を指定します。

この処理オプションに「1」を入力すると、会社の会計期間パターンに基づいて総勘定元帳の現行期間が確定されます。それから、第1期間から現行期間までの期間予算額が合計されます。この金額は予算チェック時の当初予算として使用されます。

「予算合計方法」処理オプションに「2」を入力する場合にのみ、この処理オプションに「1」を入力してください。

## 予算の検討

商品およびサービスについて作成した予算を、実際に使用した金額および将来発生するコミット金額と比較することがあります。それぞれの金額について次の点を検討します。

- 予算額
- 発生した実績金額
- 特定日付までのコミット金額合計
- 予算額と、使用した金額または将来発生するコミット金額との差異
- 特定の勘定科目、および特定のトランザクションに関連する仕訳入力に影響したトランザクション

## 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計 9.0 製品ガイド、「勘定残高と取引明細の検討」、「試算表と元帳の比較 (P09210A) の処理オプションの設定」

## 事前設定

予算の処理を実行するには、コミットメントの設定と処理が終わっていることを確認してください。

参照: 第 9 章、「購買オーダー・コミットメントの設定」、「コミットメントのトラッキング設定」、91 ページ

参照: 第 20 章、「購買オーダー・コミットメントの処理」、337 ページ

## 予算の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
試算表/元帳比較	W09210AA	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買照会」(G43B112)、 「予実対比」</li> <li>「購買照会」(G43C112)、 「予実対比」</li> </ul>	予算を処理します。

## 予算の検討

「試算表/元帳比較」フォームにアクセスします。

### 元帳タイプ1

AA(実績金額)、BA(予算金額)、またはAU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するUDC (09/LT) の値を入力します。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。

### 元帳タイプ1終了期

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。会計期間は、会社レコードに割り当てられる会計期間パターン・コードで定義します。取引で入力した日付と会社で割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

### 詳細レベル

総勘定元帳の勘定科目を詳細レベル別に集計して分類する番号を入力します。最も詳細度が高いのがレベル9で、最も詳細度が低いのがレベル1です。レベル1と2は会社とビジネスユニットの合計用に予約されています。レベル8と9は、JD Edwards EnterpriseOne作業原価システムの作業原価転記勘定用に予約されています。これ以外に次のレベルがあります。

- 3: 資産、負債、収益、費用
- 4: 流動資産、固定資産、流動負債など
- 5: 現金、売掛債権、棚卸資産、給与など
- 6: 小口現金、銀行預金、売掛金など
- 7: 小口現金 - 西日本支社、小口現金 - 九州支社など
- 8: 明細
- 9: 明細

詳細レベルの間を空けてレベルを勘定科目に割り当てないでください。詳細レベルが連続していないと、集計エラーが発生して正確な財務レポートが作成されない場合があります。

### 当月計上額差異

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナスの符号(-)を付けて入力します。

### 元帳1当月計上額

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。

## 保留オーダーの処理

この項では、保留オーダーの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- オーダー保留の入力
- 保留オーダー・リリース (P43070) の処理オプションの設定
- オーダー保留のリリース

### オーダー保留について

オーダーが処理されないように、オーダーを保留にすることができます。オーダーを保留にするのは次の場合です。

- 仕入先との価格および条件が確定していない
- その仕入先を使用するかどうか不明
- 仕入先の最低オーダー金額が条件に合わない
- オーダーが予算額を超過している

保留オーダーを印刷または入荷することはできません。オーダーの処理を継続するには、保留をリリースする必要があります。保留オーダーをリリースするには正しいパスワードが必要です。

オーダーを保留にすると、そのオーダーは処理されません。仕入先との価格交渉が終了していない、またはオーダーが予算を超過している場合、オーダーを保留にすることがあります。

オーダーの保留には予算保留と通常保留の2つのタイプがあります。予算保留は予算を超過するオーダーに対するものです。通常保留はその他の保留すべてに対するものです。

### 事前設定

保留コードを設定して、各保留コードに担当者を割り当てます。

### 保留オーダーの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
保留オーダーの処理	W43070A	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「保留オーダーのリリース」</li> <li>• 「オーダー生成/承認/リリース」(G43B13)、「保留オーダー・リリース (予算)」</li> <li>• 「オーダー生成/承認/リリース」(G43D13)、「保留オーダー・リリース」</li> </ul>	保留オーダーを処理します。

### オーダー保留の入力

次の3つの方法のいずれかにより、オーダーを保留にできます。

- オーダー入力フォームでオーダーに対して保留コードを割り当てる。

- 購買指示の仕入先に保留コードを割り当てて、その仕入先のオーダーを入力するたびに保留コードが割り当てられるようにする。
- 購買オーダーの入力プログラムの処理オプションで予算保留コードを指定する。  
予算チェックがアクティブになっている場合、明細行が予算を超過すると購買オーダーに保留コードが割り当てられます。

## 保留オーダー・リリース (P43070) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、保留オーダー・リリース処理に使用されるデフォルト情報を入力できます。

1. **オーダー・タイプ**  
伝票タイプを識別する値をUDC 00/DTから入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入金、およびタイムカードの伝票タイプのコードはあらかじめJD Edwards EnterpriseOneによって予約されており、転記プログラム実行時に自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。) 次の伝票タイプがJD Edwards EnterpriseOneによって事前定義されています。変更しないでください。  
P: 買掛金伝票  
R: 売掛金伝票  
T: 給与計算伝票  
I: 在庫伝票  
O: 購買オーダー処理伝票  
J: 一般会計/共有利息請求伝票  
S: 受注オーダー処理伝票
2. **リリース・コード**  
値を入力して、保留オーダーがリリースされたときのリリース・コードを指定します。

### 表示

この処理オプションでは、表示する情報のタイプを制御できます。

1. **受注オーダーを表示するには「1」を入力してください。それ以外の場合は購買オーダーが表示されます。**  
値を入力して、表示されるオーダーのタイプを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 購買オーダーを表示します。  
1: 受注オーダーを表示します。
2. **前にリリースしたオーダーを表示するには「Y」を入力してください。**  
値を入力して、前にリリースしたオーダーを表示します。値は次のとおりです。  
Y: 前にリリースしたオーダーを表示します。

### バージョン

この処理オプションでは、保留オーダー・リリース・プログラムから他のプログラムを呼び出す場合に使用するバージョンを制御します。ビジネス・プロセスに従って、様々なバージョンを定義できます。

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. 受注オーダー入力<br/>(P4210)</b>                          | 受注オーダー入力のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクのままにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。     |
| <b>2. 購買オーダー入力<br/>(P4310)</b>                          | 購買オーダー入力のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクのままにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。     |
| <b>3. ピッキング・リスト印刷<br/>(R42520)</b>                      | ピッキング・リスト印刷のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクのままにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。  |
| <b>4. シップ・アンド・デビット<br/>(R45100)</b>                     | シップ・アンド・デビットのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクのままにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。 |
| <b>5. 製造作業オーダー<br/>(P48013) (受注オーダーの<br/>リリースにのみ適用)</b> | 製造作業オーダーのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクのままにすると、ZJDE0001バージョンが使用されます。     |

## 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を制御できます。

- |  |  |
|--|--|
| <b>1. ピッキング・リストの自<br/>動印刷</b>                  | 値を入力して、ピッキング・リストの印刷を指定します。値は次のとおりです。<br>ブランク: ピッキング・リストを印刷しません。<br>1: ピッキング・リストを印刷します。   |
| <b>2. 作業オーダーのリリース<br/>状況コードの入力</b>             | 作業オーダー、レート・スケジュール、または設計変更オーダーの状況を表すUDC (00/SS) の値を入力します。状況が90から99までの値に変更されると、完了日付が自動更新されます。  |
| <b>3. シップ・アンド・デビット<br/>処理</b>                  | サブシステム処理とバッチ処理 (R45100) のどちらを使用して、保留オーダー・リリース・プログラムの実行時にシップ・アンド・デビット契約の識別と調整を行うかを指定します。値は次のとおりです。<br>ブランク: サブシステム処理またはバッチ処理を使用しません。<br>1: サブシステム処理を使用します。<br>2: バッチ処理を使用します。 |
| <b>4. 親会社または出荷先の<br/>与信保留リリース処理(売<br/>上のみ)</b> | 親会社または出荷先の住所番号によって与信保留受注オーダーの照会およびリリースを行うことを許可するかどうかを指定します(売上のみ)。値は次のとおりです。<br>ブランク: 親会社または出荷先住所による照会とリリースを許可しません。<br>1: 親会社または出荷先の住所による照会とリリースを許可します。                       |

## 倉庫

この処理オプションでは、倉庫情報を入力できます。

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| <b>1. 要求処理モードを入力<br/>してください。</b> | 制御更新レコードが申請済、更新済、または却下済として処理されたかどうかを示します。値は次のとおりです。<br>ブランク: レコードは承認用に申請されています。<br>0: 承認用に申請されたレコードは却下されています。<br>1: 承認用に申請されたレコードはマスター・ファイルに更新されています。 |
|----------------------------------|---|



2. サブシステムで要求を処理する場合は、そのバージョンを入力してください。 システムで使用するバージョンを入力します。

3. 要求が生成済みの受注オーダー行の次状況を一時変更します。 値を指定します。

### 前払

この処理オプションでは、前払情報を入力できます。

1. 承認保留をリリースし、前払状況を進めます。 承認保留をリリースして状況を進めるかどうかを指定します。システムでは、承認が受領された場合にのみ承認保留をリリースできます。
2. 決済保留をリリースし、前払状況を進めます。 決済保留をリリースして状況を進めるかどうかを指定します。決済保留は、決済が受領された場合にのみリリースされます。

## オーダー保留のリリース

「保留オーダーの処理」フォームにアクセスします。

保留になっているオーダーをシステムにより処理するには、保留をリリースする必要があります。特定のオーダーのすべての保留を検討して、リリースする保留を選択できます。

予算保留については、保留オーダー・リリース(予算)プログラムから「試算表と元帳の比較」にアクセスして、予算保留オーダーをリリースする前に予算を検討できます。オーダーに承認経路が割り当てられている場合には、予算保留のオーダーをリリースする際に「保留オーダー・リリース(予算)」は使用できません。この場合、承認の検討プログラムを使用して承認を得てから、オーダーをリリースしてください。

---

## ログ情報の処理

この項では、ログ情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- ログ入力(P4305)の処理オプションの設定
- ログ情報の入力
- ログ・レポート/更新の実行
- ログ・レポート/更新(R43300)の処理オプションの設定
- モデル・ログからの情報のコピー

### ログ情報について

ログ情報は、オーダー情報に対する補足データです。受理事項や送付事項などの詳細を含みます。受理事項は、たとえば保険証明書やライセンスなど、協力会社や仕入先から受け取る必要のある情報です。送付事項は、進行許可など協力会社や仕入先に送付する必要のある情報です。ログには、会議の日付、注記などオーダーに関連する情報も含まれます。

ログへの準拠を徹底するために、出来高払い機能の実行中には抑制と均衡が導入されます。すべての受理事項を受け取る前に支払を行うと、受理事項未処理の警告が表示されるように、ログ情報に日付を割り当てることができます。たとえば、協力業者や仕入先にオーダーに対して支払を行う前に保険情報の提出を要求している場合、受理事項未処理の警告を指定できます。その情報を受け取る前に支払をしようとすると警告が発信されます。こうすることで、条件が満たされるまで保留コードが支払に設定されます。

契約に新しいログ情報を入力するか、またはモデル・ログからオーダーにログ情報をコピーできます。モデル・ログは、契約にコピーしてから各契約に対して修正を加えることができる、1組のセットになった標準ログ情報です。コピー機能を使えば、複数のオーダーにわたって重複するログ情報がある場合に時間の節約になります。

ログ情報は一般的に仕入先に固有であり、契約ごとに基準が変わりません。ただし、結合は作業または契約レベルで行えます。ログは複数の階層レベルで入力や変更が可能です。ログ詳細は、会社や外注業者、プロジェクト、作業など個々の契約レベルやグローバル・レベルで追加できます。これらの個々のレベルは、業務のプロセスに基づいてアクティブ化または非アクティブ化することができます。

プロジェクトの途中で、いつでも契約入力からログを入力できます。ログおよび階層は、ログ・マスター (F4305) で管理します。

ログ詳細を複数のオンライン表示やレポートを通して参照できます。処理オプションを設定して契約タイプとログ表示オプションを指定することにより、ログ入力プログラム (P4305) を使用して階層ログのすべてのレベルを検索および表示できます。ログ階層固定情報プログラム (P4304) を使用して、未処理のログを検討できます。

F4305 ログ・レポート・プログラム (R43050) は、様々な階層でログを印刷し、検討できるようにします。ログ (F4305) レポート/更新プログラム (R43540) を使用すると、レポートを実行する際に、関連テキストおよび契約管理レポートを印刷して検討するかどうかを指定できます。また、ログ状況コードを自動的に変更するかどうかも指定できます。オーダー明細の印刷レポート (R4401P) を使用して、階層レベルまたは契約レベルのみのどちらかで、ログの契約の詳細を印刷することもできます。

契約レベルで単一レベルのログに対してログ・マスターの改訂プログラム (P4303) を現在使用している場合、データはログ・マスター (F4303) に保管されます。変換プログラムを実行して、階層ログ機能を使用できます。

---

**注意:** ログ・マスターの改訂プログラム (P4303) またはログ入力プログラム (P4305) のどちらかを使用して、ログ情報の作成と管理を行えます。システム内の両方のログ・プログラムを使用することはできません。購買オーダー入力および伝票照合は、UDC 40/VFを読み込み、UDCの設定に基づいてログ・マスターの改訂またはログ入力プログラムを呼び出します。

---

## 事前設定

階層ログを使用する前に、次の操作を行う必要があります。

- ログ階層レベルをUDC 43/LLで設定します。
- ログ階層固定情報プログラム (P4304) でログ階層レベルをアクティブにします。
- UDC 40/VFでログ機能をアクティブにします。
- ログ表示オプションをUDC 43/VOで設定します。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「階層ログの設定」、65ページ

## ログ情報の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」	オーダー見出しを処理します。  <b>注意:</b> 「オーダー見出し」フォームは、購買オーダー入力プログラムの「処理」タブにある「見出し表示」処理オプションを設定して見出しフォームを最初に表示するようにした場合にのみ表示されます。
オーダー明細の処理	W4310G	「購買照会」(G43A112)、「発注残照会」	オーダー明細を処理します。
ログの処理	W4305A	「オーダー見出しの処理」フォームでオーダーを選択して、「ロー」メニューの「ログ詳細」を選択します。	ログ情報を入力します。 ログ詳細を確認します。
モデル・ログの処理	W4303B	「購買オーダー処理」(G43A11)、「オーダー・ログの改訂」  「ログ詳細」フォームでオーダーを入力し、「フォーム」メニューから「モデル・ログ」を選択します。  「外注処理」(G43D11)、「オーダー・ログの改訂」  「ログ詳細」フォームでオーダーを入力し、「フォーム」メニューから「モデル・ログ」を選択します。	モデル・ログからログ情報をコピーします。  モデル・ログにアクセスします。モデル・ログには、オーダーにコピーできる標準ログ情報が含まれています。「モデル・ログの処理」フォームを使用する前に、モデル・ログ情報を作成する必要があります。

## ログ入力(P4305)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

#### 1. 契約タイプ

契約タイプを指定します。

一部の伝票、請求書、入荷確認書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されており、転記プログラムの実行時に自動的に仕訳が作成されます。

UDC 00/DTで設定済の値を入力します。

#### 2. 表示するログの種類

「表示するログの種類」オプションのデフォルト値を指定します。

UDC 43/VOで設定済の値を入力します。

## バージョン

システムで使用する伝票照合プログラム (P4314) のバージョンを指定します。

1. 進捗支払 (P4314) 未処理のログの表示方法を決定する際に使用される進捗支払 (P4314) のバージョンを指定します。

## ログ情報の入力

「オーダー見出しの処理」または「オーダー明細の処理」フォームにアクセスします。

ログ情報を入力して、オーダーに固有の情報を識別します。複数の明細行にログ情報を入力できます。ログ情報を入力した後、各品目行に対して記述テキストを入力できます。また、契約に対するログ情報を削除することも可能です。

**状況コード** ログ行の要件を満たしているかどうかを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 要件が満たされていないか、附帯項目行が非アクティブであるか、または必須の状況がありません。

Y: 要件が満たされています。

Y: 要件が満たされています。

**支払警告** 受理事項要件が非常に重要なために、受理事項要件が適切に満たされない場合、外注業者への通常支払が停止される可能性があるかどうかを示すコードを入力します。通常、このコードは受理事項ログ・エントリと組み合わせて使用します。値は次のとおりです。

Y: ログ要件が満たされない場合は警告メッセージを表示します。

N: 警告メッセージを表示しません。

「支払警告」をYに設定した場合は、未処理のログ要件が存在すると、進捗支払の入力中に、様々な警告メッセージが表示されることがあります。

未処理ログ警告は、「支払警告」フィールドで設定します。未処理ログ警告を受け取るには、ログの状況がNであり、「支払警告」フィールドがYで、要求日付や有効終了日付がシステム日付よりも前になっている必要があります。未処理ログ・タイプUDC (43/OL) にあるログ・タイプもすべてチェックされます。

## ログ・レポート/更新の実行

「外注契約レポート」(G43D111) の「ログ・レポート/更新」を選択します。

「ログ・レポート/更新」を実行すると、F4303テーブルの「支払時警告」フィールドの値を更新できます。このレポートには、次の情報が表示されます。

- 契約に関連するログ品目およびテキスト
- 受理事項および送付事項の状況

レポートを実行する際に、失効したログの状況を未完了に更新するかどうかを指定できます。これにより、未処理受理事項の警告が生成されます。また、レポートの情報を検討して、ログが失効している契約に対して支払を転記するかどうかを判断できます。

## ログ・レポート/更新 (R43300) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷

#### 失効したログ・レコードの状況コードの更新

「支払警告」がYに設定されている、条件が満たされていない失効したログの状況をNに変更するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank: ログの状況コードを更新しない。

1: 支払警告がYに設定された、条件が満たされていない失効したログの状況をNに変更する。

#### 契約管理レポートの印刷

契約管理レポートを印刷するかどうかを指定します。blankにすると、レポートは出力されません。値は次のとおりです。

blank: 印刷しない。

1: 印刷する。

#### 関連ログ・テキストを印刷

関連ログ・テキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 印刷しない。

1: 印刷する。

## モデル・ログからの情報のコピー

「モデル・ログの処理」フォームにアクセスします。

---

**注意:** モデル・ログには、ログ・マスターの改訂プログラム (P4303) およびログ入力プログラム (P4305) の両方を使用できます。

---

## バッチによるオーダーの印刷

この項では、バッチ印刷の概要と、次の方法について説明します。

- バッチ印刷
- 購買オーダー印刷 (R43500) の処理オプションの設定
- 購買オーダー印刷出力 (R43501) の処理オプションの設定

### バッチ印刷について

オーダーを入力した後で印刷して、内容を検討してから適切な仕入先に送ることができます。オーダーは仕入先マスターの仕入先に対して指定されている言語で印刷されます。

また、ワークファイルにオーダーを印刷して、レポートをカスタマイズすることもできます。レポートをカスタマイズする前に、正しい住所情報および添付ファイルまたは注記を取り込んでください。購買オーダー印刷出力プログラム (R43501) は、カスタマイズされたレポートの開始点です。JD Edwards EnterpriseOne システム55でカスタム・レポートを作成する方法の一例として使用するか、R43501を条件に合うように変更できます。購買オーダー印刷プログラム (R43500) は、処理オプションを介してR43501プログラムを呼び出します。

保留中のオーダーや、「前状況」が980（オーダー入力時の取消し）のオーダー行は印刷できません。他のすべての状況を持つオーダーは、R43500のデータ選択基準で指定されている場合を除き、P4310から印刷されます。

バッチ処理を実行してオーダーを印刷、検討し、適切な仕入先に送付できます。

処理オプションを使用して、オーダーに印刷する情報を指定します。次の情報を印刷できます。

- 税
- 未処理の品目情報のみ
- 仕入先品目番号
- 外貨および国内通貨
- 為替レート（外貨ユーザー用）
- メッセージ
- 仕入先分類コード
- 追加プロパティ
- カテゴリ・コード
- サービス・ユニット

サービス・ユニットを使用するよう選択した場合、「サービス数量」と「サービス単位」フィールドが出力されます。「オーダー数量」および「レコード単位」フィールドは出力されません。購買オーダーと複数勘定配賦行の両方について、サービス・ユニットの情報が出力されます。

購買指示を定義する際に「価格ピッキング・リスト」フィールドで価格と調整を印刷するように設定すると、調整はレポートに自動的に印刷されます。

---

**注意:** サービス請求固定情報プログラム (P48091) の「米国公共事業契約勘定使用」オプションを選択した場合、外注オーダーの契約関連のフィールドが出力されます。

---

## 仕入先分類コード

「仕入先分類コード」フィールドの値は、購買オーダー見出しテーブル (F4301) に保管され、購買オーダー・レポートに追加できます。レポートに仕入先分類コードを出力するには、R43500プログラムの「レポート表示」タブにある「仕入先タイプ分類」処理オプションを設定してください。分類コードは、見出しセクションの後の別のセクションに出力されます。

また、購買オーダー印刷出力プログラム (R43501) によって生成されたレポートに分類コードを出力することもできます。

## 追加プロパティおよびカテゴリ・コード

「ユーザー定義コード」フィールドの値は、購買オーダー見出しテーブル (F4301) に保管され、購買オーダー・レポートに追加できます。追加プロパティおよびカテゴリ・コードをレポートに出力するには、R43500プログラムの「レポート表示」タブにある「追加プロパティ表示」と「カテゴリ・コード表示」処理オプションを設定します。ユーザー定義フィールドの値は、オーダー見出し情報の後に出力されます。

購買オーダーの明細行に、4つのカテゴリ・コード・フィールドのユーザー定義の値が含まれることがあります。これらのフィールドの値は、明細行の情報とともに出力されます。

また、購買オーダー印刷出力プログラム (R43501) によって生成されたレポートに追加プロパティとカテゴリ・コードを出力することもできます。

## 購買オーダーの条項

購買オーダーの条項は、購買オーダー条項テーブル(F4320)に保管され、購買オーダー・レポートに追加できます。レポートに購買オーダー条項を出力するには、R43500プログラムの「レポート表示」タブにある「購買オーダー条項」処理オプションを設定してください。条項セクションは、プロパティのセクションの後に出力されます。

また、購買オーダー印刷出力プログラム(R43501)によって生成されたレポートに購買オーダー条項を出力することもできます。

## バッチ印刷

「購買オーダー処理」(G43A11)の「購買オーダーの印刷」を選択します。

## 購買オーダー印刷(R43500)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 状況コード

この処理オプションでは、購買オーダーの印刷時に更新する状況コードの範囲と、状況コードを自動更新するかどうかを指定できます。

- 1. 開始次状況コード(任意)** 更新する状況コード範囲の開始を指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用します。
- 2. 終了次状況コード(必須)** 更新する状況コード範囲の終了を指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を使用します。
- 3. 一時変更用次状況コード(任意)** 更新する次状況コードを指定します。この一時変更状況は、状況コードの更新で実行できるもう1つのステップになります。使用しているオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定したUDC(40/AT)を入力してください。
- 4. 状況の更新** オーダーの状況を更新するかどうかを指定します。状況コードは、使用しているオーダー・タイプおよび行タイプに対する「オーダー処理規則」フォームで設定したUDC(40/AT)です。値は次のとおりです。  
ブランク: 次の状況に更新します。  
1: 次の状況に更新しません。  
2: すべての行の次の状況を更新しますが、変更された行だけを印刷します。どの行も変更されていない場合は、すべての行が印刷されます。

### 税情報

この処理オプションでは、購買オーダーを印刷する際に含める税情報を指定できます。

- 1. 税印刷** 購買オーダーの印刷時に自動的に出力する税情報を指定します。値は次のとおりです。  
1: グループ別に税情報が印刷されます。  
2: 地域別に税情報が印刷されます。

3: 納税先別に税情報が印刷されます。

## レポート表示

この処理オプションでは、数量、金額、為替レート、一括メッセージおよび備考など、レポートに含める情報を選択できます。

1. 数量および金額の表示
 

当初の数量と金額を印刷するか、それとも未処理の数量と金額を印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当初の数量と金額を印刷します。

1: 未処理の数量と金額を印刷します。
2. 為替レートの表示
 

為替レートを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 為替レートを印刷しません。

1: 為替レートを印刷します。
3. 印刷する一括印刷メッセージ
 

各オーダーに印刷するテキスト・メッセージを指定します。テキスト・メッセージの例としては、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などがあります。

テキスト・メッセージは、40/PMで設定されるUDCです。
4. 購買オーダー注記の表示
 

購買オーダーの注記を印刷するかどうかを指定します。注記の例としては、発注者の名前、オーダーの品目およびサービスの調達を担当する購買担当者、オーダーの配送を請け負っている会社、確認番号、ジョブ番号などがあります。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーの注記を印刷しません。

1: 購買オーダーの注記を印刷します。
5. レポート見出しの表示
 

事前印刷用紙を使用する場合にレポート・タイトルと会社名を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトのレポート・タイトルと会社名を印刷します。

1: レポート・タイトルと会社名を印刷しません。
6. 購買担当部門名の表示
 

購買担当部門名を購買オーダーに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買担当部門名を購買オーダーに印刷しません。

1: 購買担当部門名を購買オーダーに印刷します。
7. 追加プロパティ表示
 

「追加プロパティ」タブからのユーザー定義フィールドの値を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 追加プロパティを印刷しない。

1: 追加プロパティを印刷する。
8. カテゴリ・コード表示
 

「カテゴリ・コード」タブからのユーザー定義フィールドの値を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: カテゴリ・コードを印刷しない。

1: カテゴリ・コードを印刷する。



- 9. 購買オーダー条項** 購買オーダーの条項を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 購買オーダーの条項を印刷しない。  
1: 購買オーダーの条項を印刷する。
- 10. 仕入先タイプ分類** 仕入先タイプ分類を印刷するかどうかを指定します。これらは、購買オーダーおよび伝票に表示されるJD Edwards EnterpriseOne住所録システムからの仕入先分類コードです。値は次のとおりです。  
ブランク: 仕入先タイプ分類を印刷しない。  
1: 仕入先タイプ分類を印刷する。

## 品目番号表示

この処理オプションでは、品目番号の表示形式を指定できます。

- 1. 品目番号の表示** 品目番号だけを印刷するか、それとも品目番号と仕入先の品目番号の両方を印刷するかを指定します。値は次のとおりです。  
1: 品目番号だけを印刷します。  
2: 品目番号と仕入先の品目番号の両方を印刷します。
- 2. 相互参照タイプを入力してください。** 仕入先の品目番号の印刷時に使用する相互参照のタイプを指定します。相互参照情報は、F4013テーブルに保存されます。  
相互参照情報は、41/DTで設定されるUDCです。

## オーダー改訂

この処理オプションでは、印刷するオーダーの改訂および表示するオーダー行を指定できます。

- 1. オーダー改訂を印刷するには、特定のオーダー改訂番号を入力するか、または次から選択してください。** 特定のオーダー改訂、購買オーダー全体、または最後のオーダー改訂を印刷するかどうかを指定します。特定のオーダー改訂を印刷するには、オーダー改訂番号を入力します。その他の値は次のとおりです。  
ブランク: 購買オーダー全体を印刷します。  
\*: 最後のオーダー改訂を印刷します。
- 2. 改訂の行** 改訂されたオーダー行だけを印刷するか、すべてのオーダー行を印刷するかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 改訂された行だけを印刷します。  
1: オーダーのすべての行を印刷します。

## 通貨

この処理オプションでは、金額を国内通貨と外貨のどちらで印刷するか指定できます。

- 1. 金額の表示** 国内通貨と外貨のどちらで金額を印刷するかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 国内通貨で金額を印刷します。  
1: 外貨で金額を印刷します。

この処理オプションでは、表示する電子データ交換(EDI)情報を指定できます。

- Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

PD: 計画配送。  
 PS: 計画出荷。  
 SH: 出荷ベース。  
 ZZ: 相互定義。

## バージョン

この処理オプションでは、印刷する購買オーダーをカスタマイズできます。

### 1. 印刷オプション

購買オーダー情報をワークファイルに送り、2次UBEを起動してそのワークファイルを読み込んで購買オーダーを印刷するかどうかを指定します。たとえば、購買オーダー印刷プログラムのレイアウトをカスタマイズする必要がある場合は、このオプションを使用します。

購買オーダー印刷プログラム (R43500) は、オーダーを処理して、必要なロジック (税計算など) を実行します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダー印刷プログラム (R43500) を起動します。

1: 2次UBEを起動します。

このオプションをブランクのままにした場合、購買オーダー情報はワークファイルに送られず、2次UBEも起動されません。

### 2. 2次UBE名

「印刷オプション」処理オプションと連携して機能します。起動する2次UBEプログラムの名前を指定します。このオプションをブランクのままにした場合は、デフォルトの購買オーダー印刷プログラム (R43501) が起動されます。

### 3. 2次UBEバージョン

購買オーダー印刷プログラム (R43501) の使用時にシステムによって使用されるバージョンを定義します。有効なバージョンを入力するか、ブランクのままにします。この処理オプションをブランクにすると、バージョンZJDE0001が使用されます。

バージョンを選択するときには、バージョンの処理オプションを検討して、そのバージョンがニーズに合っていることを確認してください。

「印刷オプション」処理オプションを1に設定し、「2次UBE名」処理オプションをブランクのままにした場合は、デフォルトの購買オーダー印刷プログラム (R43501) が使用されます。

## プロジェクトおよび公共事業契約

この処理オプションでは、フローダウン条項メッセージを印刷するかどうかを指定できます。

### 1. 印刷するフローダウン条項メッセージ

各オーダーに印刷するフローダウン条項とともにプロジェクトおよび公共事業契約の印刷メッセージを指定します。

テキスト・メッセージは、UDC 40/PMで設定されるUDCです。

## 購買オーダー印刷出力 (R43501) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### レポート表示

この処理オプションでは、為替レート、一括メッセージおよび備考など、レポートに含める情報を選択できます。

1. 為替レートを印刷するには、“1”を入力します。  
 為替レートを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 為替レートを印刷しません。  
 1: 為替レートを印刷します。
2. 各オーダーに印刷する一括印刷メッセージを入力します。  
 各オーダーに印刷するテキスト・メッセージを指定します。テキスト・メッセージの例としては、生産設計仕様、休暇中の作業時間数、特殊配送指示などがあります。  
 テキスト・メッセージは、40/PMで設定されるUDCです。
3. 購買オーダーの注記を印刷するには“1”を入力します。  
 購買オーダーの注記を印刷するかどうかを指定します。注記の例としては、発注者の名前、オーダーの品目およびサービスの調達を担当する購買担当者、オーダーの配送を請け負っている会社、確認番号、ジョブ番号などがあります。値は次のとおりです。  
 ブランク: 購買オーダーの注記を印刷しません。  
 1: 購買オーダーの注記を印刷します。
4. レポート・タイトルおよび会社名を印刷しない場合は“1”を入力します。  
 事前印刷用紙を使用する場合にレポート・タイトルと会社名を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: デフォルトのレポート・タイトルと会社名を印刷します。  
 1: レポート・タイトルと会社名を印刷しません。
5. 購買オーダーに購買担当部門を印刷するには“1”を入力します。  
 購買担当部門名を購買オーダーに印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 購買担当部門名を購買オーダーに印刷しません。  
 1: 購買担当部門名を購買オーダーに印刷します。
6. 印刷するフローダウン条項メッセージ  
 各オーダーに印刷するフローダウン条項とともにプロジェクトおよび公共事業契約の印刷メッセージを指定します。  
 テキスト・メッセージは、40/PMで設定されるUDCです。
7. 追加プロパティ表示  
 「追加プロパティ」タブからのユーザー定義フィールドの値を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 追加プロパティを印刷しない。  
 1: 追加プロパティを印刷する。
8. カテゴリ・コード表示  
 「カテゴリ・コード」タブからのユーザー定義フィールドの値を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: カテゴリ・コードを印刷しない。  
 1: カテゴリ・コードを印刷する。
9. 購買オーダー条項  
 購買オーダーの条項を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 購買オーダーの条項を印刷しない。  
 1: 購買オーダーの条項を印刷する。
10. 仕入先タイプ分類  
 仕入先タイプ分類を印刷するかどうかを指定します。これらは、購買オーダーおよび伝票に表示されるJD Edwards EnterpriseOne住所録システムからの仕入先分類コードです。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先タイプ分類を印刷しない。

1: 仕入先タイプ分類を印刷する。

---

## オーダーの個別印刷

この項では、個別オーダー印刷の概要と対話形式によるオン・デマンド印刷の方法について説明します。

### 個別オーダー印刷について

オーダーを個別に印刷して、適切な仕入先に送る前にオーダーを検討できます。電子データ交換 (EDI) システムの購買オーダー情報を保管するように「購買オーダー入力」の処理オプションを設定すると、JD Edwards EnterpriseOne 電子データ交換 (EDI) システムを使用して仕入先にオーダーを送信できます。

オーダーには次の3つのタイプのメッセージを印刷できます。

- 印刷メッセージ
- 添付
- 一括メッセージ

購買オーダー・プログラム (P4310) を使用して印刷メッセージを作成します。印刷メッセージを作成した後、それをオーダー入力時にオーダーまたは明細行に割り当てることができます。

「購買オーダー入力」の処理オプションを使用して添付ファイルを印刷するかどうかを指定します。オーダー入力時に、添付ファイルをオーダーまたは明細行に割り当てることができます。

また、一括メッセージの印刷も処理オプションで指定します。一括メッセージは常に、オーダーの上部に印刷されます。

オーダーの印刷は通常、オーダーの処理順序における1つのステップです。このステップは「オーダー処理規則」で設定します。オーダーを印刷した後は、次の処理ステップに自動的に進めることも、または再度印刷できるようにそのままにしておくこともできます。「購買オーダー入力」の処理オプションを使用して、オーダーの印刷後にオーダーの状況コードを更新するかどうかを指定します。

1回目はオーダーを検討するため、2回目は状況コードを更新するために、オーダーを2回印刷する場合があります。「購買オーダー入力」の処理オプションを使用して、次の2つの印刷プログラム・バージョンにアクセスできます。

- 購買オーダーの印刷
- 購買オーダーの再印刷

あるバージョンを使用してオーダーを検討し、別のバージョンでオーダーの状況コードを更新する場合もあります。

保留オーダーを印刷すると、白紙ページが印刷されます。

## オーダーの個別印刷に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」	オーダー見出しを処理します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューから「明細の改訂」を選択します。	オーダー明細を改訂します。
プリンタの選択	W986162B	「オーダー明細」フォームで明細行を選択して、「フォーム」メニューから「オーダーの印刷」を選択します。  「オーダー見出しの処理」フォームでオーダーを選択して、「ロー」メニューから「オーダーの印刷」を選択します。	オーダーの印刷方法を指定します。

## 対話形式によるオン・デマンド印刷

「オーダー見出しの処理」フォームにアクセスします。

## オーダー情報の処理

発注残情報を検討し、オーダーに関する情報を含む様々なレポートを印刷できます。

この項では、オーダー関連タスクの概要と、次の方法について説明します。

- 財務状況情報の検討
- オーダー明細情報の印刷
- オーダー明細の印刷(R4401P)の処理オプションの設定

## オーダー関連タスクについて

ソフトウェアでフォームにアクセスするか、レポートを表示することによって、オーダーに関する情報を検討できます。

### 発注残の検討

オーダーを入力する前に、その品目がすでに発注されているかどうかを確認します。これにより、発注残(発注したがまだ入荷していない)オーダーを検討できます。検討する発注残明細行について、オーダー番号や仕入先、品目、勘定科目コードなどを指定できます。

また、検討する明細行のオーダー・タイプを選択して、購買オーダー、購買要求、一括オーダーなどの発注残数量を検討できます。

オーダー数量、発注残数量、入荷数量、伝票作成済数量など、表示されている各発注残明細行に関する情報を検討できます。また、住所番号、日付、税情報にもアクセスできます。

## 仮定通貨の検討

伝票を基本通貨または外貨で入力した場合、それらの金額を別の通貨で照会できます。仮定通貨処理を使用すると、実際に入力された通貨以外の通貨で金額を検討できます。たとえば、ユーロで購買オーダーを入力したカナダの会社が、金額を日本円(JPY)で検討してから国内通貨(CAD)および外貨建て金額(EUR)と比較できます。

仮定通貨処理の利点の1つは、ディスク・スペースに影響しないことです。仮定通貨で計算された金額はテーブルには書き込まれず、一時メモリーに保存されます。このため、ディスク・スペースには影響しませんが、処理時間には影響します。

仮定通貨建て購買オーダーの金額を検討するには、購買オーダー・プログラム(P4310)の処理オプションでデフォルトの通貨コードと為替レート日付を入力してください。このデータにより「オーダー明細の処理」フォームで「仮定通貨」フィールドが表示されます。

為替レートはF0015テーブルから読み込まれ、購買オーダーの基本通貨(国内通貨)を基準にして仮定通貨金額が計算されます。為替レートの変更のために、検討している仮定通貨の金額が実際の伝票や支払の金額とは異なる場合があります。

## 変更オーダーの検討

変更オーダーを入力した後に、すべての変更を検討する必要があります。変更オーダーは、オーダー番号や仕入先、品目、勘定科目コードなど条件を指定して検討できます。

オーダー数量、発注残数、入荷数量、および伝票作成済数量など、変更オーダーに関するその他の情報の検討が可能です。また、住所番号、日付、税情報にもアクセスできます。

## 集計/明細情報の検討

品目、勘定科目コード、オーダー数量、価格、および合計容量および重量など、オーダーの集計情報を検討できます。また、オーダー全体の税額合計および金額を検討することも可能です。

オーダーまたは変更オーダーに関する明細情報を検討できます。たとえば、伝票、留保額、またはオーダーの変更についての情報を検討できます。

## 財務状況の検討

オーダーに関する会計情報の詳細を、リアルタイムで参照できます。また、オーダーに関連する出来高払い伝票の財務明細を検討することも可能です。

財務状況情報には、次の情報が含まれます。

- オーダー明細
- 単位請求金額
- 支払金額
- 留保金額
- 未決済金額

多通貨を選択している場合は、「財務状況照会の処理」フォームの「外貨」オプションを使用して、外貨または国内通貨で財務情報を検討できます。指定する為替レートに基づいて、金額が自動換算されます。

## 関連項目:

付録 C、「JD Edwards EnterpriseOne調達管理レポート、」369ページ

## オーダー情報の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー明細の処理, 契約明細の処理	W4310G	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買照会」(G43A112)、</li> <li>「発注残照会」</li> <li>「外注照会」(G43D112)、</li> <li>「発注残照会」</li> </ul>	オーダー明細を処理します。検討する特定のオーダーを開きます。
追加選択基準	W43041F	「オーダー明細の処理」フォームで、「フォーム」メニューから「追加選択」を選択します。	追加の選択条件を入力します。
購買明細照会	W430301C	「契約明細の処理」で明細行を選択し、「ロー」メニューから「オーダー明細」を選択します。	発注残明細行の追加情報を検討します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー明細の処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューから「変更オーダー」、「すべての変更オーダーの表示」を選択します。	変更オーダーを検討します。
オーダー入力-オーダー集計情報	W430114A	「オーダー明細の処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューから「購買オーダー集計」を選択します。	オーダー集計情報を検討します。
オーダー集計	W4310C	「オーダー明細の処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューから「オーダー集計」を選択します。	オーダー明細情報を検討します。
財務状況照会の処理	W44200A	「オーダー明細の処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューから「財務状況」を選択します。	財務状況情報を検討します。
仕入先元帳照会	W0411G	「財務状況照会の処理」フォームで、「フォーム」メニューから「仕入先元帳」を選択します。	伝票情報にアクセスします。

## 財務状況情報の検討

「財務状況照会の処理」フォームにアクセスします。

### 伝票番号

伝票、請求書、仕訳などの当初伝票を識別する番号を入力します。入力フォームでの伝票番号は、ユーザーが割り当てるか、または自動採番プログラム (P0002) を使って自動的に割り当てることができます。照合伝票番号 (DOCM) は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理と JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理の両システムの関連する伝票を特定します。当初伝票および照合伝票には次の例があります。



- 買掛管理
- 当初伝票 - 買掛伝票
- 照合伝票 - 支払
- 売掛管理
- 当初伝票 - 請求書
- 照合伝票 - 入金

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムでは、これらのトランザクションは当初伝票と照合伝票(損金、未充当入金、再請求、および手形)を同時に生成するので注意してください。

#### 伝票会社

伝票番号、伝票タイプ、および元帳日付と組み合わせて当初伝票(請求書、伝票、仕訳など)を一意に識別する番号を入力します。

会社/会計年度別自動採番機能を使用した場合、自動採番プログラム(X0010)は伝票会社を使用してその会社に対する正しい次の番号を取得します。

複数の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持っている場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を特定できます。

#### 伝票タイプ

トランザクションの発生元と目的を識別するUDC(00/DT)の値を入力します。伝票、請求書、入荷確認書、タイムシートなどの伝票タイプ用に、いくつかのプレフィックスが予約済です。各コードに予約済の伝票タイプのプレフィックスは、次のとおりです。

P: 買掛伝票

R: 売掛伝票

T: 時間および給与伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

S: 受注オーダー伝票

#### 請求書日付

仕入先からの請求書の日付を入力します。

#### 元帳日付

取引を転記する会計期間を決定する日付を入力します。一般会計の会社固定情報テーブルにより、各会計期間の日付範囲が指定されます。14期間まで使用できます。

#### 期日

割引の期日を入力します。割引が行われない場合、このフィールドには支払期日が表示されます。

伝票入力時にこのフィールドをブランクにすると、請求書日付と支払条件コードを使って自動的に支払期日が計算されます。「支払条件」フィールドをブランクにすると、「仕入先マスターの改訂」フォームで仕入先に対して指定した支払条件に基づいて、自動的に割引期日と支払期日が計算されます。

支払期日は伝票入力フォームに表示されません。支払期日は、「割引期日」フィールドに入力した値に基づいて自動的に計算されるか割り当てられます。「割引期日」フィールドがブランクの場合、支払期日と割引日付は自動的に計算されます。割引期日を手入力すると、割引日付にも同じ日付が割り当てられます。支払期日が計算または割り当てられた後で割引期

日を空白以外の値に変更しても、すでに計算されている割引日付は変更されません。

## 総額

請求書または伝票の支払項目の合計金額を指定する値を入力します。税目コードの値によって、総額は税込みの金額になる場合もあります。消込のときもこの総額は変わりません。取引を無効にすると、「総額」フィールドの金額はクリアされます。

## オーダー明細情報の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「オーダー明細の印刷」を選択します。

## オーダー明細の印刷(R4401P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

#### 1. ログ情報

外注契約に関連するログ情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: ログ情報を印刷しない。

1: 外注契約レベルのログのみ印刷する。

2: すべての階層レベルでログを印刷する。

#### 2. テキストの印刷(将来使用)

将来使用するために予約されています。テキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: テキストを印刷しない。

1: テキストを印刷する。

#### 3. テキスト情報の印刷

税情報を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 税情報を印刷する。

1: 税情報を印刷しない。

## 第 12 章

# 入荷処理の利用

この章では、入荷処理の概要と次の方法について説明します。

- 入荷確認書の印刷
- 入荷の入力
- 一括入荷の入力
- 入荷トランザクションに対する仕訳の検討
- 入荷情報の印刷

---

## 入荷処理について

購買オーダーで要求した商品およびサービスを入荷する際に、非公式と公式入荷処理のいずれかを使用できます。在庫用に品目を仕入れる場合、公式の入荷処理を使用します。総勘定元帳に計上する品目またはサービスを仕入れる場合は公式、非公式のどちらでも使用できます。

ここでは、次の事項について説明します。

- 非公式の入荷処理
- 公式の入荷処理

### 非公式の入荷処理

非公式の入荷処理では、伝票作成と同時に入荷情報を入力します。ペン50本に対する伝票を作成すると、システムは50本のペンを入荷したことを認識します。

非公式の入荷処理を使用すると、伝票作成時にF43121テーブルに単一レコードが作成されます。そのときに、購買に対する債務も作成されます。

### 公式の入荷処理

公式の入荷処理では、伝票作成前に入荷明細を入力します。伝票は入荷情報を基にして作成します。たとえば、ペン50本の入荷を入力する場合、ペン50本に対して伝票を作成する必要があります。

商品の入荷を正確に記録するには、公式の入荷処理で次のような処理を実行します。

- 品目の実際の入荷の記録
- 入荷の明細の識別
- 入荷の明細の記録

公式の入荷処理で入荷確認書を使用すると、商品の入荷を納品時に手作業で記録できます。それからその情報をシステムに入力します。

納品の際に端末から入荷情報を入力する場合、または購買オーダーのコピーを入荷確認書として使用する場合には、入荷確認書を使う必要はありません。

公式の入荷処理を使用すると、入荷の入力後にF43121テーブルに入荷レコードが作成されます。そのときに、購買に対する債務も作成されます。伝票を作成すると、F43121テーブルにもう1つレコードが作成されます。

---

## 入荷確認書の印刷

この項では、入荷確認書の概要と次の方法について説明します。

- 入荷確認書印刷(R43510)の処理オプションの設定
- バッチ・モードによる入荷確認書の印刷
- 個別オーダーの入荷確認書の印刷

### 入荷確認書について

入荷確認書は、納品時に商品の入荷を手作業で記録する際に使用する伝票です。入荷確認書により次の情報が提供されます。

- 当初購買オーダー情報
- 未入荷の品目数量
- 入荷数量または金額を記録するカラム

入荷確認書が必要になるのは次のような場合です。

- 入荷する商品に対する購買オーダー情報の検討
- 入荷品目情報の確認
- システムへの入荷情報の記録

入荷確認書に印刷する情報を確定します。処理オプションで、次の情報を印刷するかどうかを指定できます。

- 価格情報
- オーダー数量
- 相互参照番号
- 外貨建て金額

---

**注意:** 入荷確認プログラム(P4312)の「表示」タブにある「サービス・ユニットの表示」処理オプションがサービス・ユニットを表示するよう設定されていると、入荷確認書に「サービス数量」と「サービス単位」フィールドが印刷されます。

---

オーダー処理規則を設定して、入荷確認書の印刷を購買オーダー処理のステップの1つとすることができます。入荷確認書を印刷した後、オーダーが購買処理の次のステップに自動的に進行するように設定できます。または、オーダーを現行状況のままにしておくことも可能です。入荷確認書印刷プログラム(R43510)の処理オプションで、状況コードを自動更新するよう設定している場合、オーダーを次の処理に進めるために明細行の状況コードが更新されます。

入荷確認書は、バッチ・モードで印刷するかまたは個別にも印刷できます。

バッチ・モードで入荷確認書を印刷する際に、オーダーによっては2つ目の入荷確認書を印刷しなければならないこともあります。たとえば、オーダーを部分的に入荷する場合は、オーダー残高を記録する際に2つ目の入荷確認書を印刷する必要があります。入荷確認書印刷プログラム(R43510)を使用して、特定の購買オーダーの入荷確認書を印刷できます。

## 入荷確認書印刷(R43510)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 編集

この処理オプションでは、レコードの編集時に使用される情報を入力できます。

- |   |  |
|---|--|
| 1. 次状況コードの更新を回避する場合は、“1”を入力してください。                      | 次状況コードを更新するかどうかを指定します。   |
| 2. 一時変更用次状況コードを入力してください。                                | 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するユーザー定義コード(UDC)(40/AT)を指定します。                                       |
| 3. 工程コードの読み込みに使用する経路タイプ。プランクにした場合、プランクに等しい工程タイプが検索されます。 | 品目/仕入先の組合せ用の作業工程を限定するコードを指定します。例としては、事前出荷通知(ASN、EDI 856出荷通知/積荷目録トランザクション)や転送に対する特定の工程タイプがあります。 |

### 印刷

この処理オプションでは、入荷確認書の印刷レポート(R43510)に印刷する情報タイプを入力できます。

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| 1. 原価情報を印刷しない場合は“1”を入力します。  | 原価情報を印刷するかどうかを指定します。                                |
| 2. 数量情報を印刷しない場合は“1”を入力します。  | 数量情報を印刷するかどうかを指定します。                                |
| 3. 仕入先品目番号を印刷するには“1”を入力します。 | 仕入先品目番号を印刷するかどうかを指定します。                             |
| 4. 相互参照番号タイプを入力します。         | この顧客に設定した相互参照タイプを識別するユーザー定義コード・テーブル(41/DT)の値を指定します。 |
| 5. 関連テキストを印刷するには“1”を入力します。  | 関連テキストを印刷するかどうかを指定します。                              |
| 6. 工程コードを印刷するには“1”を入力します。   | 作業工程コードを印刷するかどうかを指定します。                             |

**7. 複数の勘定科目を印刷** 複数の勘定項目の情報を印刷するかどうかを指定します。するには“1”を入力します。

## 通貨

この処理オプションでは、金額を外貨で印刷するかどうかを指定できます。

**1. 金額を外貨で印刷するに** 金額を外貨で印刷するかどうかを指定します。は“1”を入力してください。

## バッチ・モードによる入荷確認書の印刷

「購買オーダー処理」(G43A11)の「入荷確認書の印刷」を選択します。

入荷確認書を使って、商品の入荷時点で、手作業による入荷情報の記録ができます。「入荷確認書の印刷」で指定した条件に基づいて、入荷確認書をバッチ・モードで印刷できます。

## 個別オーダーの入荷確認書の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「入荷確認書の印刷」を選択します。

---

# 入荷の入力

この項では、入荷情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 入荷確認(P4312)の処理オプションの設定
- 入荷情報の入力

## 入荷情報について

商品の入荷後は入荷明細を記録する必要があります。入荷情報は次の処理に使用されます。

- JD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムの品目数量および原価の更新
- 勘定科目の更新

商品入荷時に、入荷明細が購買オーダー情報に一致していることを確認する必要があります。このとき、品目番号、数量、単位、原価などを検証します。入荷明細が購買オーダーの明細と異なる場合、入荷を反映させるために購買オーダーの明細行を調整します。たとえば、配送料金または輸入税などの陸揚費用が品目の仕入価格に適用される場合、入荷処理時にこれらの情報を入力します。

また、入荷時の購買オーダー品目の価格設定および価格再設定も有効化されます。マトリックス品目の入荷時の価格設定と価格再設定、および品質属性によって、品目の入荷時に反映しなければならない価格変更を計上できるようになります。

JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで直送オーダーを作成すると、対応する購買オーダーが自動的に作成されます。直送オーダーについては、入荷を入力して対応する受注オーダーを新しい状況に更新する必要があります。ただし、部分入荷を入力する場合は、直送オーダーの対応する明細行が分割され、入荷済のオーダー明細行のみ更新されます。

在庫環境で処理する場合、入荷時に品目を保管する倉庫を指定できます。特定の保管場所が空いていない場合は、品目を複数の保管場所に割り当てることができます。ロット別に品目をグループ化すると、品目を単一ロットまたは複数ロットに割り当てることができます。必要に応じて、これらの品目に対するシリアル番号を指定します。

入荷先事業所でライセンス・プレート機能を有効にしている場合は、「倉庫」タブの処理オプションとライセンス・プレートの事業所固定情報を使用して、在庫を保管場所に追加するためのライセンス・プレート情報を処理します。

オーダーの品目を入荷するたびに、次の処理が行われます。

- F43121テーブルで、入荷レコードが作成されます。
- F41021テーブルで、品目数量(引当可能数量と引当数量)が更新されます。
- F4111テーブルに、新規レコードが追加されます。
- F0911テーブルで、該当する勘定科目が更新されます。

入荷を取り消したり戻し(逆仕訳)を入れるたびに、当初の入荷を入力する際に更新されたものと同じテーブルが更新されます。

## 入荷情報の入力

入荷情報を入力して、購買オーダーにある商品またはサービスの入荷を確認する必要があります。入荷する各オーダーの数量や原価などを確認します。

多数の購買明細行がある入荷を入力する場合は、ネットワークを利用しても情報を入力できます。キット品の入荷を入力する際は、構成品のみの入荷情報を入力できます。親品目の入荷は入力できません。

入荷を入力するには、まず入荷に対応する発注残明細行を検索します。発注残明細行には、未入荷の品目が表示されます。指定する品目番号、購買オーダー番号、または勘定科目番号について、すべての発注残明細行が取り込まれます。入荷確認プログラム(P4312)の処理オプションを設定すると、原価情報を表示したり、オーダー明細行の原価変更を許可するかどうかを確定できます。

購買オーダー行の入荷を入力するとき、勘定配賦の照会プログラム(P43126)を使用して、F4316テーブルに保存されている複数の勘定配賦レコードを確認できます。行が複数の勘定に配賦されている購買オーダーの入荷を入力すると(AまたはBの在庫インターフェイスのみ)、品目数量と原価が更新され、次のテーブルのレコードの書込みおよび更新が行われます。

- F4311(レコードの更新)
- F4316(レコードの更新)
- F43121(レコードの書込み)
- F43126(レコードの書込み)
- F43199(監査履歴を使用している場合のみ、レコードの書込み)
- F0911(レコードの書込み)

F4316の各レコードについては、引当数量の更新前に、総勘定元帳取引が作成され、F0911テーブルにレコードが保存されます。

入荷確認プログラム(P4312)の「表示」タブにある「サービス・ユニットの表示」処理オプションが選択されている場合、「勘定配賦の照会」フォーム(W43126A)に「サービス数量」と「サービス単位」フィールドが表示されます。

---

**注意:** 複数の勘定配賦機能は、入荷工程、複数保管場所、および陸揚費用には適用されません。

---

入荷確認が作成されると、費用勘定への金額の転記を延期して、伝票照合時にその金額を経費処理することができます。

コンフィギュレーション品目の購買構成品について入荷を入力するには、入荷確認プログラムを使用します。「ロー」メニューのオプションを使用して、コンフィギュレーションを参照します。

### 外貨と国内通貨の検討

「入荷確認」フォームの「外貨」フィールドを使用して、外貨と国内通貨の両方で金額を検討できます。オーダー行の原価を変更する場合、正しい通貨モードを使用していることを確認してください。

入荷確認の処理オプションを使用して、為替レートの使用方法を指定できます。たとえば、次のようにできます。

- 元帳日付に適用される為替レートの使用
- 為替レートの変更禁止

外貨でオーダーを入荷した場合、次の2つの元帳に仕訳が作成されます。

- 基本通貨金額はAA元帳
- 外貨金額はCA元帳

### 購買オーダー明細行の調整

購買オーダーの明細行と実際の入荷明細が異なる場合、入荷を反映させるために購買オーダーの明細行を調整します。たとえば、明細行のオーダー数量20のうち10を入荷した場合、明細行の数量を10に変更する必要があります。明細行の残りの数量を締め切るか、未処理のままにしておくかを指定します。

### マトリックス品目の入荷

マトリックス子品目を入荷する際は、許容度を計算して適切な警告を発する必要があります。マトリックス子品目を入荷するには、次の手順に従います。

1. マトリックス親品目が展開しないように、購買オーダー・プログラム(P4310)の「マトリックス」タブにある「マトリックス・オーダー・フォームの表示(親在庫)」処理オプションを1に設定します。
2. マトリックス親品目の購買オーダーを入力します。
3. 入荷確認プログラム(P4312)の「検証」タブの「数量および金額のチェック」処理を2に設定して、オーダーが許容範囲を超えたときにエラー・メッセージを表示します。
4. 入荷確認プログラムにアクセスして、マトリックス親品目に入力された購買オーダーを選択します。
5. 「ロー」メニューから「マトリックス・オーダー」を選択し、数量を入力してマトリックス子品目を選択します。

マトリックス親品目の数量が「制御数量」フィールドに表示されます。マトリックス子品目にマトリックス親品目より多い数量を入力した場合、警告が表示されます。

6. 警告メッセージを処理すると、選択したマトリックス子品目が購買オーダー入荷確認に追加されます。
7. 「OK」をクリックして品目を入荷します。

参照: [第 4 章、「調達管理における価格設定について」、17ページ](#)

### 入荷時の価格設定および価格再設定

品質属性や価格設定の変更に基づいて、入荷時に品目の価格設定や価格再設定を行えます。契約と価格調整を使用して、新しい品目の価格が入荷時に計算されます。



参照: [第 4 章、「調達管理における価格設定について」、17ページ](#)

## 買掛金照合のためのサービス・ユニット

購買オーダーの入荷処理中に、サービス購買オーダー行にサービス・ユニットの情報を入力できます。サービス・ユニットは参照専用のため、値の検証は一切行われません。

サービス・ユニットを有効にするには、「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションを選択します。在庫インターフェイスAおよびBに対してのみ、サービス・ユニットのフィールドがチェックされているかどうかを検証されます。

「購買オーダー入荷の処理」フォーム (W4312F) および「入荷確認」フォーム (W4312A) で「サービス数量」と「サービス単位」フィールドを表示するには、入荷確認プログラム (P4312) の「表示」タブにある「サービス・ユニットの表示」処理オプションを設定します。

参照: [第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷確認 \(P4312\) の処理オプションの設定」、187ページ](#)

参照: [第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷情報の入力」、199ページ](#)

参照: [第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、27ページ](#)

## 事前設定

購買オーダー・プログラム (P4310) の処理オプションで、「デフォルト」タブにある行順序のオプションがブランク(または0)に設定されていることを確認してください。この処理オプションが1の場合は、変更オーダーを受け取る際に問題が発生します。

## 入荷の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買オーダー入荷の処理	W4312F	「購買オーダー処理」(G43A11)、「入荷確認(購買オーダー別)」	入荷情報を入力します。 購買オーダー入荷の処理を行います。
入荷確認	W4312A	「購買オーダー入荷の処理」で、購買オーダーを検索して「選択」ボタンをクリックします。	購買オーダーの入荷明細を検討して修正します。
勘定配賦の照会	W43126A	「入荷確認」で、購買オーダーを検索し、「ロー」メニューから「勘定配賦」を選択します。	勘定配賦情報を検討します(照会のみ)。

## 入荷確認 (P4312) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、入荷確認プログラム (P4312) で使用されるデフォルト情報を定義します。

1. **照会用オーダー・タイプ** 伝票タイプを指定します。このUDC (00/DT) はトランザクションの起点も指定します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードが予約されており、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳

が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)各伝票タイプに対して、次のプレフィックスが事前定義されています。これらのプレフィックスは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票  
 R: 売掛金伝票  
 T: 給与計算伝票  
 I: 在庫伝票  
 O: 購買オーダー伝票  
 J: 一般会計/共有利息請求伝票  
 S: 受注オーダー処理伝票

## 2. 入荷伝票タイプ

伝票タイプを指定します。このUDC(00/DT)はトランザクションの起点も指定します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードが予約されており、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)各伝票タイプに対して、次のプレフィックスが事前定義されています。これらのプレフィックスは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票  
 R: 売掛金伝票  
 T: 給与計算伝票  
 I: 在庫伝票  
 O: 購買オーダー伝票  
 J: 一般会計/共有利息請求伝票  
 S: 受注オーダー処理伝票

## 状況コード

この処理オプションでは、入荷確認時に使用する状況コードを制御します。

- |   |  |
|---|--|
| <b>1. 承認可能な入荷状況<br/>コード1 から 3. 承認可能な<br/>入荷状況コード3</b> | “次の状況”を指定します。オーダーが、この処理オプションで指定した“次の状況”に該当する場合、入荷対象になります。<br><br>この処理オプションを指定する前に、設定済のオーダー処理規則を確認してください。 |
| <b>4. 部分入荷用出荷状況</b>                                   | 部分入荷後にオーダーが移行する“次の状況”を指定します。<br><br>この処理オプションを指定する前に、設定済のオーダー処理規則を確認してください。                              |
| <b>5. 終了用出荷状況</b>                                     | 明細行がクローズされるかまたは完全に入荷された後に、オーダーが移行する“次の状況”を指定します。<br><br>クローズされたかまたは完全に入荷された明細行には、状況コード999を使用します。         |
| <b>6. 取消用出荷状況</b>                                     | 明細行が取り消された後に、オーダーが移行する“次の状況”を指定します。<br><br>取り消された明細行には、状況コード999を使用します。                                   |

**表示**

この処理オプションでは、入荷確認プログラム(P4312)で表示される情報と、それらの情報を変更可能にするかどうかを制御します。

1. 受注オーダーのバックオーダー  
バックオーダーされた受注オーダーのリリース方法を指定します。値は次のとおりです。  
空白: 受注オーダーはリリースされません。  
1: 「受注バックオーダー・リリース」フォームが自動的に表示されます。
  2. ロット情報  
「ロット」フィールドおよび「満了日付」フィールドなどのロット情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: ロット情報は表示されません。  
1: ロット情報のフィールドが表示されます。  
2: ロット情報のフィールドが表示され、入力保護されます。
  3. 原価の保護  
原価を変更できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 原価のフィールドがフォームに表示され、変更可能になります。  
1: 原価のフィールドがフォームに表示されますが、変更できません。  
2: 原価情報が表示されません。
  4. キット品  
キット構成品行を表示するか、または親行のみ表示するかを指定します。値は次のとおりです。  
1: キットの親品目が表示されます(将来使用)。  
2: キットの構成品が表示されます。
  5. 入荷モード  
明細行の入荷に使用するモードを指定します。値は次のとおりです。  
1: 購買オーダー別の入荷  
2: 品目別の入荷  
3: 総勘定元帳別の入荷  
4: 出荷番号別の入荷  
入荷処理のフォームで明細行を1行だけ選択すると、入力したモードの条件を満たすすべての明細行が入荷処理のフォームに表示されます。  
たとえば、入荷モードとして「1」を入力し、入荷処理のフォームで明細行を1行だけ選択した場合、購買オーダーのすべての行が表示されます。入荷モードとして「2」を入力し、入荷処理のフォームで明細行を1行だけ選択した場合、選択された品目のすべての行が表示されます。  
入荷モードとして「3」を入力し、入荷処理のフォームで明細行を1行だけ選択した場合、総勘定元帳のすべての行が表示されます。入荷モードとして「4」を入力し、入荷処理のフォームで明細行を1行だけ選択した場合、出荷番号のすべての行が表示されます。
  6. サービス・ユニットの表示  
グリッドに「サービス数量」および「サービス単位」フィールドを表示するかどうかを指定します。この処理オプションは、行タイプ固定情報と合せて使用されます。行タイプ固定情報で「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションが選択されている場合、サービス数量とサービス単位を使用できます。

「数量」と「サービス数量」フィールドは同時には使用できません。サービス数量はメモ用フィールドであり、検証は何も行われません。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

## 処理

この処理オプションでは、次のような処理を実行できるかどうかを指定します。

- 仕入先情報の更新
- デフォルト値として使用するロット番号の指定
- 入荷の全明細行の自動選択
- シリアル番号情報の入力
- 数量情報の手作業または自動入力
- 陸揚費用情報の検討または更新
- 入庫記録レポートの印刷
- 仕入先分析情報の記録
- 入荷入力担当者へのメッセージの自動送信
- 直送オーダー入荷に対する受注オーダー状況の指定

- 1. 仕入先更新モード**

F4102テーブルの仕入先番号を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先番号は更新されません。

1: 仕入先番号の値がゼロの場合、F4102テーブルの仕入先番号が更新されます。

2: 仕入先番号の値にかかわらず、F4102テーブルの仕入先番号が更新されます。
- 2. ロットのデフォルト**

入荷確認プログラム(P4312)で、デフォルトのロットおよび保管場所情報を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトのロットおよび保管場所情報が使用されません。

1: F41021テーブルに保存されている基本品目残保管場所から、保管場所およびロット番号が使用されます。
- 3. オプションのデフォルト**

入荷の全明細行を自動的に選択するかどうかを指定します。自動選択にすると、手作業で各明細行を選択する必要がなくなります。値は次のとおりです。

ブランク: 入荷の全明細行の自動選択が行われません。

1: 入荷の全明細行が自動的に選択されます。
- 4. シリアル番号**

シリアル番号情報の入力を許可するかどうかを指定します。シリアル番号情報を入力する前に、「品目/事業所情報」フォームの「シリアルNo.必須」フィールドに「Y」(はい)が入力されていることを確認する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: F4220テーブルにシリアル番号情報を入力できません。

- 1: F4220テーブルにシリアル番号情報を入力できます。
- 5. 数量の入力方法** 数量情報を手入力するか、自動的に入力するかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: このフィールドのデフォルト値として、未処理数量が使用されます。  
 1: 数量を手作業で入力します。
- 6. 陸揚費用** 陸揚費用を手作業で適用するか、またはシステムにより自動的に適用するかを指定します。陸揚費用を手作業で適用できるのは、独立型陸揚費用プログラム(P43214)からアクセスする「入荷照会」フォームでの入荷後です。値は次のとおりです。  
 ブランク: 陸揚費用が適用されません。  
 1: 「陸揚費用の選択」フォームが表示され、情報を検討または更新できます。  
 2: 「陸揚費用の選択」フォームが表示されずに自動的に陸揚費用規則が適用されます。  
 入荷工程処理中の品目に陸揚費用を適用する場合、この処理オプションで2を指定する必要があります。
- 7. 入庫記録レポート** 各入荷後に入庫記録レポートを印刷するかどうかを指定します。「バージョン」タブで指定したバージョンが使用されます。値は次のとおりです。  
 ブランク: 各入荷後に入庫記録レポートが印刷されません。  
 1: 各入荷後に入庫記録レポートが自動的に印刷されます。
- 8. 仕入先分析の取込み** 仕入先分析情報を取り込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 仕入先分析情報を取り込みません。  
 1: 各購買オーダーの品目番号、日付、および数量などの情報がF43090テーブルに記録されます。最も効率的に仕入先情報を記録するには、この処理オプションで「1」を入力し、購買オーダー入力プログラム(P4310)および伝票照合プログラム(P4314)の処理オプションで、これと同じ情報を取り込むよう設定してください。
- 9. テキストの削除** 将来使用のために予約されています。
- 10. 直送状況コード** 直送オーダー入荷に対する受注オーダー状況を指定します。このフィールドに入力した状況により、受注オーダーの“次の状況”が決まります。  
 この処理オプションを指定する前に、オーダー処理規則を確認してください。
- 11. 入荷工程の管理** 入荷工程を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 入荷工程が有効になりません。  
 1: 標準入荷工程が有効になります。  
 2: Supplier Relationship Management (SRM) 入荷工程が有効になります。
- 
- 注意:** SRMはオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne Supply Management モジュールです。
- 
- 12. デフォルト入荷工程タイプ** 品目/仕入先の組合せ用の作業工程を限定するコードを入力します。例としては、ASN(EDI 856出荷通知/積荷目録ランザクション)や転送に対

する特定の工程タイプがあります。この処理オプションをブランクにした場合、ブランクに等しい工程タイプが検索されます。

### 13. 仕訳の集計

仕訳入力を集計するかどうかを指定します。PA元帳またはPU元帳を使用してコミットメントをトラッキングする場合、この処理オプションは使用できません。値は次のとおりです。

ブランク: 仕訳入力が集計されません。

1: 仕訳入力が集計されます。

### 14. 資材出庫(MPM)を非表示モードで実行

資材出庫機能を有効にするかどうかを指定します。資材出庫機能は、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne受注設計生産(ETO)システムを使用していて、ETO入荷を処理している場合にのみ有効にできます。また、F40205テーブルの資材出庫の呼出しフラグも設定する必要があります。値は次のとおりです。

ブランク: 資材出庫機能が有効になりません。

1: 資材出庫機能が有効になります。

### 15. 手持数量がマイナスになった場合の処理

マイナスの手持数量が算出された場合に、入荷処理を続行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入荷処理が続行され、警告またはエラーが表示されません。

1: 入荷処理が続行されますが、警告が表示されます。

2: 入荷処理が続行されず、エラーが表示されます。

### 16. 元帳バッチの自動転記の有効化

プログラム終了時の元帳バッチの自動転記を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 手作業による転記

1: 自動転記

### 17. 入荷時の価格計算

入荷時に価格を計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 入荷時に価格を計算しない。

1: 入荷時に価格を計算する。

### 18. 入荷時価格計算の警告

価格管理で最終単位原価が変更される可能性があるという警告を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 警告を表示しません。

1: 入荷処理によって最終単位原価が変更される可能性のある場合に警告を表示します。

### 19. 2重単位原価計算

現在の単位原価フィールドの他に、2次単位原価フィールドを表示するかどうかを指定します。2次単位原価フィールドは、この処理オプションが選択された場合に表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: 「2次単位原価」フィールドを表示しない。

1: 「2次単位原価」フィールドを表示する。

## 検証

この処理オプションでは、明細行に対する許容度チェックの実行方法を指定します。

## 1. 数量および金額のチェック

明細行の数量および金額が許容率を超過しているかどうかを判断するために、数量および金額を確認するかどうかを指定します。許容率を確認するには、許容率設定プログラム (P4322) にアクセスします。値は次のとおりです。

ブランク: 許容率を超過しているかどうかを判断するために、数量および金額が確認されません。

- 1: 明細行が許容率を超過すると、警告が表示されます。
- 2: 明細行が許容率を超過すると、エラー・メッセージが表示されます。

## 2. 日付のチェック

明細行の日付が許容日付範囲外かどうかを判断するために、日付を確認するかどうかを指定します。許容日付範囲を確認するには、仕入先/品目情報プログラム (P43090) にアクセスします。値は次のとおりです。

ブランク: 明細行の入荷日付が許容範囲外かどうかを判断するために、明細行の入荷日付が確認されません。

- 1: 明細行の入荷日付が許容日付範囲外の場合、警告が表示されます。
- 2: 明細行の入荷日付が許容日付範囲外の場合、エラー・メッセージが表示されます。

## 倉庫

この処理オプションでは、入荷確認プログラム (P4312) が JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムとどのようにやり取りをするかを指定します。

### 1. 貯蔵モード

貯蔵要求の処理方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 貯蔵要求が作成されません。入荷確認プログラム (P4312) を使用して貯蔵を作成しないと、入荷品目は入荷した場所に残ります。その後、手作業または購買オーダーの入荷に戻しを実行することによって貯蔵要求を作成できます。これを行うには、この処理オプションを設定して、購買オーダーの入荷に戻しを実行し、購買オーダーを再び入荷することによって貯蔵要求を作成します。

- 1: 貯蔵要求のみ作成されます。それとは別に、保管場所提示の作成および確認を行う必要があります。
- 2: 貯蔵要求が作成され、サブシステムを使用して要求が処理されます。
- 3: 商品が保管場所に直接入荷され、要求または提示が作成されません。

### 2. ライセンス・プレート番号の生成方法

使用するライセンス・プレート番号の生成方法を指定します。値は次のとおりです。

- 00: ライセンス・プレート固定情報が使用されます。
- 01: 手作業による入力を使用されます。
- 02: ユーザー定義式が作成されます。
- 03: 自動製品コード (EPC) 番号が作成されます。

### 3. デフォルトの単位構造体の作成

ライセンス・プレート番号が自動作成されるときに使用される単位構造体を指定します。ライセンス・プレートは、品目単位定義 (P46011) アプリケーションで、ライセンス・プレート・フラグが選択されている品目の単位にのみ作成されます。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトの品目単位構造体を使用されます。

1: 取引単位よりも上位レベルを除いて、デフォルトの品目単位構造体を使用されます。

#### 4. 品目のライセンス・プレートへの割当て(P46L30)

「ライセンス・プレートへの品目の割当て/削除」フォーム(W46L30B)を自動的に表示するかどうかを指定します。JD Edwards EnterpriseOne 倉庫管理システムでライセンス・プレート機能を使用しており、かつライセンス・プレート番号が自動的に作成されない場合のみ、この処理オプションが適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 品目のライセンス・プレートへの割当てが自動的に表示されません。

1: 品目のライセンス・プレートへの割当てが自動的に表示されます。

### 通貨

この処理オプションでは、有効日付として使用する日付と、為替レートを変更可能にするかどうかを指定します。

#### 1. 有効日付

有効日付として使用する日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー日付

1: 元帳日付

2: 今日の日付

#### 2. レートの保護

為替レートを変更できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 為替レートを変更できます。

1: 為替レートを変更できません。

### バージョン

この処理オプションでは、各アプリケーションのバージョンを入力できます。ブランクにした場合、ZJDE0001バージョンが使用されます。

#### 1. 発注残照会(P4310)

発注残照会プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。

#### 2. 受注バックオーダー・リリース(P42117)

受注バックオーダー・リリース・プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。

#### 3. 在庫記録(R43512)

入荷記録リリース・プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。

#### 4. 入荷工程の移動処分(P43250)

入荷工程プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。

#### 5. 貯蔵要求(R46171)

使用する貯蔵要求プログラムのバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、XJDE0001が使用されます。

#### 6. ピッキング要求(R46171)

計画クロス・ドッキングにおいて、ピッキング要求の作成に使用される保管場所選択ドライバ・プログラムのバージョンを指定します。

#### 7. オンライン予約(P46130)

使用されるオンライン予約プログラムのバージョンを指定します。

#### 8. 購買オーダー入力(P4310)

購買オーダー入力プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。



- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 9. 仕訳入力MBF処理オプション (P0900049) | 仕訳入力MBF処理オプション・プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。このプログラムのバージョンは、対話型バージョン・リストでのみ確認できます。                         |
| 10. 陸揚費用選択 (P43291)          | 陸揚費用選択プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。   |
| 11. 品質検査結果の入力 (P3711)        | 試験結果の改訂プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。  |
| 12. 作業オーダー在庫出庫 (P31113)      | 入荷機能から資材出庫を実行するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0009が使用されます。                                  |
| 13. 仕訳の転記 (R09801)           | 元帳バッチの自動転記に使用する総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0009が使用されます。                       |
| 14. 価格チェックと引当可能数量 (P4074)    | 価格/引当可能数量チェック・プログラム (P4074) を使用する際に使われるバージョンを指定します。バージョンを選択するときには、バージョンの処理オプションを検討して、そのバージョンが業務のニーズに合っているか確認してください。 |
| 15. マトリックス・オーダー入力 (P41902)   | 受注オーダー・アプリケーションから使用可能なマトリックス・オーダー入力プログラム (P41902) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンZJDE0001が使用されます。               |

## 任意勘定科目

この処理オプションでは、任意勘定科目を使用するかどうかを指定します。

- |           |  |
|-----------|--|
| 1. 任意勘定科目 | 任意勘定科目を有効にするかどうかを指定します。オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムを使用するか、または任意売上勘定科目の処理を行う場合は、任意勘定科目を有効にします。値は次のとおりです。<br><br>空白: 任意勘定科目が有効になりません。<br>1: 任意勘定科目が有効になります。 |
|-----------|--|

## バルク

この処理オプションでは、バルク・トランザクション情報の処理方法を指定します。

- |       |  |
|-------|--|
| 1. 数量 | バルク・トランザクション数量の記録方法を指定します。値は次のとおりです。<br><br>空白: 数量が、標準モードで購買および入荷されます。<br><br>1: 温度の増減につれて入荷される常温数量および標準温度数量の差が記録されます。<br><br>2: 合計原価を標準数量で割った単位原価が更新されます。 |
|-------|--|

## インタオペラビリティ

この処理オプションでは、送信インタオペラビリティ処理を実行するかどうかを指定できます。

**1. レコード・タイプ**

インタオペラビリティ・トランザクションのトランザクション・タイプを指定します。ブランクにした場合、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。

**ワークフロー**

この処理オプションでは、ワークフローの通知処理の実行方法を指定できます。

**1. 電子メールの受信者**

商品が入荷されたときに自動送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

- 1: 購買担当者に電子メールが送信されます。
- 2: トランザクションを開始した担当者に電子メールが送信されます。
- 3: 購買担当者とトランザクションを開始した担当者に電子メールが送信されます。

**2. 完了時の電子メール**

作業オーダーに関連する品目が入荷されたときに自動送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 計画担当者に電子メールが送信されます。

**3. 単価変更の通知**

入荷時に購買明細行で単価/一括金額が変更されたときに自動送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。
- 2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。
- 3: 購買担当者に電子メールを送信します。
- 4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

---

**注意:** 製造プロジェクト管理 (MPM) は、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 受注設計生産になりました。

---

**4. 数量の変更通知**

オーダーの数量が変更されたときに自動送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

- 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。
- 2: プロジェクト管理者 (MPMのみ) に電子メールを送信します。
- 3: 購買担当者に電子メールを送信します。
- 4: 購買オーダー入力者、プロジェクト管理者 (MPMのみ)、および購買担当者に電子メールを送信します。

**クロス・ドッキング**

この処理オプションでは、クロス・ドッキング処理の実行方法を指定できます。

**1. クロス・ドッキング**

便宜的なクロス・ドッキング処理の実行方法を指定します。値は次のとおりです。

blank: クロス・ドッキングが実行されません。

1: 便宜的なクロス・ドッキングが使用されます。

2: 計画クロス・ドッキングが使用されます。

3: 計画クロス・ドッキングと便宜的なクロス・ドッキングの両方が使用されます。

## 2. ピッキング要求

購買オーダーの入荷処理中にクロス・ドッキングを実行するときに、ピッキング要求を作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: ピッキング要求は作成されません。

1: ピッキング要求が作成されます。

## 3. 受注オーダーに割り当てる状況コード

購買オーダーの入荷処理中にクロス・ドッキングを使用する場合のみ、受注オーダーのデフォルトの次状況コード(40/AT)を指定します。この処理オプションをblankにすると、オーダー処理規則に含まれている受注オーダーの“次の状況”が使用されます。

## 4. 受注オーダー開始状況

購買オーダーの入荷処理中に計画クロス・ドッキングを使用する場合のみ、受注オーダーの開始状況コード(40/AT)を指定します。

## 5. 受注オーダー終了状況

購買オーダーの入荷処理中に計画クロス・ドッキングを使用する場合のみ、受注オーダーの終了状況コード(40/AT)を指定します。

## 一括入荷処理

この処理オプションでは、一括入荷の処理方法を指定します。

## 1. 複数オーダーの一括入荷処理

一括入荷処理を有効にするかどうかを指定します。一括入荷処理を有効にするには、この処理オプションを設定する他に、「表示」タブにある入荷モードの処理オプションの設定を2にする必要があります。値は次のとおりです。

blank: 一括入荷処理が有効になりません。

1: 一括入荷処理が有効になります。

## 2. 許容度チェックの基準

一括入荷処理中に、顧客が必要とする出荷数量をわずかに超過した分の数量を、次の発注残に適用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 超過数量が、次の発注残に適用されます。

1: 数量別許容度チェックが実行されます。

2: パーセント別許容度チェックが実行されます。

## 3. 許容度をチェックする数量

許容度チェックを実行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 許容度チェックが実行されません。

1: 許容度チェックが実行されます。

## 4. 許容度をチェックするパーセント

許容度チェックに使用されるパーセントを指定します。この処理オプションをblankにすると、許容度チェックは実行されません。

## WIM

この処理オプションでは、ワイン産業モジュールの有効化を指定します。



ダー処理規則を検討してください。この処理オプションをブランクにすると、状況として999が使用されます。

#### 6. 作業オーダー締切状況

作業オーダーの締切状況を指定します。作業オーダーの状況がこの処理オプションで指定した値より大きい場合、その作業オーダーの部品リストは更新されません。この処理オプションをブランクにした場合、製造固定情報 (F3009テーブルのSRS1フィールド) で指定した値が使用されます。

## 入荷情報の入力

「購買オーダー入荷の処理」フォームにアクセスします。

#### サービス数量

購買オーダー上の非在庫品目またはサービス行に対して引き当てられたユニット数を表す値を入力します。このフィールドは単独で機能し、合計原価を計算するための単位原価とは関係がありません。サービス・ユニットを使用する場合、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムの「オーダー明細」フォームにある「オーダー数量」フィールドは使用できません。

#### サービス単位

購買オーダー上の非在庫品目またはサービス行に対して引き当てられた数量の単位を指定する値をUDCテーブル(00/UM)から入力します。

---

## 一括入荷の入力

この項では、一括入荷の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 一括入荷情報の入力
- 複数の保管場所およびロットへの品目の割当
- シリアル番号の割当
- 入荷確認照会 (P43214) の処理オプションの設定
- 入荷の戻し (逆仕訳)

## 一括入荷について

入荷確認プログラム (P4312) では、合計入荷数量を自動的に仕入先からの出荷の複数の購買オーダーに適用できます。この処理を一括入荷といいます。品目別入荷と一括入荷機能の処理オプションを設定すると、仕入先からの複数の購買オーダーに対して数量を手作業で入力する必要がなくなります。同じ事業所で仕入先が同じ品目のすべての発注残が、納入約束日の順にソートして表示されます。

一括入荷機能を使用するには、まず入荷した合計数量を入力します。次に、合計入荷数量を自動的に割り当てる1番目の購買オーダーを選択します。発注残の行がすべて満たされるまで、システムにより約束納入日付順に合計入荷数量が割り当てられます。

一括入荷処理に許容度チェックを使用する場合、合計入荷数量に余りがあると残りの合計入荷数量が検証されます。入荷確認プログラム (P4312) の「一括入荷処理」タブの処理オプションで指定した許容度の数量/パーセントよりも残数が小さい場合、残りの数量は購買オーダー行の最後の行に割り当てられます。一括入荷処理に許容度チェックを使用しない場合に残数があると、その数量は仕入先の次の発注残に割り当てられます。

## 一括入荷情報の入力

複数の保管場所へのお荷については一括お荷処理は使用できません。

それぞれの購買オーダー行に数量が入力されると同時に、「お荷オプション」フィールドの値が1（購買オーダー行のお荷）に更新され、合計お荷数量がすべて充当されるまでこの処理が続きます。購買オーダーの行数がグリッドの限界に達した場合、グリッドの購買オーダー行がすべて満たされると、これまでにお荷した数量を示す警告メッセージが表示され、次の購買オーダー行まで下にスクロールしてから一括お荷処理を続けるよう指示があります。

## 複数の保管場所およびロットへの品目の割当

在庫環境で処理している場合、お荷時点で品目を保管場所に割り当ててする必要があります。特に指定しないかぎり、品目は基本保管場所に割り当てられます。お荷数量が保管場所の許容数量を超える場合は、品目を複数の保管場所に割り当ててすることができます。たとえばペン100本をお荷したとき、50本を1つの保管場所に割り当て、50本を他の場所に割り当てることができます。

お荷したオーダーにはロット番号を割り当ててすることができます。また、1つのオーダーに複数のロットを割り当ててすることもできます。たとえば、大量の乾電池をお荷した場合、すべての乾電池を1つのロットに割り当てるか、または有効日付を基準に様々なロットに割り当ててすることができます。

## シリアル番号の割当

品目を個別にモニタリングするために、各品目にシリアル番号を割り当ててすることができます。品目マスター情報で上級シリアル番号処理を指定した品目に対しては、固有のシリアル番号を割り当ててください。たとえば、テレビをお荷した場合、お荷したそれぞれのテレビに固有のシリアル番号を割り当ててする必要があります。

入力する数量が明細行の合計数量を超えないようにしてください。お荷確認の各明細行が、「複数保管場所からの選択」で指定したそれぞれの数量に対する明細行と置き換えられます。

## お荷の戻し（逆仕訳）

お荷品目に対して支払伝票を作成していないかぎり、お荷の戻し（逆仕訳）を行うことができます。誤ってお荷を記録した場合、または間違ったお荷を記録した場合に、この処理を実行する必要があります。オーダーの伝票がすでに作成されている場合、お荷の戻し（逆仕訳）を行うために、まず伝票の戻し（逆仕訳）を行う必要があります。

お荷工程処理中の品目のお荷を戻す（逆仕訳する）場合、お荷を戻す（逆仕訳する）前にお荷工程の最初の作業に品目を移動してください。この場合、すべての処分品目についても戻し（逆仕訳）を実行する必要があります。

お荷に対して戻し（逆仕訳）を実行すると、このオーダーはまったくお荷されなかったものとして扱われます。すべての会計処理および在庫トランザクションに対して戻し（逆仕訳）が行われます。

## 買掛金照合のためのサービス・ユニット

購買オーダーのお荷処理中に、サービス購買オーダー行にサービス・ユニットの情報を入力できます。サービス・ユニットは参照専用のため、値の検証は一切行われません。

サービス・ユニットを有効にするには、「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションを選択します。在庫インターフェイスAおよびBに対してのみ、サービス・ユニットのフィールドがチェックされているかどうかを検証されます。

入荷確認照会プログラム(P43214)の「表示」タブの「サービス・ユニットの表示」処理オプションがサービス・ユニットを表示するよう設定されている場合、「サービス数量」と「サービス単位」フィールドが「入荷確認の処理」フォーム(W43214A)に表示されます。また、サービス・ユニットのフィールドは、「入荷数量」と「レコード単位」フィールドではなく、「入荷確認の明細」フォーム(W43214F)と「入荷確認明細 - サプライヤ・セルフサービス」フォーム(W43214G)に表示されます。

参照: 第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷確認(P4312)の処理オプションの設定」、187ページ

参照: 第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷情報の入力」、199ページ

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、27ページ

## 事前設定

一括入荷を入力する前に、入荷確認プログラム(P4312)で、次の作業を実行する必要があります。

- 「表示」タブにある入荷モードの処理オプションを2(品目別)に設定します。
- 「処理」タブにある入荷オプションのデフォルト値の処理オプションが、ブランクに設定されていることを確認します。
- 「一括入荷処理」タブにある一括入荷と許容度チェックの処理オプションを適切に設定します。

## 一括入荷の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買オーダー入荷の処理	W4312F	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「購買オーダー処理」(G43A11)、「入荷確認(品目別)」</li> <li>• 「購買オーダー処理」(G43A11)、「入荷確認(購買オーダー別)」</li> </ul>	<p>一括入荷情報を入力します。</p> <p>複数の保管場所およびロットに品目を割り当てます。</p> <p>シリアル番号を割り当てます。</p> <p>購買オーダー入荷の処理を行います。</p>
入荷確認	W4312A	「購買オーダー入荷の処理」フォームで、行を選択し、「選択」ボタンをクリックします。	入荷確認に関連するタスクを実行します。
複数保管場所からの選択	W42053B	「入荷確認」フォームで明細行を選択し、「ロー」メニューから「複数保管場所」を選択します。	複数の保管場所を選択します。
入荷確認の処理	W43214A	「入金照合/転記」(G43A15)、「仕入先別入荷処理中オーダー」	<p>入荷の戻し(逆仕訳)を行います。</p> <p>入荷確認の処理を行います。</p>
戻し(逆仕訳)の確認	W43214H	「入荷確認の処理」フォームで入荷を選択し、「ロー」メニューから「入荷逆仕訳」を選択してから、「閉じる」をクリックします。	入荷の戻し(逆仕訳)を確認します。

## 一括入荷情報の入力

「購買オーダー入荷の処理」フォームにアクセスします。

**コンテナID** 当該購買オーダーまたはオーダー行で、中身の品目が出荷されたコンテナのコードまたはコンテナに割り当てたコードを入力します。入荷入力時には、コンテナ情報をオーダーに割り当てることができます。

**仕入先No.(梱包リストNo.)** 関連情報を入力します。これは自由形式のフィールドです。

## 複数の保管場所およびロットへの品目の割当

「購買オーダー入荷の処理」フォームにアクセスします。

## シリアル番号の割当

「購買オーダー入荷の処理」フォームにアクセスします。

## 入荷確認照会(P43214)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、入荷確認照会に使用するデフォルト情報を入力できます。

**1. オーダー・タイプ** 伝票タイプを識別する値をUDC 00/DTから入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入金、およびタイムカードの伝票タイプのコードはあらかじめJD Edwards EnterpriseOneによって予約されており、転記プログラム実行時に自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプがJD Edwards EnterpriseOneによって事前定義されています。変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー処理伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー処理伝票

**2. 通貨コード** トランザクションの通貨を識別するコードを入力します。

### 表示

この処理オプションでは、サービス・ユニットを処理できます。

**1. サービス・ユニットの表示** フォームでグリッドに「サービス数量」および「サービス単位」フィールドを表示するかどうかを指定します。この処理オプションは、行タイプ固定情報と合せて使用されます。行タイプ固定情報で「調達管理でサービス・ユニット



を許可」オプションが選択されている場合、サービス数量とサービス単位を使用できます。「オーダー数量」と「サービス数量」フィールドは同時には使用できません。サービス数量はメモ用フィールドであり、検証は何も行われません。値は次のとおりです。

ブランク: 表示しない。

1: 表示する。

## バージョン

この処理オプションでは、システムで使用される様々なプログラムのバージョンを制御します。

- |                              |  |
|------------------------------|--|
| <b>1. 発注残照会 (P4310)</b>      | 発注残照会プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。   |
| <b>2. 買掛金元帳の照会 (P0411)</b>   | 買掛金元帳照会プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。   |
| <b>3. 入荷戻し (P4312)</b>       | 入荷の戻し(逆仕訳)プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。  |
| <b>4. 入荷工程の移動 (P43250)</b>   | 入荷工程移動プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。  |
| <b>5. 陸揚費用の選択 (P43291)</b>   | 陸揚費用の選択プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。   |
| <b>6. 総勘定元帳への転記 (R09801)</b> | 元帳バッチの自動転記に使用する総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、バージョン ZJDE0009 が使用されます。 |

## 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を指定します。

- |  |  |
|--|--|
| <b>1. 入荷戻しを可能にするには"1"を、陸揚費用を適用するには"2"を入力</b> | <p>陸揚費用の戻し(逆仕訳)を許可するかまたは陸揚費用を適用するかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 戻し(逆仕訳)を許可します。</p> <p>2: 陸揚費用を適用します。</p>   |
| <b>2. 手持数量がマイナスになることの許可</b>                  | <p>入荷逆仕訳においてマイナスの手持数量が発生した場合に、オーダーの処理を続行するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 入荷逆仕訳において手持数量がマイナスになった場合、警告が表示されます。マイナスの手持数量を使用して、オーダーの処理が続行されます。</p> <p>1: 入荷逆仕訳において手持数量がマイナスになった場合、エラー・メッセージが表示されます。戻し(逆仕訳)の処理が許可されません。</p> |
| <b>3. 元帳バッチの自動転記の有効化</b>                     | <p>プログラム終了時の元帳バッチの自動転記を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 手作業による転記。バッチの転記が自動的に行われません。</p> <p>1: 自動転記。バッチの転記が自動的に行われます。</p>  |

## 陸揚費用

この処理オプションでは、陸揚費用を処理できます。

1. 仕訳
- 陸揚費用の仕訳入力を書込み方法を指定します。有効値は次のとおりです。
- ブランク: 仕訳入力に明細形式で書き込まれます。
- 1: 仕訳入力が集計されます。

## セルフサービス

この処理オプションでは、セルフサービス機能を選択できます。

1. サプライヤ・セルフサービス
- Java/HTML環境で使用するサプライヤ・セルフサービスを有効にするかどうかを指定します。この機能を有効にすると、仕入先がオンラインで入荷を確認できます。値は次のとおりです。
- ブランク: サプライヤ・セルフサービスを有効にしません。
- 1: サプライヤ・セルフサービスを有効にします。

## 入荷の戻し(逆仕訳)

「入荷確認の処理」フォームにアクセスします。

---

## 入荷トランザクションに対する仕訳の検討

この項では、入荷トランザクションに対する仕訳の検討の概要と次の方法について説明します。

- 入荷トランザクションに対する仕訳の検討
- 入荷の転記

### 入荷トランザクションに対する仕訳の検討について

入荷を入力したり、戻し(逆仕訳)を行う際は常に仕訳が作成されます。仕訳が正確かどうか検討してから総勘定元帳に転記します。

公式の入荷を入力すると、次のような仕訳が作成されます。

- 借方に在庫勘定を作成(在庫行の場合。それ以外の場合は、借方に元帳勘定を作成)
- 貸方に入荷請求仮勘定の仕訳を作成

仕訳を作成する勘定科目コードはAAIから取り込まれます。AAIテーブルは、在庫勘定および入荷請求仮勘定に対してそれぞれ別に存在します。勘定科目コードは、会社やビジネスユニット、入荷に適用される元帳カテゴリ・コードに基づいてAAIテーブルから取り込まれます。

たとえば、金額100.00分の在庫品目の入荷を入力します。品目の元帳クラスはIN20で会社100のビジネスユニットA用に購入されました。入荷を入力すると、会社100、ビジネスユニットA、元帳クラスIN20に対して定義された棚卸資産勘定および入荷請求仮勘定に仕訳が作成されます。

購買明細行に勘定科目コードを入力した場合、入荷金額が明細行の勘定科目コードに対して請求されます。入荷請求仮勘定はAAIにより決まります。

入荷が課税対象の場合、仮払消費税仕訳も作成されます。入荷時に陸揚費用を適用する場合、陸揚費用の繰越仕訳が作成されます。

品目の在庫原価を確定する際に、標準原価方法を使用できます。標準原価は手作業で変更しないかぎり一貫しています。標準原価と品目仕入時の価格に差異がある場合、差異分の仕訳が作成されます。差異勘定科目はAAIで指定します。

各明細行に対してそれぞれ仕訳を作成するか、全行に対して仕訳を集計するかは、処理オプションで指定します。

入荷に対して戻し(逆仕訳)を実行すると、対応する仕訳に対して自動的に逆仕訳が作成されます。

## 入荷トランザクションに対する仕訳の検討

「入金照合/転記」(G43A15)の「入荷時仕訳の検討」を選択します。

## 入荷の転記

入荷を転記するには、「入金照合/転記」(G43A15)の「入荷の転記」を選択します。

仕訳を検討したら、仕訳の転記プログラム(R09801)を使用してそれらを総勘定元帳に転記します。

仕訳の転記プログラムを実行すると、次の処理が実行されます。

- F0911テーブルから、該当する未転記トランザクション・バッチを選択します。
- 各トランザクションを編集および検証します。
- 承認済の取引がF0902テーブルへ転記されます。
- F0911テーブルおよびF0011テーブルで、各トランザクションおよびバッチ見出しに転記済のマークを付けます。
- 非在庫品目について、リリースされた金額をF4311テーブルで更新します。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド、「財務取引の転記」、「総勘定元帳への転記(R09801)の処理オプションの設定」

---

## 入荷情報の印刷

この項では、入荷情報の印刷の概要と、次の方法について説明します。

- 発注残の印刷
- 発注残の状況印刷
- 発注残状況(R43525)の処理オプションの設定
- 仕入先別入荷情報の印刷

## 入荷情報の印刷について

購買オーダー、仕入先、ビジネスユニットなどを指定することにより、特定の入荷情報を印刷できます。

発注残状況レポートを印刷して、期日を過ぎている購買オーダーを検討できます。各購買オーダーに対して、次の明細行情報を検討できます。

- 当初オーダー数量
- 入荷数量
- 発注残数
- 期日超過

このレポートの情報は、次の順序で印刷されます。

- ユーザーID
- 仕入先
- オーダー番号
- 行番号

次の情報に対して未決済金額合計が表示されます。

- 各購買オーダー
- 各仕入先
- 各ユーザー
- 全体のレポート

## 発注残の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「発注残印刷」を選択します。

特定の品目を発注した仕入先の一覧を印刷できます。オーダー数量および、それぞれの仕入先からの未入荷数量と金額を確認できます。また、品目別発注残レポートを使用して、特定の品目または勘定科目コードに対する発注残情報、または品目の入荷予定日を確認できます。

## 発注残状況の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「発注残状況印刷」を選択します。

## 発注残状況 (R43525) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷

この処理オプションでは、レポートの基準日を入力できます。

1. レポート用の基準日を入力してください。この日は期日を過ぎた日数を決定し、終了日処理に使用されます。期日超過の判断と終了日付処理に使用される基準日を入力します。

## 仕入先別入荷情報の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「入庫記録レポート」を選択します。

入荷記録レポートを印刷して、仕入先から入荷したすべての品目を検討できます。このレポートには、仕入先に関連する各明細行について次の情報が含まれています。

- 品目番号または勘定科目コード
- オーダーの入荷日付
- 入荷数量と金額

在庫環境では、このレポートを、倉庫の従業員が品目に添付して入荷情報を参照するための入庫記録レポートとして使用できます。この場合、特定の入荷に関連する明細行のみがレポートに表示されます。



## 第 13 章

# 伝票の作成

この章では、伝票作成の概要と次の内容について説明します。

- 入荷処理中オーダーの検討
- 陸揚費用の入力
- 伝票の作成
- 留保金の処理
- 入荷レコードからの複数伝票作成
- 商品入荷前の仮請求書作成
- 伝票情報の印刷

---

## 伝票作成について

この項では、事前設定と伝票作成について説明します。

### 事前設定

買掛支払処理を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理 9.0 製品ガイド、「仕入先情報の入力」、「仕入先マスター情報について」

### 伝票作成

仕入先から購入した商品やサービスに対して支払を行う前に、次のような伝票を作成する必要があります。

- 取引条件を満たすことが明記されている。
- 仕入先に対する支払額を指定する。
- 小切手の振り出しを買掛管理システムへ通知する。

請求書と入荷に基づいて伝票を作成できます。この方法を3方向伝票照合と呼びます。この方法では、請求書情報が入荷レコードに一致しているかどうか確認します。たとえば、仕入先から商品代として100.00の請求があった場合、その商品を受け取っているかどうかを確認します。

入荷情報を記録しない場合は、2方向伝票照合を使用します。この方法では、請求書情報が購買オーダー明細行に対応していることを検証した上で支払伝票を作成します。

また、次のように伝票を作成することもできます。

- ・ 入荷情報に基づいてバッチ・モードで処理する。

仕入先との契約に基づいて、入荷レコードから支払伝票を作成し、請求書を必要としない場合にこの方法を使用します。たとえば、100.00相当の商品を入荷したことを示す入荷レコードがある場合、それに対する支払伝票が作成されます。

- ・ 支払総額の一部を留保額として減算した伝票を作成する。

留保金とは、オーダー完了後の特定の日付まで保留にされる金額を指します。たとえば、10%の留保額で100.00の支払伝票を作成すると、10が留保されるため、実際の支払は90.00になります。留保金分は、リリース金額分の支払伝票を入力することによりリリースします。

参照: [第 13 章、「伝票の作成」、「留保金の処理」、239ページ](#)

- ・ オーダーの出来高払いを作成する。
- ・ 数量基準オーダーに対して支払う場合は数量に対して作成する。

数量基準オーダーでは、処理が完了した数量に基づいて支払金額を指定します。支払の対象となる数量または合計金額を入力します。これにより、価格に基づいて残額計算が実行されます。

通常は、支払伝票を作成する前に入荷レコードを検討できます。入荷レコードを検討した後、入荷品目に対する陸揚費用(品目の仕入価格以外の費用)を入力できます。

商品やサービスの入荷前に請求書を受け取った場合は、請求された金額の仮伝票を作成できます。請求書の商品またはサービスを入荷した後に、該当する勘定科目にその金額を振り替えることができます。

## 入荷処理中オーダーの検討

この項では、入荷処理中オーダーの検討の概要と検討方法について説明します。

### 入荷処理中オーダーの検討について

支払伝票をまだ作成していない入荷に対するオーダー(入荷処理中オーダー)を検討できます。この機能を使用して、伝票作成が必要な入荷を確認できます。未処理金額と数量を入荷レコードごとに検討できます。

支払伝票がすでに作成済かどうかを確認するためにオーダーをチェックする場合、「入荷確認の処理」フォームの「買掛伝票入力済」オプションを使用して、支払伝票が作成されたオーダー明細行を検索できます。支払伝票に入力された数量および金額とともにオーダー明細行が表示されます。

#### 関連項目:

[第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷確認照会\(P43214\)の処理オプションの設定」、202ページ](#)

### 入荷処理中オーダーの検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入荷確認の処理	W43214A	「入金照合/転記」(G43A15)、「仕入先別入荷処理中オーダー」	入荷処理中オーダーを検討します。



## 入荷処理中オーダーの検討

「入荷確認の処理」フォームにアクセスします。

伝票未入力数量	オーダー明細行の当初数量に変更数量を加算/減算し、その数量から今日までに出荷、入荷、および伝票作成された数量をすべて減算した数量が表示されます。
伝票未入力金額	<p>未払または未決済のオーダー、請求書、または伝票の金額が表示されます。</p> <p>伝票(オーダー、請求書、伝票など)を入力するとき、未決済金額が伝票の当初金額になります。当初金額を変更すると、変更分が未決済金額から差し引かれます。たとえば、伝票に対して支払、出荷または入荷が入力されると、未決済残高が減少します。</p>

---

## 陸揚費用の入力

商品を購入する場合、配送料、港使用料、業者手数料、輸入税などの追加費用が発生する場合があります。これらすべての費用が陸揚費用に含まれます。品目の陸揚費用は入荷処理時に入力できる他、個別の処理でも入力できます。

この項では、入荷処理時の陸揚費用の入力および個別処理による陸揚費用の入力の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 陸揚費用選択(P43291)の処理オプションの設定
- 陸揚費用の入力

### 入荷処理時の陸揚費用の入力について

入荷情報を入力する際に陸揚費用を入力できます。品目の入荷時に陸揚費用情報を参照できる場合、この処理を使用できます。

入荷処理中に陸揚費用を入力するには、入荷確認プログラム(P4312)の「陸揚費用」処理オプションで陸揚費用を適用するよう設定します。入荷の入力後、品目に適用される陸揚費用が表示され、その費用を検討または変更できます。

また、入荷確認プログラム(P4312)の「陸揚費用」処理オプションを、「陸揚費用の選択」フォームを表示しないで陸揚費用規則を自動的に適用するように設定できます。

購買オーダーの入荷処理中に陸揚費用を有効にする場合、陸揚費用は総勘定元帳レコードに書き込まれます。買掛金照合のためのサービス・ユニットの使用によって、陸揚費用機能は変更されません。

### 個別処理による陸揚費用の入力について

品目の入荷時に陸揚費用情報を参照できない場合に、個別の処理で陸揚費用を入力できます。「陸揚費用の個別入力」オプションは、「入金照合/転記」(G43A15)メニューからアクセスできます。

陸揚費用は、入荷情報を記録する品目にのみ適用できます。陸揚費用を入力する際、品目に対して設定され割り当てられた陸揚費用のみで処理できます。入荷する各品目について、品目に割り当てられた陸揚費用の検討、変更、および入力を実行できます。

品目の陸揚費用を入力すると、支払伝票の作成が必要な陸揚費用明細行が別個に作成される場合があります。この追加伝票を作成するかどうかは、陸揚費用の設定によって変わります。陸揚費用明細行は、「伝票照合」フォームで確認できます。

購買オーダーの入荷処理中に陸揚費用を有効にする場合、陸揚費用は総勘定元帳レコードに書き込まれます。買掛金照合のためのサービス・ユニットの使用によって、陸揚費用機能は変更されません。

陸揚費用の入力時に、原価要素のコピー・プログラム(R41891)を実行することもできます。このプログラムは、F30026テーブルからF41291テーブルにシミュレート原価または凍結原価の情報をコピーします。

## 事前設定

陸揚費用を入力する前に、次の操作を行う必要があります。

- 陸揚費用の改訂プログラム(P41291)で陸揚費用および陸揚費用規則を定義します。
- 必要に応じて、品目、購買オーダー、または明細行に陸揚費用規則を割り当てます。
- 陸揚費用を入力するプログラムの処理オプションが正しく設定されているか確認します。

## 陸揚費用の入力に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
陸揚費用の選択	W43291A	「入金照合/転記」(G43A15)、「陸揚費用の個別入力」  「入荷確認の処理」フォームで入荷レコードを選択し、「ロー」メニューから「陸揚費用の適用」を選択します。	陸揚費用を入力します。

## 陸揚費用選択(P43291)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 任意勘定科目

この処理オプションでは、任意勘定科目の処理を指定できます。

1. 任意勘定科目      任意勘定科目を有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 任意勘定科目が使用されません。  
 1: 任意勘定科目が使用されます。

## 陸揚費用の入力

「陸揚費用の選択」フォームにアクセスします。

## 伝票の作成

この項では、伝票作成と代替通貨で受け取った請求書の管理の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 買掛金標準伝票作成入力 (P0411) の処理オプションの設定
- 伝票照合 (P4314) の処理オプションの設定
- 運賃配賦 (P43147) の処理オプションの設定
- 伝票と照合する入荷レコードの選択
- 伝票と照合するオーダー明細行の選択
- 運賃のオーダー明細行の選択
- 請求書に対する原価変更の記録

### 伝票作成について

仕入先に支払を行う前に支払伝票を作成する必要があります。通常は、請求書に記載された請求額の支払伝票を作成します。支払伝票の作成には、3方向伝票照合と2方向伝票照合の2つの方法があります。

3方向伝票照合では、入荷レコードと請求書の金額を照合して金額が正しいことを確認します。たとえば、仕入先から10.00の請求があった場合、入荷レコードを調べて10.00の品目を入荷したかどうかをチェックします。3方向伝票照合(公式の入荷処理)では請求書から支払伝票を作成します。請求書に対応する入荷レコードを検索し、それを請求書と照合する必要があります。たとえば、仕入先から額面100.00の請求書が送付された場合、その請求書に対応する100.00相当の品目に対し、入荷レコードを検索して請求書と照合します。複数の入荷レコードを選択して、1つの伝票と照合できます。

請求書と照合する入荷レコードの合計金額は、必ず請求書のコレ金額と同額になる必要があります。たとえば、1つの請求書に2つの入荷レコードが対応していて各入荷レコードが200.00の場合、照合する請求書金額は400.00になります。

部分オーダーに対する請求書の場合は、照合する入荷レコードの数量または金額を変更できます。入荷レコードの残高は未決済となります。たとえば、数量100の入荷レコードに対して請求金額には数量50しか反映されていなかった場合、入荷レコードの数量を50に変更できます。残りの50については後で伝票を作成できます。

入荷レコードを請求書と照合して伝票を作成する場合は、入荷レコードを取り消すことはできません。かわりに、伝票照合プログラム (P0411) で伝票を戻し(逆仕訳)、さらに仕入先別入荷処理中オーダー・プログラム (P43214) で伝票の戻し(逆仕訳)を実行します。

入荷レコードを請求書と照合するとき、支払伝票が対話形式で作成されます。

2方向伝票照合は、オーダー明細行から支払伝票を作成します。たとえば、契約またはオーダーに対して出来高払いを実行できます。

数量基準オーダーに対して支払を行う場合は、数量に対する伝票を作成できます。数量基準オーダーでは、処理が完了した数量に基づいて支払金額を指定します。支払の対象となる数量、または数量および合計金額の両方を入力します。その後で数量当たりの価格に基づいた合計金額または数量が計算されます。

たとえば、1000平方フィートの壁に対して1平方フィート当たり0.25の原価(入荷原価またはオーダー原価)で伝票を入力すると、合計金額は250.00として計算されます。逆に、数量1000に対して250.00の伝票を入力すると、単価が0.25として計算されます。

多通貨機能を有効にしている場合は、選択した通貨に基づいて合計値が計算されます。たとえば、単価当たり0.25で数量1000に対する伝票を入力すると、指定した通貨で支払合計が計算されます。

キット品の伝票を入力する際は、構成品レベルでのみ伝票情報を入力できます。

支払伝票の戻し(逆仕訳)を行うことがあります。たとえば、支払伝票を作成した品目を返品した場合などです。

品目の価格変更や、旧請求書に誤りが発見された場合に、請求書を調整する場合があります。変更する場合、旧請求書の調整を反映させた支払伝票を新規に作成します。

2方向伝票照合(非公式の入荷処理)では入荷情報は記録されません。伝票を作成する際にはオーダー明細行を請求書と照合します。たとえば、仕入先から100.00の請求書を受け取った場合、それに対応するオーダー明細行を検索して照合します。複数のオーダー明細行を選択して、1つの支払伝票と照合できます。

伝票照合処理の前に入荷レコードに対して陸揚費用を追加する場合、費用の設定によっては陸揚費用の明細行が別に作成される場合があります。陸揚費用の支払伝票を作成するには、陸揚費用を検索して該当する請求書と照合します。

購買オーダーに1度も入力されたことがない商品やサービスに対する請求書を受け取る場合があります。伝票照合プログラム(P4314)の処理オプションを設定して、請求書と照合する新規の購買オーダー明細を入力できます。この処理オプションにより、既存の購買オーダーに新規行を作成するか(オーダー番号、オーダー会社、オーダー・タイプを指定)、または新規の購買オーダーを作成するかを指示できます。また、新規行の行タイプおよび状況コードも指示できます。

伝票照合処理中に新規の明細行を入力する場合、勘定科目コードを使用して購買オーダーを入力する必要があります。伝票照合処理中に、在庫基準のオーダー明細行は追加できません。

入荷照合が必須のオーダー行について伝票を作成しようとすると、エラーが表示されます。

支払保留になっているオーダーに対して伝票を作成するときに、次のいずれかが発生する場合があります。

- 未処理ログがあるという軽度の警告が表示される。支払は、通常どおりに入力および処理できます。
- 新規支払が自動的にHになり、契約保留コードによりオーダーの状況に対する支払が自動的に保留にされる。手作業で各伝票の支払状況を“承認済”に変更する必要があります。
- 支払伝票の入力ができない。これは仕入先に対する保留コードにより、支払が実行できないように設定されているためです。
- オーダーが保留の場合、保留が解除されるまで伝票支払が入力できない。

また、「伝票照合」フォームで、各入荷レコードについて特定の税額を入力できます。税額を入力する場合、税率/税域および税目も入力する必要があります。

為替レートの変動を計上するために、AAI(自動仕訳)を設定できます。伝票照合処理中に新しい為替レートを入力すると、旧レートと新レート間での費用の変動に対する仕訳が自動的に作成されます。

品目の価格変更や旧請求書の誤りなどから、請求書を調整する場合があります。通常、ガソリンなどの製品やその他の商品について変更を実行します。たとえば、単価10.00の品目100個分の請求書を受け取り、後で品目原価を9.00に調整した別の請求書を受け取る場合があります。この場合、旧請求書に対して調整を反映した支払伝票を作成できます。

複数の勘定配賦を照会して調整できます。複数の勘定配賦機能は、在庫インターフェイスのAまたはBを使用するトランザクションでのみ使用できます。伝票照合処理中にこの機能を使用するには、事前に購買オーダーに勘定配賦情報を持たせておく必要があります。

2方向伝票照合処理中に、システムによりF4316テーブルから勘定配賦情報が読み込まれ、F43126テーブルにレコードが作成されます。その後、勘定配賦に基づいてF0911テーブルに金額が更新されます。2方向伝票照合処理中に、次のテーブルが複数の勘定配賦による影響を受けます。

- F4311: テーブルのレコードが更新されます。
- F4316: テーブルのレコードが更新されます。
- F43121: テーブルにレコードが書き込まれます。
- F43126: テーブルにレコードが書き込まれます。
- F0911: テーブルにレコードが書き込まれます。
- F0411: F4311テーブルに基づいて、このテーブルにレコードが書き込まれます。

3方向伝票照合処理中に、入荷された数量または金額に基づいて伝票が作成され、各テーブルのレコードが作成または更新されます。3方向伝票照合処理中に、次のテーブルが複数の勘定配賦による影響を受けます。

- F43121: テーブルにレコードが書き込まれ、更新されます。
- F43126: テーブルにレコードが書き込まれ、更新されます。
- F0911: テーブルにレコードが書き込まれます。
- F0411: F43121テーブルに基づいて、このテーブルにレコードが書き込まれます。

2方向または3方向のどちらの伝票照合を行った場合も、F4316レベルまたはF43126レベルに基づいて、次の仕訳が作成されます。

- 支払金額
- 差異金額(陸揚費用を除く)
- 売上原価の差額
- 為替変動
- 未払税
- 還付不可税
- 税額差異

2方向または3方向のどちらの伝票照合を行った場合も、F4311レベルまたはF43121レベルに基づいて、次の仕訳が作成されます。

- 未払留保金(AAI PCRETN使用)
- 未払繰延付加価値税(VAT)(AAI PCVATP使用)
- 繰延未収還付税(AAI PCVATD使用)
- 陸揚費用(AAI 4385使用)

伝票照合を実行するとき、勘定配賦の調整プログラム(P43146)を使用して、勘定配賦情報を変更できます。ただし、配賦方法(パーセント、金額、数量)は変更できません。新しい勘定の配賦情報を入力することにより、当初の勘定の配賦情報を取り消すことができます。新しい配賦勘定のレコードは、F43126テーブルおよびF4316テーブルに書き込まれないことに注意してください。

---

**注意:** 伝票照合処理中に新しい行を追加する場合は(たとえば、運賃を請求され、その費用を新しい行として追加する場合など)、新しい行に対して複数の勘定配賦機能を使用できません。

---

P4314プログラムの「表示」タブにある「サービス・ユニットの表示」処理オプションが選択されている場合、「勘定配賦の調整」フォーム(W43146A)に「サービス数量」と「サービス単位」フィールドが表示されます。

### 仕入先分類コード

分類コードは、JD Edwards EnterpriseOne住所録システムの仕入先の住所録レコードにある仕入先情報を読み込みます。伝票の作成時に、支払時に仕入先の情報を報告するために、仕入先の住所録レコードから分類コードのフィールドにデータが読み込まれます。

分類コードは、「伝票照合」フォーム(W4314A)では表示専用です。分類コード・フィールドの値は入荷確認テーブル(F43121)に書き込まれません。

続いて、仕入先情報は買掛元帳レコードに渡され、値が買掛金元帳(F0411)テーブルに保管されます。

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「追加のオーダー見出し情報の入力」、119ページ

### 保留

外注契約留保金とは、オーダー完了後の特定の日付まで保留にされるコミットメントの割合を指します。保留処理は、進行中のプロジェクトに適用され、AおよびBの在庫インターフェイスにのみ適用されます。

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「留保金の処理」、239ページ

### 伝票照合時の経費処理

費用が払戻可能な商業プロジェクト関連の環境では、費用がプロジェクトに計上され次第、顧客への次の請求書にその費用が含まれることが想定されます。また、この費用は期日どおりに仕入先に支払われなければなりません。支払は商品の受領ではなく仕入先への請求書に依存するため、仕入先の請求書を受け取るまでこの費用は請求できません。入荷作成時に、金額は費用勘定に転記されるのではなく、延期して伝票照合時に費用として処理する必要があります。

伝票照合時まで費用処理を延期するには、行タイプ固定情報プログラム(P40205)の「行タイプ固定情報の改訂」フォーム(W40205B)の「伝票で経費処理」を選択してください。このオプションは在庫インターフェイスAまたはBのみに設定します。このオプションを設定すると、入荷確認処理中に受領した商品またはサービスに対して仕訳は作成されません。伝票照合によってのみ、購買オーダーの金額が費用勘定に転記されます。

行タイプ固定情報(P40205)で「伝票で経費処理」が選択されている場合、「買掛管理インターフェイス」も選択する必要があります。「買掛管理インターフェイス」は、買掛管理でこのオーダー・タイプを含むすべてのアクティビティの金額または単価を反映するかどうかを指定するコードです。

また、「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「伝票照合差異勘定」を選択して、差額を計上する勘定を指定することもできます。このフィールドは在庫インターフェイスがAまたはBの場合にのみ使用します。

2方向または3方向のどちらかの伝票照合を行う場合、入荷確認を使用してオーダーのサービス行または品目について物理的な入荷処理を実行します。入荷確認プログラムでは、費用勘定や入荷請求仮勘定(RNV)は更新されません。

「伝票で経費処理」オプションは、「入荷確認必須」オプションとは関連していません。「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「伝票で経費処理」が選択され、「入荷確認必須」が選択解除されている場合、伝票が作成されたり、作成されないことがあります。入荷処理が実行される場合、費用処理は伝票照合まで延期されます。このため、入荷によって仕訳は作成されません。入荷処理が実行されない場合、標準の2方向伝票照合が実行されます。

仕入先から請求を受け取ったら、伝票照合を実行します。これによって、費用勘定および買掛金勘定が更新されます。伝票照合中に、この行に対してRNV仕訳(AAI 4320)は作成されません。次の計算とともにコミットメントのリリースが実行されます。

(費用) = (借方入荷金額)

(差額(または費用)) = (借方差額)

(買掛金) = (伝票金額)

購買オーダー行に伝票照合を実行する場合、入荷金額は費用勘定に計上されます。行タイプ固定情報の「伝票照合差異勘定」の設定に応じて、差額がある場合は購買オーダーの費用勘定か、差異勘定(AAI 4330および4340)に計上されます。買掛金勘定の貸方に伝票金額が計上されます。

購買オーダーの入荷処理中に陸揚費用を有効にする場合、陸揚費用は総勘定元帳レコードに書き込まれます。買掛金照合のためのサービス・ユニットの使用によって、陸揚費用機能は変更されません。

**注意:**「伝票で経費処理」が選択されている場合、陸揚費用は影響を受けないため、AAI 4385および4390の勘定が入荷処理中に作成されます。

**注意:**「入荷工程」が選択されて、オーダーがその経路を進むよう設定されている場合、ハード・エラーが発生します。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、27ページ

### 買掛金照合のためのサービス・ユニット

伝票照合処理中に、サービス購買オーダー行にサービス・ユニットの情報を入力できます。サービス・ユニットは参照専用のため、値の検証は一切行われません。

サービス・ユニットは、「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションを選択して有効にする必要があります。非在庫インターフェイスAおよびBに対してのみ、サービス・ユニットのフラグが選択されているかどうかを検証されます。

P4314の処理オプションの「表示」タブで「サービス・ユニットの表示」処理オプションを設定してください。

この処理オプションが選択されている場合、「サービス数量」と「サービス単位」フィールドが「伝票照合」(W4314A)、「照合する入荷の選択」(W4314B)、「照合するオーダーの選択」(W4314C)、「伝票照合の戻し(逆仕訳)」(W4314H)の各フォームに表示されます。「伝票照合」フォームに「サービス数量」と「当初数量」のフィールドが表示されますが、同じ行で両方のフィールドを使用することはできません。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、27ページ

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「品目番号別明細行の入力」、128ページ

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「伝票照合(P4314)の処理オプションの設定」、227ページ

### 運賃の伝票処理

運賃の計算は重量や容量といった品目の特性に基づくため、運賃は通常は在庫行の項目にのみ分配されます。ただし、運賃は非在庫品目やサービス行に対して請求することも可能です。それぞれの非在庫行がサービスに関連する全体の輸送費の一部を吸収するように、請求済の運賃を仕入先から適切なサービス行に配賦します。

2方向または3方向のどちらの伝票照合中に伝票処理を行う場合、該当する行に運賃を比例して適用します。運賃は、在庫インターフェイスAまたはBを持つ行についてのみ、仕入先から異なる元帳勘定に配賦します。配賦可能な各行のジョブに割り当てる金額は、割合または金額をもとに決定します。同じジョブおよび勘定科目コードを基本請求費用として使用するか、同じジョブを基本請求費用からの異なる主科目コードを持つ基本請求費用として使用します。

伝票照合プログラム(P4314)の「バージョン」タブで「運賃配賦(P43147)」処理オプションを選択し、運賃配賦プログラム(P43147)のバージョンを呼び出します。また、「運賃配賦」タブで処理オプションを設定します。

P4314によって呼び出されるP43147のバージョンを処理オプションで設定します。

伝票照合中に、「伝票照合」フォームの「処理コード」(照合処理)フィールドで(UDC 43/VMから)5を選択し、行の運賃配賦を有効にします。

運賃配賦プログラムは、運賃行に加えられた変更に対して行が終了すると動的に呼び出されます。運賃配賦プログラムを呼び出すには、「ロー」メニューで「運賃配賦」を選択することもできます。

運賃配賦プログラムを使用すると、伝票照合中に作成された運賃を配賦して、伝票の既存の行にあるジョブに金額を割り当てることができます。在庫インターフェイスAおよびBの既存の伝票行が表示されます。

在庫インターフェイスAの運賃配賦行は、行の数量を受け付けません。金額と有効な勘定科目コードを入力する必要があります。伝票の仕入先番号が運賃行に使用されます。

「運賃配賦の改訂」フォーム(W43147A)で、パーセントまたは金額による配賦を選択します。複数勘定の配賦行については、(F4311テーブルからの)親の行は表示されませんが、(F4316テーブルの)複数勘定行が表示されます。

明細行から移動すると、「配賦済み」と「差額」フィールドの値が再計算されます。合計金額はゼロか、伝票照合の行の金額に等しくなる必要があります。

運賃勘定は行の勘定科目になるか、または会計AAIによって決まる勘定科目で、グリッドに表示されます。フォームではこの勘定科目を一時変更することはできません。

---

**注意:** 運賃配賦には会計AAI PCFRTDが使用されます。

---

「伝票照合」フォームに戻って伝票行の金額を変更した場合、金額によって配賦するのであれば「運賃配賦の改訂」フォームに戻って金額を変更する必要があります。「運賃配賦の改訂」フォームに戻って、一時変更を行うことも可能です。

「伝票照合」フォームに戻って伝票処理のために追加の行を選択する場合は、それらの行にゼロが割り当てられます。「運賃配賦の改訂」フォームを使用して、これらの行の金額や割合を手作業で変更する必要があります。

トランザクションの完了時に、運賃配賦ワークファイル・レコード(F43147)は削除されます。伝票照合中に、運賃行に対して購買オーダー明細テーブル(F4311)レコードは作成されません。元帳レコードおよび買掛金レコードが作成されます。

運賃行では税を使用できます。

運賃配賦を使用する際は、次の機能はサポートされていません。

- 買掛金照合のためのサービス・ユニット
- 留保金
- 陸揚費用

「処理コード」フィールドに5が入力されている行について伝票照合の戻しを実行するには、F0911テーブルから手作業でレコードを除去する必要があります。出荷確認時には戻しは実行できません。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「会計システムのAAIテーブルについて」、47ページ

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「運賃の伝票処理のためのオーダー明細行の選択」、237ページ



## 代替通貨で受け取った請求書の管理について

国内通貨または外貨で購買オーダーを入力し、仕入先が代替通貨で請求してきた場合、その購買オーダーを自動的に請求書と照合することはできません。かわりに、代替通貨の請求額を手作業で国内通貨または外貨に換算してから、いずれかの通貨で支払伝票を入力してください。

たとえば、フランスの会社がカナダ・ドル(CAD)でオーダーを入力し、仕入先は日本円(JPY)で請求書を送ってきた場合、請求金額を手作業で国内通貨(EUR)または外貨(CAD)に換算してから伝票を入力することになります。同様に、カナダの会社が日本円(JPY)でオーダーを入力し、仕入先から米ドルで請求があった場合、請求金額を手作業で日本円(JPY)またはカナダ・ドル(CAD)に換算してから伝票を入力する必要があります。

将来のトランザクションについては、仕入先マスター・レコードの通貨コードを変更して、その仕入先のオーダーや伝票、支払を代替通貨で処理できるようにします。

## 事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 標準伝票入力および伝票照合の処理オプションをすべて検討してください。
- 伝票照合のバージョンを指定します。
- 運賃の伝票処理をサポートするために会計AAI PCFRTDを設定します。

## 伝票の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先元帳照会	W0411G	「入金照合/転記」(G43A15)、「未処理入荷と伝票の照合」	伝票と照合するレコードおよびオーダー明細行を選択します。  「伝票照合」を使用する場合、処理オプションを設定して伝票照合処理を実行してください。
伝票照合	W4314A	「仕入先元帳照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	伝票と照合するレコードおよびオーダー明細行を選択します。  「仕入先分類コード」タブで仕入先分類コードを参照します。
照合する入荷の選択	W4314B	「伝票照合」フォームで「フォーム」メニューから「照合する入荷」を選択します。	伝票と照合するレコードを選択します。
照合するオーダーの選択	W4314C	「伝票照合」フォームで「フォーム」メニューから「照合するオーダー」を選択します。	伝票と照合するオーダー明細行を選択します。
運賃監査履歴の処理	W4981A	「伝票照合」フォームで「フォーム」メニューから「照合する運賃」を選択します。	運賃のオーダー明細行を選択します。
勘定配賦の調整	W43146A	「伝票照合」フォームで「ロー」メニューから「勘定配賦」を選択します。	勘定配賦を変更します。
運賃配賦の改訂	W43147B	「伝票照合」フォームで「処理コード」フィールドが5となっている行を選択し、「ロー」メニューから「運賃配賦」を選択します。  または、「処理コード」フィールドの5を選択して、ロー以外の部分をクリックします。	運賃の配賦を入力します。
伝票の再計算	W4314B	「伝票照合」フォームで「フォーム」メニューから「伝票の原価再計算」を選択します。	当初伝票と新しい原価の差異を反映させた新しい支払伝票を作成します。

## 買掛金標準伝票入力(P0411)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

この処理オプションでは、仕入先元帳照会データのグループ化と表示の方法を指定できます。

**1. 定期伝票**

デフォルトの伝票タイプとして定期伝票を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての伝票が表示されます(デフォルト条件なし)。

1: 定期伝票のみ表示されます。

「1」を入力すると、「仕入先元帳照会」フォームの「定期伝票」オプションが自動的に選択されます。

**2. 集計伝票**

伝票の複数の支払項目を集計して1つの支払項目として表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての伝票が表示されます(デフォルト条件なし)。

1: 集計伝票のみ表示されます。

「1」を入力すると、「仕入先元帳照会」フォームの「集計」オプションが自動的に選択されます。

**3. 国内通貨と外貨フィールドの表示**

伝票入力用の「伝票入力 - 支払情報」フォームおよび「複数会社 - 単一仕入先」フォームの詳細グリッドに、国内通貨と外貨両方の金額フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 国内通貨と外貨フィールドを表示しない。

1: 国内通貨と外貨フィールドを表示する。次のフィールドが表示されます。

- 総額(国内通貨)
- 割引可能額(国内通貨)
- 課税対象額(国内通貨)
- 税額(国内通貨)
- 非課税対象額(国内通貨)
- 総額(外貨)
- 割引可能額(外貨)
- 課税対象額(外貨)
- 税額(外貨)
- 非課税対象額(外貨)

**通貨**

この処理オプションでは、システムに保管されている金額の通貨以外の通貨で金額を表示できます。この処理オプションでは、一時的に別の通貨で金額を表示できます。標準伝票入力プログラムを終了するとき、この金額は保存されません。

**1. 仮定通貨**

当初入力時の通貨以外の通貨で国内通貨または外貨の金額を表示する場合の通貨を指定します。仮定通貨を表示する場合の通貨コードを指定してください。たとえば、国内通貨または外貨の米ドル建ての金額をユーロで表示するには「EUR」と指定します。

この処理オプションをブランクにすると、フォームの見出しの「仮定通貨コード」フィールドおよび詳細グリッドの「仮定金額」および「仮定未決済額」カラムは表示されません。

仮定通貨建ての金額は一時メモリーに保存され、テーブルには書き込まれません。

## 2. 基準日

「仮定通貨」処理オプションの基準日を指定します。この日付を使用して F0015 テーブルから為替レートが取得されます。

「仮定通貨」処理オプションで通貨コードを指定し、この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。

国内通貨/外貨と仮定通貨との有効な為替レート(基準日時点)が F0015 テーブルに保存されている必要があります。

## 手作業での支払

この処理オプションでは、手作業による支払の作成を制御できます。

### 1. 支払作成

自動支払処理を行わずに手入力で支払を作成するかどうかを指定します。このオプションは、伝票照合のない手入力支払のみに適用され、複数会社および複数伝票モードでは使用できません。値は次のとおりです。

ブランク: 支払情報を表示しない。

1: 手入力支払(伝票照合なし)を作成する。

「1」を入力した場合、「仕入先元帳照会」で「追加」をクリックします。「伝票入力 - 支払情報」フォームに値を入力し、「OK」をクリックします。手入力支払処理の「支払情報」フォームに値を入力します。

### 2. 重複する支払

重複する支払番号を入力または編集しようとした場合に表示されるメッセージのタイプを指定します。「支払作成」で「1」を入力した場合のみ、このオプションを使用します。すでに同じ支払番号があることを示すメッセージが表示されます。値は次のとおりです。

ブランク: エラー

1: 警告

### 3. 自動支払番号の割当て

銀行勘定の自動採番に基づいて、手入力支払に対して支払番号を自動的に割り当てるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 支払番号を手入力します(デフォルト値)。

1: 銀行勘定の自動採番に基づいて、支払番号を自動的に割り当てます。

## 購買

この処理オプションでは、購買オーダー情報を含む伝票の処理方法を定義できます。

### 1. 伝票削除

購買オーダー情報を含む伝票を削除しようとした場合に表示されるメッセージのタイプを指定します。たとえば、「仕入先元帳照会」フォームから購買オーダーを含む伝票を削除しようとした場合に、システムがどのように処理するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 編集を許可しない(デフォルト値)。

1: 警告。

2: エラー。

この処理オプションと伝票入力MBFの「伝票メッセージ」処理オプションの設定が矛盾する場合は、ここで設定した値が有効になります。

## 伝票照合

この処理オプションでは、標準伝票ではなくJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで照合した伝票を処理できます。

### 1. 照合処理

実行する伝票照合プログラムを指定します。伝票照合プログラムを実行する場合、3方向伝票照合または2方向伝票照合のいずれかを選択できます。値は次のとおりです。

ブランク: 標準伝票入力(P0411)が実行されます。

1: JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで伝票照合(P4314)が実行されます。または、「非在庫購買オーダー処理」メニュー(G43B11)で、次のいずれかを選択します。

- 入荷確認/伝票突合せ
- 未処理入荷と伝票の照合

伝票照合プログラム(P4314)は、MBF(マスター・ビジネス関数)の処理オプション(P0400047)にアクセスしません。したがって、伝票照合処理は、MBFの処理オプションの設定には影響されません。

伝票の戻し(逆仕訳)を行うことがあります。たとえば、伝票を作成した品目を返品した場合などです。伝票が転記済の場合、システムによって対応する仕訳レコードが戻されます。伝票が転記済でない場合、レコードが削除されます。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで作成した伝票は、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは削除しないでください。伝票を削除する場合はJD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで行ってください。

### 2. 伝票照合バージョン

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムの伝票照合プログラム(P4314)のデフォルト値を上書きする特定のバージョン番号を入力します。「照合処理」処理オプションで「1」を入力した場合、この処理オプションを設定する必要があります。

## 複数会社

この処理オプションでは、標準伝票ではなく複数の会社の伝票を処理できます。

### 1. 複数会社の単一仕入先

複数の関連会社の経費を表す伝票を処理するかどうかを指定します。同じ仕入先に対して複数の会社で発生した経費を、様々な元帳クラスや銀行勘定に配賦します。値は次のとおりです。

ブランク: 標準伝票を入力します。

1: “複数会社 - 単一仕入先”伝票を入力します。

このタイプの伝票処理では手入力による支払処理はできません。

または、「その他の伝票入力方式」メニュー(G04111)の「複数会社 - 単一仕入先」から、この処理オプションにアクセスします。

## 複数伝票

この処理オプションでは、標準伝票ではなく複数伝票を入力できます。

## 1. 複数伝票

1つまたは複数の仕入先に対する複数伝票の入力が可能かどうかを指定します。2つの処理ステップを必要とする標準伝票入力とは異なり、複数伝票入力を使用した場合、1つのステップで処理できます。値は次のとおりです。

ブランク: 標準伝票を入力します。

1: 単一仕入先の複数伝票を入力します。

2: 複数仕入先の複数伝票を入力します。

複数伝票入力では、伝票の追加のみを行うことができます。伝票を変更、削除、無効にする場合は、標準伝票入力を使用してください。

また、このタイプの伝票処理では手入力による支払処理はできません。複数伝票入力のその他の制約、追加情報は、マニュアルまたはオンラインヘルプを参照してください。

また、「その他の伝票入力方式」メニュー (G04111) の「複数伝票 - 単一仕入先」または「複数伝票 - 複数仕入先」から、この処理オプションにアクセスすることもできます。

## 仮伝票

この処理オプションでは、標準伝票ではなく仮伝票を入力できます。

### 1. 仮伝票入力

勘定科目に割り当てる前に仮伝票を入力できるようにするかどうかを指定します。後から適切な勘定科目に仮勘定を振り替えることができます。

仮伝票の費用仮勘定、買掛金仮勘定に対してデフォルトの勘定科目を指定できます。そのためには、AAI項目PP (仮伝票の費用仮勘定) とPQ (仮伝票の買掛金仮勘定) を設定してください。AAI PQを設定するには、会社名および番号プログラム (P0010) で「仮勘定の使用」オプションを選択します。「組織と勘定科目の設定」メニュー (G09411) の「会社名および番号」を選択します。値は次のとおりです。

ブランク: 標準伝票を入力します (デフォルト)。

1: 仮伝票を入力します。

この処理オプションで「1」を入力すると、オンの状態の「仮伝票」オプションが「仕入先元帳照会」フォームに表示され、前払の設定が無視されます。

または、「その他の伝票入力方式」メニュー (G04111) の「仮伝票入力」を選択してください。

この処理オプションは、伝票入力MBF (P0400047) の「仮伝票」タブの「仮伝票」処理オプションと連動して機能します。仮伝票を処理するには、これら両方の処理オプションに「1」を入力する必要があります。買掛金標準伝票入力と伝票入力MBFの両方の処理オプションで仮伝票が設定されている場合、買掛金標準伝票入力 (P0411) の「前払」タブの処理オプションは無視されます。

### 2. 元帳日付

仮伝票のデフォルトの元帳日付にシステム日付を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: データ入力時に日付を手作業で入力します。

1: デフォルトの元帳日付にシステム日付を使用します。

この処理オプションに「1」を入力すると、システム日付が使用されるため、この日付を上書きすることはできなくなります。

## 前払

この処理オプションでは、前払の処理方法を指定できます。前払処理を使用すると、請求書を受け取る前に、商品やサービスに対する支払を実行できます。

### 1. 相手勘定

前払支払項目の作成時に使用する相手勘定コードを入力します。前払支払項目の自動作成が可能な値を入力する必要があります。ブランク(デフォルト)にすると、標準伝票入力プログラムが使用されます。

この処理オプションを使用してAAI(AAI項目PCxxxx)を設定することにより、勘定科目に対して自動相手勘定のクラスを事前設定できます。

たとえば、次のように相手勘定を割り当てることができます。

- ブランクまたは4110 - 買掛金
- RETNまたは4120 - 未払留保金
- OTHRまたは4230 - その他の買掛金(買掛金クラス・コード - APCを参照)
- PREPまたは4111 - 前払買掛金勘定

### 2. 勘定科目

前払支払項目の作成に使用される勘定科目を指定します。

勘定科目コードには次のいずれかの形式を使用できます。

- 構造化勘定科目(ビジネスユニット.主科目.補助科目)
- 25桁の構造化勘定科目以外の番号
- 8桁の略式ID番号
- スピード・コード

勘定科目の最初の文字は、勘定科目コードの形式を示しています。

勘定科目の形式は一般会計固定情報プログラム(P000909)で定義します。

この処理オプションは、「相手勘定」処理オプションに値を入力した場合のみ使用します。

### 3. 支払状況コード

前払のデフォルト支払状況コードを入力します。支払状況コードは、伝票の現在の支払状況を示すユーザー定義コード(00/PS)です。値は次のとおりです。

P: 伝票は全額支払済です。

A: 伝票は支払承認済で未払いの状態です。伝票と自動入金消込プログラムで使用できます。

H: 伝票は承認待ちで保留の状態です。

R: 留保金。

%: 伝票が源泉徴収の対象です。

?: その他のコード。その他のすべてのコードは支払が源泉徴収される理由を示します。

JD Edwards EnterpriseOne買掛管理システムでは、この有効なコード・リストに示されているコード以外のコードの支払は印刷されません。

この処理オプションは、「相手勘定」処理オプションに値を入力した場合のみ使用します。

### 4. 日数

マイナスの前払支払項目の期日に追加する日数を入力します。

## 5. 税域フィールド

前払用の「前払税」フォームを表示するかどうかを指定します。「前払税」フォームを使用して、対応するプラスの支払項目とは異なる税コードを、マイナスの支払項目に割り当てます。たとえば、税法上、プラスとマイナスの支払項目の処理が異なる場合、この設定を行う必要があります。ここで設定しなければ、マイナスの支払項目には対応するプラスの支払項目と同じ税域コードと税目コードが割り当てられます。

「前払税」フォームの税域コードと税目コードを指定すると、プラスの支払項目の税域コードと税目コードが上書きされて、すべてのマイナスの支払項目に新しいコードが表示されます。たとえば、いくつかのプラスの支払項目がありそれぞれに異なる税域コードと税目コードが指定されている場合でも、「前払税」フォームで指定した特定の税域コードと税目コードがすべてのマイナスの支払項目に割り当てられます。値は次のとおりです。

ブランク: 「前払税」フォームを表示しません。

1: 「前払税」フォームを表示します。

この処理オプションは、「相手勘定」処理オプションに値を入力した場合のみ使用します。

## 6. 前払税域コード

共通の税率と税勘定の税域または地域を示すデフォルトのコードを入力します。このコードにより自動的に正しい税額が計算されます。税率/税域は納税先(たとえば、都道府県や市町村)とその税率を含むように設定してください。F4008テーブルで設定されているコードが有効なコードです。

通常、米国の売上税と使用税には税率/税域ごとに複数の納税先が必要ですが、付加価値税(VAT)の場合、必要な納税先は1つだけです。

「税域フィールド」処理オプションに「1」を入力した場合のみ、この処理オプションを使用します。

## 7. 前払税目コード

特定の仕入先との取引に使用するデフォルトの税目コードを指定します。この税目コードは、課税方法および収益勘定、費用勘定への計上方法を指定するユーザー定義コード(00/EX)です。

「税域フィールド」処理オプションに「1」を入力した場合のみ、この処理オプションを使用します。

## MBFバージョン

この処理オプションでは、マスター・ビジネス関数および仕訳入力MBFバージョンのデフォルトのバージョンを変更できます。

### 1. 伝票MBFバージョン

標準伝票入力処理(アプリケーションP0400047のバージョンZJDE0001)を変更する場合のバージョン番号を指定します。

### 2. 仕訳入力MBFバージョン

仕訳入力処理(アプリケーションP0900049のバージョンZJDE0001)を一時変更する場合のバージョン番号を指定します。

### 3. 入金後支払マニュアル・リンク・バージョン

入金後支払の手動リンク・アプリケーション(アプリケーションP03B470のバージョンZJDE0001)のバージョン番号を指定します。

ブランク: バージョン番号ZJDE0001が使用されます(デフォルト)。

または、特定のバージョン番号を入力します。

**注意:** システム全体のセットアップ担当者だけがこのバージョン番号を変更するようにしてください。



#### 4. 相殺 (P03B455) バージョン

使用する相殺 (P03B455) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョン ZJDE0002 が使用されます。

### 処理オプション

この処理オプションでは、仕入先元帳照会を使用するときに伝票を変更できるようにするかどうか、および仕入先が伝票と支払を確認できるようにするかどうかを指定できます。

#### 1. 伝票入力モード

「仕入先元帳照会」フォームで選択した伝票を変更できるようにするかどうかを指定します。このフィールドを空白にすると、「仕入先元帳照会」フォームで選択した既存の伝票を変更できます。このフィールドに「1」を入力すると、「仕入先元帳照会」フォームで選択した既存の伝票は照会しかできません。値は次のとおりです。

空白: 選択した伝票を変更できます。

1: 選択した伝票を変更できません。

#### 2. 仕入先セルフサービス・モード

Java/HTML環境で使用するサプライヤ・セルフサービス機能を有効にするかどうかを指定します。セルフサービス機能を使用すると、仕入先が伝票と支払の照会を行うことができます。値は次のとおりです。

空白: サプライヤ・セルフサービス機能が有効になりません。

1: サプライヤ・セルフサービス機能が有効になります。

### 編集

この処理オプションでは、伝票入力時に固定資産IDを必須にするかどうかを指定できます。

#### 1. 固定資産ID

勘定科目が資産のAAI勘定科目範囲内にある場合、資産IDを必須にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 仕訳入力で、資産IDを必須にしません。

1: 仕訳入力で、資産IDを必須にします。

### 入金後支払

#### 1. 入金後支払伝票

入金後支払伝票を入力するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

空白: 標準伝票を入力します (デフォルト)。

1: 入金後支払伝票を入力します。

この処理オプションで「1」を入力すると、入金後支払伝票を示すフラグがオンになります。

**注意:** この処理オプションは、伝票入力MBF (P0400047) の「デフォルト」タブの「支払状況コード」処理オプションと連動して機能します。入金後支払伝票と関連付ける支払状況を入力してください。

## 伝票照合 (P4314) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、伝票照合プログラム (P4314) で使用するデフォルト情報を定義できます。

**1. 照会用オーダー・タイプ**

伝票のタイプを入力します。このUDC(00/DT)はトランザクションの起点も指定します。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)UDC 00/DTに設定されている値を入力してください。各伝票タイプに対して、次のプレフィックスが事前定義されています。これらのプレフィックスは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー処理伝票

**2. 買掛伝票タイプ**

伝票のタイプを入力します。このUDC(00/DT)はトランザクションの起点も指定します。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に設定されている値を入力してください。

各伝票タイプに対して、次のプレフィックスが事前定義されています。これらのプレフィックスは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー処理伝票

**表示**

この処理オプションでは、承認者番号やレポート・コードなど、特定のタイプの伝票照合情報を表示するかどうかを制御できます。

**1. 承認者番号**

承認者番号を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 承認者番号が表示されません。

1: 承認者番号が表示されます。

**2. レポート・コード**

レポート・コード007のカラムを伝票照合の詳細グリッドに表示するかどうかを指定します。

ブランク: レポート・コード007のカラムが表示されません。

1: レポート・コード007のカラムが表示されます。

**3. 勘定科目コード**

勘定科目コードの表示方法を指定します。値は次のとおりです。

blank: 勘定科目コードが1つのフィールドで表示されます。

1: 勘定科目コードは、3つのフィールド(ビジネスユニット、主科目、および補助科目)で表示されます。

#### 4. ビジネスユニット

ビジネスユニット・フィールドの内容を表すテキストを指定します(エイリアスMCU)。この処理オプションは、伝票照合の見出し領域のみに影響します。詳細グリッドには影響しません。値は次のとおりです。

blank: 「事業所」フィールドとして表示されます。

1: 「作業」フィールドとして表示されます。

2: 「プロジェクト」フィールドとして表示されます。

3: 「ビジネスユニット」フィールドとして表示されます。

#### 5. 留保金インジケータの表示

「伝票照合」フォームのグリッドに「留保金インジケータ」カラムを表示するかどうかを指定します。「留保金インジケータ」フィールドは、請求書に留保金が発生したかどうか、留保金を伝票に適用すべきかどうかを確認するために買掛管理の担当者が使用する視覚的なインジケータです。値は次のとおりです。

blank: 表示しない。

1: 表示する。

#### 6. サービス・ユニットの表示

グリッドに「サービス数量」および「サービス単位」フィールドを表示するかどうかを指定します。この処理オプションは、行タイプ固定情報と合せて使用されます。行タイプ固定情報で「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションが選択されている場合、サービス数量とサービス単位を使用できます。

「支払数量」と「サービス数量」フィールドは同時には使用できません。サービス数量はメモ用フィールドであり、検証は何も行われません。値は次のとおりです。

blank: 表示しない。

1: 表示する。

### 処理

この処理オプションでは、情報および処理に使用される値を制御できます。

#### 1. 開始状況コード

次状況コードの範囲の開始状況コード(40/AT)を指定します。照合するオーダーの選択時に、この範囲が使用されます。

照合する入荷の選択時には、この処理オプションは適用されません。

#### 2. 終了状況コード

次状況コードの範囲の終了状況コード(40/AT)を指定します。照合するオーダーの選択時に、この範囲が使用されます。

照合する入荷の選択時には、この処理オプションは適用されません。

#### 3. 出荷次状況コード

部分入荷後にオーダーが移行する“次の状況”を表すコードを指定します。

部分入荷が存在する場合、テーブルの状況がこの処理オプションで入力された状況と一致するように、2方向伝票照合用のF4311テーブルと3方向伝票照合用のF43121テーブルの状況が更新されます。

#### 4. 取消後の状況コード

伝票が取り消された後に、オーダーが移行する“次の状況”を指定します。

伝票が取り消されると、テーブルの状況がこの処理オプションで入力された状況と一致するように、2方向伝票照合用の購買オーダー明細テーブルと3方向伝票照合用のF43121テーブルの状況が更新されます。

## 5. 数量/金額

数量情報を手作業で入力するか、またはシステムによって自動的に入力するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 数量/金額が自動的にロードされます。

1: 伝票に数量/金額を手作業で入力します。

## 6. 許容度

明細行の数量および金額が許容率を超過しているかどうかを判断するために、数量および金額を確認するかどうかを指定します。許容率を確認するには、購買許容規則プログラム(P4322)にアクセスします。有効な支払状況または次の値を入力できます。

ブランク: 許容率を超過しているかどうかを判断するために、数量および金額が確認されません。

1: 明細行が許容率を超過すると、警告が表示されます。

2: 明細行が許容率を超過すると、エラー・メッセージが表示されます。

## 7. 仕入先分析

仕入先分析情報を取り込むかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 仕入先分析情報を取り込みません。

1: 各購買オーダーの品目番号、日付、および数量などの情報がF43090テーブルに記録されます。最も効率的に仕入先情報を記録するには、この処理オプションで「1」を入力し、購買オーダー・プログラム(P4310)および入荷確認プログラム(P4312)の処理オプションで、これと同じ情報を取り込むよう設定してください。

## 8. 伝票ごとのオーダー数

1つの伝票に対する複数のオーダーを許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 1つの伝票に対する複数のオーダーを許可します。

1: 1つの伝票に対しては、オーダーを1つしか許可しません。

## 9. 事業所の読み込み

銀行勘定科目および買掛金勘定の生成に使用されるビジネスユニットまたはプロジェクト番号を指定します。

指定したビジネスユニットが伝票に使用されます。

値は次のとおりです。

ブランク: 各購買オーダー明細行のビジネスユニットが読み込まれます。

1: 購買オーダー見出しレコードのビジネスユニットが読み込まれます。

2: JD Edwards EnterpriseOne住所録からビジネスユニットが読み込まれます。

3: 伝票照合プログラム(P4314)の見出し情報からビジネスユニットが読み込まれます。

4: 各購買オーダー明細行のビジネスユニットからプロジェクト番号が読み込まれます。

5: 購買オーダー見出しレコードのビジネスユニットからプロジェクト番号が読み込まれます。

6: JD Edwards EnterpriseOne住所録のビジネスユニットからプロジェクト番号が読み込まれます。

7: 伝票照合プログラム(P4314)に含まれている見出し情報のビジネスユニットからプロジェクト番号が読み込まれます。

- 10. 直送整合性原価の更新**    オーダーが直送オーダーの場合に、受注オーダーに対する原価の更新を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 原価を更新しません。  
 1: 原価を更新します。
- 11. ロット原価の更新**    オーダーの差異照合時に、品目のロット原価(方法06)を更新するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: ロット原価を更新しません。  
 1: ロット原価を更新します。
- 12. しきい値警告**    外注業者/仕入先に対して設定されているしきい値を超えた伝票総額に対して、警告を表示するかどうかを指定します。しきい値は、F4355テーブルに保存されます。値は次のとおりです。  
 ブランク: 警告を表示しません。  
 1: 警告が表示されます。
- 13. しきい値支払状況コード**    総額がしきい値を超えている伝票の行に割り当てる支払状況コード(00/PS)を指定します。外注業者または仕入先のしきい値は、外注業者しきい値プログラム(P4355)で定義します。
- 14. 2重単位原価計算**    現在の単位原価フィールドの他に、2次単位原価フィールドを表示するかどうかを指定します。2次単位原価フィールドは、この処理オプションが選択された場合に表示されます。値は次のとおりです。  
 ブランク:「2次単位原価」フィールドを表示しない。  
 1:「2次単位原価」フィールドを表示する。

## 集計

この処理オプションでは、買掛勘定および総勘定元帳情報を集計するかどうかを制御できます。

- 1. 買掛金の集計**    買掛金入力を集計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 買掛金入力を集計しません。  
 1: 買掛金入力を集計します。
- 2. 仕訳の集計**    総勘定元帳レコードを集計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 総勘定元帳仕訳を集計しません。  
 1: 総勘定元帳レコードを集計します。

## 新しいオーダー行

この処理オプションでは、伝票作成時の購買オーダーに対する新規明細行の追加方法を制御できます。

## 1. オーダー行の入力

伝票に追加する行の購買オーダー明細行を自動的に作成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 伝票に行を追加できません。

1: 伝票に新しい行を追加するときに、対応する購買オーダー明細を作成しません。

2: 伝票に新しい行を追加するときに、対応する購買オーダー明細を作成します。

## 2. 行タイプ

行の処理方法を指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム (JD Edwards EnterpriseOne 一般会計、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、および JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理) に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。たとえば、次のような値が、「行タイプ固定情報の改訂」フォーム (P40205) で定義されています。

J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

「新しいオーダー行」タブの「オーダー行の入力」処理オプションで「2」を入力した場合のみ、この処理オプションが適用されます。

勘定科目コードを検証する在庫インターフェイスAの行タイプのみ使用できます。

## 3. 前状況コード

オーダー処理の最初のステップである開始状況を指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード (40/AT) を使用します。

## 4. 次状況コード

オーダー処理の次のステップを指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード (40/AT) を使用します。

この一時変更用状況は、この処理で実行できるもう1つのステップになります。

## 留保金

この処理オプションでは、伝票照合プログラム (P4314) で留保パーセントまたは留保金をデフォルト値として使用するかどうかと、留保額または伝票金額に税を適用するかどうかを指定できます。

### 1. デフォルト

オーダー見出しから留保パーセントまたは留保金を自動的にロードするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: オーダー見出しから留保パーセントまたは留保金をロードしません。

1: オーダー見出しから留保パーセントまたは留保金を自動的にロードします。

## 2. 税タイプCまたはVの留保金への適用

留保額または伝票金額に税を適用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 留保額または伝票金額に税を適用しません。

1: 留保額または伝票金額に税を適用します。

## ログ

この処理オプションでは、未処理ログが存在する際に警告メッセージを表示するかどうかを制御できます。また、未処理ログが存在した場合に支払伝票に使用する支払状況コードを指定できます。

### 1. 警告メッセージを出す検証項目

未処理ログの詳細な警告メッセージを表示するかどうかと、その表示タイミングを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 未処理ログの詳細な警告メッセージを表示しません。

1: システムが状況、支払有効開始日付、および支払有効終了日付を確認したときに、未処理ログの詳細な警告メッセージを表示します。

2: システムが状況、支払有効開始日付、要求日付、および支払有効終了日付を確認したときに、未処理ログの詳細な警告メッセージを表示します。

### 2. 支払状況コード

未処理ログが存在する場合に、伝票のデフォルト値として使用される支払状況コードを指定します。

通常、支払項目が保留であることを示す支払状況コードを使用します。

## 通貨

この処理オプションでは、有効日付として使用する日付と、為替レートを変更可能にするかどうかを制御できます。

### 1. 有効日付

有効日付として使用する日付を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 本日の日付を有効日付として使用します。

1: 元帳日付を有効日付として使用します。

2: 請求書日付を有効日付として使用します。

### 2. 保護規則

為替レートを変更できるかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 為替レートを変更できます。

1: 為替レートを変更できません。

## 任意勘定科目

この処理オプションでは、任意勘定科目を使用するかどうかを制御できます。

### 1. 任意勘定科目

任意勘定科目を有効にするかどうかを指定します。オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne収益性分析システムを使用するか、または任意売上勘定科目の処理を行う場合は、任意勘定科目を有効にします。値は次のとおりです。

ブランク: 任意勘定科目が有効になりません。

1: 任意勘定科目が有効になります。

## バージョン

この処理オプションでは、各アプリケーションのバージョンを入力できます。blankにした場合、ZJDE0001バージョンが使用されます。

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 1. 購買オーダー (P4310)            | 購買オーダー・プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。                                    |
| 2. 伝票入力MBF処理オプション (P0400047) | 買掛管理プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。このプログラムのバージョンは、対話型バージョン・リストでのみ確認できます。  |
| 3. 仕訳入力MBF処理オプション (P0900049) | 総勘定元帳プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。このプログラムのバージョンは、対話型バージョン・リストでのみ確認できます。 |
| 4. 入荷処理中オーダー照会 (P43214)      | 入荷処理中オーダー照会プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。                                |
| 5. 陸揚費用の個別入力 (P43214)        | 陸揚費用の個別入力プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。                                  |
| 6. 運賃変更履歴 (P4981)            | 運賃の照合に使用される運賃変更履歴プログラムのバージョンを指定します。   |
| 7. 仕入先元帳照会 (P0411) のバージョン    | 仕入先元帳照会プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。                                    |
| 8. 購買オーダー・ログ (P4305)         | ログ入力プログラム (P4305) を使用するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。                              |
| 9. 運賃配賦 (P43147)             | 運賃配賦プログラム (P43147) にアクセスする際に使用するバージョンを指定します。                                      |

## ワークフロー

この処理オプションでは、ワークフロー・オプションを指定できます。

- |            |   |
|------------|---|
| 1. 金額変更の通知 | <p>金額変更の通知先を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 通知の電子メールが送信されません。</p> <p>1: 購買オーダー入力者</p> <p>2: プロジェクト管理者</p> <p>3: 購買担当者</p> <p>4: 購買オーダー入力者、購買担当者、およびプロジェクト管理者</p> |
| 2. 数量変更の通知 | <p>数量変更の通知先を指定します。値は次のとおりです。</p> <p>blank: 通知の電子メールが送信されません。</p> <p>1: 購買オーダー入力者</p> <p>2: プロジェクト管理者</p> <p>3: 購買担当者</p> <p>4: 購買オーダー入力者、購買担当者、およびプロジェクト管理者</p> |



## 進捗支払

この処理オプションでは、JD Edwards EnterpriseOne外注管理システムでの進捗支払の処理方法を指定できます。

1. インターフェイス  
進捗支払インターフェイスを有効にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 仕入先/外注業者元帳照会  
1: 進捗支払  
標準的な伝票照合を使用する場合、この処理オプションを設定しないでください。
2. 照合タイプ・デフォルト  
照合タイプのデフォルトを指定します。UDCテーブル(43/VW)ですでに設定されている値を入力してください。
3. オプション・モード  
「契約の処理」フォームから支払行を選択したときに、「出来高払い」の「伝票照合」フォームの詳細グリッドに表示されるデフォルトの出来高払いオプションを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 行の支払を省略します。  
1: 数量および金額を照合します。
4. 拡張金額の計算  
数量が変更された場合に、拡張金額を計算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 拡張金額が計算されません。  
1: 拡張金額が計算されます。
5. 同じバッチ番号の使用  
同じバッチ番号を使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 同じバッチ番号を使用しません。  
1: 同じバッチ番号を使用します。
6. 支払タイプと通貨支払フィールドの表示  
サプライヤ・セルフサービス・アプリケーションで、支払機能タイプを有効にするかどうかと、支払タイプのフィールド(「支払タイプ」および「現行支払」(国内または外貨))を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 支払機能タイプを有効にしません。また、「支払タイプ」および「現行支払」フィールドを表示しません。  
1: 支払機能タイプを有効にします。また、「支払タイプ」および「現行支払」フィールドを表示します。
7. 支払タイプ  
支払タイプ・オプションを指定します。「支払タイプ」と「現行支払」フィールドの表示」処理オプションが有効な場合のみ、この処理オプションが使用されます。値は次のとおりです。  
ブランク: 実績金額  
1: 累計パーセント  
2: 累計金額
8. 支払済み行の支払許可  
支払済行について、100%を超える支払を許可するかどうかを指定します。非在庫行にのみ適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 以前に支払が完全に済んでいる行についての支払を許可しません。

1: 以前に支払が完全に済んでいる行についての支払を許可します。

## 再配賦

この処理オプションでは、再配賦後の仮定期伝票の処理方法を指定できます。

**1. 再配賦後に伝票の最終差額を計算する** 総勘定元帳に差異金額を記録するかどうかを指定します。DMAAI 4330でこれらの差異が記録されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク: 差異金額が記録されません。

1: 差異金額が記録されます。

## 運賃配賦

この処理オプションでは、運賃配賦トランザクションの行をどのように処理するかを決定できます。

**1. 運賃配賦行タイプ** 行の処理方法を指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム (JD Edwards EnterpriseOne 一般会計、JD Edwards EnterpriseOne 作業原価、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理、および JD Edwards EnterpriseOne 在庫管理システム) に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。

勘定科目コードを検証する在庫インターフェイスAの行タイプのみ使用できます。

## 運賃配賦 (P43147) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

**1. 勘定科目コード** 「運賃配賦の改訂」フォームでの勘定科目コードの表示方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 勘定科目コードを1つのフィールドとして表示します。

1: 勘定科目コードを個別に3つのフィールドに表示します。これらのフィールドは、「ビジネスユニット」、「主科目」、「補助科目」です。

### 処理

この処理オプションでは、情報および処理に使用される値を制御できます。

**1. 勘定科目** 会計AAI PCFRTDを使用するかどうかを指定します。行の「オーダー・タイプ」フィールドと「ビジネスユニット」フィールドからの値を使用して、運賃の配賦勘定科目が決まります。値は次のとおりです。

ブランク: 行で勘定科目を使用する。

1: AAIを使用して勘定科目を決定する。

**2. デフォルト配賦** 運賃金額の初期の配賦を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: デフォルトの配賦を実行しない。

- 1: 伝票全体の金額に対する行の金額に基づいて運賃を配賦する。
- 2: 各伝票行に均等に運賃を配賦する。

## 伝票と照合する入荷レコードの選択

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

留保金額	契約金額に対して留保(支払保留)されている総額を入力します。保留金額は、ゼロ以上、伝票金額以下である必要があります。
留保率	契約に適用される留保率(支払保留率)を入力します。この留保率は、支払ごとのパーセントです。これは、小数として表されます。たとえば、留保率が10%の場合は、10と表されます。留保率は、99.9%(.999)を超えたり、ゼロを下回することはできません。
税	未払税を入力します。当該伝票(請求書、伝票など)に対して算出された総税額のうち、税域を構成する5つの税務当局のうちの1つ目の税務当局に起因する未払税金額を入力します。

## 伝票と照合するオーダー明細行の選択

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

留保率	契約に適用される留保率(支払保留率)を入力します。この留保率は、支払ごとのパーセントです。これは、小数として表されます。たとえば、留保率が10%の場合は、10と表されます。留保率は、99.9%(.999)を超えたり、ゼロを下回することはできません。
税	未払税を入力します。当該伝票(請求書、伝票など)に対して算出された総税額のうち、税域を構成する5つの税務当局のうちの1つ目の税務当局に起因する未払税金額を入力します。

## 運賃のオーダー明細行の選択

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

運賃を手作業で伝票と照合する必要がある場合があります。運賃はJD Edwards EnterpriseOne輸送管理システムで計算されます。

## 運賃の伝票処理のためのオーダー明細行の選択

「運賃配賦の改訂」フォームにアクセスします。

フォームの各明細行に固有の運賃情報を入力します。

配賦タイプ	運賃の配賦タイプを入力します。値は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"><li>1: 金額によって配賦</li><li>2: パーセントによって配賦</li></ol>
運賃配賦パーセント	伝票照合中の元帳レコードの作成時に金額の計算に使用される運賃配賦のパーセントを表示します。

<b>運賃配賦金額</b>	伝票照合中に元帳レコードの作成で使用される運賃配賦金額を入力します。
<b>運賃配賦ビジネスユニット</b>	元帳勘定科目コードからのビジネスユニットが表示されます。
<b>運賃配賦主科目</b>	勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分が表示されます。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。  <b>注意:</b> 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁のすべてを使用することをお勧めします。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。
<b>運賃配賦補助科目</b>	主科目の中の区分が表示されます。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。
<b>運賃配賦勘定科目コード</b>	運賃配賦の勘定科目コードを入力します。伝票照合中の運賃配賦に関して、元帳レコードがこの勘定科目に書き込まれます。
<b>運賃配賦補助元帳</b>	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類する補助的なコードを入力します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
<b>運賃配賦補助元帳タイプ</b>	「運賃配賦補助科目」フィールドと合せて補助元帳のタイプと編集方法の識別に使用されるUDC(00/ST)を入力します。  「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。この値による編集方法には、ハードコードされているものもユーザー定義のものもあります。次の値があります。 A: 英数字フィールド(編集なし) N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める) C: 英数字フィールド(右揃えブランク補填)
「フォーム」メニューから次のオプションのいずれかを選択して、フォーム上のすべての明細行に適用することができます。	
<b>配賦のクリア</b>	この運賃配賦行にある既存の運賃配賦をすべてゼロにするときに選択します。「検索」ボタンをクリックしてグリッドをリフレッシュします。
<b>デフォルト金額</b>	この運賃配賦行にある既存の運賃配賦をすべて一時変更するときに選択します。伝票行の金額が合計され、運賃の金額が伝票行の金額と伝票全体の金額の比率に基づいて各伝票行に配賦されます。「検索」ボタンをクリックしてグリッドをリフレッシュします。  たとえば、運賃金額が200米ドルとします。グリッドには2つの伝票行があります。最初の行は1,000米ドルで、2番目の行は3,000米ドルです。1行目には25%に相当する50米ドルが、2行目には75%に相当する150米ドルが配賦されます。  <b>注意:</b> 「デフォルト金額」オプションは、P43147プログラムの「処理」タブにある「デフォルト配賦」処理オプションの値が1(金額により配賦)に設定されているときと同じように機能します。

### 行デフォルト

この運賃配賦行にある既存の運賃配賦をすべて一時変更するときを選択します。運賃金額は、各伝票行に均等に配賦されます。「検索」をクリックしてグリッドをリフレッシュします。

たとえば、運賃金額が200米ドルとします。グリッドには4つの伝票行があります。各行に50米ドルずつ配賦されます。

---

**注意:**「行デフォルト」オプションは、P43147プログラムの「処理」タブにある「デフォルト配賦」処理オプションの値が2(各行に均等に配賦)に設定されているときと同じように機能します。

---

## 請求書に対する原価変更の記録

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

---

## 留保金の処理

この項では、留保金の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 留保金のある伝票の入力
- 留保金をリリースする伝票の入力

### 留保金について

支払総額の一部を留保金として保留にした伝票を作成できます。留保は支払保留ともいいます。留保金とは指定された日付まで保留されるコミット済金額のパーセントです。たとえば、留保金は契約、サービス、またはオーダーにあるすべての品目の入荷が完了した後で支払います。留保金が10%で額面100の伝票を作成すると、10を留保金として残すため、実際の支払は90になります。留保金分は、リリース金額分の支払伝票を入力することによりリリースします。留保金のリリースと伝票の作成を同時に実行できます。

たとえば、請求対象の作業勘定に対して1,000の購買オーダーを発行します。仕入先から請求書を受け取ります。留保金額が記載されていることもあれば、記載されていない場合もあります。10%の留保金を含む1,000の伝票を作成します。こうすることで、留保金として100が保留となり、実際の支払は900となります。購買オーダーに対して1,000は請求対象の作業勘定への借方に計上され、買掛金勘定の貸方に900が計上されます。留保金の100は、買掛金留保勘定の貸方に計上されます。これで、1,000のコミットメントがすべてリリースされます。

適切な場合には留保金をリリースします。その後の仕入先からの請求書を使用したり、使用しない場合もあります。どちらの場合も、留保金のリリース開始は手動の処理になります。留保金分は、リリース金額分の支払伝票を入力することによりリリースします。この例では、買掛金勘定の貸方に100の支払が計上され、買掛留保金勘定の借方に100が計上されます。

次の図は、10%の留保金を持つ1,000の行に対するT勘定の変化を示します。

留保金のある伝票の照合		
作業費用勘定	買掛金留保	買掛金勘定
1000	100	900
留保金のリリース		
買掛金留保	買掛金勘定	
100	100	

留保金に対するT勘定の変化の例

伝票全体に適用される留保金がある伝票を作成するか、または伝票の行品目ごとに留保金を適用できます。

留保金の税を繰り延べるには、留保金のある税の処理オプションを使用してください。留保金のある税の処理オプションを有効にして、税タイプCまたはVを使用すると、金額は異なる方法で計算されます。当初の課税対象額から留保金が減算され、新しい金額が再計算されます。

留保金の部分的なリリースは、留保金にまだ未払金額があることを示します。留保金の最終的なリリースは、支払う必要のある留保金が残っていないことを示します。伝票または伝票のグループに対して個別に留保金をリリースできます。入荷または購買オーダーと照合する留保金がある伝票の作成と、留保金のリリースを同時に行うことができます。

**注意:** 産業によっては、外注契約の保留を留保金と呼ぶこともあります。したがって、留保金と保留が同じ意味で使用される場合もあります。

## 保留

保留は、費用が払戻可能な商業プロジェクト関連の環境で使用されます。保留とは、オーダー完了後の特定の日付まで保留にされる金額を指します。保留の処理は継続的なプロジェクトに該当し、サービス行にのみ適用されます。保留は、製品の入荷と同時に製品の全コストを支払う在庫基準の購買オーダー行には適用されません。

保留は通常、顧客の契約規則と同じ規則に従います。伝票を処理する際の会計の要件は、作業の請求対象の勘定に正味金額を配賦し、保留金額を作業の請求対象外の勘定に配賦することです。保留の金額は請求対象外の勘定科目に計上せねばならず、請求対象の金額のみが請求対象の勘定科目に計上されて、支払のために送信されます。仕入先が請求書で保留金を指定することもあれば、指定しないこともあるので注意してください。

たとえば、請求対象の作業勘定に対して1,000の購買オーダーを発行します。仕入先から請求書を受け取ります。保留金額が記載されていることもあれば、記載されていない場合もあります。10%の保留金を含む1,000の伝票を作成します。こうすることで、保留金として100が保留となり、実際の支払は900となります。900の支払は、購買オーダーの請求対象の作業勘定の借方に計上されます（買掛金勘定の貸方に計上）。保留金100は作業の請求対象外の勘定科目の借方に計上されます（買掛金保留勘定の貸方に計上）。これで、1,000のコミットメントがすべてリリースされます。

適切な場合には保留金をリリースします。その後の仕入先からの請求書を使用したり、使用しない場合もあります。どちらの場合も、保留金のリリース開始は手動の処理になります。保留金分は、リリース金額分の支払伝票を入力することによりリリースします。この例では、100の支払は購買オーダーの請求対象の作業勘定借方（買掛金勘定の貸方）に計上され、請求対象外の作業勘定の貸方（買掛金保留勘定の借方）にも100が計上されます。

次の図は、10%の保留金を持つ1,000の行に対するT勘定の変化を示します。

保留金のある伝票の照合			
作業費用勘定	請求対象外	買掛金保留	買掛金勘定
900	100	100	900
保留金のリリース			
作業費用勘定	請求対象外	買掛金保留	買掛金勘定
100	100	100	100

請求対象外の保留金に対するT勘定の変化の例

コミットメントはすでにリリース済のため、影響を受けません。初期伝票の入力を円滑にするには、伝票入力時に保留が購買オーダーに適用されるという指示を出します。

JD Edwards EnterpriseOneシステムでは、保留金の機能を使用して、在庫インターフェイスAまたはBのトランザクションについてのみ、請求対象外の勘定科目への記録を自動化します。JD Edwards EnterpriseOneシステムで外注契約の保留機能を有効にするには、次の処理を実行する必要があります。

1. 「行タイプ固定情報の改訂」フォーム (W40205B) で、「請求対象外保留金」オプションを選択します。  
この外注契約保留オプションが選択されていると、新しい仕訳項目が作成されます。

## 2. 2方向伝票照合を実行します。

複数の部分照合がサポートされています。

---

**注意:** 3方向の照合を実行する場合は、「行タイプ固定情報の改訂」フォーム(W40205B)で、「伝票で経費処理」オプションを選択する必要があります。

---

## 3. 留保金額がゼロではないことを確認してください。

保留を含むオーダーを入力する前に、購買オーダー・プログラム(P4310)の「表示」タブにある「留保金インジケータの表示」処理オプションを選択します。留保金を持つオーダーを入力する際は、「オーダー見出し」フォームの「留保金インジケータ」チェックボックスを選択します。このフィールドによって、伝票照合プロセス中に買掛管理の担当者に通知が送られ、請求書に保留となっている金額がないかどうか仕入先からの請求書を二重に確認できます。「留保金インジケータ」チェックボックスは、「留保率」フィールドと組み合わせて使用することも、単独で使用することもできます。

---

**注意:** 購買オーダーの生成(P43032)、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース(P43060)、見積オーダーのリリース(P43360)プログラムを使用して一括オーダーや購買要求および見積オーダーをリリースする場合、生成されるオーダーには留保金インジケータの値が含まれます。「留保金インジケータ」フィールドの値は、処理オプションの設定に関係なく元のオーダーから読み込まれます。

---

---

**注意:** 購買オーダー・ワークベンチ(P43101)、ソーシング、電子データ交換(EDI)、XPI、転送オーダー、直送オーダー、原価再計算伝票、照合する運賃では保留はサポートされていません。

---

伝票照合プログラム(P4314)の「表示」タブで「留保金インジケータの表示」処理オプションを設定すれば、「伝票照合」フォームの詳細グリッドに「留保金インジケータ」フィールドを表示できます。留保金インジケータの設定は、オーダー見出しから読み込まれます。また、P4314プログラムの「留保金」タブの処理オプションも設定してください。

伝票照合時に、請求対象および請求対象外の勘定科目にコミットメントをリリースできます。「行タイプ固定情報の改訂」フォームの「請求対象外留保金」オプションの設定によって、留保金に対して新しい請求対象外のAAI(自動仕訳)が使用されるかどうかが決まります。このオプションは、伝票照合時の留保金の処理に会計AAI請求対象外留保金(PCNBRT)を使用するよう指定するときに選択します。「請求対象外留保金」オプションが選択されていない場合、留保金の費用処理には前の機能が使用されます。

行タイプ固定情報プログラム(P40205)の「伝票照合差異勘定」オプションを選択して、差額を計上する勘定科目を指定します。伝票照合中に生成された差異は、オーダー明細行の差異勘定か費用勘定に計上できます。

3方向伝票照合の場合、請求対象外の経費AAIを使用するには、「請求対象外留保金」と「伝票で経費処理」オプションを両方選択します。

留保金のリリースと伝票の作成を同時に実行できます。フォームに表示される「留保金インジケータ」フィールドは、請求書に留保金が発生したかどうか、留保金を伝票に適用すべきかどうかを確認するよう買掛管理の担当者に通知します。「留保金インジケータ」フィールドは「留保率」フィールドに制約されないため、「留保金インジケータ」オプションが選択されている場合に留保率は必要ありません。このため、「留保金インジケータ」フィールドに基づいて機能が実行されることは一切ありません。

請求対象外の留保金を持つ伝票を転記すると、コミットメントがリリースされます。請求対象外の留保金を持つ伝票を転記すると、購買オーダー明細請求対象外テーブル(F4317)から請求対象外の入荷請求仮勘定(RNV)金額が読み込まれ、請求対象のRNV金額(元帳転記プログラム(R09801)からの入力値)に追加されます。このようにして、請求対象外の留保金および留保金リリースを持つ伝票照合が処理されます。

伝票照合時に、請求対象および請求対象外の元帳金額が、国内通貨ならびに外貨の両方で計算されます。



伝票照合時には次の計算式が使用されます。

- (請求対象金額) = (元帳金額) × (1 - (留保率))
- (請求対象外金額) = (元帳金額) - (請求対象金額)

リリース金額に対する留保金は、購買オーダー明細 (F4311) のレベルに基づいて計算され、パーセントに応じて購買請求対象外 (F4317) レベルに配賦されます。留保金のリリースには次の計算式が使用されます。

- (リリース済金額) = (F4317請求対象外金額) × (リリース済パーセント)
- (保留済金額) = (F4317請求対象外金額) - (リリース済金額)

請求対象外留保金のリリース時に、リリース済パーセントも計算されます。このパーセントは、部分リリースおよび丸め出庫が必要です。リリースのパーセントには次の計算式が使用されます。

- (リリース済パーセント) - (国内通貨) = (F43121T.RETA) / (F4311T.RETA)
- (リリース済パーセント) - (外貨) = (F43121T.REFA) / (F4311T.REFA)

税タイプB、C、Vを使用している場合を除き、請求対象外金額は常に保留済金額に等しくなります。請求対象外の金額は、将来の1つまたは複数の請求対象金額の合計です。

オーダーを閉じる場合、通知は提供されず、あらゆる保留の支払を強要されることもありません。

伝票に戻し処理を実行する場合、仕訳は入力の順に戻されます。システムにより、次のトランザクションが行われます。

- 入荷確認テーブル (F43121) が更新される。
- 請求対象外金額を更新するためにF4317レコードが戻される。
- 入荷確認請求対象外 (F43127) のレコードが戻される。
  - 照合タイプ3 (伝票照合アプリケーションによる戻し) のF43127レコードが削除される。
  - 照合タイプ2 (伝票照合アプリケーションにより作成) および照合タイプ3 (伝票照合アプリケーションによる戻し) のF43127レコードが更新される。

参照: [第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、27ページ](#)

参照: [第 6 章、「調達管理システムの設定」、「会計システムのAAIテーブルについて」、47ページ](#)

参照: [第 10 章、「購買オーダーの入力」、「購買オーダー \(P4310\) の処理オプションの設定」、97ページ](#)

参照: [第 13 章、「伝票の作成」、「伝票照合 \(P4314\) の処理オプションの設定」、227ページ](#)

## 事前設定

この項のタスクを完了する前に、伝票照合プログラム (P4314) の処理オプションを設定して留保金に税を適用してください。

JD Edwards EnterpriseOneシステムで保留機能を有効にするには、次の処理を実行する必要があります。

- 「行タイプ固定情報の改訂」フォーム (W40205B) で、「請求対象外留保金」オプションを選択します。
- 会計AAI PCNBRTを設定します。
- 購買オーダー・プログラムの処理オプションを設定します。
- 伝票照合プログラムの処理オプションを設定します。
- 2方向伝票照合を実行します。

**注意:** 3方向の照合を実行する場合は、「行タイプ固定情報の改訂」フォーム(W40205B)で、「伝票で経費処理」オプションを選択する必要があります。

- 留保金額がゼロではないことを確認してください。

## 留保金の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先元帳照会	W0411G	「入金照合/転記」(G43A15)、「未処理入荷と伝票の照合」	留保金のある伝票の入力と、留保金をリリースする伝票の入力を行います。  「伝票照合」を使用する場合、伝票照合処理を実行するよう処理オプションを設定する必要があります。
伝票照合	W4314A	「仕入先元帳照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	留保金のある伝票の入力と、留保金をリリースする伝票の入力を行います。
照合するオーダーの選択	W4314C	「伝票照合」フォームで「フォーム」メニューから「照合するオーダー」を選択します。	留保金のある伝票の入力、留保金をリリースする伝票の入力、留保金のある伝票の入力と留保金のリリースの同時実行を行います。

## 留保金のある伝票の入力

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

**留保金額**                      留保金額を入力します。

## 留保金をリリースする伝票の入力

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

**留保率**                      留保金額をパーセントで入力します。入荷レコードを処理している場合、請求書に合せて入荷数量を増加させることはできません。まず、入荷確認プログラム(P4312)を使用して、追加の数量を入荷する必要があります。入荷レコードの金額を増加させると、その増加分の仕訳が自動的に作成されます。

## 入荷レコードからの複数伝票作成

この項では、入荷レコードからの複数伝票作成の概要と次の方法について説明します。

- 入荷レコードからの複数伝票作成
- 評価済入荷決済(R43800)の処理オプションの設定

- 伝票トランザクションに対する仕訳の検討と転記
- 伝票金額貸借一致の検証
- 伝票仕訳帳(R04305)の処理オプションの設定

## 入荷レコードからの複数伝票作成について

入荷レコードを基に支払伝票を作成してもよいという合意が仕入先との間でできていることがあります。そのような合意がある場合には、仕入先は請求書を送付する必要がなく、ユーザー側でも手作業で入荷レコードと請求書を照合して支払伝票を作成する手間を省くことができます。

評価済入荷決済プログラム(R43800)を実行して、支払伝票を作成する入荷レコードを検討できます。エラーがある入荷レコードを識別し、修正することも可能です。エラーを修正した後は、最終モードでプログラムを実行して伝票を作成できます。次のような処理を実行する入荷を指示してください。

- エラーの編集
- 税および値引の計算
- 伝票の作成
- 仕訳の生成

入荷工程処理では、入荷品目が手持状況となるまで伝票が作成されません。入荷品目が入荷工程処理に入ると、F43121テーブルの入荷レコードには、評価済入荷値としてR(入荷工程処理中)が割り当てられます。品目が手持状況になると値はY(はい)になり、伝票が作成できるようになります。

次のような場合、陸揚費用に対して支払伝票が作成されます。

- 陸揚費用を入力している入荷レコードが、評価済入荷決済プログラムで利用できる(F43121テーブルの評価済入荷フィールドにYが設定されている)。
- 評価済入荷決済プログラムで、陸揚費用を請求する仕入先に対して伝票を作成できる(購買指示(P40205)の評価済入荷フィールドにYes(はい)が設定されている)。

支払伝票を作成した後は、標準の伝票と同じように処理できます。

---

**重要:** バッチ・モードで仕入先への伝票を作成するには、購買オーダーを作成する前に、購買指示の評価済入荷フィールドにYを設定する必要があります。これは、仕入先用に入力する購買オーダーのデフォルト値です。それぞれの明細行用にこのデフォルトを一時変更できます。購買指示の評価済入荷フィールドにNを設定した場合、購買オーダーの値は一時変更できません。

---

入荷情報がF43121テーブルから取り込まれ、バッチ・モードで伝票が作成されます。バッチ・モードで伝票を作成するには、公式の入荷処理を使用する必要があります。

評価済入荷決済を実行すると、2つのレポートが作成されます。テスト・モードでプログラムを実行した場合、最初のレポートには伝票が作成されるすべての入荷が表示されます。最終モードで実行した場合、入荷レコードごとに伝票番号、金額などが表示されます。

2番目のレポートには、エラーが原因で伝票が作成されなかった入荷がすべて表示されます。

### 伝票トランザクションに対する仕訳

伝票作成時には、購買費用および債務が総勘定元帳に正しく反映されるように仕訳が生成されます。仕訳の生成後は、内容を検討して総勘定元帳に転記できます。

データの整合性を確保するために、買掛金元帳と総勘定元帳の間で、伝票金額が一致しているかどうかを確認します。

公式の処理で入荷した品目に対して伝票を作成すると、入荷請求仮勘定に借方記入する仕訳が自動的に作成されます。非公式の処理で入荷した品目に対して伝票を作成すると、(借)費用科目に仕訳が自動的に作成されます。

伝票仕訳を総勘定元帳に転記すると、(貸)買掛金科目の仕訳が作成されます。

購買オーダーまたは入荷レコードの商品/サービスの原価と伝票の原価に差異がある場合、その差異に対して仕訳が作成されます。差異勘定科目はAAIで指定する必要があります。

購買を総勘定元帳の勘定科目コード(費用科目)に対して請求する場合、明細行に割り当てる行タイプにより差異を費用科目に請求するか、差異勘定科目に請求するかが決まります。

伝票仕訳の検討プログラム(P0011)を使用して、伝票仕訳を検討できます。仕訳の金額と勘定科目を検討します。

## 差異勘定科目

次の表には、差異勘定科目についての重要な情報が示されています。

勘定科目	説明
加重平均原価に対する差異勘定科目	<p>在庫用に品目を仕入れる際、伝票を作成する前に品目の一部を販売する場合があります。品目の加重平均在庫原価を管理する場合、AAI(自動仕訳)で、販売した品目用と在庫に残った品目用の2つの差異勘定科目を設定する必要があります。</p> <p>次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10.00の品目を10個仕入れ、合計は100.00になる場合</li> <li>そのうち2個を販売する</li> <li>90.00分の伝票を作成する(仕入先からは1個当たり9.00請求)</li> </ul> <p>この場合の差異は10.00です。差異勘定科目を2つ設定しない場合、在庫に残っている8品目に対して全体的な差異である10.00が適用されます。このため、品目の加重平均原価は正確性を失ってしまいます。</p> <p>差異勘定科目を2つ設定すると、在庫に残っている品目に対しては8.00、販売した品目に対しては2.00の差異が適用されます。これにより、在庫に残っている品目に対する加重平均原価が正確に計算されます。</p> <p>すでに在庫にない品目に対して個別の差異勘定科目を作成するには、AAIテーブル4332を設定してください。</p>

## 入荷レコードからの複数伝票作成

「入金照合/転記」(G43A15)の「評価済み入荷決済」を選択します。

## 評価済入荷決済(R43800)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## バージョン

1. 受信突合せ(R470412)のバージョン 受信照合プログラムのバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

## 処理

1. 請求書番号の割当て 請求書番号の割当てに使用する方法を指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: EDI自動採番を使用して請求書番号を割り当てる。  
1: 「仕入先備考」フィールドの値を使用して請求書番号を割り当てる。
2. 元帳日付デフォルト 伝票で使用される元帳日付を指定します。この処理オプションは、「元帳日付」処理オプションと合せて使用されます。値は次のとおりです。  
ブランク: 入荷日付を元帳日付として使用する。  
1: 今日の日付を元帳日付として使用する。  
2: 「元帳日付」処理オプションで指定した日付を使用する。
3. 元帳日付 伝票作成時に使用される元帳日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、「元帳日付デフォルト」処理オプションを使用して日付が決まります。
4. 入荷集計方法 レポートを集計する方法を指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: オーダー別に集計する。  
1: 仕入先別に集計する。  
2: 請求書別に集計する。
5. 請求書日付デフォルト 伝票上の請求書日付に使用する日付を指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: 入荷日付を使用する。  
1: 今日の日付を使用する。  
2: 「請求書日付」処理オプションの日付を使用する。  
3: オーダー日付を使用する。
6. 請求書日付 伝票作成時に使用する請求書日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、「請求書日付デフォルト」処理オプションの日付が使用されます。それ以外の場合は日付を手入力します。

## 伝票トランザクションに対する仕訳の検討と転記

「入金照合/転記」(G43A15)の「伝票仕訳の検討」または「伝票の転記」を選択します。

参照: 第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷トランザクションに対する仕訳の検討」、204ページ

## 伝票金額貸借一致の検証

「入金照合/転記」(G43A15)の「伝票仕訳の印刷」を選択します。

伝票仕訳帳(R04305)を印刷することにより、伝票仕訳を検討し、総勘定元帳と買掛金元帳の金額が一致しているかどうかを検証できます。

印刷される各伝票トランザクションについて、F0411テーブルの総額と、それに対応するF0911テーブルの総勘定元帳仕訳を比較できます。総勘定元帳の比較合計には、外貨元帳タイプ(CA)を持ったレコードは含まれません。

## 伝票仕訳帳(R04305)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 印刷オプション

この処理オプションでは、レポートに印刷する勘定科目番号を選択できます。

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| <b>1. 勘定科目コードのフォーマット</b> | 勘定科目コードを印刷するのに使用する形式を指定します。値は次のとおりです。<br>1: “ビジネスユニット.主科目.補助科目”の形式で勘定科目番号を印刷します。<br>2: 略式ID番号を印刷します。<br>3: 第3(自由形式)勘定科目コードを印刷します。 |
| <b>2. 仮払税額</b>           | 仮払税額の印刷に使用するファイルを指定します。値は次のとおりです。<br>ブランク: F0411テーブルの税額のみ印刷されます。<br>1: F0411およびF0018テーブルの税額が印刷されます。                               |

---

## 商品入荷前の仮請求書作成

この項では、仮請求書の概要と次の方法について説明します。

- 予備伝票を作成するための仮請求書の作成
- 予備伝票からの正式な伝票の作成
- 仮請求書情報の印刷
- 仮伝票明細(R43428)の処理オプションの設定

### 仮請求書について

請求書の商品やサービスを入荷する前に、仮の請求書情報を作成することにより、未払金額を総勘定元帳に反映させることができます。仮請求書情報を記録すると、予備伝票が作成され、実際に商品やサービスを入荷時にはそれを基に正式な伝票を作成します。

予備伝票を作成すると、伝票金額を総勘定元帳の仮勘定に仕訳が作成されます。正式な伝票を作成すると、伝票金額を総勘定元帳の実際の勘定科目に振り替える仕訳が作成されます。

請求書の商品やサービスの入荷前に、請求書情報を記録しておく場合があります。予備伝票を作成して仮請求書情報を記録でき、請求額分の勘定科目に仕訳が自動作成されます。

請求書情報を入力したら、伝票金額の仕訳を作成する借方の仮勘定を指定する必要があります。

請求書の商品やサービスの入荷後に、予備伝票から正式な伝票を作成します。予備伝票にはすでに必要な情報のほとんどが入力されているので、正式な伝票作成といっても単純な処理で済みます。

正式な伝票を作成するには、予備伝票を検索して請求書と照合する入荷レコードを選択します。これにより正式な伝票が自動作成されます。

## 商品入荷前の仮請求書作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先元帳照会	W0411G	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「仮伝票入力」	予備伝票を作成するための仮請求書を作成します。
伝票入力－支払情報	W0411A	「仕入先元帳照会」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	予備伝票を作成するための仮請求書を作成します。
仕訳入力プロンプト	W0411B	「伝票入力－支払情報」フォームで「OK」ボタンをクリックします。	予備伝票を作成するための仮請求書を作成します。
伝票仕訳振替の処理	W042002A	「その他の伝票入力方式」(G04111)、「仮勘定の振替」	予備伝票から正式な伝票を作成します。
伝票照合	W4314A	「伝票仕訳振替の処理」フォームで伝票を選択し、「ロー」メニューの「購買オーダーの振替」を選択します。	予備伝票から正式な伝票を作成します。

## 予備伝票を作成するための仮請求書の作成

「仕入先元帳照会」フォームにアクセスします。

## 予備伝票からの正式伝票の作成

「伝票仕訳振替の処理」フォームにアクセスします。

## 仮請求書情報の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「仮伝票明細」を選択します。

商品やサービスを入荷する前に仮請求書を作成した場合、仮伝票明細レポートを印刷して予備伝票情報を検討できます。このレポートを使って、正式な伝票に振替可能な状態の予備伝票を識別できます。さらに、次のような請求書情報や購買オーダー情報の検討もできます。

- 請求書番号
- 請求書日付
- 総額
- 購買オーダー番号
- 入荷日付(該当する場合)
- 未決済伝票金額

- 伝票番号

仮伝票の作成時に購買オーダー情報を入力しない場合、レポートには購買オーダー情報は印刷されません。

入荷レコードが入力された仮伝票だけをレポートに印刷するように、処理オプションで設定できます。

## 仮伝票明細 (R43428) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

1. 添付されている購買オーダーに入荷数量を持つ伝票のみを印刷  
添付されている購買オーダーに入荷数量を持つ伝票のみを印刷するかどうかを指定します。この処理オプションでは1を指定します。

---

## 伝票情報の印刷

購買オーダー、入荷、仕入先に関する特定の伝票情報を表示したレポートを印刷できます。

この項では、次の方法について説明します。

- 明細行別の伝票情報印刷
- 入荷/伝票状況レポート (R43412) の処理オプションの設定
- 入荷別の未決済伝票情報の印刷
- 仕入先の伝票金額の印刷
- 仕入先分析レポート (R04602) の処理オプションの設定

### 明細行別の伝票情報印刷

「購買レポート」(G43A111) の「伝票発行/入荷状況」を選択します。

購買オーダー明細行別に伝票情報を検討できます。たとえば、100の仕掛品に対する明細行を含む購買オーダーを入力する場合、次の項目を表示したレポートを作成できます。

- 累計入荷金額と数量
- 伝票が作成された入荷金額と数量
- 伝票が作成されていない入荷金額と数量

印刷する明細行に対する事業所、仕入先、購買オーダー番号を指定できます。このレポートを使用して、仕入先または事業所の伝票に対する未決済総額を確定できます。

入荷/伝票状況レポートを実行する場合、明細行を事業所別とビジネスユニット別のどちらで集計するかは、使用している環境が“在庫”か“非在庫”かによって変わります。

### 入荷/伝票状況レポート (R43412) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。



## 表示

この処理オプションでは、レポートでの情報の表示方法を指定できます。

### 1. 総勘定元帳ビジネスユニットまたは事業所の選択

総勘定元帳原価情報または事業所情報のどちらを印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 事業所情報が印刷されます。

1: 総勘定元帳原価情報が印刷されます。

### 2. 外貨または国内通貨の選択

情報を外貨と国内通貨のどちらで印刷するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 情報が国内通貨で印刷されます。

1: 情報が外貨で印刷されます。

## 入荷別未決済伝票情報の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「伝票調整」を選択します。

個別の入荷レコードに対して未決済の伝票情報を検討できます。たとえば、6月30日に仕掛品を100入荷した場合、次のような情報を識別できます。

- 伝票作成が必要な残量
- 伝票作成が必要な残金
- 残金の課税額

入荷請求仮勘定残高調整レポートを使用することにより、F0902テーブルに対して入荷を調整できます。

公式の入荷を記録するたびに、(貸)入荷請求仮勘定に仕訳が作成されます。各入荷に対して、この勘定科目コードを検討できます。通常、勘定科目コード別にレポート情報の順序を決めます。

このレポートには、F43121テーブルの情報が含まれます。

## 仕入先の伝票金額の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「仕入先分析」を選択します。

仕入先分析レポートを印刷して、過去に伝票を作成したことがあるすべての仕入先、およびそれぞれの仕入先の伝票合計額を検討できます。また、このレポートを印刷して、年累計伝票金額と前年度の伝票合計額を比較することも可能です。

仕入先は、伝票合計額順に降順で表示されます。このレポートには年累計伝票金額の残高がゼロの仕入先は表示されません。

## 仕入先分析レポート(R04602)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 通貨

#### 1. 通貨

仕入先が使用する通貨を示すコードを入力します。この通貨は、仕入先の伝票を入力するときにデフォルトの通貨として使用されます。このデフォルト通貨は、伝票の入力時に一時変更できます。この処理オプションをブランクにすると、米ドル(USD)がレポートに使用されます。

---

**注意:** このオプションは、多通貨がオンの場合にのみ使用されます。

---

## 第 14 章

# 特殊オーダー処理

この章では、特殊オーダー処理の概要と次の方法について説明します。

- 購買要求の処理
- 一括オーダーの処理
- 見積オーダーの処理
- 価格見積からのオーダー作成
- オーダー改訂の処理
- 購買オーダーの生成
- 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成の処理

---

## 特殊オーダー処理について

特殊オーダーには、通常とは異なる取扱が必要です。多くの場合、特殊オーダーは実際のオーダーの前提条件となっています。特殊オーダーの例は次のとおりです。

- 購買要求 - 品目やサービスの予備要求
- 一括オーダー - 定期的な支払を希望する大量オーダー
- 見積オーダー - 仕入先価格の見積要求
- オーダー改訂 - オーダーの変更をトラッキングするシステム用のオーダー

ほとんどの特殊オーダーは購買オーダーと同じ方法で入力します。特殊オーダーは、オーダー・タイプおよびオーダー処理規則によって識別します。たとえば、購買要求を処理している場合は通常、オーダー・タイプOR(購買要求オーダー)を入力します。一括オーダーを処理するときは、オーダー・タイプは通常OB(一括オーダー)です。

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムでは、特殊オーダー用に設定した行タイプ、処理規則、状況コードに基づいて、特殊オーダー・タイプごとに異なった処理サイクルが実行されます。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー処理規則の設定」、33ページ

購買管理システムには購買要求を生成したり、その購買要求から見積を作成して、さらに見積から購買オーダーを作成するのに必要なツールが備わっています。見積要求の送り先や見積の対象とする品目数、作成できる購買オーダーは、いずれも無制限です。これらをすべてオンラインで処理すれば、効率が上がるだけでなく、伝票や書類も関連付けられ、購買オーダーや見積オーダーの作成に必要な情報の監査証跡を簡単に記録できます。

購買オーダーの生成 (P43032)、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース (P43060)、見積オーダーのリリース (P43360) プログラムを使用して一括オーダーや購買要求および見積オーダーをリリースする場合、生成される購買オーダーには留保金インジケータの値が含まれます。「留保金インジケータ」フィールドの値は、処理オプションの設定に関係なく元の購買オーダーから読み込まれます。

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「留保金の処理」、239ページ

---

**注意:** 一括オーダー、見積、購買要求がリリースされる時に、サービス・ユニットは少なくなります。

---

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、95ページ

### 仕入先分類コード

購買オーダーの生成 (P43032)、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース (P43060)、および見積オーダーのリリース (P43360) プログラムを使用して一括オーダーや購買要求、見積オーダーをリリースする場合、生成される購買オーダーには JD Edwards EnterpriseOne 住所録システムにある仕入先の住所録レコードからの仕入先分類コードが含まれます。

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「追加のオーダー見出し情報の入力」、119ページ

### 追加プロパティおよびカテゴリ・コード

追加プロパティおよびカテゴリ・コードは、購買オーダーのユーザー定義情報を読み込みます。購買オーダーの作成時に、「オーダー見出し」フォームまたは「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブおよび「カテゴリ・コード」タブでフィールドに値を入力します。

特殊な購買オーダーには次の処理が実行されます。

- 一括オーダー、購買要求または見積オーダーをリリースする場合、購買オーダーの生成時にユーザー定義フィールドの値が読み込まれます。

---

**注意:** P4310 プログラムによってリリースされた一括オーダーは、「オーダー見出し」フォームや「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブや「カテゴリ・コード」タブのユーザー定義フィールドの値を継承しません。

---

- ユーザー定義フィールドのある元の購買オーダーから購買オーダーを生成する場合、処理オプションの設定に関係なく、ターゲットの購買オーダーもユーザー定義フィールドを持ちます。
- 複数の一括オーダー、購買要求または見積オーダーから1つの購買オーダーを生成する場合、最初のオーダー見出しからのユーザー定義の値が使用されます。
- オーダー明細に連結を使用する場合、最初のオーダー明細のユーザー定義フィールドの値が使用されます。
- 異なる一括オーダー、購買要求または見積オーダーから複数の行に対して1つのオーダー見出しが作成される場合、最初のオーダーの見出し情報が使用されます。
- 1つの購買オーダーに対して複数の一括オーダーをリリースする場合、最初の一括オーダーからのユーザー定義フィールドの値が見出しに使用されます。

---

**注意:** P4310 で直接作成された購買オーダーからは、「オーダー見出し」または「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブと「カテゴリ・コード」タブのユーザー定義フィールドにアクセスできます。転送オーダーや直送オーダー、オーダー生成プログラムなど、P4310 で直接作成されていない購買オーダーからは、ユーザー定義フィールドにアクセスできません。購買オーダーが作成されたら、P4310 でそのオーダーにアクセスして、ユーザー定義フィールドに値を入力できます。

---

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「オーダー見出し情報の入力」、117ページ

## 購買要求の処理

この項では、購買要求および購買要求明細行の概要、事前設定、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース(P43060)の処理オプションの設定方法について説明します。

### 購買要求について

購入する品目やサービスに対して購買要求を出すように社内で義務付けられている場合があります。この場合、オーダーを作成する前に品目やサービスの購買要求を入力して承認を得ます。購買要求は購買オーダーと同じ方法で入力します。たとえば、事務用品を注文する場合、該当する各事務用品に対して明細行を入力します。

後で購買要求の入力者を照会できるように、購買要求を入力する際に出荷先住所にユーザーの住所録番号を入力できます。購買要求を管理する購買担当の部署がある場合は、購買要求の仕入先のかわりに購買担当部門を入力できます。これにより、購買担当部門が購買要求を簡単に検索してオーダーを作成および検索できます。

購買要求を印刷する際には、購買オーダーの印刷と同じ手順に従いますが、購買要求に対してオーダー・タイプを指定する必要があります。

購買要求が承認されると、次のどちらかの方法を使用して購買要求から購買オーダーを作成します。

- 購買要求の複写
- オーダーに組み込む購買要求明細行の選択

同じ購買要求から定期オーダーを作成するには、その購買要求を複写に使用します。たとえば、事務用品の購買要求がある場合は、その購買要求を複写してオーダーを繰り返し作成できます。

購買要求を複写してオーダーを作成する場合、システムによりその購買要求が締められることはありません。購買要求はオーダーと同じ方法で複写します。

明細行を締めて再使用されないようにするには、オーダーを作成する際に個々の購買要求明細行を選択します。たとえば、1回だけ発注する事務用品の購買要求がある場合、その購買要求の明細行を選択して、繰り返し使用できないようにします。

### 購買要求明細行について

購買要求明細行の数量または金額未満の数量または金額のオーダーを作成できます。購買明細行より少ない数量や金額を指定した場合は、明細行から数量または金額がリリースされますが、残高を未決済のままにしておくかどうかはユーザーが選択します。オーダーに対して数量がリリースされた後は、購買要求明細行は締められます。

各明細行に単位原価を表示するかどうか、また原価の変更を許可するかを指定するには、「購買要求および見積オーダー管理」メニュー(G43A12)からアクセスする「要求から購買オーダー生成」プログラムの処理オプションを設定します。

また、処理オプションを設定して、購買要求についてオーダーを作成する前に許容チェックを実行するかどうかも指定できます。

購買要求のすべての明細行を選択して、購買オーダーを作成できます。また、次の処理も実行できます。

- 複数の購買要求の明細行をまとめて1つの購買オーダーを作成する。
- 1つの購買要求の明細行を選択して複数の購買オーダーを作成する。

複数の購買要求の明細行をまとめて、1つの購買オーダーを作成できます。この方法は、品目やサービスを1つの仕入先にまとめる場合に使用します。たとえば、ホッチキスの購買要求が2つあった場合、それぞれの購買要求明細行をまとめて1つの購買オーダーを作成できます。

また、購買要求の明細行を複数の購買オーダーに分けて作成することもできます。同じ購買要求の品目/サービスが異なる仕入先から提供される場合に、この処理を実行します。たとえば、ホッチキスと椅子の注文を発注する購買要求がある場合、ホッチキスと椅子で別々の購買オーダーを作成できます。

購買要求の処理中に、サービス・オーダー行にサービス・ユニットの情報を入力できます。サービス・ユニットは参照専用のため、値の検証は一切行われません。

オーダー入力プログラム (P4310) の「表示」タブにある「サービス・ユニットの表示」処理オプションで「サービス数量」と「サービス単位」フィールドを表示するよう選択されている場合、「オーダーのリリース」フォーム (W43060A) にこれらのフィールドが表示されます。

## 事前設定

オーダーの購買要求明細行を選択する前に、次の作業を行います。

- 購買オーダーを作成する購買オーダー入力プログラム (P4310) のバージョンを処理オプションで設定します。
- 許容規則プログラム (P4322) で許容規則を作成して、許容チェックが実行されるようにします。

## 購買要求の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理, 契約見出しの処理	W4310I	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買要求および見積オーダーの管理」(G43A12)、「購買要求の入力」</li> <li>「購買要求および見積オーダー管理」(G43D12)、「購買要求入力」</li> </ul>	既存の購買要求を検索するかまたは新しい購買要求を入力します。
オーダー見出し	W4310B	「オーダー見出しの処理」フォームで、「追加」を選択して購買要求を入力します。	購買要求を入力します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームで、オーダーを選択し、「コピー」をクリックします。	購買要求を複写して購買オーダーを作成します。
オーダー・リリースの処理	W43060B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買要求および見積オーダーの管理」(G43A12)、「購買要求からの購買オーダー生成」</li> <li>「購買要求および見積オーダー管理」(G43D12)、「要求から購買オーダー生成」</li> </ul>	<p>オーダーの購買要求明細行を選択します。</p> <p>オーダー・リリースの処理を行います。</p>
オーダーのリリース	W43060A	「オーダー・リリースの処理」フォームで、明細行を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	オーダー・リリースのフィールドを検討して修正します。

## 購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース(P43060)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、購買要求からの購買オーダー生成/一括オーダー・リリース(P43060)の実行中に使用されるデフォルト値を定義します。

#### 1. デフォルトのオーダー・タイプ

作成する伝票のタイプを指定します。

このコードは、トランザクションの当初伝票タイプも指定します。

伝票タイプは、ユーザーが設定するユーザー定義コード(00/DT)です。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの特定の伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプが事前定義されています。これらは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票  
R: 売掛金伝票  
T: 給与計算伝票  
I: 在庫伝票  
O: 購買才一タ一伝票  
J: 一般会計/共有利息請求伝票  
S: 受注才一タ一伝票

表示

この処理オプションでは、状況コードなどを表示するかどうか、保護、表示、または非表示にするフィールドなどを指定します。

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1. 入荷状況コード1         | <p>オーダーがグリッドに表示される、承認可能な3つの状況のうちの1つを指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を入力します。</p>   |
| 2. 入荷状況コード2         | <p>オーダーがグリッドに表示される、承認可能な3つの状況のうちの1つを指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を入力します。</p>   |
| 3. 入荷状況コード3         | <p>オーダーがグリッドに表示される、承認可能な3つの状況のうちの1つを指定します。使用するオーダー・タイプおよび行タイプに対して「オーダー処理規則」フォームで設定されているユーザー定義コード(40/AT)を入力します。</p>   |
| 4. 価格フィールドの表示       | <p>「単価」フィールドを表示、保護または非表示にするかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 「単価」フィールドを表示します。フィールドの値を編集できます。</p> <p>1: 「単価」フィールドを保護します。フィールドの値を編集できません。</p> <p>2: 「単価」フィールドを表示しません。</p> |
| 5. 勘定科目コード・フィールドの表示 | <p>「勘定科目コード」フィールドを保護するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 「勘定科目コード」フィールドを保護しない。</p> <p>1: 「勘定科目コード」フィールドを保護する。</p>  |
| 6. リリース額の表示         | <p>「リリース金額」フィールドを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 「リリース金額」フィールドを表示しない。</p> <p>1: 「リリース金額」フィールドを表示する。</p>   |

## 处理

この処理オプションでは、オーダーの許容率をチェックするかどうか、複数のオーダーや行をリリースする際の行の集計方法などを指定します。

1. 許容チェック 明細行の数量および金額が許容率または金額を超過しているかどうかを判断するために、数量および金額を確認するかどうかを指定します。許容



率を確認するには、許容率設定プログラム(P4322)にアクセスします。値は次のとおりです。

ブランク: 許容度チェックが実行されません。

1: 許容度チェックが実行され、金額が許容レベルを超えている場合、警告メッセージが表示されます。

2: 許容度チェックが実行され、金額が許容レベルを超えている場合、購買オーダーのリリースが許可されません。

## 2. 品目集計

複数のオーダーおよび行をリリースするときに、行を集計するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 品目を集計しません。

1: 仕入先、品目、勘定科目、事業所、単位、および要求日付別に行を集計します。

2: 仕入先、品目、勘定科目、事業所、単位、要求日付、および単位原価別に行を集計します。

たとえば、この処理オプションで1または2を指定した場合、仕入先、品目、事業所、単位、および要求日付が等しい、それぞれの数量が10である2行をリリースすると、新しいオーダーでは数量が20の行が1行作成されます。

## 3. 仕入先変更時の単価読み元

当初オーダーから原価を取り込むか、または「オーダーのリリース」フォームで仕入先が変更されたときの単位原価から原価を取り込むかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 当初オーダーから原価を取り込みます。

1: 基になる単位原価から原価を取り込みます。

## バージョン

この処理オプションでは、各アプリケーションのバージョンを指定します。ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

### 1. 購買オーダー入力 (P4310)

購買オーダー入力プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。

バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。

### 2. 購買元帳照会 (P43041)

購買元帳照会プログラムにアクセスするときに使用されるバージョンを入力します。

バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。

### 3. 発注残照会 (P4310)

発注残照会プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。

バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。

### 4. 仕入先マスター照会 (P04012)

仕入先マスター照会プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。

バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。

---

## 一括オーダーの処理

この項では、一括オーダーの概要と、一括オーダーの処理に使用するフォームについて説明します。

### 一括オーダーについて

仕入先から一定期間にわたって一定の数量または金額の商品を購入する契約がある場合、一括オーダーを入力できます。一括オーダーを入力する際には、まず発注する品目またはサービスの全体の数量または金額を指定する必要があります。たとえば、12か月間、毎月100個の外注品を調達する契約の場合、1200個の外注品に対して一括オーダーを入力します。

一括オーダーは購買オーダーと同じ方法で入力および印刷します。一括オーダー全体の数量または金額に対して、入力する明細行は必ず1つです。印刷時にはそのオーダー・タイプを指定してください。

一括オーダーにある商品やサービスの一部を入荷する用意が整ったら、その都度購買オーダーを作成する数量や金額をリリースする必要があります。たとえば、1200個の外注品に対する一括オーダーがあり、そのうち100個を入荷する場合、該当する一括オーダー明細行から100個をリリースします。

それぞれの一括オーダーに対して、オーダーの当初数量、リリース数量累計または金額、リリース残の数量または金額などを検討できます。

---

**注意:** P4310プログラムによってリリースされた一括オーダーは、「オーダー見出し」フォームや「オーダー明細」フォームの「追加プロパティ」タブや「カテゴリ・コード」タブのユーザー定義フィールドの値を継承しません。

---

### 関連項目:

付録 C、「JD Edwards EnterpriseOne 調達管理レポート」、「R43640 - 要求日付別発注残」、370ページ

付録 C、「JD Edwards EnterpriseOne 調達管理レポート」、「要求日付別発注残 (R43640) の処理オプション」、370ページ

第 10 章、「購買オーダーの入力」、「オーダー見出し情報の入力」、117ページ

## 一括オーダーの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理, 契約見出しの処理	W4310I	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買要求および見積オーダーの管理」(G43A12)、「購買要求の入力」</li> <li>「購買要求および見積オーダー管理」(G43D12)、「購買要求入力」</li> </ul>	既存の購買要求を検索するかまたは新しい購買要求を入力します。
オーダー明細	W4310A	「購買オーダー処理」(G43A11)、「一括オーダー」  「オーダー見出しの処理」フォームで、「追加」を選択して一括オーダーを入力します。	一括オーダーを入力します。
オーダー・リリースの処理	W43060B	「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「一括オーダーからの購買オーダー生成」	オーダー・リリースの処理を行います。
オーダーのリリース	W43060A	「オーダー・リリースの処理」フォームで、明細行を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	オーダー・リリースのフィールドを検討して修正します。

## 見積オーダーの処理

この項では、見積オーダーの概要と次の方法について説明します。

- 見積要求の印刷
- RFQレポート(R43530)の処理オプションの設定
- 見積回答の入力(P4334)の処理オプションの設定

## 見積オーダーについて

品目やサービスを購入する前に、各仕入先から見積価格を収集して比較する場合があります。次のような目的で見積オーダーを処理します。

- 品目やサービスに対する見積価格の入手
- 最適価格での品目またはサービスを提供する仕入先の識別
- 購買オーダーの作成

## 品目の入力

見積オーダーで見積価格を取得する品目を入力します。購買オーダーと同様、各品目に対して明細行を入力してください。

価格見積を要求する数量は、1つでも複数でもかまいません。数量に応じて数量別価格が存在する品目に対しては、その数量を入力できます。見積が複数の行で構成されている場合、オーダー全体または個別行の品目に対して見積回答を要求できます。

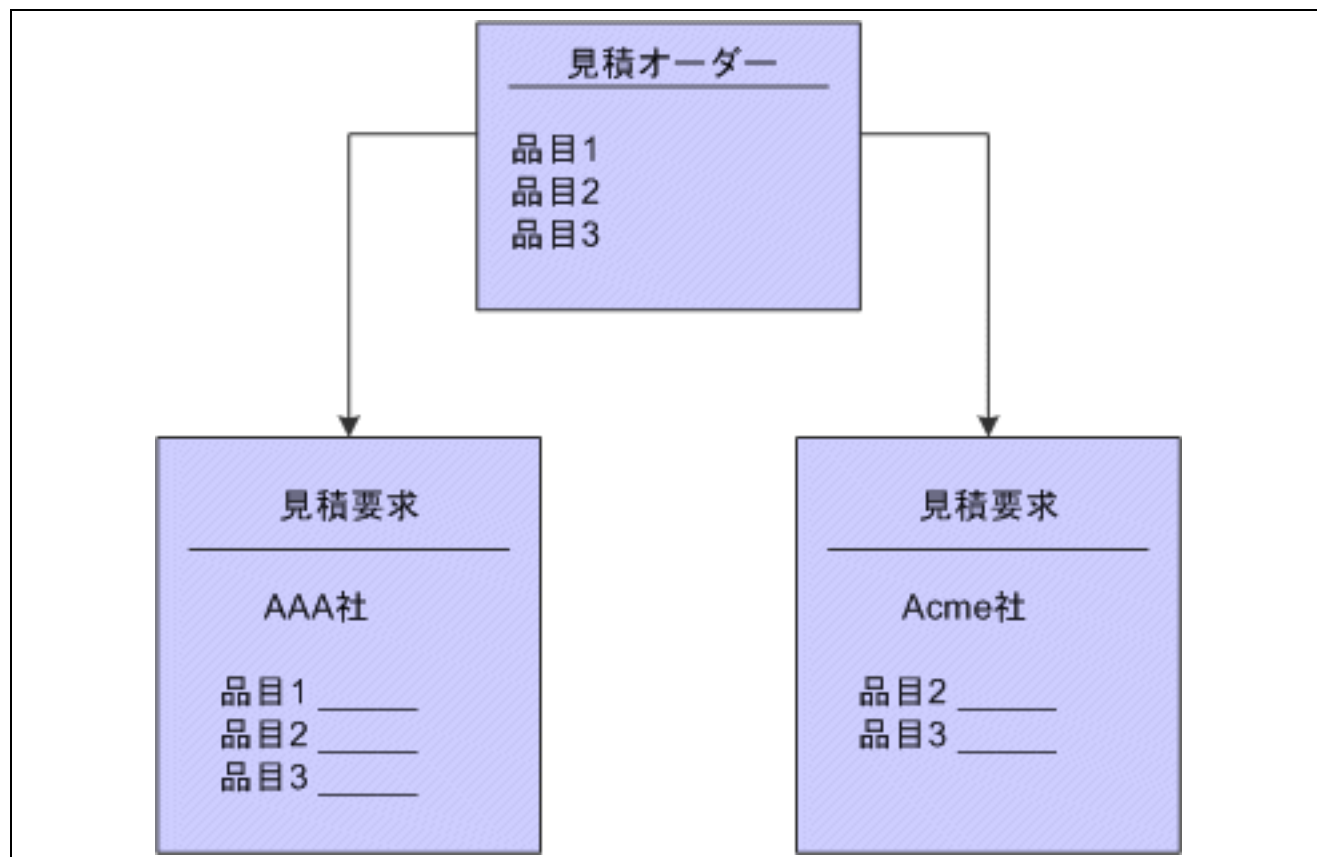
また、購買要求の品目およびサービスに対して承認を得てから、見積価格を入手することがあります。この場合、購買要求の明細行を使用して見積オーダーを作成できます。この手順は、購買要求から購買オーダーを作成する場合と同じです。「オーダー明細」フォームで当初オーダー機能を使用して、次の情報を検討できます。

- 明細行の作成元であるすべての購買要求のリスト
- 購買要求の担当者
- 要求数量

見積オーダー明細行の作成に必要な購買要求の情報は、F4332テーブルで管理されます。

## 仕入先入力

見積オーダーの品目を入力した後、価格見積を依頼する仕入先を入力してください。見積オーダーの全品目に見積を依頼する仕入先を入力できるだけでなく、個別の品目に対して見積を依頼する仕入先も入力できます。次の図は、見積を依頼する仕入先の選択プロセスを示しています。



見積を依頼する仕入先の選択

## 購買要求からの見積オーダー作成

品目やサービスの購買承認を得た後、仕入先に対して見積を依頼することがあります。この場合、購買要求の明細行を使用して見積オーダーを作成できます。この手順は、購買要求から購買オーダーを作成する場合と同じです。

見積オーダーの明細行が複数購買要求から作成された場合、次の情報を検討できます。

- 明細行の作成元であるすべての購買要求のリスト
- 品目購買要求を出す担当者
- 要求数量

この情報を検討するには、「オーダー明細」で明細行を選択し、「ロー」メニューから「当初オーダー」を選択します。

見積オーダーの明細行を作成するために連結された購買要求情報は、F4332テーブルに保管されます。

## 見積要求の印刷

価格見積要求を出している各仕入先に対して、価格見積書を作成して、価格見積情報を記録できます。各見積書は、特定の価格見積に対応します。見積書には、仕入先名称と住所に加えて、見積オーダーを依頼した品目がリストされます。

この見積書は、仕入先で記入してもらうことも、ユーザーが情報を収集して記入することもできます。各品目の見積価格および各価格の有効期限を記録できます。その後、この見積書を使用してシステムに価格見積情報を入力できます。

見積要求の印刷を実行して、要求フォームを印刷する見積オーダーを選択します。システムに価格見積情報を入力した後、見積書を印刷して仕入先が提示した既存の見積価格を検討できます。

## 仕入先からの見積価格の入力

仕入先が品目やサービスの見積価格を提示した後、その見積価格をシステムに入力する必要があります。すべての仕入先からの見積価格を入力した後、見積価格を比較して、最適の価格を提示した仕入先を特定できます。

仕入先が提示した見積価格は、特定の見積オーダーに基づいて入力します。1つの品目に対して異なる数量ごとに価格見積を依頼した場合は、各数量に対応した見積価格を入力できます。

仕入先からの見積価格情報は、F4330テーブルで管理されます。

## 見積オーダーの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買要求および見積オーダーの管理」(G43A12)、「見積オーダーの入力」</li> <li>「購買要求および見積オーダー管理」(G43D12)、「見積オーダー入力」</li> </ul>	オーダー情報の処理を行います。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームで、見積オーダーを選択し、「選択」ボタンをクリックします。	<p>オーダー明細情報を入力します。</p> <p>単一数量の価格見積を要求します。</p> <p>複数数量の価格見積を要求します。</p> <p>購買要求から見積オーダーを作成します。</p> <p>見積を依頼する仕入先を入力します。</p> <p>仕入先からの見積価格を入力します。</p>
見積数量別価格	W4331A	「オーダー明細」フォームで明細行を選択し、「ロー」メニューから「見積数量別価格」を選択します。	数量別価格が存在する品目を指定します。
見積仕入先の入力	W4330A	<p>「オーダー明細」フォームで、「フォーム」メニューから「見積仕入先」を選択します。</p> <p>「オーダー明細」フォームで明細行を選択し、「ロー」メニューから「見積仕入先」を選択します。</p>	価格見積を取得する仕入先を指定します。
仕入先の処理	W4334B	「購買要求および見積オーダーの管理」(G43A12)、「見積回答の入力」	仕入先情報の処理を行います。
見積回答の入力	W4334A	「仕入先の処理」フォームで、オーダー番号および仕入先を含む明細行を選択し、「選択」ボタンをクリックします。	見積価格情報を入力します。

## 見積要求の印刷

「購買要求および見積オーダーの管理」(G43A12)の「見積オーダーの印刷」を選択します。

または、「購買要求および見積オーダー管理」(G43D12)の「見積オーダーの印刷」を選択します。

## RFQレポート(R43530)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### レポート表示

- |              |   |
|--------------|---|
| 1. 関連テキストの印刷 | <p>関連テキストを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: オーダー関連テキストをレポートに印刷しない。</p> <p>1: レポートにオーダー関連テキストを印刷する。</p> |
| 2. コメント行の印刷  | <p>レポートにコメント行を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: コメント行を印刷しない。</p> <p>1: コメント行を印刷する。</p>                 |

### 品目番号

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| 1. 自社の品目番号と仕入先の品目番号の両方を印刷する | <p>自社の品目番号と仕入先の品目番号を印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 自社の品目番号のみを印刷する。</p> <p>1: 自社の品目番号と仕入先の品目番号の両方を印刷する。</p> |
| 2. 以前に印刷されていない見積のみを印刷する     | <p>以前に印刷されていない見積のみを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: すべての見積を印刷する。</p> <p>1: 以前に印刷されていない見積のみを印刷する。</p>         |

## 見積回答の入力(P4334)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト値

#### オーダー・タイプ

作成する伝票のタイプを指定します。

このコードは、トランザクションの当初伝票タイプも指定します。

伝票タイプは、ユーザーが設定するユーザー定義コード(00/DT)です。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの特定の伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプが事前定義されています。これらは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー伝票

## セルフサービス

### 仕入先セルフサービス

Java/HTML環境で使用するサプライヤ・セルフサービスを有効にするかどうかを指定します。仕入先は、この機能を使用して見積オーダーに対する価格をオンラインで入力できます。値は次のとおりです。

ブランク: サプライヤ・セルフサービスを有効にしません。

1: サプライヤ・セルフサービスを有効にします。

---

## 価格見積からのオーダー作成

この項では、価格見積からのオーダー作成の概要と次の方法について説明します。

- 見積オーダーのリリース(P43360)の処理オプションの設定
- 価格見積からのオーダーの作成

### 価格見積からのオーダー作成について

品目またはサービスの仕入先価格見積を入力した後に価格見積を比較し、最適価格を提供する仕入先を識別してから、オーダーの作成に使用する価格見積を選択できます。

オーダーの作成に使用する価格見積を選択した後、次の処理を実行できます。

- 同じ明細行から繰り返し購買オーダーが作成されないように、明細行を締める(完全にリリースされている場合)。
- 明細行を未決済のままにし、同じ明細行から定期オーダーを作成する。

このうちのどちらを使用するかは、処理オプションで指定します。締めた明細行は「見積オーダーのリリース」フォームには表示されません。

ある品目の見積オーダー明細行を検索することにより、特定品目の見積価格を比較できます。明細行の品目記述や、見積を依頼したすべての仕入先を検討できます。

オーダーの作成処理中に、サービス・オーダー行にサービス・ユニットの情報を入力できます。サービス・ユニットは参照専用のため、値の検証は一切行われません。

オーダー入力プログラム(P4310)の「表示」タブにある「サービス・ユニットの表示」処理オプションで「サービス数量」と「サービス単位」フィールドを表示するよう選択されている場合、「見積オーダーのリリース」フォーム(W43360H)にこれらのフィールドが表示されます。



## 価格見積からのオーダー作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
見積オーダーのリリース	W43360H	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買要求および見積オーダーの管理」(G43A12)、「見積回答からの購買オーダー生成」</li> <li>「購買要求および見積オーダー管理」(G43D12)、「見積回答から購買オーダー生成」</li> </ul>	価格見積からオーダーを作成します。
見積数量別価格	W4331A	「見積オーダーのリリース」フォームで行を選択し、「ロー」メニューから「数量別価格」を選択します。	品目の数量別価格を検討します。

## 見積オーダーのリリース(P43360)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、見積オーダーのリリース・プログラム(P43360)で使用されるデフォルト情報を指定します。

### オーダー・タイプ

作成する伝票のタイプを指定します。

このコードは、トランザクションの当初伝票タイプも指定します。

伝票タイプは、ユーザーが設定するユーザー定義コード(00/DT)です。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの特定の伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプが事前定義されています。これらは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー伝票

### 表示

この処理オプションでは、表示する情報のタイプを指定します。

1. 使用可能次状況コード1    使用可能な“次の状況”を指定します。  
から 3. 使用可能次状況  
コード3

## 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を指定します。

1 = 見積オーダーの発注残数量からリリース数量を差し引く。blank = 見積に対する発注残数量は変更されず、引き続きすべての見積数量/金額がリリースできる

見積オーダーの発注残数量を、リリースされた金額分減らすかどうかを指定します。値は次のとおりです。

blank: 発注残数量を減らしません。

1: 発注残数量を減らします。

## バージョン

この処理オプションでは、見積オーダーのリリース・プログラム (P43360) と関連して使用される各種プログラムのバージョンを入力できます。

- |                             |  |
|-----------------------------|--|
| <b>1. 購買オーダー入力 (P4310)</b>  | 購買オーダー入力プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。<br><br>バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。  |
| <b>2. 購買履歴照会 (P43041)</b>   | 購買元帳照会プログラムにアクセスするときに使用されるバージョンを入力します。<br><br>バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。             |
| <b>3. 発注残照会 (P430301)</b>   | 発注残照会プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。<br><br>バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。     |
| <b>4. 仕入先マスター照会 (P0401)</b> | 仕入先マスター照会プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。<br><br>バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。 |
| <b>5. 仕入先分析 (P43230)</b>    | 仕入先分析プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。<br><br>バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。     |

## 価格見積からのオーダー作成

「見積オーダーのリリース」フォームにアクセスします。

見積回答からの購買オーダー生成 - 見積オーダーのリリース

OK(O) 検索(I) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

事業所 \* 通貨コード USD

オーダーNo. \* OQ \*

品目No. \*

勘定科目 \*

仕入先No. \*

購買担当者 \*

レコード 1 - 15

	リリース数量	回答価格	通貨コード	単位	仕入先価格	リリース金額	サービス数量	サービス単位	仕入先番号	名称
<input type="radio"/>		5.5000	USD	EA	5.5000				4303	SRM
<input type="radio"/>		10.5000	USD	EA	10.0000				4520	SRM
<input type="radio"/>	250.0000	27.6684							4399	SRM
<input type="radio"/>		25.0000	USD	EA	25.0000				4399	SRM
<input type="radio"/>	250.0000	10.0000							4399	SRM
<input type="radio"/>		0.0000	USD	EA	0.0000				4399	SRM
<input type="radio"/>	100.0000	5.0000							1281	Multi
<input type="radio"/>		2.0000	USD	EA	2.0000				1281	Multi
<input type="radio"/>		1.5000	USD	EA	1.5000				4399	SRM
<input checked="" type="radio"/>	10.0000	18.7800							1281	Multi

「見積オーダーのリリース」フォーム

- 仕入先No.** 見積オーダーに割り当てられた購買担当部門を入力します。このフィールドには、価格見積を出した仕入先を入力しないでください。
- リリース数量** 仕入先が複数の品目数量に対して見積価格を提示した場合、オーダーに使用する価格を示すリリース数量を入力します。これで、選択した価格見積に対してオーダーを作成する準備が完了しました。フォームを閉じようとするすると警告が表示されます。
- 回答価格** 仕入先が複数の品目数量に対して見積価格を提示した場合、見積価格が表示されます。要求した日付までに価格見積が回答されなかった場合、その価格見積は使用できません。期日を過ぎた見積回答はリリース行が表示されません。この明細行を使用するには、見積仕入先の入力プログラム (P4330) で回答日付を変更する必要があります。

# オーダー改訂の処理

この項では、オーダー改訂の概要と次の方法について説明します。

- オーダー改訂の作成
- 購買オーダー/変更オーダー集計 (P4319) の処理オプションの設定
- オーダー改訂情報の検討
- オーダー改訂情報の印刷
- オーダー改訂履歴レポート (R43535) の処理オプションの設定

## オーダー改訂について

オーダーに対する変更をトラッキングして、発生した変更についての情報を検討できます。たとえば、塗料5ガロンのオーダーを入力した後で10ガロンに変更した場合、変更情報を確認して新規オーダーを作成できます。

オーダー改訂を処理する際に、次のような情報を検討できます。

- オーダーを改訂した回数
- オーダー明細行を改訂した回数
- 各明細行の変更に対応するオーダーの改訂
- 品目番号や原価など、改訂された明細行の情報
- 改訂の理由
- 改訂を行った担当者
- 改訂が有効になる日付

オーダーを入力または修正するたびに、オーダー改訂を自動的に作成できます。たとえば、青色の塗料5ガロンを入力すると、オーダー改訂000が作成されます。このオーダーを7ガロンに修正すると、オーダー改訂001が作成されます。オーダー改訂000を検索すると、元のオーダーの情報を検討できます。オーダー改訂001を検索すると、修正したフィールドを含めて現在のオーダーの情報を確認できます。

オーダーを検討する際には、最後に作成されたオーダー改訂が表示されます。また、各明細行に対する改訂回数も表示されます。

オーダー改訂値は、オーダーが変更された回数を示します。各明細行のオーダー改訂値は、前回明細行を変更したときに適用したオーダー改訂番号を示します。

処理オプションで改訂のトラッキングを使用できるように設定します。次の設定を指定できます。

- 既存オーダーのみを変更できるようにする
- 新規オーダーの追加と既存オーダーへの変更を可能にする
- オーダー改訂処理を実行しない

改訂トラッキングを開始する状況を指定できます。また、オーダー改訂を作成するたびに、注記を入力できます。

明細行を改訂した場合にのみ、オーダー改訂が作成されます。見出し情報を改訂しただけではオーダー改訂は作成されません。

オーダー改訂情報は、次のテーブルで管理されます。

テーブル名	説明
F4301	オーダーが改訂された回数が管理されます。
F4311	各行の改訂回数を含む、オーダー明細行の現行情報が管理されます。
F43199	当初オーダー情報、および各オーダー改訂に関する情報が保管されます。改訂のトラッキングは、オーダー処理規則の「履歴(Y/N)」を有効にしなくても実行できます。オーダー改訂レコードの元帳タイプは、CO(変更オーダー)です。

## オーダー改訂処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
オーダー見出しの処理	W4310I	「購買オーダー処理」(G43A11)、「購買オーダーの入力」	オーダー改訂を作成します。 オーダー見出しを処理します。
オーダー明細	W4310A	「オーダー見出しの処理」フォームでオーダーを選択し、「ロー」メニューから「明細の改訂」を選択します。	オーダー明細を検討して改訂します。
オーダー改訂の処理	W4319A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「購買照会」(G43A112)、「オーダー改訂照会」</li> <li>「外注照会」(G43D112)、「オーダー改訂照会」</li> </ul>	オーダー改訂情報を検討します。 オーダー改訂集計の処理を行います。
オーダー改訂明細	W4320A	「オーダー改訂の処理」フォームで、オーダー改訂を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	オーダー改訂明細を検討します。
オーダー改訂履歴	W43205A	「オーダー改訂明細」フォームで、明細行を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	特定の明細行に適用されるすべての改訂を検討します。

## オーダー改訂の作成

「オーダー見出しの処理」フォームにアクセスします。

## 購買オーダー/変更オーダー集計(P4319)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、購買オーダー/変更オーダー集計プログラム(P4319)で使用されるデフォルト情報を入力できます。

### オーダー・タイプ

作成する伝票のタイプを指定します。

このコードは、トランザクションの当初伝票タイプも指定します。

伝票タイプは、ユーザーが設定するユーザー定義コード(00/DT)です。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの特定の伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプが事前定義されています。これらは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

- I: 在庫伝票
- O: 購買オーダー伝票
- J: 一般会計/共有利息請求伝票
- S: 受注オーダー伝票

バージョン

この処理オプションでは、購買オーダー/変更オーダー集計プログラム(P4319)と関連して使用される各種プログラムのバージョンを指定します。

- 購買オーダー入力(P4310)

購買オーダー入力プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。  
バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。
- 変更オーダー印刷(R43535)

変更オーダーの印刷プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。  
バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。
- 購買オーダー印刷(R43500)

購買オーダー印刷プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを入力します。  
バージョンを指定する場合、処理オプションを確認し、プログラムが要求を満たしていることを確認してください。

オーダー改訂情報の検討

「オーダー改訂の処理」フォームにアクセスします。

オーダー改訂照会 - オーダー改訂の処理

選択(S) 検索(I) 閉じる(L) 改訂の添付(A) ロー(R) レポート(P) ツール(T)

オーダーNo. \*  OP

事業所

仕入先

☒ 最終改訂レコード ☐ すべての改訂

レコード 1-3

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	オーダーNo.	オーダータイプ	オーダー会社	ユーザー	更新日付	仕入先	事業所	オーダー改訂	記述
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	500	OP	00200	ZHS6	2008/11/24	4242	M30	0	Original Order
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	501	OP	00200	ZHS6	2008/11/24	4242	M30	0	Original Order
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	4886	OP	00050	JB5939156	2008/06/26	55095	5252	0	Original Order

「オーダー改訂の処理」フォーム

## オーダー改訂情報の印刷

「購買レポート」(G43A111)の「オーダー改訂履歴の印刷」を選択します。

または、「外注契約レポート」(G43D111)の「オーダー改訂履歴の印刷」を選択します。

オーダー改訂履歴レポートを印刷して、オーダー改訂に関する情報を検討できます。このレポートには、次の情報が表示されます。

- 各明細行に対する改訂回数
- 前回の明細行改訂
- すべての明細行の改訂履歴

## オーダー改訂履歴レポート(R43535)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

この処理オプションでは、オーダー改訂履歴レポート(R43535)での情報の表示方法を指定します。

- 1. 改訂番号の指定**  
表示する改訂番号を指定します。値は次のとおりです。  
空白: すべての改訂番号が表示されます。  
\*: 最新の改訂番号のみ表示されます。
- 2. 印刷行の指定**  
印刷する行を指定します。値は次のとおりです。  
空白: 変更された行のみ印刷されます。  
1: 改訂を構成するすべての行が印刷されます。
- 3. 行履歴の印刷**  
印刷される各明細行のすべての履歴レコードを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: すべての履歴レコードが印刷されません。  
1: 印刷される各明細行のすべての履歴レコードが印刷されます。

---

## 購買オーダーの生成

この項では、購買オーダー生成の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 購買オーダーの生成(P43011)の処理オプションの設定
- 購買オーダーの生成

## 購買オーダーの生成について

在庫品目および非在庫品目に対して購買オーダーを自動生成できます。発注する必要がある品目および数量の自動提示もできます。オーダーの提示は、現行の需要(受注バックオーダー)または需要履歴(販売実績)を基に行われます。提示を検討して、その品目および数量に対して購買オーダーを生成するかどうかを確定できます。また、オーダーを生成する前に提示を変更することもできます。

特定のデータ組合せが存在する場合、購買オーダーは生成できません。無効なデータの組合せには次のようなものがあります。

- 仕入先と非在庫品目
- 購買担当者と非在庫品目
- 第2購買コードのみを使用する品目
- 仕入先と購買担当者

データ組合せが無効な場合、エラー・メッセージが表示されます。

また、購買オーダーの生成プログラム (P43011) にはゼロ発注点計算機能があります。この機能を使用して、在庫レベルがゼロになったときの品目の発注点を計算します。たとえば、在庫がなくなったときに品目を再発注します。

ゼロ発注点計算機能を使用するには、事業所品目プログラム (P41026) を使用して追加システム情報の適切なオプションを選択し、「発注方針コード」および「発注方針値」フィールドに値を入力します。「発注方針コード」フィールドに「0」を入力すると、「発注方針値」フィールドの値によって購買オーダーの生成プログラムの処理方法が決まります。「発注方針値」フィールドの値に応じて、次のように計算が行われます。

- 0: 通常どおりに購買オーダーが生成される。
- 1: 「発注点入力」フィールドの値が0に一時変更される。
- 2: 購買オーダー生成プログラムを利用している場合は、詳細グリッドのローが無効になる。

## オーダー数量の算出

提示オーダー数量 (SOQ) の計算は、「発注方針コード」フィールドに基づいて行われます。「発注方針コード」フィールドの値に応じて、次のように計算が行われます。

- ブランク、0または3の場合、次のように計算されます。

$$\text{SOQ} = \text{経済的発注量} + \text{発注点} - \text{引当可能数量}$$

- 1の場合、次のように計算されます。

$$\text{SOQ} = \text{発注点} - \text{引当可能数量}$$

- 2の場合、事業所品目情報プログラムの「追加システム情報」フォームにある「製造データ」タブの「発注方針値」フィールドの値が使用されます。

提示オーダー数量 (SOQ) が次の値である場合、次のように処理されます。

- 事業所品目情報プログラムの「数量」フォームの「最大発注数量」フィールドより大きい場合、「最大発注数量」の値が使用されます。
- 事業所品目情報プログラムの「数量」フォームの「最小再発注数量」フィールドより小さい場合、「最小発注数量」の値が使用されます。

---

**注意:** その他のいくつかのバッチ・プログラムを実行して、提示発注点を算出できます。システム・リソースを節約できる受注オーダー/購買オーダーの生成プログラム (R437001) および在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム (R437002) を実行することをお勧めします。

発注提示在庫品目プログラム (P4371) では、システムによって算出された提案が表示され、必要に応じて、一括オーダーを適用できます。

---

## 事前設定

購買オーダーを生成する前に、次の処理を行います。



- ・ 事業所固定情報プログラム (P41001) で、「年間日数」、「購買オーダー発注費用」、および「在庫維持費 (%)」の各フィールドが設定されていることを確認してください。
- ・ 仕入先/品目関係プログラム (P43090) で、品目と仕入先の各組合せに対して「平均リードタイム」フィールドが設定されていることを確認してください。
- ・ 事業所品目プログラム (P41026) で、仕入先が設定されていることを確認してください。
- ・ 原価改訂プログラム (P4105) で、「原価計算方法」フィールドにおいて平均原価が設定されていることを確認してください。
- ・ 事業所品目プログラム (P41026) で、数量情報が設定されていることを確認してください。
- ・ 品目マスター・プログラム (P4101) で、発注方針コードが設定されていることを確認してください。

## 購買オーダーの生成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
在庫品目発注点の処理	W43011A	「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「購買オーダーの生成」 表示する品目を選択します。	購買オーダーを生成します。 仕入先別に既存のオーダーを表示します。
購買品目の選択	W43011C	「在庫品目発注点の処理」フォームで、購買オーダーを生成する品目を選択し、「ロー」メニューから「明細」を選択します。	購買オーダーを生成します。 オーダー情報を検討して修正します。
生成済み購買オーダー	W43032C	「在庫品目発注点の処理」フォームで、「フォーム」メニューから「オーダーの生成」を選択します。	購買オーダーを生成します。 購買オーダーの行を検討します。

## 購買オーダーの生成 (P43011) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示オプション

この処理オプションでは、特定のタイプの情報 (カテゴリ・コード、在庫タイプ、原価など) を表示するかどうか、および原価情報を変更できるかどうかを指定します。

- 1. カテゴリ・コード1**

情報確認の対象となる商品クラスを示すUDC (41/P1) の値を入力します。アスタリスクはすべてのコードを指定します。カテゴリ・コード情報はF4102テーブルから取得されます。

このコードは、商品タイプや計画ファミリなどの品目の特性タイプや分類を表します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。

このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。
- 2. カテゴリ・コード2**

情報確認の対象となる商品クラスを示すUDC (41/P1) の値を入力します。アスタリスクはすべてのコードを指定します。カテゴリ・コード情報はF4102テーブルから取得されます。

このコードは、商品タイプや計画ファミリなどの品目の特性タイプや分類を表します。このコードを使用して類似品のソートと処理が行われます。

このフィールドは主に購買に使用する6つの分類カテゴリの1つです。

### 3. 原価の保護

原価を変更できるかどうかを指定します。F4105テーブルまたはF41061テーブル(仕入先/品目関係进行处理している場合)から原価情報が取得されます。また、F4101テーブルの「購買価格レベル」フィールドの値をチェックすることによって、原価情報の取得元となるテーブルが決定されます。「購買価格レベル」フィールドの値が1または2の場合、F40161テーブルから原価情報が取得され、続いてF4105テーブルから原価情報が取得されます。「購買価格レベル」フィールドの値が3の場合は、F4105テーブルからのみ原価情報が取得されます。

値は次のとおりです。

ブランク: 原価フィールドを表示し、変更を許可します。

1: 原価フィールドを表示し、値の変更を禁止します。

2: 原価フィールドを表示しません。

### 4. 在庫タイプ

表示する在庫タイプを指定します。在庫タイプに関する情報がF4102テーブルから取得されます。

このUDC(41/I)は、品目の保管方法(たとえば、完成品として、または原料として保管)を示します。次の在庫タイプはハードコード化されているため、変更しないでください。

0: 擬似品目

B: バルク在庫品

C: コンフィギュレーション品目

E: 緊急/改良保全

F: フィーチャ品目

K: キット/親品目

N: 非在庫品目

「記述2」の最初の文字は、品目が購買品(P)または製造品(M)のどちらかを示します。

## 処理

この処理オプションでは、単位、在庫/非在庫品目の行タイプ、一括オーダー・タイプ、要求日付の算出方法などを指定します。

### 1. 取引単位

「トランザクション単位」フィールドのデフォルトとして使用される単位を指定します。この単位は、購買数量と関連付けられます。値は次のとおりです。

ブランク: 購買単位を使用します。

1: F4101テーブルの基本単位を使用します。

基本単位と購買単位の値を確認するには、「品目マスターの改訂」フォームの「重量/単位」タブを選択します。

### 2. 在庫行タイプ

行の処理方法を指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne

作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理)に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。次に値の例(「行タイプ固定情報の改訂」フォームで定義されている値)をいくつか示します。

S: 在庫品目

J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

この処理オプションの行タイプを指定すると、このバージョンを使用して処理する全品目に対して作成される購買オーダーにその行タイプが使用されます。

「処理」タブで、この処理オプションと次の処理オプション(「非在庫行タイプ」)の両方の行タイプを指定しないでください。在庫品目と非在庫品目の行タイプを指定しなかった場合は、この処理オプション(在庫)に対して指定した行タイプだけが使用されます。

### 3. 非在庫行タイプ

行の処理方法を指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理)に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。次に値の例(「行タイプ固定情報の改訂」フォームで定義されている値)をいくつか示します。

S: 在庫品目

J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

この処理オプションの行タイプを指定すると、このバージョンを使用して処理する全品目に対して作成される購買オーダーにその行タイプが使用されます。

「処理」タブで、この処理オプションと前の処理オプション(「在庫行タイプ」)の両方に対して行タイプを指定しないでください。在庫品目と非在庫品目の両方の行タイプを指定しなかった場合は、在庫品目用に指定した行タイプのみ使用されます。

- 4. リリース用の一括オーダー・タイプ** 一括購買オーダー処理に関連付けるオーダー・タイプを指定します。この処理オプションをブランクにすると、自動一括オーダー・リリース処理は実行されません。
- 5. 要求日付** 要求日付の計算方法を指定します。値は次のとおりです。
- ブランク: リードタイムがオーダー日付に加算されません。要求日付がブランクの場合は、今日の日付が使用されます。
- 1: オーダー日付にリードタイムを加算して、要求日付が計算されます。
- リードタイム情報をJD Edwards EnterpriseOne在庫管理システムのF43090テーブルから取り込みます。

## 相互参照

この処理オプションでは、代替品目および旧品目に対する相互参照の処理方法を指定します。

- 1. 代替品目** 代替品目を取得するために使用されるデフォルトの相互参照コードを指定します。入力した値は、代替品目の検索/選択フォームのデフォルトとして使用されます。入力するコードは、相互参照コードに対するUDCテーブル(41/DT)の値である必要があります。
- 代替品目を取得するために、品目の相互参照コードをF4104テーブルから取り込みます。
- 複数の代替品目が存在する場合は、詳細グリッドにあるロー見出しと「代替品目あり」カラムにチェック・マークが表示されます。
- 2. 旧品目** 旧品目の置換品目を取得するために使用される相互参照コードを指定します。入力した値は、「代替品目の検索/選択」フォームのデフォルトとして使用されます。
- 置換処理は、次の条件を満たした場合にのみアクティブになります。
- F4101テーブルでは、置換される品目の在庫タイプはO(旧)である
  - この処理オプションの相互参照コードは指定済である

## 受注選択

この処理オプションでは、発注残の情報の表示および処理方法を指定します。

- 1. 最大状況** 発注残の確認時に受注残行が超えてはいけない状況を指定します。
- この処理オプションの状況を指定した場合は、発注残のロー・エグジットを使用すると、入力した状況以下の状況を持ったオーダーだけが表示されます。
- 2. デフォルトの行タイプ** 行の処理方法を指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理)に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。次に値の例(「行タイプ固定情報の改訂」フォームで定義されている値)をいくつか示します。
- S: 在庫品目
- J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

この処理オプションを入力した場合は、発注残のロー・エグジットを使用すると、入力した行タイプに等しい行タイプを持ったオーダーだけが表示されます。

### 3. バックオーダー

バックオーダーを表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: バックオーダーを表示しません。

1: バックオーダーを表示します。発注残のロー・エグジットの項目を使用すると、バックオーダーが表示されます。

### 実行バージョン

この処理オプションでは、各アプリケーションのバージョンを指定します。ブランクにした場合、バージョンZJDE0001が使用されます。

#### 1. 購買オーダー(P4310)バージョン

購買オーダー・プログラム(P4310)にアクセスする際に使用するバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

#### 2. 一括オーダー・リリース(P43060)バージョン

一括オーダー・リリース・プログラム(P43060)にアクセスする際に使用するバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

#### 3. 受注残(P4210)バージョン

受注残プログラム(P4210)にアクセスするときに使用するバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

#### 4. 仕入先分析(P43230)バージョン

仕入先分析プログラム(P43230)にアクセスするときに使用するバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

#### 5. 仕入先マスター(P0401I)バージョン

仕入先マスター・プログラム(P0401I)にアクセスするときに使用するバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

## 購買オーダーの生成

「在庫品目発注点の処理」フォームにアクセスします。

## 提示オーダー数量

購買オーダーの生成プログラム、購買担当者照会プログラム、および購買担当者ガイド・レポートによって、次の変数を使用して計算された値が表示されます。

AVAL: 引当可能在庫数量。手持数量から引当済数量を引き、購買オーダー数量を足した数量です。入荷工程中数量を含みます。

ROP: 発注点。在庫基本保管場所の事業所在庫レコードのROPから取得されるか(このROPがblankでない場合)、または計算されます(詳細は、ROPCの定義を参照)。発注点は次の方法によって計算されます。

$$ROP = ((\text{年間売上} \times \text{リードタイム日数}) \div \text{年間日数}) + \text{安全在庫}$$

「数量」フォームで安全在庫が設定されていない場合、次の計算式が使用されます。

$$ROP = ((\text{年間売上} \times \text{リードタイム日数}) \div \text{年間日数}) + (\text{年間売上} \times \text{リードタイム日数}) \text{の平方根} \div \text{年間日数}$$

EOQ: 経済的発注量(または発注数量(ROQ))。在庫基本保管場所の事業所在庫レコードのROQから取得されるか(このROQがblankでない場合)、または計算されます(詳細は、EOQの定義を参照)。経済的発注量は次の方法によって計算されます。

$$EOQ = ((2 \times \text{購買オーダー発注費用} \times \text{年間売上}) \text{の平方根} \div \text{在庫維持費} \times \text{平均原価})$$

計算は、次のとおりです。

1 AVAL > ROPの場合、SOQ = 0

2 AVAL = ROPの場合、SOQ = EOQ

3 AVAL < ROPの場合、SOQ = EOQ + (ROP - AVAL)

---

## 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成の処理

この項では、在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム(R437002)および発注提示在庫品目プログラム(P4371)の概要と次の方法について説明します。

- 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成の実行
- 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成(R437002)の処理オプションの設定
- 発注提示在庫品目(P4371)の処理オプションの設定
- 再発注品目の提示の処理

## 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム(R437002)について

在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム(R437002)は、バッチ処理を使用して購買オーダーを生成します。このプログラムを使用して、システムが提示する発注品目リストを作成することもできます。このレポートを実行するにあたっては3つのオプションがあります。

- 最終モード

購買オーダーが自動的に生成されます。

- テスト・モード

システムが再発注を推奨する品目のリストを含むレポートが生成されます。F4371テーブルの情報のみが保存されます。

発注提示在庫品目プログラム(P4371)を使用して、システムによる提示を検討し、オンラインで購買オーダーを生成して品目を再発注できます。

## 発注提示在庫品目プログラム(P4371)について

在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム(R437002)を実行したら、発注提示在庫品目プログラム(P4371)を実行して次の処理を実行できます。

- システムが提示する再発注品目をオンラインで検討する。
- 再発注する品目の購買オーダーを自動または対話形式で生成する。
- 複数の一括オーダーから数量をリリースする(一括オーダーがある場合)。
- 再発注する品目を選択する。
- オーダー明細行の原価および数量情報を変更する。
- F4371テーブルを除去する。

**注意:** 発注品目の提示処理が終わったら、発注提示在庫品目テーブル(F4371)に保存されているレコードを除去するかどうかをオプションで選択できます。

## 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
発注提示在庫品目の処理	W4371A	「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「発注提示在庫品目」	再発注品目の提示に関する処理を行います。
発注提示在庫品目の詳細	W4371D	「発注提示在庫品目の処理」フォームで、検討する品目の行を選択し、「ロー」メニューから「詳細」を選択します。	再発注品目の提示に関する処理を行います。
オーダーの選択仕入先	W43032A	「発注提示在庫品目の処理」フォームで、検討する品目のローを選択し、「選択」をクリックします。	再発注品目の提示に関する処理を行います。

## 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成の実行

「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)の「在庫品目再発注点の印刷」を選択します。

## 在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成(R437002)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 表示

この処理オプションでは、レポートでの情報の表示方法を指定します。

### 1. 原価の表示

原価情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 原価情報が表示されます。

1: 原価情報が表示されません。

## 処理

この処理オプションでは、在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム(R437002)の情報の処理方法を指定します。

### 1. 取引単位

「トランザクション単位」フィールドのデフォルトとして使用される単位を指定します。この単位は、購買数量と関連付けられます。基本単位および購買単位の値を検討するには、「品目マスターの改訂」フォームの「重量/単位」タブを選択します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買単位を使用します。

1: F4101テーブルの基本単位を使用します。

### 2. 在庫行タイプ

トランザクションで行の処理に使用される行タイプを指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理)に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。「処理」タブで、この処理オプションと次の処理オプション(「非在庫行タイプ」)の両方の行タイプを指定しないでください。在庫タイプと非在庫タイプの両方の行タイプを指定した場合、在庫タイプ用に指定した行タイプのみ使用されます。値は次のとおりです。

S: 在庫品目

J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

### 3. 非在庫行タイプ

トランザクションで行の処理に使用される行タイプを指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理)に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。「処理」タブで、この処理オプションと次の処理オプション(「非在庫行タイプ」)の両方の行タイプを指定しないでください。在庫タイプと非在庫タイプの両方の行タイプを指定した場合、在庫タイプ用に指定した行タイプのみ使用されます。値は次のとおりです。

S: 在庫品目



J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

#### 4. 要求日付

要求日付の計算方法を指定します。値は次のとおりです。

ブランク: リードタイムが加算されません。この処理オプションをブランクにすると、今日の日付が使用されます。

1: オーダー日付にリードタイムを加算して、要求日付が計算されます。

#### 5. テスト・モード

購買オーダーをテスト・モードと最終モードのどちらで生成するかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モードで購買オーダーが生成されます。

1: 購買オーダーが最終モードで生成されます。

2: 購買オーダーがテスト・モードで生成され、レコードがワークファイルに保存されます。

### 一括オーダー

この処理オプションでは、一括オーダーの処理方法を指定します。

#### 1. 一括オーダーが複数ある品目のオーダー生成

一括オーダーを一切リリースせずに複数の一括オーダーがある品目の購買オーダーを生成するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 品目の購買オーダーを生成し、一括オーダーを一切リリースしません。

1: 複数の一括オーダーがある品目から購買オーダーを生成しませんが、購買オーダーが生成されなかったこととその理由を示すメッセージをレポートに表示します。

#### 2. 一括オーダー・タイプ

作成する伝票のタイプを指定します。

このコードは、トランザクションの当初伝票タイプも指定します。

伝票タイプは、ユーザーが設定するユーザー定義コード(00/DT)です。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプが事前定義されています。これらは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー伝票

## バージョン

この処理オプションでは、システムが使用するオーダー入力バージョン(P4310)のバージョンを指定します。

1. 購買オーダー(P4310)のバージョン      システムが使用するオーダー入力プログラム(P4310)のバージョンを入力します。この処理オプションを空白にすると、ZJDE0001が使用されます。

## 発注提示在庫品目(P4371)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、処理に使用されるデフォルト情報を入力できます。

- |               |  |
|---------------|--|
| 1. 原価の変更不可    | 原価フィールドの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。<br>空白: 原価フィールドの変更を許可する。<br>1: 原価フィールドの変更を許可しない。 |
| 2. 原価         | 「原価」フィールドを表示するかどうかを指定します。<br>空白: すべての原価フィールドが表示されます。<br>1: 原価フィールドが表示されません。          |
| 3. 数量の編集不可    | 数量フィールドの変更を許可するかどうかを指定します。値は次のとおりです。<br>空白: 数量フィールドの変更を許可する。<br>1: 数量フィールドの変更を許可しない。 |
| 4. 一括オーダー・タイプ | 一括オーダーのオーダー・タイプを指定します。   |

## バージョン

この処理オプションでは、システムで使用される様々なプログラムのバージョンを指定します。

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 1. 購買オーダーの入力(P4310)          | 購買オーダーの入力プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。    |
| 2. 一括オーダーのリリース(P43060)のバージョン | 一括オーダーのリリース・プログラムを使用するときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。 |

## 再発注品目の提示の処理

「発注提示在庫品目の処理」フォームにアクセスします。

## 第 15 章

# 承認処理

この章では、承認処理の概要と次の方法について説明します。

- 承認経路の処理
- 承認待ちオーダーの処理
- オーダーの承認または却下
- 承認処理のフィールド固定情報の設定

---

## 承認処理について

会社によっては、購入する品目やサービスについて承認を得るよう義務づけられている場合があります。購買オーダー、外注オーダー、購買要求、一括オーダーなどを入力した後、システム処理を実行する前にそのオーダーに対し適切な権限を持った部署から承認を得るように設定できます。この承認により、許可されていない品目の購入を防ぐことができます。

ユーザーの所属する部署や購入金額によって、入力するオーダーに対して別の担当者の承認が必要になる場合があります。その場合は、オーダーを承認する担当者を指定して承認経路を設定します。その後、承認経路をオーダーに割り当てます。

オーダーを入力した担当者はオーダーの現行状況を確認できます。この状況を参照すると、承認待ちオーダーの承認担当者やオーダーをすでに承認した担当者を把握できます。オーダーが完全に承認または却下された場合は、メッセージが送信されます。

オーダー承認担当者は、承認待ちオーダーをすべて検討した上で、承認か却下を選択できます。オーダーの承認や却下に対して説明を付けることも可能です。

購買サイクルを設定する際は、承認が必要なオーダー・タイプ(購買オーダー、外注オーダー、購買要求など)を指定します。オーダー・タイプごとにオーダー処理規則を設定して、承認処理を組み込んでください。

オーダー承認履歴情報はF4209テーブルに保管されます。

参照: [第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー処理規則の設定」、33ページ](#)

---

## 承認経路の処理

この項では、承認経路の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 承認レベルの改訂 (P43008) の処理オプションの設定
- 承認経路の作成

- 承認権限の委任

## 承認経路について

会社によっては、購入する品目やサービスについて、承認を得るよう義務づけている場合があります。承認経路を作成してオーダーに割り当てると、購買オーダーが適切な担当者により必ず承認されるように設定できます。

オーダーの承認担当者は、所属部署や購買品目によって異なることがあります。異なる担当者グループで構成される複数の承認経路を作成できます。各経路は購買オーダー、外注オーダー、購買要求など、特定のオーダー・タイプに対応させてください。複数の承認経路に割り当てられた担当者が退職したり、休暇を取った場合には、別の担当者に承認権限を委任できます。

承認経路を作成したら、それをオーダーに割り当てることができます。オーダーが完全に承認されるまでは、次の処理に進むことはできません。

### 承認経路の作成

承認経路を設定して、オーダーの承認担当者を指定する必要があります。承認経路をオーダーに割り当てると、その経路の担当者が承認するまでオーダーは処理されません。それにより、確実にすべての購買オーダーが、適切な担当者によって承認されるようになります。

オーダーの承認担当者が、所属部署や購買品目などによって異なることがあります。異なる担当者グループからなる複数の承認経路を作成できます。

購買品目やサービスの原価によっては、複数の担当者からオーダーに対する承認を得る必要がある場合もあります。承認経路に組み込む各担当者に対して、それぞれの承認が必要となる金額基準を指定する必要があります。担当者は、金額が小さい順に入力します。次に、承認経路Aの承認の例を示します。

承認金額	担当者
100	ドワイト・エイキン
1,000	レイ・アレン
5,000	ドミニク・アボット

承認経路Aではオーダー金額に応じて次のように処理されます。

- 100.00未満の金額は自動的に承認される。
- 100.00以上の金額はドワイト・エイキンの承認が必要。
- 1,000.00以上の金額はドワイト・エイキンおよびレイ・アレンの承認が必要。
- 5,000.00以上の金額は3人全員の承認が必要。

担当者の承認金額を変更しても、一時保留となっている承認には影響ありません。

承認経路で定義された担当者をとばして次の担当者に進むこともできます。たとえば上の例を使うと、ドミニク・アボットは、ドワイト・エイキンまたはレイ・アレンの前にすべてのオーダーを承認し、それまでの承認処理を省くことができます。

承認担当者のだれか1人がオーダーを承認する時間がなくても他の担当者が承認できるように、複数の人物に同じ承認金額を割り当てると便利です。どの担当者でもオーダーを承認できますが、承認経路の1番目の担当者(住所録番号が一番小さい担当者)のみが、オーダー承認待ちのメッセージを受け取ります。テーブルには1人の担当者は1度しか表示されません。

予算超過のために保留状態になっているオーダーをリリースするために、予算承認担当者を承認経路に割り当てる場合もあります。予算承認者は、承認経路にある他の担当者がオーダーを承認する前にオーダーを承認し保留をリリースする必要があります。オーダーが予算保留状態でない場合は、予算承認者をスキップして、承認経路の最初の担当者に進めます。

入力した承認経路には、それぞれ固有の名称を付ける必要があります。また、それぞれの承認経路で承認するオーダー・タイプ(購買オーダー、外注オーダー、購買要求、一括オーダーなど)も指定してください。

承認待ちのオーダーがある場合、各担当者および承認経路への通知には電子メールが使用されます。承認経路に登録された名前の順に通知が送信されます。

承認経路の担当者を削除または追加すると、一時保留となっている承認要求は別の適切な担当者に再度割り当てられますが、電子メール・メッセージは再送信されません。

## 承認経路の割当

承認経路を作成した後は、適切な担当者からオーダーが承認を得られるように承認経路を割り当てます。オーダーが完全に承認されるまでは、処理を先に進めることができません。

承認経路はオーダーを入力する前にオーダーに割り当てます。処理オプションを使用して、特定の承認経路を入力したり、承認経路情報の取込み元を指定できます。次の取込み元を指定できます。

- オーダーを入力する担当者のユーザー・プロファイル
- オーダーを入力する担当者の住所録レコード
- 事業所固定情報
- デフォルト事業所およびプリンタ

ユーザー・プロファイルや住所録を指定した場合、承認経路の決定にはユーザーのID番号か住所録番号が使用されます。この場合、各ユーザーに対して個別の経路を作成してください。この方法は、各ユーザーに固有の承認経路が必要な場合に使用します。

ある事業所で生成されるほとんどのオーダーに同じ担当者の承認が必要な場合、事業所固定情報から承認経路を取り込むことができます。また、デフォルト事業所およびプリンタ情報を入力する際に、各ユーザーに基本承認経路を割り当てることができます。

承認経路はオーダー・レベルでは適用できますが、明細行レベルでは使用できません。たとえば、オーダーのすべての品目やサービスは、オーダーが処理される前に承認される必要があります。オーダーを入力した後は、割り当てた承認経路の変更はできません。

## 承認権限の委任

オーダーの承認担当者を指定するには、承認経路を作成する必要があります。特定の担当者が一定額以上のオーダーすべてに対する承認責任者である場合は、その担当者を複数の承認経路に割り当てることがあります。

承認権限は、別の担当者に委任できます。これは担当者が退職したり、休暇を取ったりする場合に実行します。承認権限を委任すると、該当する担当者が現在組み込まれている承認経路が恒久的に変更されます。

承認権限は、承認経路で下位に設定されている担当者には委任しないでください。ただし、担当者の承認権限を、その承認経路に新たに割り当てられた担当者に委任すると、その時点で一時保留となっている承認は新たな担当者に割り当てられますが、電子メール・メッセージは再送信されません。

## 事前設定

承認経路の作成前に、次の作業を行う必要があります。

- 承認経路に入力する各担当者のユーザーIDと住所録番号の両方が設定されていることを確認してください。
- 各承認経路の承認者と承認権限を確定してください。
- 該当するオーダー・タイプのオーダー処理規則に承認処理を組み込んでください。
- 承認経路を事業所に割り当ててください。

## 承認経路の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
承認レベル改訂の処理	W43008A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「承認レベルの改訂」</li> <li>「オーダー生成/承認/リリース」(G43D13)、「承認レベルの改訂」</li> </ul>	承認経路を作成します。
承認レベルの改訂	W43008C	「承認レベル改訂の処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	承認経路を作成します。 承認レベルを追加または修正します。
承認委任の処理	W43280A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「承認の委任」</li> <li>「オーダー生成/承認/リリース」(G43D13)、「承認の委任」</li> </ul>	承認権限を委任します。 承認委任の処理を行います。
承認の委任	W43280C	「承認委任の処理」フォームで承認者および承認経路を選択し、「選択」ボタンをクリックします。	承認権限を委任します。

## 承認レベルの改訂(P43008)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

- オーダー・タイプ**      オーダー・タイプを識別するコードを入力します。たとえば、受注オーダーの場合は「SO」と入力します。

## 承認経路の作成

「承認レベルの改訂」フォームにアクセスします。

### 承認下限額

オーダーの承認において、当該承認者が承認を担当する金額範囲の下限額を入力します。“予算”というメッセージは、当該承認者が予算承認者であることを示します。

### 担当者

住所を表すテキストを入力します。この40文字(半角英数字)まで入力可能なフィールドは、複数のフォームおよびレポートに表示されます。入力にはダッシュ、カンマ、およびその他の特殊文字を使用できますが、このフィー

ルドを使用して名前を検索する際は、これらの記号や特殊文字は検索対象にはなりません。

## 承認権限の委任

「承認委任の処理」フォームにアクセスします。

委任元となる担当者（承認者）が現在割り当てられているすべての承認経路を検討し、権限を委任する承認経路を選択します。「承認の委任」で、権限の委任先となる個人を指定します。

---

## 承認待ちオーダーの処理

この項では、承認メッセージと承認待ちオーダーの概要と次の方法について説明します。

- オーダーに対する承認メッセージの検討
- 購買オーダー承認 (P43081) の処理オプションの設定
- 承認待ちオーダーの検討

### 承認メッセージと承認待ちオーダーについて

承認待ちのオーダーをすべて検索して、承認または却下の検討が必要なオーダーを選択できます。品目およびサービスの購買を許可するには、オーダーの承認が必要です。購買を承認しない場合は、オーダーを却下できます。

オーダーを承認すると、そのオーダーは承認済状況に更新されるか、または承認経路の次の担当者に送られます。オーダーが却下されると、オーダーの入力者に却下メッセージが返信され、オーダーの処理はそれ以上実行されません。

オーダーの入力者は、すべてのオーダーの状況（承認、却下、保留）を検討できます。オーダーが却下された場合、オーダーに修正を加えて再度承認依頼を出すことができます。オーダーが一時保留になった場合は、次の承認担当者を調べて、その担当者から承認が得られるかどうかを確認できます。

特定のオーダーに担当者の承認が必要になった場合、その担当者には電子メールが送信されます。作成したオーダーが承認または却下された場合も、作成者に電子メールが送信されます。

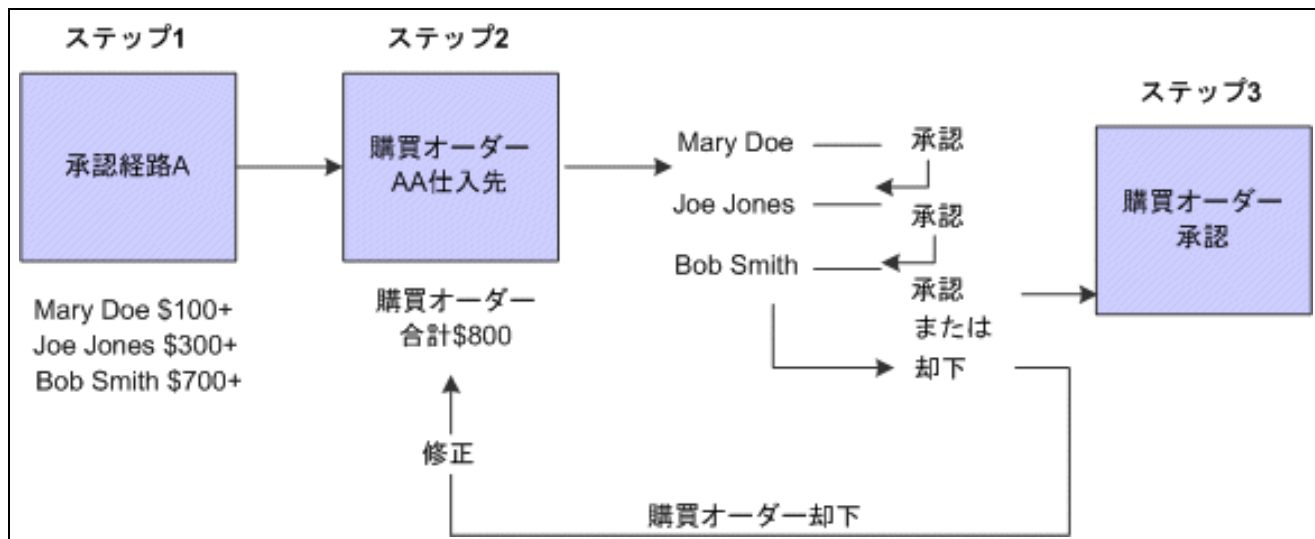
### オーダーに対する承認メッセージ

割り当てられた承認経路とともにオーダーを入力すると、そのオーダーの承認担当者に通知が送られます。承認経路の最初の担当者に、承認を必要とするオーダーがあることが電子メールで通知されます。担当者がオーダーを承認すると、次のいずれかのアクションが実行されます。

- そのオーダーの次の承認担当者にメッセージが送信される。
- 他の承認が必要でない場合は、オーダーを承認済状況に更新し、オーダー入力者に承認メッセージが送信される。

オーダーが却下された場合は、オーダー入力者に却下メッセージが送信されます。入力者がオーダーを修正した場合、承認処理は始めからやりなおされます。

全社的にオラクル社のJD Edwards EnterpriseOne電子メール・システムを使用していなくても、承認処理に電子メール・メッセージ(Eメール)を使用できます。承認処理のために特別に設定された電子メール・フォームか、メールボックスで受信する電子メール・フォームのどちらからでも、メッセージにアクセスできます。承認処理の電子メール・フォームを使用する場合、処理オプションによりフォームに表示するメールボックスを選択できます。次の図は、承認処理を示しています。



承認経路の処理

### 承認待ちオーダー

承認待ちのオーダーをすべて検索し、承認または却下の検討が必要なオーダーを選択できます。また、自分が入力したオーダーをすべて検索して、承認、却下、一時保留のうちどの状況になっているかを検討できます。

オーダーを検索するには住所録番号を使用します。オーダーの経過日付で検索し、早急に検討が必要なオーダーを検索することもできます。オーダーを最初に入力する場合に、承認済または却下済のオーダーのみを表示するように指定することもできます。

オーダーの状況集計にアクセスして、オーダーの承認者や処理の履歴を参照できます。次のような担当者を識別できます。

- オーダーを承認した担当者
- オーダーをまだ承認していない担当者
- オーダーを却下した担当者
- 上位レベルの承認担当者により承認処理から省かれた担当者

予算保留となっているオーダーの状況集計を検討するには、購買オーダー承認プログラム(P43081)の処理オプションで予算保留コードを指定してください。



## 承認待ちオーダーの処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
承認待ちオーダーの処理	W43081A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「承認待ちオーダー」</li> <li>「オーダー生成/承認/リリース」(G43D13)、「承認待ちオーダー」</li> </ul>	承認待ちオーダーを検討します。 承認待ちオーダーの処理を行います。
承認状況サマリーの処理	W43081C	「承認待ちオーダーの処理」フォームで、オーダーを選択し、「ロー」メニューから「承認状況サマリー」を選択します。	オーダーの現行状況を表示します。

## オーダーに対する承認メッセージの検討

「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)の「承認通知の検討」を選択します。

または、「オーダー生成/承認/リリース」(G43D13)の「承認通知の検討」を選択します。

## 購買オーダー承認(P43081)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

この処理オプションでは、承認情報の処理方法を指定します。

- 承認待ち状況** 当該オーダー・タイプの処理サイクルにある次の標準的なステップを指定するユーザー定義コード(40/AT)を入力します。処理サイクルのステップは、「オーダー処理規則」フォームで設定します。
- 承認済み状況** 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定する値をUDC 40/ATから入力します。
- 却下状況** 処理サイクルにおいて当該オーダー行が正常に完了した最後のステップを指定するユーザー定義コード(40/AT)を入力します。
- 予算保留コード** オーダーが予算保留中である理由を示すUDC(42/HC)を入力します。
- 承認保留コード** オーダーが保留中である理由を識別する値をUDC 42/HCから入力します。

### デフォルト

この処理オプションでは、承認処理で使用するデフォルト値を指定します。

- オーダー・タイプ** 伝票タイプを識別する値をUDC 00/DTから入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・シートの伝票タイプ・コードがあり、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプは変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票  
 T: 給与計算伝票  
 I: 在庫伝票  
 O: 購買オーダー処理伝票  
 J: 一般会計/共有利息請求伝票  
 S: 受注オーダー処理伝票

2. 住所番号を入力できないようにする場合は"1"を入力してください。他のユーザーが住所番号を入力または変更できないようにするためのコードを入力します。

## バージョン

この処理オプションでは、承認処理で使用するプログラムの代替バージョンを指定します。

1. 購買オーダー入力 (P4310)      オーダー入力プログラムの代替バージョンを入力します。
2. 予実対比 (P09210)      予実対比プログラムの代替バージョンを入力します。
3. 保留オーダー・リリース (P43070)      保留オーダー・リリース・プログラムの代替バージョンを入力します。
4. 発注残照会 (P4310)      発注残照会プログラムの代替バージョンを入力します。

## 承認待ちオーダーの検討

「承認待ちオーダーの処理」フォームにアクセスします。

**指定日付以前のオーダー**      表示されるオーダー数を制限するオーダーの経過日数を入力します。  
 オーダー経過日数は、オーダー日付と今日の日付の差(日数)です。入力された数以上の日数が経過しているオーダーのみ表示されます。  
 たとえば、今日が5月15日で次のオーダーが存在するとします。  
 5月15日 - オーダー番号104  
 5月14日 - オーダー番号103  
 5月13日 - オーダー番号102  
 このフィールドを空白にすると、すべてのオーダーが表示されます。「1」を入力すると、オーダー103および102のみ表示されます。

**指定日数以上待ちオーダー**      表示されるオーダー数を制限するオーダーの承認待ち日数を入力します。  
 このフィールドに数値を入力すると、承認待ち状態の日数が指定された日数以上であるオーダーのみ表示されます。  
 次のいずれかのイベントが実行されたときに、承認処理が発生します。

- オーダーが入力された(最初の入力)。
- オーダーが承認された。
- オーダーが却下された。

### 承認待ち行列

- オーダーが修正された。

オーダーの状況が表示されます。承認処理により、オーダーの状況が次のように決まります。

- 承認待ち行列 - 承認が必要なオーダーが表示されます。  
承認者が、承認が必要なオーダーを照会するときに使用します。
- 承認待ち - まだ承認されていないオーダーが表示されます。  
オーダーの入力者が、オーダーの状況を照会するときに使用します。
- 承認済 - 承認されたオーダーが表示されます。  
オーダーの入力者が、オーダーの状況を照会するときに使用します。
- 却下 - 却下されたオーダーが表示されます。  
オーダーの入力者が、オーダーの状況を照会するときに使用します。

---

## オーダーの承認と却下

この項では、オーダーの承認と却下の概要、事前設定、およびオーダーの承認と却下に使用するフォームについて説明します。

### オーダーの承認と却下について

品目およびサービスの購買を許可するには、オーダーの承認が必要です。オーダーのすべての明細行について承認すると、そのオーダーの処理が開始されます。オーダー処理を取り消す場合は、オーダー明細行を却下できます。また、明細行の却下についての説明を付けることもできます。

オーダーを最終承認または却下すると、そのオーダーの入力者にメッセージが送信されます。入力者は却下されたオーダーに修正を加えて、再度承認を依頼できます。修正された明細行の行頭には、マーク(>)が付くので容易に認識できます。

却下の説明を付ける方法はいくつかあります。次の処理が可能です。

- 各却下内容について説明する最高8つまでのカテゴリを定義する。
- オーダー全体に対して簡単な備考を入力する。
- 各明細行に対して簡単な備考を入力する。
- オーダーに対してテキストを入力する。
- 明細行に対してテキストを入力する。

ユーザー自身が予算承認者である場合、システムが処理を続行する前に、承認の検討プログラム(P43081)で予算保留のオーダーを承認し、リリースしてください。

### 事前設定

「承認/却下の理由」フォームで、該当するユーザー定義コードの定義とカラム見出しを作成してください。

## オーダーの承認または却下に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
承認待ちオーダーの処理	W43081A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、 「承認の検討」</li> <li>「オーダー生成/承認/リリース」(G43D13)、 「承認の検討」</li> </ul>	承認待ちオーダーの処理を行います。
購買要求の承認	W43081B	「承認待ちオーダーの処理」フォームで、オーダーを選択し、「ロー」メニューから「承認の検討」を選択します。	オーダーを承認または却下します。

## 承認処理のフィールド固定情報の設定

この項では、承認処理のフィールド固定情報の概要、事前設定、および承認処理のフィールド固定情報の設定方法について説明します。

### 承認処理のフィールド固定情報について

オーダー明細行の承認が終わった後で、明細行が変更された場合に再度承認が必要になるように設定しておく必要があります。システム管理者から適切な権限を取得していれば、承認フィールド固定情報プログラム(P43080)を使用して、承認済状況のオーダー明細行に変更があった場合に、承認処理中にすべての未処理オーダー行に対して再度承認処理を実行するトリガーとなるフィールドを指定できます。適切なフィールドをアクティブ化または非アクティブ化することで、再承認の開始を決定するフィールドを指定できます。

アクティブ化/非アクティブ化できるフィールドは、F4311テーブルとF43080テーブルに含まれています。

再承認機能は、購買オーダー入力プログラム(P4310)の「一時変更用次状況」処理オプションと関連付けられていません。一時変更用次状況を指定して承認処理を行う場合、予期しない結果が発生する場合がありますため注意してください。一時変更用次状況がビジネス・プロセスに適していることを確認してください。

### 事前設定

購買オーダー・プログラム(P4310)の処理オプションの「承認」タブで承認処理を有効にしてください。

### 承認処理のフィールド固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
承認必須フィールド	W43080A	「調達管理システム・セットアップ」(G43A41)、「承認必須フィールド」	承認処理のフィールド固定情報を設定します。 必須フィールドを承認します。

## 承認処理のフィールド固定情報の設定

「承認必須フィールド」フォームにアクセスします。

<b>すべてのフィールドを表示</b>	詳細グリッドに特定のフィールドを表示するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、対応するフィールドが表示されます。
<b>トリガー・フィールドを表示</b>	詳細グリッドに特定のフィールドを表示するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、対応するフィールドが表示されます。
<b>非トリガー・フィールドを表示</b>	詳細グリッドに特定のフィールドを表示するかどうかを指定します。このオプションを選択すると、対応するフィールドが表示されます。



## 第 16 章

# 入荷工程

この章では、入荷工程の概要と、次の方法について説明します。

- 入荷工程の作成
- 品目除去に対する支払適格性の定義
- 入荷工程のアクティブ化
- 抜き取り検査要件と品目仕様の定義
- 入荷工程の品目処理
- 入荷工程からの品目の除去
- 入荷工程品目履歴の検討

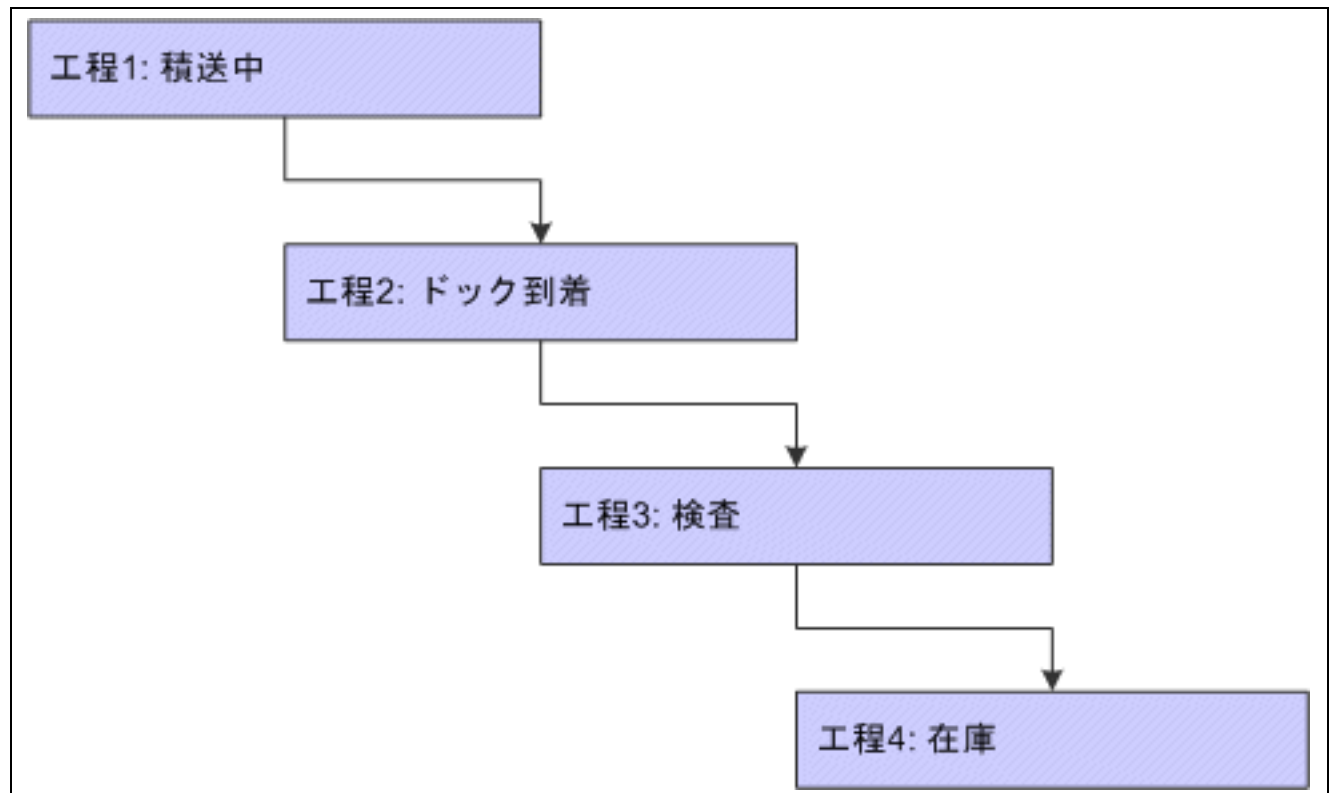
---

## 入荷工程について

仕入先の倉庫から出庫された時点から自社の倉庫に入庫するまで、発注した品目をトラッキングをする場合があります。入荷作業によって、ドック、経由保管区域、検査など、複数の場所を経由することもあります。

入荷工程の一連の作業で、品目のトラッキングや移動を行うには入荷工程処理を使用します。

各入荷工程を構成する作業を定義します。また、入荷工程で品目を処理する際に実行されるロジスティクスおよび会計処理の更新も確定する必要があります。作成した入荷工程は、品目の仕入先に基づいて品目に割り当てることができます。次の図は、一般的な入荷工程を表します。



入荷工程の例

品目の入荷を入力するたびに、入荷工程の最初の作業に品目が送られます。品目は入荷工程の次の作業に入力する必要があります。各作業中に、次のような処理を実行できます。

- 返品や却下などによる品目の工程からの除去
- 返品する品目に対する代替オーダーの自動作成

## 入荷工程の作成

この項では、作業の定義と入荷工程の品目に対する仕訳作成の概要、事前設定、および入荷工程の作成方法について説明します。

### 作業の定義について

仕入先の倉庫を出庫した時点から品目をモニタリングできます。入荷工程を作成して、品目が自社在庫の一部となるまでの一連の作業を確定します。

各入荷工程を構成する作業を定義します。また、各作業に品目を移行する際に発生する更新も確定してください。たとえば、品目が手持ちとなる時点の作業を指定するとします。その作業に品目を投入すると、システムが仕訳を作成して、在庫された品目が反映されます。続いて、伝票を作成して支払を処理できます。

システムを設定して、品目を入荷工程の作業に投入、または作業から移動するたびに仕訳を作成できます。こうすれば、作業ごとに品目の原価が総勘定元帳に反映されます。たとえば、ドックにある品目の原価を総勘定元帳に反映させる場合などに使用します。



入荷工程を作成する際に、工程から除去(処分)する品目について、処分理由に基づいて支払を行うかどうかを指定します。たとえば、再作業をした品目には支払を実行し、返品する品目には実行しない場合があります。

入荷工程は入荷した品目を処理する一連の作業です。これには次のような作業が含まれます。

- 運送
- ドック
- 経由保管区域
- 検査
- 保管

入荷工程を作成するには、工程に組み込む作業の定義付けが必要です。たとえば、経由保管区域と在庫の2つの作業からなる入荷工程や、経由保管区域、検査、在庫の3つの作業で構成される入荷工程などを作成できます。

次のような処理を行う作業段階を指定することにより、入荷工程で品目を処理する際に実行される更新を確定します。

- 品目が約束可能である
- 品目が仕入先パフォーマンスの目的で入荷される
- 品目が手持状況である

「入荷工程コードの処理」フォームの各更新フィールドは、F41021テーブルのフィールドを表します。在庫品目残高はこのテーブルで管理されます。入荷工程のどの時点の作業でも品目引当可能数量を更新できます。たとえば、品目が在庫になるのを待たずに、ドックに到着した時点で品目を顧客に配送約束する(受注オーダーを入力する)機能を使用する場合などです。

「事業所固定情報」フォームから「在庫状況の定義」フォームにアクセスし、在庫状況の計算に使用するフィールドを指定します。たとえば、「取扱数量の更新」フィールドの残高を現行手持数量に加えて在庫状況を計算するよう指定できます。

品目の入荷日付が記録される作業段階を指定する必要があります。たとえば、品目がドックに着いた段階で入荷日付を記録できます。実際の入荷日付と、仕入先が回答した納期を比較し、仕入先のパフォーマンスを評価することが可能です。

どの作業で品目が支払の対象となるかを指定する必要があります。品目を支払対象の作業に移行すると、品目に対する債務を反映する仕訳が作成されて品目に支払伝票を作成できます。また、次の情報も更新されます。

- 品目原価
- 陸揚費用
- 原価差異
- 品目トランザクション履歴

## 入荷工程の品目に対する仕訳作成について

品目の原価が総勘定元帳に反映されるように、入荷工程にある品目の仕訳をいつ作成するかを決定します。支払の対象となる作業または入荷工程の最終作業に品目を投入すると、自動的に仕訳が作成されます。

システムを設定して、品目を入荷工程の作業に投入するか、または作業から移動するたびに仕訳を作成できます。こうすれば、総勘定元帳には作業ごとに品目の原価が反映されます。たとえば、ドックにある品目の原価を総勘定元帳に反映させる場合などに使用します。

最終作業でのみ仕訳を作成する場合を除き、仕訳を作成する元帳カテゴリを作業ごとに入力する必要があります。元帳クラスにより、工程作業AAIテーブルからどの勘定科目を読み込むかをシステムに指示します。この勘定科目に次の内容を記録します。

- 作業に移動した品目原価を借方に記入
- 作業から移動した品目原価を貸方に記入

支払の対象となる作業の直前の作業に入った段階で、仕訳を自動作成できます。たとえば、在庫となるまでは支払の対象ではないが、ドックにある品目の原価を総勘定元帳に反映させる場合などです。まだ支払の対象とならない品目の会計処理は、次のように実行されます。

- 工程作業の勘定科目に借方入力して、その作業段階にある品目を反映させる
- 「入荷完了前」という負債勘定科目に貸方入力して、暫定的な負債を反映させる

支払対象の作業に品目を投入すると、(貸)入荷請求仮勘定に仕訳が作成されます。借方への記入は次のようになります。

- 棚卸資産勘定(支払対象の作業が最終ステップで、仕訳が一度も作成されていない場合)
- 「入荷/完了前」という負債勘定(支払対象の作業より前にこの勘定科目に貸方入力があった場合)
- 作業工程勘定(支払対象の作業で初めて仕訳が作成される場合)

入荷工程の最終作業に品目を投入すると、(借)棚卸資産勘定の借方に仕訳が計上されて在庫品の資産価値が反映されます。貸方への記入は次のようになります。

- 入荷請求仮勘定(支払対象の作業が最終ステップで、仕訳が一度も作成されていない場合)
- 作業工程勘定(品目が以前に別の作業の借方に記入済の場合)

入荷工程にある品目について伝票を作成すると、支払対象の作業よりも前の作業ステップに品目を戻すことはできません。たとえば、入荷工程にはドック、検査、入庫作業があります。検査ステップでは品目は支払の対象となります。伝票を作成した後は、それに対して戻し(逆仕訳)を作成しないかぎり、品目をドック工程には戻せません。

支払対象の作業に品目を投入したら、支払伝票を作成できます。伝票を作成すると、入荷請求仮勘定の相手科目に仕訳が作成されます。その項目を総勘定元帳に転記すると、買掛金勘定の貸方に計上されます。

### 関連項目:

第 13 章、「伝票の作成」、「伝票トランザクションに対する仕訳の検討と転記」、247ページ

## 事前設定

入荷工程を作成する前に、次の処理を実行してください。

- ユーザー定義コード(UDC)テーブル43/RCに入荷工程コードを設定する
- UDCテーブル43/OCに作業コードを設定する

## 入荷工程の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入荷工程コードの処理	W43091B	「入荷工程」(G43A14)、 「入荷工程の定義」	入荷工程を作成します。 入荷工程コードを処理 します。
入荷工程の定義	W43091D	「入荷工程コードの処理」 フォームで、「追加」ボタン をクリックします。	入荷工程の作業を定義 します。

## 入荷工程の作成

「入荷工程コードの処理」フォームにアクセスします。

工程コード	入荷工程の工程を識別するUDC(43/RC)の値を入力します。各入荷工程は、入荷時に品目に対して行われる一連の作業で構成されます。
作業順序	工程の作業またはステップの実行順序を入力します。
作業コード	入荷工程内の作業またはステップを表すUDC(43/OC)の値を入力します。
積送中数量更新	数量がこの作業に移動したらすぐにF41021テーブルの「積送中数量」フィールドを更新するかどうかを示す値を入力します。  工程コードについては、このカラムに1回だけYを入力できます。
検収中数量更新	数量がこの作業に移動したらすぐにF41021テーブルの「検査中数量」フィールドを更新するかどうかを示す値を入力します。  このカラムには、工程ごとに1回だけ「Y」を入力できます。
作業1更新、作業2更新	数量がこの作業に移動したらすぐにF41021テーブルの「作業1数量」フィールドを更新するかどうかを示す値を入力します。  このカラムには、工程コードごとに1回だけ「Y」を入力できます。
手持数量更新	数量がこの作業に移動したらすぐにF41021テーブルの「手持数量」フィールドを更新するかどうかを示す値を入力します。  最後の作業でのみ、「Y」を入力できます。
入荷承認	どの作業で入荷工程の品目に対する入荷日付を記録するかを決定するコードを入力します。入荷日付に基づいて、仕入先パフォーマンス情報(品目のリードタイム日数や定刻納入など)が計算されます。  このカラムには、工程ごとに1回だけ「Y」を入力できます。
支払	どの作業で商品が支払の対象となるかを示します。手持残高の更新時と同じ作業に対して「支払」フィールドが自動更新されます。数量をこの作業に移動すると、入荷確認テーブル(F43121)の未処理数量と未決済金額が更新されます。それにより、未処理数量と未決済金額を伝票照合プログラムで伝票入力できるようになります。このフィールドは、数量が入荷工程処理外で処分される場合にその数量が支払の対象となっているかどうかを判断するために使用されます。各数量処分には、独自の設定があります。これは入荷工程の最終作業である必要があります。作業が発生する予定の順序と作業を入力する順序が異なる場合、順序番号を入力できます。

注意: このカラムには、工程ごとに1回だけ「Y」を入力できます。

## 品目除去に対する支払適格性の定義

この項では、品目除去の概要と、品目除去に対する支払適格性の定義に使用するフォームについて説明します。

### 品目除去について

入荷工程で品目の返品、再作業、仕損、却下、調整が必要になることがあります。入荷工程を作成する際に、工程から除去(処分)する品目について、処分理由に基づいて支払を行うかどうかを指定します。たとえば、再作業する品目には支払を実行し、返品する品目には支払を行わないなどと指定します。

品目が支払対象となる除去カテゴリ(返品、再作業、仕損、却下、調整)を指定してください。たとえば「仕損」を支払対象に指定した場合、仕損品に分類した品目に対して代金を支払う必要があります。

入荷工程から除去した品目が支払対象である場合、品目の債務を計上する仕訳が作成されます。除去カテゴリに対して指定した元帳クラスに基づいて、貸方に入荷請求仮勘定の仕訳が、借方に処分勘定の仕訳がそれぞれ作成されます。

### 品目除去に対する支払適格性の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入荷工程コードの処理	W43091B	「入荷工程」(G43A14)、 「入荷工程の定義」	入荷工程コードを処理します。
入荷工程の定義	W43091D	「入荷工程コードの処理」フォームで入荷工程を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	品目除去に対する支払適格性を定義します。 入荷工程定義の検討と変更を行います。
工程報告の設定	W43DAC	「入荷工程の定義」フォームの「フォーム」メニューから「処分設定」を選択します。	品目除去に対する支払適格性を定義します。

## 入荷工程のアクティブ化

この項では、入荷工程アクティブ化の概要、事前設定、および品目への入荷工程の割当方法について説明します。

### 入荷工程のアクティブ化について

入荷工程を使用することにより、入荷した品目の状況をモニタリングし、いつ品目が出庫可能になるかを判断できます。入荷工程をアクティブにするには、次の処理を実行してください。

- 品目に対する入荷工程の割当
- 入荷工程の開始

入荷工程を品目に割り当てて、運送や準備、検査、在庫など、入荷時に行う作業を確定します。入荷工程で品目进行处理するには、入荷工程をアクティブにする必要があります。

標準入荷工程と代替入荷工程の両方を1つの品目に割り当てることができます。代替入荷工程を指定していないかぎり、品目は入荷後に標準の入荷工程に入れられます。代替工程は、断続的に品目が送られる工程です。たとえば、5回ごとに入荷を検査する場合、代替工程を品目に割り当てることができます。

日数や入荷数量によって異なった作業を経由する必要がある品目には、代替入荷工程を割り当てする必要があります。たとえば、入荷の5回に1回は検査作業を経由する品目には、代替入荷工程を割り当てることができます。入荷工程は、品目の仕入先に基づいて割り当ててください。

代替入荷工程に品目を入力するのに必要となる数量やパーセントを指定できます。検査用の抜き取り検査要件や品目仕様などの定義も可能です。

入荷確認プログラムの処理オプションを使用して、入荷工程を開始します。入荷工程を開始すると、入荷の入力時に、割り当てた入荷工程に品目が入力されます。

### 関連項目:

第 7 章、「仕入先情報の設定」、「仕入先/品目関係(P43090)の処理オプションの設定」、73ページ

## 事前設定

入荷工程を作成します。

## 入荷工程のアクティブ化に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
仕入先/品目関係の処理	W43090A	「入荷工程」(G43A14)、 「入荷工程/分析の改訂」	品目の入荷工程を検索し、検討します。
仕入先/品目関係	W43090B	「仕入先/品目関係の処理」フォームで品目を選択して、「選択」ボタンをクリックします。	品目に入荷工程を割り当てます。

## 品目に対する入荷工程の割当

「仕入先/品目関係」フォームにアクセスします。

### 通常工程コード

入荷工程を識別するUDC(43/RC)の値を入力します。各入荷工程は、入荷時に品目に対して行われる一連の作業で構成されます。

### 代替工程コード

代替入荷工程を識別するUDC(43/RC)の値を入力します。各入荷工程は、入荷時に品目に対して行われる一連の作業で構成されます。

品目では、通常工程と代替工程を使用できます。品目は、指定した日数または入荷数に基づいて断続的に代替入荷工程で管理されます。

### 工程タイプ・コード

品目/仕入先の組合せ用の作業工程を限定するコードを入力します。

### 頻度日数

日数に基づいて品目が代替入荷工程に割り当てられる頻度を決定する数値を入力します。たとえば、「3」をこのフィールドに入力します。1月1日が代替入荷工程の最終日だった場合、1月4日以降に実行された次の入荷は代替入荷工程に割り当てられます。

**頻度No.**

入荷に基づいて品目が代替入荷工程に割り当てられる頻度を決定する数値を入力します。たとえば、このフィールドに「5」を入力した場合は、5回ごとに品目の入荷が代替入荷工程に割り当てられます。

## 抜取り検査要件と品目仕様の定義

この項では、抜取り検査要件と品目仕様の概要、事前設定、および抜取り検査要件と品目仕様の定義方法について説明します。

### 抜取り検査要件と品目仕様について

適当な間隔をおいて検査を実行する場合に、代替の入荷工程を品目に割り当てます。品目に代替入荷工程を割り当てると、代替入荷工程で処理を開始するために、入荷する必要がある品目数量を指定できます。また、次のような抜取り検査要件を指定することもできます。

- 入荷品目のうち検査に使用する入荷品目の数量またはパーセント
- 入荷全体が合格となるために、検査に合格する必要がある品目数量またはパーセント

品目の抜取り検査要件を入力した後、仕様または品目についての説明を追加できます。抜取り検査要件と品目仕様は、あくまで参考情報です。品目を入荷工程で次の作業に移すときや入荷工程から除去するときに、この情報を参照できます。

### 事前設定

抜取り検査要件と仕様を定義する品目に対して代替工程を割り当ててください。

### 抜取り検査要件と品目仕様の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サンプル・サイズ・テーブルの処理	W43093B	「入荷工程」(G43A14)、 「検査/サンプル・サイズ・ テーブル」	抜取り検査要件と品目仕様を検索し、検討します。
検査/サンプル・サイズ・ テーブル	W43093A	「サンプル・サイズ・テーブルの処理」フォームで、「追加」ボタンをクリックします。	抜取り検査要件と品目仕様を定義します。

### 抜取り検査要件と品目仕様の定義

「検査/サンプル・サイズ・テーブル」フォームにアクセスします。

**開始数量**

品目がテスト入荷工程に送られる前に受け取る必要がある品目の数量を入力します。

**サンプル数量**

入荷数量に基づいて入荷工程で検査する必要がある数量を入力します。

**サンプル%**

入荷数量に基づいて検査する必要がある数量のパーセントを入力します。

**合格数量**

すべての数量が承認されるために検査に合格する必要がある数量を入力します。

**合格%**                      すべての数量が承認されるために検査に合格する必要があるパーセントを入力します。

---

## 入荷工程の品目処理

この項では、品目関連タスクの概要と次の方法について説明します。

- 入荷工程の移動/処分(P43250)の処理オプションの設定
- 品目現行作業の検討
- 作業間での品目の移動

### 品目関連タスクについて

仕入先の倉庫を出庫した時点から品目をモニタリングできます。たとえば、品目が手持状況に到達するまでに、運送、ドック、経由保管区域、検査などの作業を通して品目を処理できます。

品目の入荷工程により、入荷後に品目が処理される一連の作業が確定されます。たとえば、運送、ドック、検査、在庫の4つの作業が入荷工程に含まれる場合、入荷の入力時に品目は運送作業に入力されます。ユーザーは入荷工程の後続作業に、品目を移す必要があります。

また、不適切な品目は入荷工程から除去(処分)できます。たとえば、検査で不合格となったものを却下する場合などです。この場合は、却下した分の数量が入荷工程から自動的に差し引かれます。品目を返品した場合は、その品目の再発送を要求するオーダーを作成できます。

入荷工程における品目の移行および除去に関する情報を照会できます。たとえば、出荷品目が倉庫に送られる前にドックに置かれていた時間を調べることができます。また、検査に合格しなかった出荷品の数量も照会可能です。

### 作業間の品目移動

品目に割り当てる入荷工程により、入荷時に品目を処理する一連の作業(運送、経由保管、在庫など)が決まります。品目を入荷すると、入荷工程の第1作業に入ります。入荷工程に定義された作業の順番に従って品目を移行させます。

品目を移す先の作業は処理オプションで設定できます。たとえば、入荷工程の作業を、経由保管、検査、倉庫の順に設定した場合、他の作業へ品目を移すには次の方法があります。

- 次の作業のみ(たとえば、経由保管から検査、検査から倉庫など)
- 後続の作業のいずれか(たとえば、経由保管から倉庫へ)
- いずれの作業にも移動可能(倉庫から逆に経由保管場所へ)

入荷工程の最終作業に品目を移動すると、品目状況は入荷済(手持)に更新されます。

## 入荷工程品目の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入荷工程状況の処理	W43250K	「入荷工程」(G43A14)、 「状況照会」	品目の現行作業を検討 します。  作業間で品目を移動 します。  入荷工程状況を処理 します。
入荷工程の移動	W43250L	「入荷工程状況の処理」 フォームで行項目を選択 して、「選択」ボタンをク リックします。	作業間で品目を移動 します。

## 入荷工程の移動/処分(P43250)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、入荷工程の移動/処分プログラム(P43250)の操作時にシステムによって使用されるデフォルト情報を定義します。

- 1. オーダー・タイプ(任意)** 伝票タイプを指定します。このUDC(00/DT)はトランザクションの起点も指定します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・シート用に予約済の伝票タイプ・コードがあり、転記プログラムを実行したときに自動的に相殺仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)各伝票タイプに対して、次のプレフィックスが事前定義されています。これらのプレフィックスは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー処理伝票

伝票タイプを入力すると、指定した伝票タイプのオーダーだけが表示されます。この処理オプションをブランクにすると、すべてのオーダーが表示されます。

使用する各種伝票タイプに対応する様々なバージョンを作成できます。

- 2. 工程コード(任意)** 移動元作業コードを指定します。指定した移動元作業コードを含むオーダーだけが表示されます。このUDC(43/OC)は、入荷工程内の作業またはステップを表します。

### 表示

この処理オプションでは、数量を在庫へ移動する作業などの情報を表示するかどうかを指定します。



- 1. 在庫へ移動する数量** 数量を在庫へ移動する作業をプログラムで表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 数量を在庫に移動する作業を表示しません。  
 1: 数量を在庫に移動する作業を表示します。  
 数量を在庫へ移動する作業に関する情報はF43091テーブルから取得されます。「入荷工程の定義」フォームで、数量を在庫へ移動する作業を検討してください。数量を在庫へ移動する作業は、「安全在庫」カラムのチェック・マークによって指定されます。
- 2. 出荷および梱包情報の表示** UCC 128情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: UCC 128情報が表示されます。  
 1: UCC 128情報は表示されません。「1」を入力した場合、「EPC番号」フィールドは表示されません。

## 処理

この処理オプションでは、入荷工程の作業に使用する値を指定します。

- 1. 移動先工程** 移動先作業として使用される入荷工程の作業を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 入荷工程内の次の作業だけを選択できます。  
 1: 入荷工程内の次の作業だけを選択できます。  
 2: 入荷工程内の現在の作業または次の作業を選択できます。  
 3: 入荷工程内の任意の作業を選択できます。
- 2. 前状況コード** 置換処理の前状況コードを指定します。購買オーダーで置換品目のオーダー行を追加する場合は、新規オーダー行の前状況コードを入力できます。  
 この処理オプションを指定する前に、設定済のオーダー処理規則を確認し、置換処理がアクティブになっていることを確認してください。  
 置換処理がアクティブになっていることを確認するには、「入荷工程履歴の処理」フォームを検討し、「置換」オプションが選択されていることを確認します。「置換」オプションが選択されていない場合は、置換品目の購買オーダーは作成されません。
- 3. 次状況コード** 置換処理の次状況コードを指定します。購買オーダーで置換品目のオーダー行を追加する場合は、新規オーダー行の次状況コードを入力できます。  
 この処理オプションを指定する前に、設定済のオーダー処理規則を確認し、置換処理がアクティブになっていることを確認してください。  
 置換処理がアクティブになっていることを確認するには、「入荷工程履歴の処理」フォームを検討し、「置換」オプションが選択されていることを確認します。「置換」オプションが選択されていない場合は、置換品目の購買オーダーは作成されません。
- 4. 置換行タイプ** 行の処理方法を指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理)に影

響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。次に値の例(「行タイプ固定情報の改訂」フォームで定義されている値)をいくつか示します。

S: 在庫品目

J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

置換品目を表す新規オーダー行には、指定した行タイプが使用されます。置換処理をアクティブにしないかぎり、この処理オプションは使用できません。

置換処理がアクティブになっていることを確認するには、「入荷工程履歴の処理」フォームを検討し、「置換」オプションが選択されていることを確認します。「置換」オプションが選択されていない場合は、置換品目の購買オーダーは作成されません。

## 5. 自重/梱包No.チェックに使用する関数名

自重番号または梱包番号を検証するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 自重番号または梱包番号は検証されません。

1: 自重番号または梱包番号が検証されます。

## 6. 与信行タイプ

行の処理方法を指定します。行タイプは、トランザクションがやり取りをするシステム(JD Edwards EnterpriseOne一般会計、JD Edwards EnterpriseOne作業原価、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理、およびJD Edwards EnterpriseOne在庫管理)に影響します。また、行タイプでは、レポートや計算に行を含める条件も指定されます。次に値の例(「行タイプ固定情報の改訂」フォームで定義されている値)をいくつか示します。

S: 在庫品目

J: 作業原価、外注業者、または一般会計への購買

B: 総勘定元帳勘定および品目番号

N: 非在庫品目

F: 運賃

T: テキスト情報

M: その他の料金および貸方

W: 作業オーダー

## 7. オプションのデフォルト

入荷の全明細行を自動的に選択するかどうかを指定します。自動選択にすると、手作業で各明細行を選択する必要がなくなります。値は次のとおりです。

ブランク: 入荷の全明細行は自動的に選択されません。

## 8. 入荷経路における価格の更新

1: 入荷の全明細行が自動的に選択されます。

入荷時にオーダーの価格設定を行うかどうか指示するコードを入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 入荷時に購買価格の再計算を行わない。

1: 入力された価格管理オプションに基づいて、入荷時に購買価格を再計算する。

## バージョン

この処理オプションでは、各アプリケーションのバージョンを入力できます。ブランクにした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

### 1. 入荷確認 (P4312)

入荷確認プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。数量を在庫に移すように設定されている作業に品目を移動するときには、入荷確認プログラムを使用します。また、このアプリケーションは、バージョンを使用してライセンス・プレート情報の処理方法を決定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

### 2. 作業オーダー完了 (P31114)

作業オーダー完了プログラムにアクセスするときに、システムによって使用されるバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

### 3. 入荷確認照会 (P43214)

「ロー」メニューから入荷処理中オーダー・プログラムにアクセスするオプションを選択したときに使用されるバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

### 4. 発注残 (P4310)

「ロー」メニューから発注残プログラムにアクセスするオプションを選択したときに使用されるバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

### 5. 購買オーダー (P4310)

「ロー」メニューから購買オーダー・プログラムを選択したときに使用されるバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

### 6. 試験結果の改訂 (P3711)

「ロー」メニューから試験結果の改訂プログラムを選択したときに使用されるバージョンを指定します。バージョンを定義する前に、F43093 テーブルがすでに設定されていることを確認してください。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

### 7. 計画外配送 (P49655)

計画外配送プログラムにアクセスする際に使用するバージョンを指定します。

バージョンの処理オプションを調べて、そのバージョンがニーズに合っていることを確認します。

8. 入荷工程履歴 (P43252) システムによって使用される入荷工程履歴プログラムのバージョンを指定します。

## ワークフロー

1. 処分時の電子メール 品目の処分完了ごとに自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 電子メールは送信されません。  
 1: 購買オーダー入力者に電子メールを送信します。  
 購買オーダー入力者の情報は、F4311テーブルから取得されます。
2. 処分時の電子メール (画面上では「完了時の電子メール」) 品目の処分後に自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 電子メールは送信されません。  
 1: プロジェクト管理者に電子メールが送信されます。
- 
3. 処分時の電子メール 品目の処分後に自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 電子メールは送信されません。  
 1: 購買担当者に電子メールが送信されます。  
 購買担当者の情報はF4102テーブルから取得されます。
4. 処分時の電子メール 品目の処分後に自動的に送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 電子メールは送信されません。  
 1: 仕入先に電子メールが送信されます。  
 仕入先の情報はF4311テーブルから取得されます。
5. 完了の電子メール 作業オーダー完了について送信される電子メールの受信者を指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 電子メールは送信されません。  
 1: 計画担当者に電子メールが送信されます。  
 計画担当者の情報はF4102テーブルから取得されます。

## インタオペラビリティ

この処理オプションでは、インタオペラビリティ・トランザクションのトランザクション・タイプなどの情報を指定します。

1. トランザクション・タイプ インタオペラビリティ・トランザクションのトランザクション・タイプを指定します。たとえば、トランザクション・タイプのJDERRは、入荷工程トランザクションを表します。  
 この処理オプションをブランクにすると、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。

## 輸送

この処理オプションでは、積送中または未計画の配送の情報を指定します。

- 1. インバウンド計画外配送 作業コード**      計画外配送に対して使用される入荷工程の作業を指定します。数量がこの作業に移され、インバウンド輸送情報が存在する場合は、計画外配送プログラム(P49655)が起動されます。

## 品目現行作業の検討

「入荷工程状況の処理」フォームにアクセスします。

入荷工程品目の現行作業を照会できます。たとえば、最近受領した品目の入荷工程にドックと検査作業が含まれる場合、現在ドックにある数量や検査中の数量などを照会できます。

## 作業間の品目移動

「入荷工程状況の処理」フォームにアクセスします。

**作業中数量**                      この作業における現在の数量を入力します。

**入荷行No.**                      受注オーダーまたは購買オーダーの行数、あるいは入荷処理中に記録された入荷確認書の数を表す数値を入力します。このフィールドは、伝票照合で使用されます。

---

## 入荷工程からの品目の除去

この項では、品目の除去および戻し(逆仕訳)の概要と、入荷工程から品目を除去する方法について説明します。

### 品目の除去および戻し(逆仕訳)について

この項では、品目の除去と戻し(逆仕訳)について説明します。

#### 品目の除去

入荷工程から品目を除去(処分)しなければならない場合があります。たとえば、仕入先に品目を返品したり、検査に合格しなかった品目を却下する場合などです。次のカテゴリのうち1つを使用して、入荷工程から除去する品目の数量を指定してください。

- 返品
- 再作業
- 仕損
- 却下
- 調整

すべてのカテゴリの品目除去について説明テキストを入力できます。

ある入荷工程から品目を除去する前に、その工程用に設定した抜き取り検査要件を検討できます。また、その工程用に設定した品目仕様を検討することも可能です。

入荷工程から品目を除去すると、現行作業の数量から除去した品目が数量が減算されます。除去を戻す(逆仕訳する)場合は、元帳照会プログラムを使用してください。たとえば、品目を仕損品に分類して除去した後で、その品目を使用することになった場合、除去取引の戻し(逆仕訳)を実行できます。除去した数量は入荷工程に戻され、必要に応じて適切な仕訳が作成されます。

実行した除去カテゴリが支払適格になっている場合は、除去品目に対する仕訳が作成されます。たとえば、仕損カテゴリを支払適格に指定した場合、仕損品として除去した品目に対して仕訳が作成されます。

品目を返品すると、当初購買オーダーに対して貸方に仕訳が自動作成されます。また、その品目を置き換える新規の購買オーダー行を作成することもできます。この行は当初購買オーダーに追加されます。

### 品目の戻し(逆仕訳)

場合によっては、品目の入荷を誤って入力することがあります。入荷工程で処理される品目の入荷は戻す(逆仕訳する)ことができます。

入荷工程の最終作業に品目を移動すると、品目が手持状況に更新されます。誤って品目を最終作業に移動しても、前の入荷工程作業に戻せば手持状況も元に戻すことができます。

入荷工程の移動/処分プログラム(P43250)の処理オプションを設定して、戻し(逆仕訳)を実行するために任意の作業への品目移動を可能にします。さらに、工程が完了した品目の表示を処理オプションで設定する必要もあります。

品目を入荷工程に誤って入力した場合、入荷確認の照会プログラム(P43214)を使用して、初めの入荷に対して戻し(逆仕訳)を実行し、品目を入荷工程から除去します。この場合、品目は必ず入荷工程の最初の作業にある必要があります。

返品や却下などの理由で入荷工程から品目を除去した場合は、入荷を戻す(逆仕訳する)前に、必ずその品目除去を戻しておいてください。

### 買掛金照合のためのサービス・ユニット

伝票照合処理中に、サービス購買オーダー行にサービス・ユニットの情報を入力できます。サービス・ユニットは参照専用のため、値の検証は一切行われません。

サービス・ユニットは、「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「調達管理でサービス・ユニットを許可」オプションを選択して有効にする必要があります。非在庫インターフェイスAおよびBに対してのみ、サービス・ユニットのチェックボックスが選択されているかどうかを検証されます。

P4314の処理オプションの「表示」タブで「サービス・ユニットの表示」処理オプションを設定してください。

この処理オプションが設定されている場合、「サービス数量」と「サービス単位」のフィールドが「伝票照合の戻し(逆仕訳)」フォーム(W4314H)に表示されます。「伝票照合の戻し(逆仕訳)」フォームに「サービス数量」と「当初数量」のフィールドが表示されますが、同じ行で両方のフィールドを使用することはできません。

参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプの定義」、27ページ

参照: 第 10 章、「購買オーダーの入力」、「品目番号別明細行の入力」、128ページ

参照: 第 13 章、「伝票の作成」、「伝票照合(P4314)の処理オプションの設定」、227ページ

## 入荷工程からの品目の除去に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入荷工程状況の処理	W43250K	「入荷工程」(G43A14)、 「状況照会」	入荷工程状況を処理 します。
工程の結果入力	W43253A	「入荷工程状況の処理」 フォームで明細行を選択し て、「ロー」メニューから「処 分」を選択します。	入荷工程からの品目を 除去します。 工程の結果入力を検討 し、変更します。
置換情報	W43251A	「工程の結果入力」フォー ムの「フォーム」メニューか ら「置換」を選択します。	置換情報を更新します。

## 入荷工程からの品目の除去

「工程の結果入力」フォームにアクセスします。

### 返品数量

入荷工程で仕入先に返品された数量を入力します。

貸方入力または交換のために商品を返品できます。これらのトランザクシ  
ョンは新規行として当初の購買オーダーに書き込まれます。

### 再作業数量

入荷工程の結果として再作業される数量を入力します。

### 理由

トランザクションの目的を示すUDC(42/RC)の値を入力します。たとえば、  
品目を返品する理由を示すことができます。

### 仕損数量

入荷工程で仕損となった数量を入力します。

### 却下数量

入荷工程中に却下された数量を入力します。

### 調整数量

入荷工程中に調整された数量を入力します。

## 入荷工程品目履歴の検討

この項では、品目履歴の概要と次の方法について説明します。

- 入荷工程履歴照会 (P43252) の処理オプションの設定
- 入荷工程品目履歴の検討

## 品目履歴について

工程作業間の品目移動に関する情報を検討できます。たとえば、品目グループが検査から倉庫へ移動  
した時刻や、移動させた担当者、日付などの検討ができます。また、特定作業で品目に所要した時間も  
検討できます。

入荷工程からの品目除去に関連する情報も検討できます。たとえば、検査に合格しなかった出荷品目数  
量や仕入先に返品した数量などです。

検討する処理が移動か除去かは指定できます。移動を検討する作業段階を指示することが可能です。  
たとえば、ドックから倉庫への品目移動のみを照会できます。

## 入荷工程品目履歴の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入荷工程履歴の処理	W43252D	「入荷工程」(G43A14)、 「入荷工程履歴照会」	入荷工程品目履歴を検討 します。  入荷工程履歴を処理 します。

## 入荷工程履歴照会(P43252)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 表示

- 出荷および梱包情報の表示
 

出荷および梱包情報を表示するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 表示する。

1: 表示しない。

### 処理

- 自重/梱包No.チェックに使用する関数名
 

シリアル出荷コンテナ・コード(SSCC)の検証時に使用するビジネス関数名を指定します。たとえば、「CalculateUCC128CheckDigit」というようにビジネス関数を指定します。関数CalculateandValidateCheckDigitを利用できます。この処理オプションをブランクにすると、自重/梱包番号の検証は行われません。

## 入荷工程品目履歴の検討

「入荷工程履歴の処理」フォームにアクセスします。



入荷工程履歴照会 - 入荷工程履歴の処理

検索(🔍) 閉じる(🔒) ロー(📄) ツール(🔧)

バッチ

オーダーNo.

品目No.

仕入先

オーダー・サフィックス

元帳日付

出荷番号

自重No.

梱包No.

EPC No.

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	移動元作業	移動先作業	逆	備考	数量	単位	元帳日付	更新日付	時間	ユーザー	置換(Y/N)	プログラムID
<input checked="" type="radio"/>	DOCK	STK	N	Moved	750	EA		1997/05/08	124104	DEMO		EP43250
<input type="radio"/>	TRAN	DOCK	N	Moved	750	EA		1997/05/08	124043	DEMO		EP43250
<input type="radio"/>	DOCK	TRAN	N	Moved	750	EA		1997/05/08	123640	DEMO		EP43250
<input type="radio"/>	STK	DOCK	N	Moved	750	EA		1997/05/08	123608	DEMO		EP43250
<input type="radio"/>	DOCK	STK	N	Moved	750	EA		1997/05/08	114112	DEMO		EP43250
<input type="radio"/>	TRAN	DOCK	N	Moved	750	EA		1997/05/08	113211	DEMO		EP43250
<input type="radio"/>	---	TRAN	N	Moved	750	EA		1997/05/08	104828	DEMO	N	EP4312
<input type="radio"/>	DOCK	STK	N	Moved	650	EA		1997/05/08	140601	DEMO		EP43250
<input type="radio"/>	TRAN	DOCK	N	Moved	650	EA		1997/05/08	140620	DEMO		EP43250

「入荷工程履歴の処理」フォーム

- 移動元作業

品目の移動元となった工程作業またはステップを示すUDC(43/OC)の値を入力します。
- 移動先作業

品目の移動先となった工程作業またはステップを示すUDC(43/OC)の値を入力します。
- 逆

トランザクションが戻し(逆仕訳)の対象であるか、それともトランザクションの戻し(逆仕訳)がすでに行われているかを示すコードを入力します。値は次のとおりです。

空白: トランザクションは戻し(逆仕訳)の対象です。

N: トランザクションは戻し(逆仕訳)の対象ではありません。

Y: トランザクションの戻し(逆仕訳)がすでに行われています。

R: トランザクションは逆仕訳監査レコードです。
- 移動コード

数量の移動を示すUDC(43/MC)の値を入力します。作業間で数量を移動するか、または入荷工程処理外の数量を処分できます。
- コンテナID

この購買オーダーまたはオーダー行の品目を出荷したときのコンテナに割り当てるコードを入力します。入荷入力時には、コンテナ情報をオーダーに割り当てることができます。



## 第 17 章

# 仕入先の管理

仕入先との相互関係、および仕入先が供給する品目を管理できます。仕入先から購入する各品目に関する初期情報を入力すると、仕入先にかわってシステムが、納入、品質、および原価のパフォーマンスをモニタリングします。パフォーマンス情報を比較することにより、購買の際に最適な仕入先を確定できます。

この章では、仕入先限度額の換算の概要と次の方法について説明します。

- 代替通貨での仕入先価格の生成
- 仕入先パフォーマンス情報の管理
- 仕入先および品目分析レコードの更新

---

## 仕入先限度額の換算について

複数の仕入先について限度額を別の通貨に変換するには、住所録換算 - F0401プログラム(R890401E)を実行します。このプログラムは仕入先の通貨コードと住所録の金額を換算します。JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システムでは、住所録金額は仕入先の最大/最小オーダー値になります。住所録換算 - F0401プログラムは、「バッチ・バージョン」からアクセスします。

仕入先の最大/最小オーダー値を入力する際は、通常、丸めが実行された整数で入力し、F0401テーブルには表示小数点以下桁数なしで保管されます。これらの金額を別の通貨に換算する際は、処理オプションで丸め係数を指定できます。たとえば、最小値と最大値を50単位で丸めるには、丸め係数を50にします。

### 例: 換算した限度額の丸め

限度額とは、顧客または仕入先マスター・レコードに割り当てた与信限度額および最大/最小オーダー金額のことです。限度額は通常丸められた整数として保存されます。

この例では、処理オプションで丸め係数を入力した場合に、住所録換算 - F03012プログラム(R8903012E)と住所録換算 - F0401プログラム(R890401E)が、換算済の限度額をどのように丸めるかを説明します。例では、カナダ・ドル(CAD)からUSDドル(USD)への換算を想定します。

この例では、為替レートは1 CAD = 0.63492 USDで、丸め係数は50です。換算プログラムは、次の表に示すように換算された限度額を切り上げまたは切り捨てします。

換算後の限度額	説明
切上げ	<p>換算プログラムでは、8,000 CADは5,079.36 USDに換算されます。次の計算に基づいて、5,079.36 USDは5,100に切り上げられます。</p> <p>換算金額 ÷ 丸め係数 = Q 余り R。Rが丸め係数の1/2以上の場合、丸め係数からRが減算され、その金額が換算金額に加算されます。</p> <p>この例では、5,079 USD ÷ 50 = 101 余り29で、29は50の1/2より大きくなります。50から29を引き(50 - 29 = 21) 21を5,079に加えると、丸め後の値は5,100となります。</p>
切捨て	<p>換算プログラムでは、12,000 CADは7,619.05 USDに換算されます。次の計算に基づいて、7,619.05は7,600に切り捨てられます。</p> <p>換算金額 ÷ 丸め係数 = Q 余り R。Rが丸め係数の1/2より小さい場合、換算金額からRが減算されます。</p> <p>この例では、7,619 USD ÷ 50 = 152で余りが19となり、19は50の半分より小さくなります。7,619から19を引き、丸め後の値は7,600になります。</p>

## 代替通貨での仕入先価格の生成

この項では、代替通貨での仕入先価格の生成の概要と次の方法について説明します。

- 代替通貨での仕入先価格の生成
- 通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成(R4106101)の処理オプションの設定

### 代替通貨での仕入先価格の生成について

通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラム(R4106101)を実行すると、複数のレコードに対して異なる通貨での新しい仕入先価格を一度に作成できます。このプログラムは、既存のレコードに基づいて新しい価格を生成します。

通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラムは、異なる通貨で複数の仕入先価格レコードを作成する必要がある場合に非常に役に立ちます。たとえば、このプログラムは、仕入先価格レコードにない通貨を使用する仕入先と取引を開始する場合などに使用します。個々のレコードに新規の価格を作成する必要がある場合は、「仕入先カタログの改訂」フォームで既存のレコードを更新してください。通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成Rプログラムを実行する必要はありません。

通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラムを実行する際は、処理オプションで次の情報を指定することにより、新しい仕入先価格の作成に使用する通貨と為替レートを制御します。

- レコードを作成するための基準日。  
価格の有効期日がこの日付以降の場合、新しい仕入先価格が作成されます。
- 既存レコードの通貨。  
これは、新しいレコードの基準となる元の通貨コードです。

- 新規レコード作成に使用する通貨
- 金額計算に使用する為替レート
- 為替レートに使用する計算式（乗算または除算）

通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラムは元の仕入先価格をコピーし、新しい価格を計算して新しい通貨金額で価格レコードを作成します。このプログラムでは、次の処理が実行されます。

- 新しいレコードの基準となる通貨がどれか混乱しないように、通貨ごとに新しい価格を作成する。
- 単位ごとに新しい仕入先価格レコードを1件だけ作成する。各通貨に対して価格レコードを作成するわけではありません。

たとえば、既存の価格（カナダ・ドル建て）に基づいて、新しい仕入先価格を日本円（JPY）で生成するとします。ある単位のレコードにJPYの仕入先価格がすでに存在します。その単位のレコードが同じキーを持つようになるため、JPYの仕入先価格は生成されません。ただし、仕入先や品目、事業所に関連付けられた通貨コードに異なる有効終了日付がある場合を除きます。日付に応じて、プログラムにより新しい価格が複数作成されることがあります。

まず、通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラムを次の要領でテスト・モードで実行した後で、最終モードで実行してください。

#### • テスト・モード

監査レポートを検討して、生成されたレコードが正しいかを確認します。監査レポートが不正確な場合、処理オプションとデータ選択の値を変更した上でプログラムをテスト・モードで再実行してください。

#### • 最終モード

テスト・モードで作成した監査レポートが正しければ、プログラムを最終モードで実行してください。監査レポートで新しい仕入先価格レコードを検討します。「仕入先カタログの改訂」フォームで新しいレコードを検討する場合、新しいレコードは既存のレコードと一緒にアルファベット順に表示されます。価格は、データ辞書で設定した小数点の位置に従って丸められます。

必要に応じて「仕入先カタログの改訂」フォームで新しい価格を手入力により調整してください。たとえば、50,000 JPYに対して作成された新しいカナダ・ドルの価格が675.1155 CADであれば、675 CADに手入力で変更できます。

### 例: 新しい仕入先価格の生成

この例では、新しい仕入先価格の生成前後で異なる仕入先価格レコードを持つ品目について説明します。

#### 新しい仕入先価格を生成する前

既存の品目に次の仕入先価格があります。

単価	通貨コード
2,000.00	CAD
1,297.81	EUR
820.10	GBP

通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラム（R4106101）の処理オプションの設定は次のとおりです。

- モード = 1（最終）

- 日付 = 2008年6月30日
- 換算先 = USD
- 換算元 = GBP
- 為替レート = 1.65810
- 方式 = 1(乗数)

品目番号に複数の通貨金額が関連付けられていても、GBP金額に基づいて新しいUSD建ての金額が1つだけ生成されます。

### 新しい仕入先価格を生成した後

通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラムを実行した後の新しい価格レコードは、820.10 GBPに基づいて1,277.80 USDとなります。元のレコード、820.10 GBPは、仕入先への支払に必要なときのためにそのまま残ります。

単価	通貨コード
2,000.00	CAD
1,297.81	EUR
820.10	GBP
1,277.80	USD

### 通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラムのデータ選択

通常は特定の事業所内のすべての仕入先について、新しい仕入先価格を生成します。異なる通貨を使用する事業所が複数ある場合、通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成プログラム(R4106101)を繰り返し実行できます。また、品目番号やデータ選択の値別などに新しい仕入先価格を生成することも可能です。

購買価格レベル1の品目があり、これらに新しい価格を作成する場合、すべての事業所に新規の価格を生成しないかぎり、データ選択で事業所にブランクを指定してください。

## 代替通貨での仕入先価格の生成

「上級/技術的操作」(G43A31)の「通貨別購買価格の生成」を選択します。

### 通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成(R4106101)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### 処理

次の処理オプションでは、レポートの生成時に使用されるデフォルトの情報を指定します。

1. モード  
プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。値は次のとおりです。  
ブランク: テスト・モード  
1: 最終モード

## 2. 日付

生成する購買価格レコードの指定に使用される日付を指定します。購買価格の有効期日が入力日付以降の場合、新しい購買価格レコードが生成されます。システム日付を使用する場合、この処理オプションを空白にします。

## 通貨処理オプション

この処理オプションでは、通貨のデフォルト情報を指定します。

1. 換算先の通貨コードを入力します。(必須) 換算先に使用する通貨コードを指定します。この処理オプションは必須です。
2. 換算元の通貨コードを入力します。(必須) 換算元に使用する通貨コードを指定します。この処理オプションは必須です。
3. 使用する為替レートを入力します。(必須) 換算用の為替レートを指定します。この処理オプションは必須です。
4. 演算 現在の購買価格を乗算または除算するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
空白: 現行購買価格を為替レートで除算します。  
1: 現行購買価格を為替レートで乗算します。

---

# 仕入先パフォーマンス情報の管理

この項では、仕入先パフォーマンス情報の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕入先納入パフォーマンスの検討
- 仕入先品質パフォーマンスの検討
- 仕入先原価パフォーマンスの検討

## 仕入先パフォーマンス情報について

パフォーマンス情報を検討すると、最適な品目原価とサービスを提供する仕入先を確定できます。パフォーマンス情報には、特定の品目に関する仕入先のサービスの質および請求原価が含まれます。

次の情報に対する特定の仕入先パフォーマンス情報を検討できます。

- 品目の納入
- 品目の合否
- 品目の原価

また、特定の品目を提供するすべての仕入先に関するパフォーマンス情報の集計も参照できます。たとえば、品目Aを提供する仕入先すべての平均単価とリードタイム(納入までの平均日数)を比較できます。

パフォーマンス情報を保管するには、購買オーダー・プログラム(P4310)、入荷確認プログラム(P4312)、買掛金標準伝票入力プログラム(P0411)、および伝票照合プログラム(P4314)のそれぞれの処理オプションを設定して、仕入先分析情報を取り込む必要があります。

F43090およびF43121テーブルから仕入先パフォーマンス情報が取り込まれます。

## 仕入先納入パフォーマンスの検討

仕入先に品目を発注する前に、仕入先がこれまで期日どおりに納入しているかどうかを確認できます。それぞれの会計期間(一般的には月次)における仕入先の期日どおり、期日前、期日後の納品パーセントを検討することにより、仕入先が次回、期日どおりに品目を納入できそうかどうかを判断できます。

期日どおり、期日前、期日後に納入された品目別に、入荷数、金額、入荷回数を検討できます。たとえば、A社から6月に100台の自転車を購入して、10台が期日前、80台が期日どおり、残りの10台は期日後の納入、というように識別できます。金額ベースで納入を検討すると、1,000.00の自転車が期日前納入で8,000.00が期日どおり、というようになります。

ある会計期間の各入荷に対する納入情報を検討できます。たとえば、5回にわたって自転車を20台ずつ入荷し、6月に合計100台の自転車を購入したとします。5回の入荷それぞれに対して、約束日付と納入日付、および期日どおり、期日前、期日後の数量を検討できます。

## 仕入先品質パフォーマンスの検討

仕入先に品目を発注する前に、その仕入先が常に良好な状態で品目を納入しているかどうかを判断できます。各会計期間(一般的には月次)における合格品のパーセントを検討して、仕入先が合格品を納入できそうかどうかを判断できます。

それぞれの会計期間における合格品の数量およびパーセントを検討することもできます。たとえば、トリプルA社から6月に100台の自転車を入荷した場合、95台は合格で、残りの5台は不合格というように検討できます。

また、ある会計期間に入力した入荷ごとに、合格数量を検討することも可能です。たとえば、5回にわたって自転車を20台ずつ入荷し、6月に合計100台の自転車を購入したとします。5回の入荷のそれぞれに関して、品質が合格であるか、不合格であるかを検討できます。

入荷工程を使用して処理した品目のみ合格率をトラッキングすることが可能です。

## 仕入先原価パフォーマンスの検討

会計期間別(一般的には月次)に、仕入先に支払った平均単価を検討できます。この平均単価と購買オーダーの品目平均原価および入荷時の平均原価を比較して、価格が一定しているかどうかを判断できます。

品目に対して支払った原価、入荷原価などのその他の原価間のパーセント差異を計算できます。たとえば、品目の入荷を入力する際に仕入先が指定した平均原価0.50を使用し、請求時の平均原価が1.00だった場合、100%の差異が表示されます。この場合、差異が生じた理由を判断します。支払った原価と比較する原価を指定するには、処理オプションを使用します。

また、品目の在庫原価を検討することもできます。後入先出(LIFO)など、在庫原価を確定するための原価計算方法を指定します。この原価計算方法を使うと、在庫原価に前回入荷分の原価が反映されます。

会計期間に入力した入荷ごとに、原価を検討できます。たとえば、品目の平均原価が10.00だった場合にその品目の各入荷時の原価を検討できます。この場合、入荷原価が9.00である場合も11.00である場合もあります。

## 仕入先パフォーマンス集計情報の検討

品目を購入する際、最適な仕入先を確定するために特定の品目を提供するすべての仕入先に対する様々なパフォーマンス情報を比較できます。たとえば、同一の品目を提供するそれぞれの仕入先に対して、次の情報を比較できます。

- 品目の平均単価
- 品目に支払われた最終原価
- 期日どおり納入パーセント



- 品目の納入にかかる平均日数（リードタイム）

表示する情報を選択してください。

#### 関連項目:

第 7 章、「仕入先情報の設定」、「仕入先分析サマリー (P43230) の処理オプションの設定」、75 ページ

## 事前設定

仕入先パフォーマンス集計情報を検討する前に、次の作業を行う必要があります。

- 平均単位原価、最終支払原価など、「仕入先分析サマリー」フォームで検討できるパフォーマンス係数（カラム）を定義してください。
- 検討するカラムを含むフォーマットを定義し、処理オプションを使ってそのフォーマットを「仕入先分析サマリー」フォームに割り当ててください。
- パス（複数フォーマット）を定義し、処理オプションを使ってそのパスを「仕入先分析サマリー」フォームに割り当ててください。

## 仕入先パフォーマンス情報の管理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
納入分析	W43230L	「仕入先分析」(G43A16)、 「納入分析」	仕入先納入パフォーマンス を検討します。
納入分析詳細	W43230O	「納入分析」フォームで明 細行を選択し、「ロー」メ ニューから「納入詳細」 を選択します。	仕入先納入パフォーマンス を検討します。
入荷明細情報	W43230K	「納入分析詳細」フォーム で入荷を選択し、「ロー」メ ニューから「入荷明細」 を選択します。	入荷明細情報を検討 します。
品質分析	W43230L	「仕入先分析」(G43A16)、 「品質分析」	仕入先品質パフォーマンス を検討します。
品質分析詳細	W43230O	「品質分析」フォームで明 細行を選択し、「ロー」メ ニューから「品質詳細」 を選択します。	仕入先品質パフォーマンス を検討します。
原価分析	W43230L	「仕入先分析」(G43A16)、 「原価分析」	仕入先原価パフォーマンス を検討します。
原価分析詳細	W43230O	「原価分析」フォームで明 細行を選択し、「ロー」メ ニューから「原価明細」 を選択します。	仕入先原価パフォーマンス を検討します。
仕入先分析サマリー	W43230A	「仕入先分析」(G43A16)、 「分析サマリー」	仕入先パフォーマンス集計 情報を検討します。

## 仕入先納入パフォーマンスの検討

「納入分析」フォームにアクセスします。

### 期日入荷数量

会計期間中に当該仕入先から期日どおりに入荷した品目数を入力します。入荷が期日どおりかどうかを判断するために、システムにより入荷日付と約束日付の比較が行われます。これらの日付に差がある場合、早期/遅延納入可能日数を使用して、入荷が期日かどうか判断されます。納入パフォーマンスの許容日数幅(早期/遅延納入可能日数)は、「仕入先/品目関係」フォームで設定します。

たとえば、次のように設定されたオーダーがあるとして。

- 約束日付 - 12月5日
- 入荷日付 - 12月7日
- 遅延納入許可日数 - 3日

12月5日の3日後(12月8日以降)に入荷した場合、そのオーダーは遅延したとみなされます。

このオーダーの場合は12月7日に入荷しているため、期日どおりとみなされます。

## 仕入先品質パフォーマンスの検討

「品質分析」フォームにアクセスします。

### 処分数量

オーダー行の当初数量に変更数量を加算/減算し、その数量から今日までに出荷、入荷、または伝票作成された数量をすべて減算した数量が表示されます。このフィールドには、実際の入荷数量も表示されます。

## 仕入先原価パフォーマンスの検討

「原価分析」フォームにアクセスします。

### 在庫単価

合計金額を単位数量で割った金額、つまり単価が表示されます。

### オーダー単価

仕入先から購入した品目の単位原価が表示されます。この単位原価は、品目の入荷時に記録する実際の単位原価に影響を与える運賃、税、値引きなどの要素は含まれません。

### 原価差異%

支払原価と在庫原価/オーダー原価/入荷原価の間の差異比率が表示されます。

---

## 仕入先および品目分析レコードの更新

この項では、仕入先および品目分析レコードの更新の概要と次の方法について説明します。

- 仕入先および品目分析レコードの更新
- 仕入先/品目関係の再作成(R43900)の処理オプションの設定

## 仕入先および品目分析レコードの更新について

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムの新しいバージョンをインストールした後は、仕入先/品目関係の再作成プログラム(R43900)を実行して仕入先および品目分析レコードを更新する必要があります。それにより、F43121テーブルの入荷データに基づいて、F43090テーブルの新しいフィールドが更新されます。

仕入先/品目関係の再作成プログラムを使用して仕入先および品目分析レコードを更新する際は、新しい仕入先/品目関係に対して入荷工程コードを割り当てることができます。

仕入先/品目関係の再作成プログラムの実行後、購買オーダー、入荷、および伝票を入力する際に、対話形式で仕入先分析情報を管理できます。

---

**重要:** 仕入先/品目関係の再作成プログラムは、JD Edwards EnterpriseOneの新しいリリースをインストールした場合にのみ実行してください。後日データが破損してレコードを更新する必要がある場合は、JD Edwards EnterpriseOneのヘルプ・デスクに連絡してください。

---

## 仕入先および品目分析レコードの更新

「上級/技術的操作」(G43A31)の「仕入先分析の再生成」を選択します。

## 仕入先/品目関係の再作成(R43900)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 経路

この処理オプションでは、仕入先/品目関係の再作成プログラムの経路情報を指定します。

**経路 - 通常の経路コード**      新しい仕入先レコードまたは品目レコードが追加されたときに割り当てるコードを指定します。この処理オプションをブランクにすると、経路コードが割り当てられません。



## 第 18 章

# リベートの処理

この章では、リベートの概要と次の方法について説明します。

- リベート契約の集計情報の検討
- リベートの購買トランザクションの検討
- リベートに適用された数量または金額の変更
- リベート情報の更新

---

## リベートについて

品目やサービスを特定の数量や金額で仕入れると、仕入先によっては現金リベートが支払われる場合があります。JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムを設定して、リベートをトラッキングできます。

リベートをトラッキングするには、それぞれのリベート契約に関する情報を入力する必要があります。オーダーを入力、変更または取り消すと、該当する購買オーダーがリベート契約に対して処理されます。

リベート契約の状況について、次のような情報を参照できます。

- リベートを受領するのに必要な購買
- リベートの対象となった過去の購買
- 各リベート金額

この情報によって、会社が受領できるリベートを識別できます。また、受領できないリベートも識別でき、これにより将来的な価格交渉が変わる場合もあります。

リベート用の購買条件の範囲内に達した場合は、警告するようにメッセージ・センターを設定できます。

---

## リベート契約の集計情報の検討

この項では、リベートの状況に関する情報の概要と、リベート契約の集計情報の検討に使用するフォームについて説明します。

### リベートの状況に関する情報について

仕入先から商品を購入する前に、購買がリベートの対象かどうかを判断することができます。特定の仕入先と結んでいる各リベート契約の集計情報を検討できます。たとえば、次のようなものがあります。

- リベートを取得するために満たさなければならないしきい値

- 契約に対しての累計購買金額
- 次のしきい値に達した場合に取得するリベートの金額
- 契約に複数のしきい値がある場合、前回達成したしきい値
- 取得した累計リベート金額

また、個々の購買トランザクションを参照できる契約を選択することも可能です。

累計されてリベート契約に対して適用された購買数量または購買金額の合計が間違っていることがわかった場合、数量や金額を変更できます。

契約について取得された購買およびリベート金額の累計は、F4340テーブルから読み込まれます。リベート契約のトランザクション明細は、F4343テーブルから取得されます。

リベートを受け取る資格があるかどうか、または特定のリベートをまもなく取得するかどうかを判断することがあります。それぞれの契約について次の点を検討します。

- リベートのために必要な購入
- 購買の累計数量または累計金額
- 取得可能なリベート金額

また、有効期限や前回達成したリベートしきい値、これまでに受け取ったリベート金額など、契約の情報を参照できます。

## リベート契約の集計情報の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
リベート実績照会の処理	W43243A	「価格管理」(G43A17)、「リベート実績集計照会」	リベート契約の集計情報を検討します。 リベート履歴の処理を行います。
リベート実績明細	W43243B	「リベート実績照会の処理」フォームで顧客のローを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	リベート履歴の詳細を参照します。

## リベートの購買トランザクションの検討

リベートに対して適用された個々の購買トランザクションに関する情報を検討する場合があります。契約に固有のオーダー明細行のトランザクション、およびトランザクションが入力された購買オーダーを表示できます。

この項では、リベートの購買トランザクションの検討に使用するフォームについて説明します。

## リベートの購買トランザクションの検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
リベート実績照会の処理	W43243A	「価格管理」(G43A17)、「リベート実績明細照会」	リベート履歴の処理を行います。
リベート実績明細	W43243B	「リベート実績照会の処理」フォームで顧客のローを選択して、「選択」ボタンをクリックします。	リベート履歴の詳細を参照します。

## リベートに適用された数量または金額の変更

この項では、購買数量または金額の概要と、リベートに適用された数量または金額の変更方法を説明します。

### 購買数量または金額について

累計されてリベート契約に適用された購買数量または金額が正しくないことがあります。たとえば、購入したリベート品目の一部を返品している場合があります。新しい購買数量または金額を入力することで、現在の計算内容を一時変更できます。

数量や金額を変更する際は、調整を行う理由を説明するメモを追加することもできます。

## リベートに適用された数量または金額の変更を使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買契約の処理	W4340A	「価格管理」(G43A17)、「購買リベート契約」	購買契約の処理を行います。
リベート調整の改訂	W4340C	「購買契約の処理」フォームで仕入先を選択して、「ロー」メニューの「リベート調整」を選択します。	リベートに適用された数量または金額を変更します。

## リベートに適用された数量または金額の変更

「リベート調整の改訂」フォームにアクセスします。

### 購買金額

累計購買金額が表示されます。この累計金額は、リベート契約が購買金額に基づくようにしきい値タイプを設定した場合に自動的に更新されます。

### 購買数量

累計の購買数量(合計数量)が表示されます。この累計数量は、リベート契約が数量に基づくようにしきい値タイプを設定した場合に自動的に更新されます。

## リベート情報の更新

この項では、リベート情報の更新方法の概要と、次の方法について説明します。

- リベート・レポートの実行
- リベート・レポート(R43400)の処理オプションの設定

### リベート情報の更新方法について

リベート・バッチ・レポート・プログラム(R43400)は、次の処理を行う場合に実行する必要があります。

- リベートを受け取る資格があるかどうかを自動的に判断する。
- リベート担当者に電子メール・メッセージを送信する。

リベート契約の対象となる購買数量と金額は、システムによりトラッキングされます。この数量または金額をリベートの取得に必要な数量および金額と自動的に比較するには、リベート・バッチ・レポート・プログラムを実行する必要があります。

リベート契約の購買条件を満たしたり、条件を満たす特定の範囲に入ったときに、リベートの担当者に自動的にメッセージを送信することができます。たとえば、リベートの取得に100の品目を購入する必要がある場合、90の品目を購入した時点でリベートの担当者にメッセージを送ると便利です。

自動的にメッセージを送信するには、リベート・バッチ・レポート・プログラムを実行する必要があります。処理オプションを使用して、メッセージを送信するかどうかを指定したり、範囲を定義します。たとえば、リベートの取得に必要な100の品目のうち90までを購入したときにメッセージを送信する場合、範囲に10%と入力します。

リベート担当者へのメッセージには、次の情報が表示されます。

- 仕入先番号
- 契約順序番号
- しきい値金額
- 実際の購買
- 有効終了日付

各リベート契約についてリベート担当者を指定できます。

### リベート・レポートの実行

「入金照合/転記」(G43A15)の「リベート・レポート」を選択します。

### リベート・レポート(R43400)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### メッセージ

**メッセージ** 契約管理者にメッセージを送信するには、1を入力してください。ブランクの場合、メッセージは送信されません。

**パーセント** メッセージを送信するためのしきい値内パーセントを入力してください。ブランクの場合、10%が使用されます。



**明細****リベート実績明細**

リベート実績明細を印刷するには、1を入力してください。ブランクの場合には明細は印刷されません。



## 第 19 章

# オーダーの更新

この章では、オーダーの更新の概要と次の方法について説明します。

- 状況コードの更新
- 購買日付の改訂

---

## オーダーの更新について

オーダーを入力した後に変更が生じた場合、入力済の購買オーダーを改訂できます。たとえば、迅速に購買オーダーを充当する必要がある場合、手作業で状況コードを更新することにより、いくつかの通常の購買処理を省略できます。オーダーを延期する場合や仕入先が約束日付までに納品できない場合は、要求日付または約束日付を改訂できます。また、在庫を検討し、再発注する品目に対して購買オーダーを作成することもできます。

---

## 状況コードの更新

この項では、状況コードの更新の概要と次の方法について説明します。

- 状況スピード更新 (P43025) の処理オプションの設定
- 状況コードの更新

### 状況コードの更新について

明細行は、それぞれの行に割り当てられた前状況コードおよび次状況コードに基づき、購買オーダー処理サイクルで処理されます。明細行が処理サイクルのステップを完了した時点で、状況コードが更新されます。

明細行に対する次状況コードを手作業で更新すると、必要に応じて、特定のステップを省略できます。

明細行を完了に更新するには、オーダー入力プログラム (P4310) を使用する必要があります。

### 状況コードの更新に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
購買状況のスピード更新	W43025A	「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「状況コードの更新」	状況コードを更新します。

## 状況スピード更新(P43025)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト値

1. デフォルトのオーダー・タイプを入力します。 伝票のタイプを識別するユーザー定義コード(UDC 00/DT)の値を入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。仕入先請求書、請求書、入荷確認書、タイム・シートの伝票タイプ・コードは予約されていて、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプは事前定義されています。この伝票タイプは変更しないでください。  
P: 買掛金伝票  
R: 売掛金伝票  
T: 給与計算伝票  
I: 在庫伝票  
O: 購買オーダー処理伝票  
J: 一般会計/共有利息請求伝票  
S: 受注オーダー処理伝票
2. デフォルトの前状況コードを入力します。 処理サイクルにおいてこのオーダー行が正常に完了した最後のステップを指定するユーザー定義コード(40/AT)を入力します。
3. デフォルトの次状況コードを入力します。 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定する値をUDC 40/ATから入力します。
4. デフォルトの更新次状況コードを入力します。 行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定する値をUDC 40/ATから入力します。
5. 次状況コードを更新しない場合は"1"を入力します。 更新次状況コードを保護するには、"1"を入力します。

### バージョン

- 購買オーダー入力のバージョンを入力します。 使用される購買オーダー・入力のバージョンを指定します。

## 状況コードの更新

「購買状況のスピード更新」フォームにアクセスします。

### 次状況

当該オーダー・タイプの処理サイクルにおける次の標準的なステップを指定する値をUDC 40/ATからを入力します。処理サイクルのステップは、「オーダー処理規則」フォームで設定します。

## 購買日付の改訂

この項では、購買日付の改訂の概要と、購買日付の改訂 (P43100) の処理オプションの設定方法について説明します。

### 購買日付の改訂について

オーダーの入力後に、オーダーの要求日付または約束日付が変更されることがあります。手作業で同時に複数のオーダーについてこれらの日付を改訂することもできます。

要求日付または約束日付を変更すると、変更した日付はF4311テーブルに記録されます。品目が入荷済の場合は、F43121テーブルの日付は変更されません。

### 購買日付の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
納期の改訂	W43100C	「オーダーの生成/承認/リリース」(G43A13)、「購買日付の改訂」	購買日付を改訂します。

### 購買日付の改訂 (P43100) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト

この処理オプションでは、処理に使用されるデフォルト情報を入力できます。

#### 状況コード - 次

行タイプのオーダー・フローにおける次のステップを指定するユーザー定義コード (40/AT) を指定します。

#### セルフサービス

この処理オプションでは、セルフサービス機能を有効にするかどうかを指定します。

#### 変更した約束日付のワークフローを使用できるようにします。

仕入先がインターネットで約束納入日を変更したときに、購買担当者 (購買担当者番号が見つかった場合) またはオーダー入力者 (購買担当者番号が見つからなかった場合) のいずれかに電子メール・メッセージを送信するかどうかを指定します。変更された約束納入日を購買担当者またはオーダー入力者が承認すると、購買オーダーの約束日付および次状況コードが更新されるか (一時変更用次状況コードが設定されている場合)、または約束日付のみ更新されます。値は次のとおりです。

ブランク: 電子メールを送信しません。

1: 承認のために購買担当者またはオーダー入力者に電子メールが送信されます。



## 第 20 章

# 購買オーダー・コミットメントの処理

この章では、コミットメント処理の概要と、オーダーのコミットメント情報の検討方法、コミットメント整合性の検証プロセス、および次の方法について説明します。

- コミットメントおよび債務の処理
- コミットメント整合性レポートの実行
- 購買金額 (PA) 元帳明細レコードの除去
- コミットメント監査証跡の再作成
- 作業へのコミット済原価の転記
- 債務繰越の実行

---

## コミットメント処理について

コミットメントとは、将来の債務に対する認識です。公共部門および政府の場合、コミットメントは債務といえます。コミットメントまたは債務は、商品やサービスのオーダーが総勘定元帳に計上されたときに作成されます。コミットメント購買オーダーは、非在庫購買オーダー入力またはサービス/経費購買オーダー入力を使用して作成します。オーダー明細行を入力するたびに、支払義務のある金額をトラッキングし、作業またはプロジェクトに充当できます。

たとえば、再舗装のプロジェクトを手がけているとします。このプロジェクトを完了するために商品やサービスを入力するたびに、オーダー金額に対してコミットメントや債務を自動作成できます。

さらに、コミットメントまたは債務を次の会計年度に繰り越すことも可能です。

たとえば地方自治体は通常、会計年度内で予算を消化する必要があります。このため、購買オーダーおよび外注契約の未決済残高はしばしば会計年度末に取り消されることになります。購買オーダーおよび外注契約がこのように取り消されることを防ぎ、未決済残高を維持しておくためには、次会計年度にこの残高を繰り越す必要があります。

コミットメントは、予算や適切な経費として請求対象になる商品/サービスの発注および契約が成立したときに作成されます。コミットメントは商品/サービスを受領したときにリリースされ、これにより入荷請求仮勘定レコードか買掛元帳レコードが作成されます。

作業またはプロジェクトのコミットメントをそれぞれモニタリングして、実行中の購買タイプを検討できます。また、作業またはプロジェクトのコミットメント総額を検討し、予算を超過していないか検証することも可能です。

コミットメントおよび債務の作成とリリースには、コミットメント元帳の更新 (X00COM) というファンクショナル・サーバーのプログラムを使用します。コミットメント元帳の更新 (X00COM) を使用して、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理システム用のコミットメント・レコードが作成されます。

**注意:** システムでは、ユーザー定義コード(UDC)テーブル(40/CT)で定義されている伝票タイプのコミットメントおよび在庫インターフェイスA、B、またはCを使用する行タイプのコミットメントのみ作成可能です。

## 債務またはコミットメントの作成

次のいずれかのプログラムを使用してオーダー明細行を作成できます。

- 購買オーダー(P4310)
- 一括オーダー・リリース(P43060)

オーダー明細行を作成するには、ユーザー定義コード・テーブル(40/CT)に伝票タイプが設定されて行タイプにA、B、またはCの在庫インターフェイスがあることが確認された上で、債務とコミットメントが自動作成されます。

購買要求から購買オーダーを作成する場合は、債務に加えて予定債務をトラッキングできます。予定債務とは将来の債務を認識しておくことで、そこから購買要求に基づいて予算をコミットします。購買要求から購買オーダーを生成すると、数量をリリースして購買要求を締める際に予定債務もリリースされます。さらに、購買オーダーを生成すると、生成された購買オーダーの金額についてコミットメントが作成されます。

## 債務またはコミットメントのリリース

コミットメントは、入荷時(3方向伝票照合)または伝票作成時(2方向伝票照合)にリリースされます。購買オーダー行の取消、商品の入荷、または購買伝票の作成時に、自動的にコミットメントをリリースできます。この作業処理を実行すると、作業またはプロジェクトのコミットメント合計金額からそれぞれのコミットメント金額が減算されます。

次の項目を対象にして元帳転記プログラムを実行する場合には、作業原価固定情報プログラム(P0026)のコミットメント・リリース固定情報を使用して、未決済コミットメントを自動的にリリースする際の基準を指定します。

- 2方向で照合した伝票
- 3方向で照合した入荷確認

オーダーを入荷したり伝票を発行しただけではコミットメントはリリースされません。総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)により、コミットメント元帳の更新プログラム(X00COM)が呼び出され、コミットメントがリリースされます。これにより、コミットメント金額が購買金額元帳(PA)からリリースされ、実績元帳(AA)に追加されます。

伝票または入荷が転記されると、次の処理が実行されます。

- コミットメントをリリースする。
- 購買オーダー明細実績テーブル(F43199)に監査証跡が作成される。
- 勘定残高元帳の金額を再計算する(該当する場合)。
- 選択した購買オーダーの為替レートを変更し、コミットメント金額の国内通貨金額を再計算する(該当する場合)。

コミットメントをリリースする際は、当初の購買オーダーの元帳日付ではなく、入荷情報の元帳日付が使用されます。

「行タイプ固定情報の改訂」フォームで「伝票で経費処理」が選択されている場合、伝票照合バッチの転記時にコミットメントがリリースされます。これは、2方向および3方向の伝票照合に適用されます。「伝票で経費処理」は2方向の照合と同じように機能します。費用は3方向の照合として伝票処理されますが、入荷からの元帳レコードがないため、伝票で経費処理は2方向の照合と同様に機能します。このため、入荷金額ではなく伝票金額に対してコミットメントがリリースされます。



参照: 第 6 章、「調達管理システムの設定」、「オーダー行タイプについて」、27 ページ

### コミットメントおよび債務で使用するテーブル

コミットメント情報は、オーダー入力や入荷処理、伝票照合の際に調達管理システムのテーブルに書き込まれるとともに、次のテーブルにも保管されます。

- 購買オーダー明細実績テーブル (F43199)
- 勘定残高 (F0902)

### F43199 テーブル

F43199 テーブルには、複数のエントリが作成されます。変更オーダーやオーダー処理規則、コミットメントに基づいて、次の複数の元帳がシステムにより管理されます。

- 購買元帳
- コミットメント監査証跡 (PA/PU 元帳)
- 変更オーダー元帳 (CO 元帳)

コミットメントをトラッキングしている場合は、コミットメントのトランザクションの監査証跡が F43199 テーブルに作成されます。コミットメント金額は購買金額元帳 (PA) で、コミットメント数量は購買数量元帳 (PU) で管理します。PA 元帳や PU 元帳の前状況コードおよび次状況コードのフィールドは、購買履歴とは違ってブランクです。

コミットメント・レコードには、次のいずれかの状況が割り当てられます。

- 当初コミットメント項目
- コミットメントの変更
- 取消済コミットメント
- 入荷または支払によりリリースされたコミットメント

### F0902 テーブル

オーダー入力時には、コミットメント仕訳が F0902 テーブルの PA 元帳と PU 元帳に作成されます。元帳日付に基づいて正しい会計期間に仕訳が作成され、コミットメント金額が合計予算金額に追加されます。

コミットメント・リリース固定情報が Y に設定してあると、受領した金額は F0902 テーブルの PA および PU 元帳に転記されます。入荷 (3 方向照合) または伝票バッチ (2 方向照合) の元帳日付に基づいて、適切な会計期間からコミットメントと合計予算金額がリリースされます。

---

**注意:** コミットメント・リリースは、仕訳の転記時にのみ発生します。

---

## オーダーに対するコミットメント情報の検討方法について

作業やプロジェクトのコミットメントまたは債務金額を検討することにより、購買状況を確認できます。また、作業やプロジェクトのコミットメント合計または債務合計を検討して、予算を超過していないか確認することもできます。

コミットメントは、商品やサービスの入荷後または支払伝票作成後にリリースできます。これによって、作業またはプロジェクトのコミットメント合計からリリース分が差し引かれます。正式な入荷処理を使用している場合、総勘定元帳に入荷または支払伝票を転記する際にコミットメントがリリースされます。非公式の入荷処理の場合は、支払伝票を転記した際にリリースされます。

UDCテーブル(40/CT)で指定するオーダー・タイプについてのみ、コミットメントおよび債務のトラッキングは実行されます。オーダーが保留になっている場合、保留が解除されるまでオーダーのコミットメントまたは債務は作成されません。

総勘定元帳勘定科目コードに直接計上する明細行のコミットメントおよび債務だけがトラッキングされます。これらは、在庫インターフェイスの行タイプとしてAまたはBが割り当てられた明細行です。

コミットメントのトラッキングが適用できる購買明細行を作成するたびに、国内通貨でのコミットされた購買金額を含む購買金額(PA)元帳、およびコミット済の購買数量を含む購買数量(PU)元帳に金額が記録されます。

次のような項目に対して、個別にコミットメントを検討できます。

- 事業所
- 勘定科目コード
- 仕入先
- オーダー番号およびタイプ

また、前述の項目に対するコミットメント合計額、リリース済コミットメント、未決済コミットメントも検討できます。

コミットメント・レコードには、次のいずれかの状況が割り当てられます。

- 当初コミットメント項目
- コミットメントの変更
- 取消済コミットメント
- 入荷または支払によりリリースされたコミットメント

トランザクションの生成者および時期や、勘定科目コード、オーダー番号、行番号など、各トランザクションの詳細を検討できます。

コミットメント・トランザクション情報はF43199テーブルから取得されます。

---

## コミットメント整合性の検証プロセスについて

コミットメントおよび債務のコミットメント整合性を確実にするには、次を実行します。

- コミットメント整合性レポート(R40910)の実行
- PA元帳明細レコードの除去
- コミットメント監査証跡の再作成
- 作業へのコミット済原価の転記

コミットメント整合性レポート(R40910)は必ずテスト・モードで実行し、最終モードでは決して実行しないでください。レポートに差異が表示されている場合、除去/再作成/転記処理を実行することをお勧めします。

除去/再作成/転記処理は、勘定残高(F0902)テーブル、購買オーダー明細実績(F43199)テーブル、および購買金額(PA)元帳レコード・テーブルのデータ整合性問題を修正する際に役立ちます。

除去/再作成/転記を目的としてコミットメント整合性レポートを実行する場合、レポート上で整合性に問題がありそうな勘定科目のPA元帳レコード(会計年度ごと)のみ削除します。

この処理では、次の3つのバッチ・アプリケーションが実行されます。

- 購買実績の除去 (R43199P)
- F43199コミットメント監査証跡の作成 (R00993)
- コミット済原価の再転記 (R00932)

この処理では、購買金額 (PA) 元帳レコードが削除され、購買オーダー明細実績テーブル (F43199) に再度書き込まれます。さらに、購買オーダー明細 (F4311) および入荷確認 (F43121) レコードに基づいて、金額が勘定残高テーブル (F0902) に再転記されます。

## コミットメントおよび債務の処理

この項では、事前設定および次の方法について説明します。

- コミットメント照会 (P40230A) に対する処理オプションの設定
- オーダーに対するコミットメント情報の検討

### 事前設定

コミットメントおよび債務を処理する前に、次の作業を行います。

- UDCテーブル (40/CT) に予定債務およびコミットメント用伝票タイプを設定します。
- コミットメントをリリースするには、その会社またはF0026テーブルの会社00000についてコミットメント・リリースの値を設定します。

参照: 第 9 章、「購買オーダー・コミットメントの設定」、「コミットメントのトラッキング設定」、91 ページ

### コミットメントおよび債務の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
コミットメント照会の処理	W40230AA	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「購買照会」(G43B112)、 「コミットメント照会」</li><li>• 「購買照会」(G43C112)、 「債務照会」</li><li>• 「外注照会」(G43D112)、 「コミットメント照会」</li></ul>	オーダーに対するコミットメントの情報を検討します。  コミットメント照会を処理します。

### コミットメント照会 (P40230A) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト

この処理オプションでは、コミットメント照会に使用するデフォルト情報を指定します。

#### オーダー・タイプ

伝票タイプを識別する値をUDC 00/DTから入力します。このコードはトランザクションの発生元も示します。伝票、請求書、入金、およびタイムカードの伝票タイプのコードはあらかじめJD Edwards EnterpriseOneによって予約されており、転記プログラム実行時に自動的に相殺仕訳が作成されま

す。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプがJD Edwards EnterpriseOneによって事前定義されています。変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー処理伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー処理伝票

## 表示

この処理オプションでは、表示する情報のタイプを指定します。

**コミットメント以外の変更  
オーダーには「1」を入力  
してください。**

値を入力して、変更オーダーまたはコミットメントの表示を指定します。  
変更オーダーを実行するには「1」を入力します。

## バージョン

この処理オプションでは、システムで使用される様々なプログラムのバージョンを指定します。

**購買オーダー入力(P4310)** 購買オーダー入力プログラムにアクセスする際に使用するバージョンを指定します。

## オーダーに対するコミットメント情報の検討

「コミットメント照会の処理」フォームにアクセスします。

コミットメント照会 - コミットメント照会の処理

選択(S) 検索(I) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

オーダーNo.

\*

OP

\*

勘定科目

\*

補助元帳タイプ

\*

\*

開始元帳日付

\*

から

\*

事業所

\*

未決済数量合計

1220

未決済金額合計

1,162,672.00

☐ オーダー集計

レコード 1 - 63

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	オーダーNo.	オーダータイプ	オーダー会社	変更No.	行番号	配賦行No.	仕入先	記述	コミット金額	リリース金
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4502	OP	00001	000	1.000		4344	Materials for Potomac Hotel	100,225.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4502	OP	00001	000	2.000		4344	Materials for Potomac Hotel	135,265.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4502	OP	00001	000	3.000		4344	Materials for Potomac Hotel	89,525.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4503	OP	00001	000	1.000		4344	Materials for Potomac Hotel	256,840.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4503	OP	00001	000	2.000		4344	Materials for Potomac Hotel	357,200.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4503	OP	00001	000	3.000		4344	Materials for Potomac Hotel	27,310.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4515	OP	00001	000	1.000		4344	Subcontracts	80.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4515	OP	00001	000	2.000		4344	Subcontracts	45.00	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4524	OP	00001	000	1.000		4344	Other Materials	2,250.00	

「コミットメント照会の処理」フォーム

## コミットメント整合性レポートの実行

この項では、コミットメント整合性レポートの概要と次の方法について説明します。

- コミットメント整合性レポートの実行
- コミットメント整合性レポート(R40910)の処理オプションの設定

### コミットメント整合性レポートについて

コミットメント整合性レポートを実行して、発注残の金額をコミットメント金額および残額と比較したり、差額を検討できます。

コミットメント整合性レポート(R40910)には、次のレコードの差異が表示されます。

- 購買オーダー明細テーブル(F4311)と購買オーダー明細実績レコード(F43199)のPA元帳タイプ
- 購買オーダー明細実績レコード(F43199)のPA元帳タイプと勘定残高テーブル(F0902)

テーブル間の貸借不一致を判断するのに2つの比較方法が使用されます。

まず、購買オーダー明細テーブルと監査テーブルが累計ベースで比較されます。この場合、日付に関係なくテーブルの全データが合計されます。購買オーダー明細テーブルは日付に左右されないため、未決済金額に変更を加えた日付などのデータは保存されません。

監査テーブルと残高テーブルは、期間末を基準に比較されます。システムは1番目の処理オプションに入力された日付を使用して期間末の日付を決定します。残高テーブルに保存される最小の詳細レベルが期間であるため、この比較は期間に左右されます。

レポート左側の累計残高の下にあるカラムは、購買オーダー明細 (F4311)、購買オーダー明細実績 (F43199) および差異です。勘定科目と補助元帳別に記載される金額は、それぞれ次のとおりです。

- 購買オーダー明細テーブルの未決済金額
- コミットメント監査証跡の合計額
- 2つのカラムの差額

レポート右側の基準日の下にあるカラムは、購買オーダー明細実績 (F43199)、勘定残高 (F0902)、および差異です。勘定科目と補助元帳別に記載される金額は、それぞれ次のとおりです。

- コミットメント監査証跡の合計額
- 勘定残高の合計額
- 2つのカラムの差額

次の条件下では、F4311テーブルとコミットメント監査証跡の間で差異が生じます。

- 入荷や伝票バッチが転記されていない  
タイプOとVのバッチがすべて転記済かどうかを確認するには、未転記のバッチ・レポート (R007011) を実行してください。
- 予算保留のオーダー  
オーダーが予算保留の状態では債務は作成されません。

コミットメントに不一致が見つかったが解決できないときは、PA元帳でデータを修正できます。PA元帳とPU元帳のレコードは、F4311テーブルに基づいています。F4311テーブルからこのデータを再作成することにより、F0902テーブルの貸借不整合を修正できます。

---

**注意:** コミットメント整合性レポートは必ずテスト・モードで実行し、最終モードでは決して実行しないでください。レポートに差異が表示されている場合、除去/再作成/転記処理を実行することをお勧めします。

---

## コミットメント整合性レポートの実行

「購買レポート」(G43C111)の「債務整合性レポート」を選択します。

または、「購買レポート」(G43B111)で「コミットメント整合性レポート」を選択します。

## コミットメント整合性レポート (R40910) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、処理に使用されるデフォルト情報を指定します。

**1. 監査証跡ファイルと勘定残高ファイルの比較に使用する有効日付を入力します。**

レコードの検索で使用する開始日付を識別する日付を指定します。指定した日付以降の全レコードが戻されます。ブランクにすると、今日の日付がデフォルトで使用されます。

## 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を指定します。

### 1. コミットメント差異の表示

コミットメント差異を持つ勘定科目のみを印刷するかどうかを指定します。この処理オプションをブランクにした場合、差異の有無にかかわらず、すべての勘定科目が印刷されます。値は次のとおりです。

ブランク: コミットメント差異の有無にかかわらず、すべての勘定科目が印刷されます。

1: コミットメント差異があるすべての勘定科目が印刷されます。

### 2. 処理モード

プログラムをテスト・モードまたは最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードの場合、当日までの購買オーダー明細テーブル (F4311) と購買オーダー明細実績 (F43199) が比較され、さらに「有効日付」処理オプションに基づいて、F43199 テーブルと勘定残高テーブル (F0902) が比較されます。最終モードの場合、これらの比較が表示され、差異がなくなるように F43199 および F0902 テーブルに一時レコードが書き込まれます。なるべく除去、再作成、および再転記プログラムを実行して、すべてのレコードの差異を調整してください。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モード

1: 最終モード

**3. 製造の債務を表示するには「1」を入力してください。**

製造作業オーダーに関連する会計債務を処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーおよび外注に関連する会計債務のみ処理します。

1: 購買オーダー、外注、および製造作業オーダーに関連する会計債務を処理します。

## PA元帳明細レコードの除去

この項では、PA元帳明細レコードの除去の概要と次の方法について説明します。

- PA元帳明細レコードの除去
- 購買実績 (F43199) の除去 (R43199P) の処理オプションの設定

### PA元帳明細レコードの除去について

購買実績 (F43199) の除去 (R43199P) プログラムでは、購買オーダー明細実績テーブル (F43199) から既存のPA元帳タイプのレコードが除去されます。

システムおよびデータに対する深刻な損害を防ぐために、PA元帳タイプのレコードのみ選択するよう選択条件を指定します。レコードを除去する前に、影響のあったファイルのバックアップを作成してください。購買実績(F43199)の除去プログラムの実行中は、購買オーダー明細実績テーブル(F3199)にアクセスできないようにする必要があります。

---

**注意:** データ選択は、LT(元帳タイプ) = PAです。

---

## PA元帳明細レコードの除去

「テーブル・ファイルの除去」(G43A311)の「購買実績(F43199)」を選択します。

## 購買実績(F43199)の除去(R43199P)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を指定します。

- |                        |  |
|------------------------|--|
| <b>1. 除去レコードのアーカイブ</b> | 除去したレコードを保管するかどうかを指定します。値は次のとおりです。<br>ブランク: 除去レコードを保管しません。<br>1: 除去レコードを保管します。                             |
| <b>2. アーカイブ環境</b>      | 除去レコードを保管する環境を入力します。この処理オプションは、除去レコードを保管する場合に必要になります。保管先の環境およびデータ・ソースは、ソースの環境およびデータ・ソースと異なるものを指定する必要があります。 |
| <b>3. アーカイブ・テーブル名</b>  | 除去レコードを保管するテーブル名を入力します。この処理オプションをブランクにした場合、除去されるテーブルの名前が使用されます。このテーブルは、除去プログラムによって作成されます。                  |

---

## コミットメント監査証跡の再作成

この項では、コミットメント監査証跡の概要、事前設定、および再作成方法について説明します。

### コミットメント監査証跡について

コミットメント監査証跡はコミットメント残高の履歴です。購買オーダーの金額をトラッキング、変更するために、たとえば、コミットメント監査が証跡を作成することがあります。

次のテーブル間でデータの不整合があった場合には、コミットメント監査証跡を修正できます。

- F4311
- F43199
- F0902

JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムをインストールした後にビジネス・ニーズが変化した場合、オーダーに対するコミットメント監査証跡の作成が必要になることがあります。F43199コミットメント監査証跡の作成プログラム(R00993)を実行することにより、コミットメント残高履歴を作成できます。



F43199コミットメント監査証跡の作成プログラムを実行すると、勘定科目コードを持つオーダーに対してコミットメントの監査証跡レコードが作成されます。監査証跡を作成すると、F4311テーブルが読み込まれ、F43199テーブルに1行ずつ監査証跡データが書き込まれます。監査証跡を持つ購買オーダーは、F43199テーブルで元帳タイプがPAになっています。

コミットメント伝票タイプ(40/CT)のユーザー定義コード・テーブルで指定された伝票タイプを持つ明細行だけが処理されます。既存の監査証跡を持つレコードについては、監査証跡は作成されません。コミットメントを再作成するには、まず既存のレコードを除去してください。

## 事前設定

F43199テーブルに現在あるコミットメントのデータを除去する必要があります。購買金額元帳のデータのみを削除するよう注意してください。

参照: 第 22 章、「データの除去」、「データの除去」、358ページ

コミットメント監査証跡を作成する前に、次の事項を実行します。

- 不整合データが、F0902テーブルではなく、F43199テーブルにあることを確認してください。不整合データがF0902テーブルのみにある場合、コミット済原価の再転記プログラム(R00932)を実行して不整合を修正し、F0902テーブルに再転記できます。

---

**注意:** コミットメント整合性レポート(R40910)の実行でも、コミットメント整合性を確認できます。

---

- F4311テーブル、F43199テーブルおよびF0902テーブルをバックアップします。

## コミットメント監査証跡の再作成

「コミットメントの設定/再作成」(G43B411)の「コミットメント監査証跡の作成」を選択します。

または、「債務の設定/再作成」メニュー(G43C411)の「債務変更履歴の作成」を選択します。

次のテーブル間でデータの不整合があった場合には、コミットメント監査証跡を修正できます。

- F4311
- F43199
- F0902

コミットメント監査証跡を修正するには、新規のコミットメント監査証跡のコミットメント金額が重複しないように現行のコミットメント監査証跡を除去する必要があります。F43199テーブルでPAの元帳タイプを持つレコードのみ除去し、“前の状況”および“次の状況”はブランクにします。次のデータ辞書エイリアスを選択します。

- 元帳タイプ(LT)
- 次の状況(NXTR)
- 前の状況(LTTR)

---

**重要:** 除去するレコードの選択には細心の注意を払ってください。F43199テーブルには、購買元帳(元帳タイプ: ブランク)、変更オーダー元帳(CO)、繰越(RO)およびコミットメント・レコード(PA/PU)が含まれます。購買元帳や変更オーダー元帳、繰越元帳のレコードは、いったん除去すると復元はできません。

---

**注意:** 除去された監査証跡が新規に作成される際に使用する情報を、選択基準を使用して限定できません。たとえば、勘定科目コード、契約番号、オーダー番号を使用できます。監査証跡を除去する際に使用するデータ選択は、監査証跡を新規作成する際に使用する基準と同じものである必要があります。同じでない場合、予期しない結果となることがあります。

F43199テーブルを除去した後は、新規のコミットメント監査証跡を作成してください。発注残および終了オーダーの両方について、F4311テーブルのレコードから新しい監査証跡が作成されます。発注残には、当初コミットメント金額および部分的にリリースした金額に対する監査証跡レコードがあります。各オーダーに対して部分的にリリースされたレコードはすべて、1つのリリース・レコードとしてまとめられます。終了オーダーには、コミットメント監査証跡に転記された2つのレコードが記録されます。これは、当初コミットメント金額とコミットメント・リリースに関するレコードです。

新規の監査証跡を作成した後に、コミット済原価の再転記プログラム (R00932) を実行して、購買金額 (PA) 元帳レコードを勘定残高テーブルに再転記します。これにより、監査証跡に新規情報が追加され、勘定残高テーブルに金額が転記されます。

## 作業へのコミット済原価の転記

この項では、作業へのコミット済原価の転記の概要と次の方法について説明します。

- 作業へのコミット済原価の転記
- コミット済原価の再転記 (R00932) の処理オプションの設定

### 作業へのコミット済原価の転記について

作業原価をトラッキングするには、コミット済原価の作業への転記プログラム (R00932) を実行してください。このプログラムを実行すると、PA元帳とPU元帳に対するF0902テーブルの金額が再計算されます。また、F43199テーブルの情報を基にF0902テーブルの月次金額も再計算されます。

最も効率的に処理するために、データ選択を限定します。バッチ・アプリケーションは、勘定科目マスター (F0901) 上で実行されます。次のパラメータを使用して、データ選択を行います。

- AID (勘定科目ID)
- CO (会社)
- MCU (ビジネスユニット)
- OBJ (主科目)
- SUB (補助科目)

### 作業へのコミット済原価の転記

「コミットメントの設定/再作成」(G43B411) の「コミット済み原価の作業への転記」を選択します。

または、「債務の設定/再作成」(G43C411) の「債務の転記」を選択します。

または、「外注管理セットアップ/再作成」(G43D411) の「コミット済み原価の転記」を選択します。

### コミット済原価の再転記 (R00932) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

## 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を指定します。

1. 開始会計年度      コミット済原価の再転記を開始する会計年度を指定します。この処理オプションをブランクにすると、ゼロが入力され、開始会計年度が00になります。会計期間が終了する年ではなく、最初の期間が終了する年を指定します。たとえば、会計年度を2008年10月1日から2009年9月30日までとします。最初の期間が2008年10月31日に終了する場合、「09」ではなく、「08」と指定します。
2. 終了会計年度      コミット済原価の再転記を終了する会計年度を指定します。この処理オプションをブランクにすると、開始会計年度が使用されます。
3. 製造債務を処理するには"1"を入力してください。      製造作業オーダーに関連する会計債務を処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。  
 ブランク: 購買オーダーおよび外注に関連する会計債務のみ処理します。  
 1: 購買オーダー、外注、および製造作業オーダーに関連する会計債務を処理します。

## 債務繰越の実行

この項では、債務繰越の実行の概要と次の方法について説明します。

- 債務繰越の実行
- 債務繰越(R4317)の処理オプションの設定

## 債務繰越について

債務繰越プログラム(R4317)では、自動化されたバッチ処理により、前年度の債務を現行年度に繰り越すことができます。前年度の残金は現行年度に繰り越さなければ消えるため、正しく予算作成を行うためにこの処理を実行する必要があります。このプログラムは、これらの繰越額の正確な監査証跡を表示する他に、新旧の関連情報が表示されるレポートも作成します。この繰越により、大量の取引を処理する場合に必要な手間が省けます。

債務繰越プログラムは、次の処理を行います。

1. 購買オーダー明細テーブル(F4311)の行の更新  
 購買オーダーまたは外注契約のコミットメントの行を取り消して、支払処理がこれ以上実行されないようにする。  
 外注契約の場合は除去コードをRにしてください。購買オーダーの場合、自動的に「次の状況」が999(終了)になります。
2. 勘定残高テーブル(F0902)の現行年度の勘定科目をコミット解除し、新年度の勘定科目を再コミットする。  
 これらの行は繰越用に作成された新しい勘定科目に割り当てられます。この勘定科目は、流通AAI 4430によって制御されます。
3. 履歴レポート(R4317)を作成する。
4. 購買オーダー明細実績テーブル(F43199)に実績レコードを作成する。

コミットメントのリリースを指して「引当て解除」という言葉を使うケースもあります。コミットメントや債務をリリースまたは引当て解除すると、元帳タイプがRO（繰越）のレコードが自動作成されます。ROタイプのレコードはコミットメントの再作成に必要なため、除去しないでください。

債務繰越は、年度末にバッチ・プログラムとして実行されます。年度末の債務は、実行されていない外注および処理中の未処理購買オーダーが完了した場合に、最終的に発生する支出の見積金額を表します。

地方自治体は通常、会計年度内で予算を消化する必要があります。このため、購買オーダーおよび外注契約の未決済残高は、しばしば会計年度末に取り消されることになります。しかし、通常は、他の方法で未決済残高の認識や新年度への繰越が行われます。

---

**注意:** すべてのデータは、購買オーダー明細テーブル (F4311) から選択されます。

---

## 債務繰越のタイミング

債務繰越プログラムは、非常に時間に依存する処理です。データ整合性の問題を回避するために、このプログラムは、会計年度の最終日に実行してください。エラーを発生させずにプログラムを実行できるように、会計年度の最終日の前日までに整合性の問題を解決しておいてください。

会計年度の最終日にプログラムを実行できない場合、クライアントが手作業で行を終了し、新年度に新規行を新規勘定科目で開く必要があります。

## 債務繰越の実行

「上級/技術的操作」(G43A31)の「債務繰越し」を選択します。

または、「非在庫の上級/技術的操作」(G43B31)の「債務繰越し」を選択します。

## 債務繰越 (R4317) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

### デフォルト

この処理オプションでは、処理に使用されるデフォルト情報を指定します。

#### 1. 繰越方法

年度末債務金額の処理方法を指定します。使用する方法は、ビジネス要件によって異なります。値は次のとおりです。

ブランク: 繰越が取り消され、それ以上の処理が行われません。新しい元帳日付または勘定科目に、金額が一切再コミットされません。

1: 新しい元帳日付を使用して、年度末債務金額が翌年度に繰り越されます。

2: 新しい元帳日付および新しい勘定科目コードを使用して、年度末債務金額が翌年度に繰り越されます。

#### 2. 元帳クラス・コード

AAIの取込みに使用される元帳クラス・コードを指定します。元帳クラス・コードを入力するか、またはフィールドをブランクにして、購買オーダー明細行の元帳クラス・コードを使用することもできます。勘定科目の再分類機能を使用して外注契約を処理する場合、元帳クラス・コードを入力する必要があります。購買オーダーと外注契約の両方を処理する場合、入力した元帳クラス・コードが両方に使用されます。このコードにより、請求書の転記時に相殺される買掛金勘定(クラス)が決まります。このフィールドには、英数字を入力できます。または、総勘定元帳コードの主科目と同じコードを使用することもできます。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダー明細行の元帳クラス・コードを使用します。

**注意:** コード9999は使用しないでください。このコードは、仕訳を作成しないように設定されているコードで、転記プログラムにより予約されています。

### 3. 元帳タイプ

購買オーダー明細実績(F43199)テーブルの実績レコードに使用される元帳タイプを指定します。AA(実績金額)、BA(予算金額)、またはAU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するユーザー定義コード(09/LT)です。

### 4. 新しい元帳日付

現行年度の債務繰越用の元帳日付を指定します。この日付は、取引を転記する会計期間を指定します。一般会計固定情報で各会計期間の日付範囲を指定します。

### 5. 元帳日付のコミット解除

債務をコミット解除(リリース)する元帳日付を指定します。この日付は、取引を転記する会計期間を指定します。一般会計固定情報で各会計期間の日付範囲を指定します。

## 処理

この処理オプションでは、情報の処理方法を指定します。

### 1. 処理モード

債務繰越をテスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードで債務繰越を実行した場合、状況コードおよび適用可能なテーブルが一切更新されません。最終モードで債務繰越を実行した場合、状況コードおよびすべての適用可能なテーブルが更新されます。どちらのモードで実行しても、仕訳の入力とエラーを印刷できます。値は次のとおりです。

ブランク: テスト・モードで債務繰越を実行します。

1: 最終モードで債務繰越を実行します。

## 製造編集

この処理オプションでは、製造情報を指定します。

### 1. 製造の債務を処理するには「1」を入力してください。

製造作業オーダーに関連する会計債務を処理するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 購買オーダーおよび外注に関連する会計債務のみ処理します。

1: 購買オーダー、外注、および製造作業オーダーに関連する会計債務を処理します。

### 2. 作業オーダーの終了状況

未処理作業オーダーの終了に使用される作業オーダー状況を指定します。この処理オプションでは、オーダーが未処理かどうかを判断するための作業オーダー状況を指定することもできます。この処理オプションで指定した終了作業オーダー状況未満の作業オーダーのみが、システムにより処理されます。この処理オプションをブランクにすると、状況コード99(終了)がデフォルトとして使用されます。



## 第 21 章

# カスタマ/サプライヤ・セルフサービスの利用

この章では、次の方法について説明します。

- Webでの入荷の参照
- Webでのオーダー参照
- 見積要求への回答

---

### Webでの入荷参照

仕入先は、自社の品目番号やオーダー番号を使って、当初数量やリリース数量、リリース金額、当初金額などのオーダー情報を参照できます。

この項では、事前設定とWebでの入荷参照に使用するフォームについて説明します。

#### 事前設定

仕入先が入荷情報を参照できるようにするには、入荷確認照会(P43214)の処理オプションを設定してください。

参照: 第 12 章、「入荷処理の利用」、「入荷確認照会(P43214)の処理オプションの設定」、202ページ

### Webでの入荷参照に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
入荷確認の照会	W43214A	「サプライヤ・セルフサービス」(G43S11)、「入荷確認照会」	Webで入荷を参照します。

---

### Webでのオーダー参照

この項では、オーダー参照の概要と方法について説明します。

#### オーダー参照について

オーダーには仕入先がオーダー処理のために必要とする情報の多くが含まれます。しかし、オーダーを出荷した後は、顧客から特定のオーダーや次のオーダーの内容および時期についての情報を得るのは難しくなります。

通常の業務環境では、システムおよび処理の要件に詳しい担当者の指導に従ってオーダーや契約を参照します。サプライヤ・セルフサービス用に環境を設定すると、仕入先は特定の発注の情報にアクセスできるようになります。

仕入先は、自社の品目番号やオーダー番号を使って、当初数量やリリース数量、リリース金額、当初金額、購買契約、約束日付などのオーダー情報を参照できます。

## オーダーの参照

「サプライヤ・セルフサービス」(G43S11)を選択し、適切なプログラムの「セルフサービス」処理オプションを有効にします。

## 見積要求への回答

この項では、見積要求へのセルフサービス回答の概要、事前設定、および見積回答入力(P4334)の処理オプションの設定方法について説明します。

### 見積要求へのセルフサービス回答について

サプライヤ・セルフサービス機能を使えば、仕入先が調達管理システムに直接データを入力できるので、見積要求に回答する場合などに非常に便利です。権限のある仕入先が指定のWebサイトにアクセスして回答を直接システムに入力すれば、内容を書き写す際のミスや仕入先とのやり取りから生じる誤解などを最小限に抑えることができます。

仕入先は、自社の品目番号やオーダー番号を使って、当初数量やリリース数量、リリース金額、当初金額などのオーダー情報を参照できます。

### 事前設定

仕入先が見積情報を照会できるようにするには、見積回答の入力プログラム(P4334)の処理オプションを設定してください。

### 見積要求への回答に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
見積照会	W4334B	「サプライヤ・セルフサービス」(G43S11)、「見積要求への回答」	見積要求に回答します。

### 見積回答の入力(P4334)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

#### デフォルト

この処理オプションでは、デフォルトのオーダー・タイプを指定できます。

#### オーダー・タイプ

作成する伝票のタイプを指定します。

このコードは、トランザクションの当初伝票タイプも指定します。



伝票タイプは、ユーザーが設定するユーザー定義コード(00/DT)です。特定の伝票タイプ・コードは伝票、請求書、入荷確認書、タイム・シート用に予約されており、転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。(初期入力時には、これらの仕訳は自動残高調整されません。)次の伝票タイプが事前定義されています。これらは、変更しないでください。

P: 買掛金伝票

R: 売掛金伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: 購買オーダー伝票

J: 一般会計/共有利息請求伝票

S: 受注オーダー伝票

値を入力するか、または「ユーザー定義コード」フォームから値を選択します。

## セルフサービス

この処理オプションでは、使用するセルフサービスのタイプを指定できます。

### 仕入先セルフサービス

サプライヤ・セルフサービスを使用するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: カスタマ・セルフサービス

1: サプライヤ・セルフサービス



## 第 22 章

# データの除去

この章では、データ除去プログラムの概要とデータの除去方法について説明します。

---

## データの除去プログラムについて

データが必要なくなったりディスク・スペースが必要になった場合、除去プログラムを使用してテーブルからデータを除去できます。

システムにはテーブルからデータを除去するプログラムが用意されており、これらを使用する際には選択基準を詳細に限定する必要があります。除去プログラムには、他のファイルにある関連データを除去しないようにチェックを実行する、事前定義基準が組み込まれています。

---

**重要:** システムおよびデータに対する深刻な損害を防ぐために、データの除去の正しい処理手順と意義を把握しておく必要があります。データの除去は通常、システム管理者またはオペレーション担当者が実行します。除去のプロセスおよびその結果を理解している従業員に対してのみ、この手順へのアクセスを許可してください。

---

次の除去プログラムは、JD Edwards EnterpriseOne 調達管理で実行できます。

- 購買明細 (F4311) の除去 (R4311P)
- 入荷確認 (F43121) の除去 (R43121P)
- 購買明細履歴 (F43199) の除去 (R43199P)
- F4301 購買オーダー見出し除去 (R4301P)
- テキスト行の終了 (R43960)
- F43001 トランザクション・レコードの除去 (R43001P)  
このプログラムは、調達管理セルフサービス・トランザクション・ログ・テーブル (F43001) を除去します。
- 購買オーダー手配の除去 (R4333WFP)  
このプログラムは、購買オーダー手配ワークファイル・テーブル (F4333WF) を除去します。

### 考慮事項

F4301 購買オーダー見出し除去プログラム (R4301P) を実行すると、アクティブな明細行がない場合のみレコードが除去されます。このため、F4301 購買オーダー見出し除去プログラムを実行する前に購買明細 (F4311) の除去プログラム (R4311P) を実行してください。

R4301P は、購買オーダー明細請求対象外テーブル (F4317) と入荷確認請求対象外テーブル (F43127) を除去すると同時に、仕入先分類コード・フィールドの値も除去します。

その他の除去プログラムと異なり、テキスト行の終了プログラム(R43960)はデータを削除しません。このプログラムでは、終了したオーダーのテキスト行の状況が999になります。

テキスト行の終了プログラムを実行するには、「使用可能なバージョン」フォームを使用してバッチ・ジョブを投入します。レポートや他のタイプのバッチ・ジョブと同様に、テキスト行の終了プログラムを実行します。

## 事前設定

データを除去する前に次の作業を実行してください。

- ソフトウェアをアップグレードする際にレコードが上書きされないように、除去環境を作成して除去レコードを保存します。
- 影響を受けるファイルをバックアップします。
- 除去するデータを決定します。
- 除去するデータを他のユーザーが使用していないことを確認します。

## データの除去

この項では、次の方法について説明します。

- データの除去
- F43001トランザクション・レコードの除去プログラム(R43001P)の実行
- 購買オーダー手配の除去プログラム(R4333WFP)の実行

## データの除去に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
使用可能なバージョン	W98305WA	「データ・ファイルの除去」(G43A311)、いずれかのオプション	データを除去します。
テーブル変換プロンプト	W98305WO	「使用可能なバージョン」フォームでバージョンを選択し、「選択」ボタンをクリックします。	除去の設定を指定します。

## データの除去

「使用可能なバージョン」フォームにアクセスします。

次の手順に従って、JD Edwards EnterpriseOne調達管理システムで除去プログラムを実行します(テキスト行の終了プログラムを除きます)。

データを除去するには、次の手順に従います。

1. バージョンを選択します。
2. 「テーブル変換プロンプト」で、「プロパティ」オプションを選択して「送信」をクリックします。
3. プロパティ・ウィンドウで、「環境の選択」タブを選択します。

4. 対象となる環境を選択して、データを除去するソース環境と除去データの保存先の環境を指定できます。
5. 「データ選択」タブを選択し、除去する情報を指定します。  
除去プログラムの処理オプションが自動的に表示されます。
6. 「OK」をクリックします。
7. 次のガイドラインに従って、処理オプションを設定します。
  - 最初の処理オプションで、除去レコードを保存するには「1」を入力してください。  
除去環境が作成されていないと、除去データを保管できません。この処理オプションをブランクにすると、すべての除去データが削除されます。
  - 2番目の処理オプションで、除去データを保管する環境に新規の名称を付けてください。  
除去プログラムを実行する前に環境名を変更することにより、それぞれの除去レコードを別々に保管できます。名称を変更しないと、除去プログラムを実行するたびに、データが上書きされます。この処理オプションを完了する前に、除去レコードを保管するように指定されていることを確認してください。この処理オプションの完了後、データ・ソース名を入力できるように3番目の処理オプションを設定してください。
  - 3番目の処理オプションでは、除去レコードのデータ・ソース名を入力してください。  
この処理オプションを完了する前に、除去レコードを保管するように指定されていることと、新しい環境名が入力されていることを確認してください。
8. 除去プログラムを実行するには、「OK」をクリックします。  
除去プログラムを実行しないで終了するには、「取消」をクリックします。

## F43001トランザクション・レコードの除去プログラム(R43001P)の実行

「システム・アドミニストレーション・ツール」(GH9011)の「バッチ・バージョン」を選択します。

または、「略式コマンド」に「BV」と入力します。

## 購買オーダー手配の除去プログラム(R4333WFP)の実行

「システム・アドミニストレーション・ツール」(GH9011)の「バッチ・バージョン」を選択します。

または、「略式コマンド」に「BV」と入力します。



## 付録 A

# JD Edwards EnterpriseOne調達管理で使用するテーブル

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne調達管理で使用するテーブルの一覧を示します。

## JD Edwards EnterpriseOne調達管理で使用するテーブル

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne調達管理で使用するテーブルを示します。テーブルは、テーブル番号順に並んでいます。

テーブル	説明
住所録マスター (F0101)	住所録番号が割り当てられた個人または会社の、名前、住所録番号、検索タイプ、および住所録カテゴリ・コードを保存します。
仕入先マスター (F0401)	仕入先固有の情報を保存します。
流通/製造固定情報 (F4009)	品目の単位換算が個別の品目に対して適用されるか、または倉庫内の各品目に対して適用されるかを指定する情報が含まれます。
オーダー・テンプレート (F4015)	オーダー・テンプレートの情報を保存します。
印刷メッセージ (F4016)	受注オーダーや購買オーダーなどの伝票に印刷する事前定義されたメッセージが保存されます。
オーダー処理規則 (F40203)	オーダー・タイプや行タイプ、前の状況、次の状況などオーダー処理規則に関する情報を保存します。
流通/製造AAIレコード・タイプ (F4090)	AAI(自動仕訳)のレコード・タイプを保存します。
流通/製造AAI値 (F4095)	AAIテーブル番号、会社、伝票タイプ、元帳カテゴリ・コード、原価タイプなどAAIの情報を保存します。
品目マスター (F4101)	品目番号、記述、検索キー、カテゴリ・コード、デフォルトの単位など、各品目に関する基本情報が保管されます。
品目保管場所 (F41021)	保管場所別の品目数量や元帳クラス、ロット状況が保存されます。
品目原価 (F4105)	在庫の原価レコードが保存されます。

テーブル	説明
仕入先価格/カタログ (F41061)	事業所および仕入先に基づいた品目の単位原価を保存します。
保留オーダー (F4209)	オーダー承認の履歴情報を保存します。
調達管理セルフサービス・トランザクション・ログ (F43001)	調達管理セルフサービス・トランザクション・ログ情報を保存します。
承認レベル (F43008)	承認レベルに関する情報を保存します。
購買オーダー見出し (F4301)	購買オーダーの見出し情報を保存します。また、住所録の仕入先分類コードも保存します。
購買オーダー見出しワークファイル (F4301Z)	購買オーダーの見出し情報を一時ワークファイルに保存します。また、住所録の仕入先分類コードも保存します。
購買オーダー見出し未編集トランザクション・テーブル (F4301Z1)	調達管理の送信インタオペラビリティのための購買オーダー見出し情報を保存します。これには、住所録およびユーザー定義フィールドの仕入先分類コードが含まれます。F4320テーブルのレコードは、どのZテーブルにも書き込まれません。
ログ・マスター (F4303)	ジョブ番号、変更要求番号、ログ・タイプ、ログ番号、状況、受理事項、送付事項、日付などのログ情報を保存します。
ログ・モデル (F4303M)	モデル・ログの情報を保存します。
ログ階層固定情報 (F4304)	ログ階層レベルを保存します。
ログ・マスター (F4305)	契約レベルのログ、会社レベルのログ、外注業者レベルのログ、プロジェクト・レベルのログ、作業レベルのログというように、5つのレベルでログ情報を保管します。
承認フィールド固定情報 (F43080)	再承認処理でアクティブ化および無効化されるフィールドの情報を保存します。
仕入先/品目関係 (F43090)	関係の状況や入荷経路、品目価格など、品目と仕入先の関係情報を保存します。
入荷工程マスター (F43091)	数量を在庫へ移動する作業についての情報を保存します。
購買オーダー入荷工程 (F43092)	入荷工程の情報を保存します。
入荷工程ワークファイル (F43092Z)	入荷工程の情報を一時ワークファイルに保存します。
入荷工程未編集トランザクション・テーブル (F43092Z1)	調達管理の送信インタオペラビリティの入荷工程情報を保存します。



テーブル	説明
検査/サンプル・サイズ・テーブル (F43093)	試験結果の情報を保存します。
仕入先品目の追加工程 (F43094)	仕入先品目の工程情報を保存します。
入荷工程履歴 (F43099)	入荷工程の履歴情報を保存します。
仕入先/事業所関係 (F43100)	仕入先と事業所間の関係についての情報を保存します。
購買オーダー明細 (F4311)	購買オーダーの明細情報を保存します。これにはカテゴリ・コード01から04までのフィールドが含まれます。Project and Government Contract Accountingの「職務タイプ」フィールドは、このテーブルに保存されます。  GBCFGのカラム (コンフィギュレータにより生成) には、購買オーダーが関連のコンフィギュレーション・オーダーを持つことを示すフラグがあります。
購買オーダー明細タグ (F4311T)	タグ・テーブル中の補足的な購買オーダー明細情報をF4311テーブルに保存します。
購買オーダー生成 (F4311Z)	購買オーダー情報を保存します。
購買オーダー明細未編集トランザクション・テーブル (F4311Z1)	調達管理の送信インタオペラビリティのための購買オーダー明細情報を保存します。これには、ユーザー定義フィールドが含まれます。F4320テーブルのレコードは、どのZテーブルにも書き込まれません。
入荷確認 (F43121)	発注残数量や未決済金額などの明細とともに、入荷レコードや伝票レコードの情報を保存します。Project and Government Contractの「職務タイプ」フィールドは、このテーブルに保存されます。
入荷確認タグ (F43121T)	タグ・テーブル中の補足的な入荷および伝票レコードの情報をF43121テーブルに保存します。
入荷ワークファイル (F43121Z)	入荷および伝票のレコード情報を一時ワークファイルに保存します。
入荷未編集トランザクション・テーブル (F43121Z1)	調達管理の送信インタオペラビリティのための購買オーダー入荷情報を保存します。
入荷確認複数勘定科目 (F43126)	購買オーダー入荷確認の複数勘定科目情報を保存します。
入荷確認複数勘定科目タグ (F43126T)	タグ・テーブルにある入荷確認の複数勘定科目についての補足情報を、F43126テーブルに保存します。
入荷確認請求対象外 (F43127)	請求対象外の購買オーダー明細行に関する入荷情報を保存します。

テーブル	説明
受注オーダー/購買テキスト明細行 (F4314)	受注オーダーおよび購買オーダーの明細行のテキスト情報を保存します。
伝票照合複数勘定科目タグ (F43146T)	タグ・テーブル内の伝票照合の複数勘定科目情報を、F43146テーブルに保存します。
運賃配賦ワークファイル (F43147)	運賃配賦情報を保存します。
伝票照合選択 (F4314Z)	伝票照合情報を保存します。Project and Government Contract Accountingの「職務タイプ」フィールドは、このテーブルに保存されます。
購買オーダー複数勘定科目 (F4316)	購買オーダーの複数勘定科目配賦情報を保存します。
モデル購買オーダー複数勘定科目 (F4316M)	モデル購買オーダーの複数勘定科目配賦情報を保存します。
購買オーダー複数勘定科目タグ (F4316T)	タグ・テーブルにある購買オーダーの複数勘定科目配賦についての補足情報を、F4316テーブルに保存します。
購買オーダー明細請求対象外 (F4317)	請求対象外の購買オーダー明細行の情報を保存します。
承認/却下の理由 (F4318)	承認および却下の理由に関する情報を保存します。
購買オーダー明細実績 (F43199)	品目番号や価格、発注数量、購買金額 (PA) 元帳タイプなど、各購買オーダー行の明細情報を保存します。
仕入先スケジュール・マスター (F4321)	仕入先とのスケジュール手配を制御するデータのほとんどが保管されます。このテーブルには、出荷リードタイム、スケジュール日数、出荷パターン、出荷数量および配送場所など、スケジュールの作成や管理に必要な情報も保存されます。仕入先スケジュール・プロセスで使用する一括オーダーの各行品目に対して、仕入先スケジュール・マスターからの情報が使用されます。
仕入先スケジュール・マスター (F43211)	品目別に仕入先間の分割パーセントを識別するデータが保管されます。
SRS出荷日付 (F43213)	仕入先リリース・スケジュールの出荷日付を保存します。
購買許容規則 (F4322)	単価許容金額や合計許容金額など、購買許容規則の設定が保存されます。
仕入先選択 (F4330)	個々の価格見積情報など、仕入先の情報を保存します。
数量区切り (F4331)	数量別価格の情報を保存します。
複数購買要求 (F4332)	見積オーダーの明細行を作成する購買要求の情報を保存します。

テーブル	説明
購買オーダー手配ワークファイル (F4333WF)	購買オーダーの手配情報を一時ワークファイルに保存します。
購買リポート・マスター (F4340)	購買オーダーのリポート情報を保存します。
購買リポートしきい値 (F4341)	購買リポートのしきい値の情報を保存します。
購買組込規則 (F4342)	購買組込規則の情報を保存します。
購買リポート履歴 (F4343)	標準の調達管理リポート情報を保存します。
仕入先ページ・ハイパーリンク (F4350)	仕入先の情報を保存します。
仕入先ページ・ハイパーリンク (F4351)	仕入先の情報を保存します。
外注業者しきい値 (F4355)	外注業者や仕入先に設定されたしきい値の情報を保存します。
品目別発注残ワークファイル (F43632Z)	品目別の発注残情報を保存します。これは一時ワークファイルです。
発注提示在庫品目 (F4371)	システムが再発注を提示する品目のリストを含む、在庫品目再発注点バッチ購買オーダーの生成プログラム (R437002) レポートからの情報を保存します。  発注品目の提示処理が終わったら、発注提示在庫品目テーブル (F4371) に保存されているレコードを除去するかどうかをオプションで選択できます。
集計伝票照合 (F43800)	伝票照合の集計情報を保存します。
購買要求オーダー見出し (F43E01)	オーダー会社やオーダー番号、オーダー・タイプ、ビジネスユニット、オーダー日付、オーダー金額、通貨、明細行数、完了した明細行数、取り消された明細行数、購買要求見出し状況、購買要求のタイトルなど、購買要求見出し情報を保存します。



## 付録 B

# JD Edwards EnterpriseOne調達管理の標準ワークフロー

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne調達管理の標準ワークフローについて説明します。

### 関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Workflow Tools Guide

---

## JD Edwards EnterpriseOne調達管理の標準ワークフロー

この項では、JD Edwards EnterpriseOne調達管理のワークフローについて説明します。

### 購買オーダー承認

この項では、購買オーダー承認のワークフローについて説明します。

#### 内容

ワークフローの概要	ワークフロー処理において、数量、単位原価、合計金額、または約束納入日が、購買担当者が定義した許容限度を超えているかどうか判断されます。数量、単位原価、合計金額、または約束納入日が許容限度を超えている場合、処理オプションの定義に従ってオーダー行の状況が“承認待ち”に変更され、承認のためにオーダー行が購買担当者の配布リストに送信されます。
ワークフロー・トリガー	システムによるオーダー行の確認時に、数量、単位原価、合計金額、または約束納入日が許容限度を超えている場合、オーダー行の状況が“承認待ち”に変更され、関連付けられた配布リストに承認メッセージが送信されます。
ワークフロー処理	配布リスト内の購買担当者は、ワーク・センターの“承認待ち”待ち行列でメッセージを受け取ります。入荷時に、購買担当者は、そのメッセージを承認または却下します。

## ワークフロー・オブジェクト

システム	43
ワークフロー・オブジェクト名	K43181
オブジェクトID	W43S01B、W43S01E
イベント記述/関数名	Button Clicked、Button Clicked
順序/行番号	47、48

## 約束日付変更

この項では、約束日付変更のワークフローについて説明します。

### 内容

ワークフローの概要	ワークフロー処理において、購買オーダーの約束納入日に変更された場合、承認者にメッセージが送信されます。
ワークフロー・トリガー	約束納入日に変更されると、メッセージが送信されます。
ワークフロー処理	約束納入日に変更されると、メッセージが送信されます。メッセージの受信者が日付を承認すると、システムによって日付が更新されます。承認されない場合、日付が更新されません。日付の承認または却下にかかわらず、オーダー入力者にもメッセージが送信されます。

## ワークフロー・オブジェクト

システム	43
ワークフロー・オブジェクト名	PROMISED DT
オブジェクトID	N4301790
イベント記述/関数名	StartWorkflowProcessOnTheWeb
順序/行番号	2

## 付録 C

# JD Edwards EnterpriseOne調達管理レポート

この付録では、JD Edwards EnterpriseOne調達管理レポートの概要について説明し、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

## JD Edwards EnterpriseOne調達管理のすべてのレポート

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne調達管理のレポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R43415 仕入先別購買オーダー集計	仕入先別の次にビジネスユニット別の購買オーダー情報が印刷されます。	「購買レポート」(G43A111)の「購買オーダー集計」を選択します。
R43420 購買元帳レポート	当初の明細行情報と、各明細行の数量や合計金額に加えた変更がリストされます。	「購買レポート」(G43A111)の「購買仕訳帳」を選択します。 「外注契約レポート」(G43D111)の「購買仕訳帳」を選択します。
R43640 要求日付別発注残	要求日付に基づいて、各品目の発注残数量または金額と、品目が発注残状態である最終日付が印刷されます。  指定した各仕入先に対して個別のページが印刷されます。	「購買レポート」(G43A111)の「要求日別購買オーダーの印刷」を選択します。

## JD Edwards EnterpriseOne調達管理の主なレポート

この項では、個々のレポートについて処理オプションなどの詳細情報を説明します。説明は、レポートID順になっています。

## R43415 - 仕入先別購買オーダー集計

このレポートには、仕入先別の次にビジネスユニット別の購買オーダー情報が印刷されます。入金額や未決済金額など、各購買オーダーに対する個別の金額を検討できます。また、すべての購買オーダーに対する合計金額を検討することもできます。1つの購買オーダーに、複数事業所に対する複数の明細行がある場合、同じオーダーが事業所に基づいて数回表示されることがあります。

このレポートの処理オプションはありません。

## R43420 - 購買元帳レポート

購買元帳レポートには、オーダー明細行の変更履歴が印刷されます。このレポートには、当初の明細行情報と、各明細行の数量や合計金額に加えた変更がリストされます。

印刷される各オーダーに対して、次の情報を検討できます。

- 当初明細行金額の合計
- 明細行変更額の合計
- 現行明細行金額の合計

このレポートの情報は、F43199テーブルから取り込まれます。オーダー処理規則で元帳レコードを作成するよう設定した場合のみ、このレポートを印刷できます。

このレポートの処理オプションはありません。

## R43640 - 要求日付別発注残

ある仕入先から現在オーダー中の品目情報を参照することがあります。要求日別購買オーダー・レポートを生成すると、要求日付に基づいて、各品目の発注残数量または金額と、品目が発注残状態である最終日付を参照できます。

発注残の数量または金額が表示される年齢調べカラムを指定するには、処理オプションを使用します。処理オプションは、このレポートのデータ表示フォーマットに大きく影響します。指定した各仕入先に対して個別のページが印刷されます。

## 要求日付別発注残 (R43640) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

この処理オプションを使用して、発注残の数量または金額が表示される年齢調べカラムを指定します。処理オプションは、このレポートのデータ表示フォーマットに大きく影響します。

### 期間

この処理オプションでは、表示する期間情報を制御できます。

**期間1: 開始日付から終了日付までの日数** 将来の回答期限までの日数を指定します。

**期間2: 期間1終了日付から期間2終了日付までの日数** 見積要求を受け取るまでの日数を指定します。

**期間3: 期間2終了日付から期間3終了日付までの日数** 期間2の日数を指定します。



**期間4: 期間3終了日付から 期間3の日数を指定します。**  
**期間4終了日付までの日数**

### 印刷オプション

この処理オプションでは、情報の印刷方法を指定できます。

**オーダーの印刷** 「1」を入力すると、レコードが降順で印刷されます。

**期間4に、範囲より後の日付の購買オーダーを含めるには「1」を入力してください。** 「1」を入力すると、期間4の範囲外の購買オーダーが含まれます。



# JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

<b>BPEL</b>	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
<b>BPEL PM</b>	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
<b>ビルド構成ファイル</b>	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
<b>ビルド・エンジニア</b>	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
<b>ビルド・プログラム</b>	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
<b>ビジネス・アナリスト</b>	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
<b>ビジネス関数</b>	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
<b>ビジネス関数イベント・ルール</b>	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
<b>ビジネス・サービス</b>	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
<b>ビジネス・サービス・アーティファクト</b>	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
<b>ビジネス・サービス・クラス・メソッド</b>	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
<b>ビジネス・サービス構成ファイル</b>	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
<b>ビジネス・サービス相互参照</b>	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
<b>ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ</b>	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>ビジネス・サービス開発環境</b>	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
<b>ビジネス・サービス開発ツール</b>	JDeveloperという名前でも知られています。
<b>ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト</b>	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
<b>チャート</b>	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
<b>チェックイン・リポジトリ</b>	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
<b>コネクタ</b>	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
<b>相殺/相手勘定</b>	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
<b>コントロール・テーブル・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
<b>コントロール・テーブルのマージ</b>	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
<b>関連データ</b>	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
<b>コスト割当</b>	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
<b>原価要素</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
<b>資格証明</b>	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
<b>相互参照ユーティリティ・サービス</b>	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
<b>セグメント間編集</b>	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
<b>通貨再換算</b>	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
<b>cXML</b>	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
<b>データベース資格証明</b>	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
<b>データベース・サーバー</b>	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

<b>ESB (Enterprise Service Bus)</b>	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
<b>EnterpriseOne管理者</b>	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
<b>EnterpriseOne資格証明</b>	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
<b>EnterpriseOneオブジェクト</b>	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
<b>EnterpriseOne開発クライアント</b>	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
<b>EnterpriseOne拡張機能</b>	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
<b>EnterpriseOneプロセス</b>	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
<b>EnterpriseOneリソース</b>	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
<b>環境ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
<b>エスカレーション・モニター</b>	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
<b>イベント・ルール</b>	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
<b>明示的トランザクション</b>	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
<b>公開されたメソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
<b>施設、事業所</b>	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
<b>略式コマンド</b>	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
<b>ファイル・サーバー</b>	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけでなく、ネッ



	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
<b>最終モード</b>	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
<b>基盤</b>	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
<b>FTPサーバー</b>	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
<b>見出し情報</b>	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
<b>HTTPアダプタ</b>	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
<b>インスタンス化</b>	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
<b>統合開発者</b>	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
<b>インテグレーション・ポイント(IP)</b>	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
<b>インテグレーション・サーバー</b>	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
<b>整合性テスト</b>	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
<b>インターフェイス・テーブル</b>	“Zテーブル”の説明を参照してください。
<b>内部メソッド/値オブジェクト</b>	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
<b>インタオペラビリティ・モデル</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
<b>エラー表示の有効化</b>	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
<b>IServerサービス</b>	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
<b>代替ラベル</b>	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
<b>Javaアプリケーション・サーバー</b>	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
<b>JDBNET</b>	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

<b>JDEBASEデータベース・ミドルウェア</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
<b>JDECallObject</b>	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
<b>jde.ini</b>	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
<b>JDEIPC</b>	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
<b>jde.log</b>	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
<b>JDENET</b>	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
<b>JDeveloperプロジェクト</b>	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
<b>JDeveloperワークスペース</b>	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
<b>JMSキュー</b>	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
<b>リスナー・サービス</b>	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
<b>ローカル・リポジトリ</b>	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
<b>ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
<b>ロケーション・ワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
<b>ロジック・サーバー</b>	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
<b>差し込み印刷ワークベンチ</b>	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
<b>手動コミット・トランザクション</b>	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
<b>マスター・ビジネス関数(MBF)</b>	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
<b>マスター・テーブル</b>	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
<b>照合伝票</b>	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
<b>メディア・ストレージ・オブジェクト</b>	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
<b>メッセージ・センター</b>	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
<b>メッセージング・アダプタ</b>	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
<b>メッセージング・サーバー</b>	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
<b>中間層BPEL/ESBサーバー</b>	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
<b>監視アプリケーション</b>	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
<b>ネームド・イベント・ルール (NER)</b>	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
<b>Nota Fiscal</b>	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
<b>Nota Fiscal Factura</b>	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
<b>オブジェクト構成マネージャ (OCM)</b>	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
<b>オブジェクト・ライブラリアン</b>	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
<b>オブジェクト・ライブラリアンのマージ</b>	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
<b>オープン・データ・アクセス (ODA)</b>	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス(OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。  “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11&gt;21&gt;26&gt;28&gt;38&gt;01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

<b>QBE</b>	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOneでは、QBE行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
<b>リアルタイム・イベント</b>	外部システムで使用するためにEnterpriseOneのアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
<b>リフレッシュ</b>	新規リリースやPTF/累積アップデート・リリース(B73.2やB73.2.1など)に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアまたはそのサブセット(テーブルや業務データなど)を修正する機能です。
<b>レプリケーション・サーバー</b>	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
<b>Rt-Addressing</b>	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
<b>規則</b>	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
<b>見積オーダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。  JD Edwards EnterpriseOne受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
<b>Secure by Default</b>	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
<b>SSL (Secure Socket Layer)</b>	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSLを使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
<b>SEI実装</b>	サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)を宣言するメソッドを実装するJavaクラスです。
<b>選択項目</b>	JD Edwards EnterpriseOneメニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して[Enter]キーを押します。
<b>シリアルライズ</b>	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
<b>サーバーワークベンチ</b>	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
<b>サービス・エンドポイント・インターフェイス(SEI)</b>	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言するJavaインターフェイスです。
<b>SOA</b>	Service Oriented Architectureの略語です。
<b>ソフトコーディング</b>	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
<b>ソース・リポジトリ</b>	HTTPアダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
<b>スポット・レート</b>	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

<b>3方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
<b>トランザクション処理 (TP) モニター</b>	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
<b>トランザクション処理方法</b>	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
<b>トランザクション・セット</b>	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
<b>トリガー</b>	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
<b>トリガーイベント</b>	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
<b>2方向認証</b>	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
<b>2方向伝票照合</b>	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
<b>ユーザー識別情報</b>	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
<b>ユーザー一時変更のマージ</b>	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
<b>値オブジェクト</b>	データ構造がデータを渡すのと同様に入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
<b>差異</b>	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。  JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
<b>公開ビジネス・サービスのバージョン</b>	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
<b>バージョン・リストのマージ</b>	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
<b>ビジュアル・アシスト</b>	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
<b>用語一時変更</b>	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
<b>wchar_t</b>	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。



<b>Webアプリケーション・サーバー</b>	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
<b>Webサーバー</b>	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
<b>WSDL (Web Service Description Language)</b>	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
<b>WSIL (Web Service Inspection Language)</b>	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
<b>Webサービス・プロキシ基盤</b>	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・レコード</b>	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
<b>Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート</b>	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
<b>WHERE句</b>	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
<b>Windowsターミナル・サーバー</b>	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
<b>ウィザード</b>	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
<b>ワークベンチ</b>	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
<b>作業日カレンダー</b>	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
<b>ワークフロー</b>	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
<b>ワークグループ・サーバー</b>	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
<b>XAPIイベント</b>	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

# 索引

AAI, 参照: AAI(自動仕訳)

AAI(自動仕訳)

運賃配賦AAIの設定 47

会計システム用AAIの設定 47

購買オーダー入力用の設定 45

差異がある場合の使用 246

差異の設定 45

消費税用の設定 46

請求対象外留保金用AAIの設定 47  
設定 44

貸借一致調整の設定 47

調達管理用の設定 44

伝票の設定 45

入荷工程での使用 299

入荷工程用の設定 46

入荷用の設定 45

入金に対する使用 204

陸揚費用の設定 47

流通用の設定 48

Customer Connection Webサイト xxii

EDI, 参照: 電子データ交換, 電子データ  
交換(EDI)

F0101テーブル 361

F0401テーブル 361

F0902テーブル 339

F4009テーブル 361

F4015テーブル 361

F4016テーブル 361

F40203テーブル 361

F4090テーブル 361

F4095テーブル 361

F4101テーブル 361

F41021テーブル 361

F4105テーブル 361

F41061テーブル 362

F4209テーブル 362

F43001テーブル 362

F43001トランザクション・レコードの除去  
プログラム(R43001P)

実行 359

用途 357

F43008テーブル 362

F4301Z1テーブル 362

F4301Zテーブル 362

F4301購買オーダー見出し除去プログラ  
ム(R4301P) 357

F4301テーブル 270, 362

F4303Mテーブル 362

F4303テーブル 362

F4304テーブル 362

F4305テーブル 362

F43080テーブル 362

F43090テーブル 362

F43091テーブル 362

F43092Z1テーブル 362

F43092Zテーブル 362

F43092テーブル 362

F43093テーブル 363

F43094テーブル 363

F43099テーブル 363

F43100テーブル 363

F4311Tテーブル 363

F4311Z1テーブル 363

F4311Zテーブル 363

F4311テーブル 270, 363

F43121Tテーブル 363

F43121Z1テーブル 363

F43121Zテーブル 363

F43121テーブル 363

F43126Tテーブル 363

F43126テーブル 363

F43127テーブル 363

F43146Tテーブル 364

F43147テーブル 364

F4314Zテーブル 364

F4314テーブル 364

F4316Mテーブル 364

F4316Tテーブル 364

F4316テーブル 364

F4317テーブル 364

F4318テーブル 364

F43199テーブル 270, 339, 364

P4319プログラム

処理オプション 271

F43211テーブル 364

F43213テーブル 364

F4321テーブル 364

F4322テーブル 364

F4330テーブル 364

F4331テーブル	364	P43080プログラム	294
F4332テーブル	364	P43081プログラム	
F4333WFテーブル	365	処理オプション	291
F4340テーブル	365	用途	289
F4341テーブル	365	P43090プログラム	
F4342テーブル	365	処理オプション	73
F4343テーブル	365	P43100プログラム	
F4350テーブル	365	処理オプション	335
F4351テーブル	365	P43101プログラム	
F4355テーブル	365	処理オプション	140
F43632Zテーブル	365	P4310プログラム	
F4371テーブル	365	処理オプション	97
F43800テーブル	365	用途	95, 114
F43E01テーブル	365	P43126プログラム	185
P04012プログラム		P4312プログラム	
処理オプション	71	処理オプション	187
P041051プログラム	249	P43147プログラム	
P0411プログラム		処理オプション	236
処理オプション	220	P4314プログラム	
用途	213, 249	処理オプション	227
P042002プログラム	249	P4316プログラム	123
P4015プログラム		P43205プログラム	272
処理オプション	60	P43214プログラム	
用途	59	処理オプション	202
P40230Aプログラム		用途	210
処理オプション	341	P4322プログラム	49
P40950プログラム	48	P43230プログラム	
処理オプション	48	処理オプション	75
P41061プログラム		P43250プログラム	
処理オプション	80	処理オプション	306
用途	81	用途	311
P42090プログラム	51	P43252プログラム	
P4271プログラム		処理オプション	314
用途	81	P43291プログラム	
P43008プログラム		処理オプション	212
処理オプション	288	用途	211
用途	286	P4331プログラム	263
P43011プログラム		P4334プログラム	
処理オプション	275	処理オプション	265, 354
用途	279	用途	354
P43025プログラム		P43360プログラム	
処理オプション	334	処理オプション	267
P4303プログラム	63	P4340プログラム	
P4305プログラム		処理オプション	89
処理オプション	165	P4371プログラム	
P43060プログラム		処理オプション	284
処理オプション	257	用途	281
用途	255, 279	P470412プログラム	245
P43070プログラム		PeopleCodeの表記規則	xxiv
処理オプション	161	R00932プログラム	

実行 348  
 処理オプション 348  
 用途 348  
 R04305プログラム  
   処理オプション 248  
   用途 248  
 R04602レポート  
   印刷 251  
   処理オプション 251  
 R40910プログラム  
   実行 344  
   処理オプション 344  
 R40910レポート  
   用途 343  
 P4101Nプログラム  
   処理オプション 55  
   用途 54  
 R4106101プログラム  
   実行 320  
   処理オプション 320  
   データ選択 320  
 R43001Pプログラム  
   実行 359  
   用途 357  
 R4301Pプログラム 357  
 R4311Pプログラム 357  
 R43121Pプログラム 357  
 R4317プログラム  
   実行 350  
   処理オプション 350  
   用途 349  
 R43199Pプログラム 357  
   実行 346  
   処理オプション 346  
   用途 345  
 R43300プログラム  
   実行 166  
   処理オプション 167  
 R4333WFPプログラム  
   実行 359  
   用途 357  
 R43400レポート  
   実行 330  
   処理オプション 330  
   用途 330  
 R43412レポート  
   印刷 250  
   処理オプション 250  
 R43415レポート 369, 370  
 R43420レポート 369, 370

R43428プログラム  
   処理オプション 250  
 R43428レポート  
   用途 250  
 R43450レポート 251  
 R43500プログラム  
   処理オプション 169  
   用途 167  
 R43501プログラム  
   処理オプション 173  
   用途 167  
 R4350レポート 263  
 R43510プログラム  
   処理オプション 183  
   用途 183  
 R43525プログラム  
   処理オプション 206  
 R43530レポート  
   処理オプション 265  
 R43535レポート  
   印刷 273  
   処理オプション 273  
 R43632プログラム 206  
 R43640レポート  
   処理オプション 370  
   用途 369, 370  
 R437002プログラム  
   実行 281  
   処理オプション 281  
   用途 280  
 R43800  
   処理オプション 246  
 R43815プログラム  
   処理オプション 61  
 R43900プログラム  
   実行 325  
   処理オプション 325  
   用途 325  
 R43960プログラム 357  
 R4401Pプログラム  
   処理オプション 180  
 RFQレポート(R43530)  
   処理オプション 265  
 SRS出荷日付テーブル(F43213) 364  
 UDC, 参照: ユーザー定義コード  
 Vertex 15

## あ

「アプリケーション固定情報」フォー  
 ム 35, 40

アプリケーション制御固定情報 40  
 アプリケーションの基礎 xxi

## い

一括オーダー  
   印刷 260  
   許容規則の割当 49  
   購買オーダーの作成 260  
   処理 260  
   リリース 260  
 一括入荷  
   概要 199  
   情報の入力 200, 202  
 一般会計 1  
 印刷メッセージ  
   概要 57  
   作成 175  
   定義 58  
 印刷メッセージ・テーブル(F4016) 361  
 「印刷メッセージの改訂」フォーム 58

## う

「運賃監査履歴の処理」フォーム 220  
 運賃の伝票処理 217  
 運賃配賦  
   AAI(自動仕訳)の設定 47  
   「運賃配賦の改訂」フォーム 220  
 運賃配賦プログラム(P43147)  
   処理オプション 236  
 運賃配賦ワークファイル・テーブル  
   (F43147) 364

## お

オーダー 177, 333  
   改訂 269  
   価格見積からの作成 266, 268  
   関連情報の検討 176  
   既存明細行からの作成 156  
   個別印刷 175  
   コミットメント情報の検討 342  
   財務状況情報の検討 178  
   財務状況の検討 177  
   参照情報の入力 115  
   仕入先情報の入力 114  
   集計情報の検討 177  
   条項の印刷 97  
   処理 12  
   数量の算出 274  
   税情報の入力 115

セルフサービスによる参照 353  
 対話形式によるオン・デマンド印刷 176

多通貨での入力 114  
 注記の入力 115  
 特定の事業所情報の入力 114  
 バッチ印刷 169  
 発注残の検討 176  
 発注元情報の入力 114  
 日付の入力 115  
 複写 135, 140  
 変更の検討 177  
 保留にする 160  
 見出し情報の入力 113  
 明細行の調整 186  
 明細行の取消 122  
 明細情報の印刷 180  
 明細情報の検討 177  
 メッセージの印刷 175

## オーダー改訂

概要 270  
 検討 272  
 作成 270  
 情報の印刷 273  
 変更の記録 269  
 有効化 270

「オーダー改訂の処理」フォーム 271, 272

「オーダー改訂明細」フォーム 271  
 「オーダー改訂履歴」フォーム 271  
 オーダー改訂履歴レポート(R43535)  
   印刷 273

処理オプション 273

## オーダー行タイプ

概要 7  
 設定 27  
 定義 28

「オーダー集計」フォーム 178

「オーダー住所情報」フォーム 117

オーダー処理規則 7

設定 33

オーダー処理規則テーブル  
 (F40203) 361

「オーダー処理規則の改訂」フォーム 33

オーダー処理サイクル 12

オーダー数量の算出 274

オーダー生成 7

## オーダー・テンプレート

改訂 61  
 概要 7

購買オーダー仕入先用に作成 61  
 購買オーダー・ユーザー用に作成 61  
   作成 59  
   設定 58  
   品目の入力 156  
 オーダー・テンプレート・テーブル  
   (F4015) 361  
 「オーダー・テンプレートの改訂」フォー  
   ム 60, 61  
 オーダー・テンプレートの改訂プログラ  
   ム(P4015)  
   処理オプション 60  
   用途 59  
 「オーダー・テンプレートの処理」フォー  
   ム 60, 139  
 「オーダー・テンプレート」フォーム 139  
 「オーダー入力 - オーダー集計情報」  
   フォーム 178  
 オーダーの参照情報 115  
 「オーダーの選択仕入先」フォーム 139,  
   281  
 「オーダーの選択品目」フォーム 139  
 「オーダーのリリース」フォーム 257, 261  
 オーダー保留  
   概要 50  
   設定 50  
   チェック 160  
   入力 160  
   リリース 163  
 オーダー保留情報  
   入力 51  
 「オーダー保留情報」フォーム 51  
 オーダー見出し情報  
   アクセス 114  
   記述 95  
   入力 113  
 「オーダー見出し - 追加情報II」フォー  
   ム 117, 127  
 「オーダー見出し - 追加情報」フォー  
   ム 117  
 「オーダー見出しの処理」フォーム 117,  
   139, 165, 176, 257, 261, 264, 271  
 「オーダー見出し」フォーム 117, 257  
 オーダー明細行  
   運賃の伝票処理のための選択 237  
   伝票と照合する運賃の選択 237  
 オーダー明細情報  
   記述 95  
   デフォルトのフィールドの表示 122  
   入力 121

オーダー明細の印刷プログラム(R4401P)  
   処理オプション 180  
 「オーダー明細の処理」フォーム 60,  
   165, 178  
 「オーダー明細」フォーム 117, 127, 128,  
   139, 176, 178, 257, 261, 264, 271  
 「オーダー明細(ページ1)」フォーム 127  
 「オーダー明細(ページ2)」フォーム 127  
 「オーダー・リリースの処理」フォー  
   ム 257, 261

## か

買掛管理 1  
 買掛金照合 125, 138, 187, 200, 217,  
   312  
 買掛金標準伝票入力プログラム(P0411)  
   処理オプション 220  
   用途 213  
 階層ログ  
   概要 65  
   設定 65  
 外注オーダー  
   外注オーダーの承認状況の検討 289  
   却下 293  
   支払の保留 214  
   承認 293  
   承認待ちオーダーの検討 290, 292  
 外注管理 11  
 外注業者しきい値テーブル(F4355) 365  
 外注契約留保金 216, 240  
 概要 1  
 価格  
   仕入先価格の入力 78  
   仕入先割引の入力 78  
 価格管理固定情報 37  
 価格管理固定情報フォーム 35  
 価格設定  
   概要 17  
   価格マトリックスの使用 18  
   最高価格調整の使用 18  
   最低価格調整の使用 18  
   調達管理のための価格再設定 20  
   手入力による購入価格一時変更の使  
   用 19  
   入荷時の価格再設定 19  
   品質属性による使用 19  
   マトリックス品目の使用 18  
 価格マトリックス 18  
 価格見積  
   オーダーの作成 266, 268

処理 261  
 入力 263  
 見積要求品目の入力 262  
 要求の印刷 264  
 価格割引規則  
   購買用の作成 81  
   品目および仕入先に対する添付 83  
 カスタマ/サプライヤ・セルフサービス  
   概要 21  
   設定 21  
 カタログ  
   カタログからの品目選択 156  
   仕入先のデフォルトの設定 78  
   電子 136  
   電子的に参照 122  
   入力 78  
 「カタログ品目の選択」フォーム 139  
 仮定通貨の検討 177  
 カテゴリ・コード 96, 137, 254  
   出力 168  
 仮伝票明細プログラム(R43428)  
   処理オプション 250  
 仮伝票明細レポート(R43428)  
   用途 250  
 為替レート 177  
 環境 11  
 勘定科目コード 122  
 「勘定科目の改訂」フォーム 48  
 勘定残高テーブル(F0902) 339  
 「勘定配賦の照会」フォーム 187  
 勘定配賦の照会プログラム  
   (P43126) 185  
 「勘定配賦の調整」フォーム 220  
 「勘定配賦の入力」フォーム 127, 131  
 勘定配賦の入力プログラム(P4316) 123  
 関連ドキュメンテーション xxii

## き

キット  
   親品目の入力 125  
   キット・オーダーの入力 125  
   構成品の入力 125  
   数量および原価情報の変更 125  
 「キット選択」フォーム 127  
 旧品目 125  
 行タイプ  
   記述 12  
   コミットメントの設定 340  
   設定 27  
 「行タイプ固定情報の改訂」フォーム 28

共通フィールド xxvi, xxx  
 許容規則  
   概要 49  
   作成 49

## く

「組込規則の変更」フォーム 88  
 グローバル導入の手順 4

## け

警告 xxv  
 契約価格 79  
 「契約見出しの処理」フォーム 257, 261  
 「契約明細の処理」フォーム 178  
 「原価分析詳細」フォーム 323  
 「原価分析」フォーム 323  
 検査/サンプル・サイズ・テーブル  
   (F43093) 363  
 「検査/サンプル・サイズ・テーブル」  
   フォーム 304

## こ

ご意見 xxvi  
 合計原価 123  
 更新 333  
 「工程の結果入力」フォーム 313  
 「工程報告の設定」フォーム 302  
 購買オーダー  
   一括オーダーを使用した購買オーダー  
     の作成 260  
   却下 293  
   コミットメントおよび債務のトラッキン  
     グ 341  
   自動生成 273  
   承認 293  
   承認状況の検討 289  
   承認待ちオーダーの検討 290, 292  
   デフォルト値の設定 67  
   入荷 7  
   バッチ生成 280  
   発注残の検討 206  
   日付の改訂 335  
   複数の仕入先に対する入力 156  
 購買オーダー印刷出力プログラム  
   (R43501)  
   処理オプション 173  
   用途 167  
 購買オーダー印刷プログラム(R43500)  
   処理オプション 169



- 用途 167
- 購買オーダー仕入先テンプレート
  - 作成 61
- 購買オーダー条項 97
  - 出力 169
- 購買オーダー承認プログラム(P43081)
  - 処理オプション 291
  - 用途 289
- 購買オーダー生成テーブル
  - (F4311Z) 363
- 購買オーダー手配の除去プログラム
  - (R4333WFP)
  - 実行 359
  - 用途 357
- 購買オーダー手配ワークファイル・テーブル(F4333WF) 365
- 購買オーダー入荷工程テーブル
  - (F43092) 362
- 「購買オーダー入荷の処理」フォーム 187, 201
- 購買オーダー入力
  - AAI(自動仕訳)の設定 45
- 購買オーダー入力プログラム(P4310)
  - 処理オプション 97
  - 用途 95, 114
- 購買オーダーの生成プログラム(P43011)
  - 処理オプション 275
- 購買オーダー複数勘定科目タグ・テーブル(F4316T) 364
- 購買オーダー複数勘定科目テーブル
  - (F4316) 364
- 購買オーダー/変更オーダー集計プログラム(P4319)
  - 処理オプション 271
- 購買オーダー見出しテーブル
  - (F4301) 270, 362
- 購買オーダー見出し未編集トランザクション・テーブル(F4301Z1) 362
- 購買オーダー見出しワークファイル・テーブル(F4301Z) 362
- 購買オーダー明細実績テーブル
  - (F43199) 270, 339, 364
- 購買オーダー明細請求対象外テーブル
  - (F4317) 364
- 購買オーダー明細タグ・テーブル
  - (F4311T) 363
- 購買オーダー明細テーブル(F4311) 270, 363
- 購買オーダー明細未編集トランザクション・テーブル(F4311Z1) 363
- 購買オーダー・ユーザー・テンプレート
  - 作成 61
- 「購買オーダー・ワークベンチ」フォーム 139
- 購買オーダー・ワークベンチ・プログラム(P43101)
  - 処理オプション 140
- 購買許容規則テーブル(F4322) 364
- 「購買許容規則の改訂」フォーム 49
- 購買金額元帳 340
- 購買組込規則テーブル(F4342) 365
- 「購買契約の処理」フォーム 329
- 購買契約の変更プログラム(P4340)
  - 処理オプション 89
- 購買指示
  - 仕入先用の定義 72
- 購買実績(F43199)の除去プログラム
  - (R43199P) 357
  - 実行 346
  - 処理オプション 346
  - 用途 345
- 「購買実績の処理」フォーム 60
- 「購買状況のスピード更新」フォーム 333, 334
- 購買数量元帳 340
- 購買日付の改訂プログラム(P43100)
  - 処理オプション 335
- 「購買品目の選択」フォーム 275
- 購買方式 8
- 購買明細(F4311)の除去プログラム
  - (R4311P) 357
- 「購買明細照会」フォーム 178
- 購買元帳レポート(R43420) 369, 370
- 購買要求
  - 印刷 255
  - 概要 255
  - 却下 293
  - 許容規則の割当 49
  - 承認 293
  - 承認待ちオーダーの検討 290, 292
  - 処理 255
  - 見積オーダーの作成 262
  - リリース 255
- 購買要求オーダー見出しテーブル
  - (F43E01) 365
- 購買要求からの購買オーダー生成/一括
  - オーダー・リリース・プログラム(P43060)
  - 処理オプション 257
  - 用途 255
- 「購買要求の承認」フォーム 294

購買リポートしきい値テーブル  
 (F4341) 365  
 「購買リポート契約の改訂」フォーム 86  
 購買リポート・マスター(F4340) 365  
 購買リポート履歴テーブル(F4343) 365  
 「顧客価格設定規則」フォーム 80, 83  
 固定情報  
   アプリケーション固定情報の定義 40  
   価格設定の定義 37  
   事業所固定情報の設定 35  
   システムの定義 39  
   設定 34  
 コミット済原価の作業への転記プログラム  
 (R00932)  
   実行 348  
   処理オプション 348  
   用途 348  
 コミットメント  
   オーダーに対する情報の検討 342  
   概要 337  
   監査証跡の作成 346  
   監査証跡の修正 347  
   監査証跡の処理 346  
   検討 339  
   作業への転記 348  
   作成 338, 341  
   処理 341  
   設定 91, 92, 337  
   テーブルの管理 339  
   トラッキング 91  
   変更オーダーの入力 125  
   元帳の使用 340  
   理解 337  
   リリース 91, 338  
 「コミットメント照会の処理」フォーム 341,  
 342  
 コミットメント照会プログラム(P40230A)  
   処理オプション 341  
 コミットメント整合性の検証プロセス  
   理解 340  
 コミットメント整合性レポート(R40910)  
   用途 343  
 コミットメント整合性レポート・プログラム  
 (R40910)  
   実行 344  
   処理オプション 344  
 コミットメント・トラッキング  
   理解 91  
 コミットメント用監査証跡 346

コミットメント・リリース

設定 93  
 ご要望 xxvi

## さ

差異

AAI(自動仕訳)の設定 45  
 加重平均原価の使用 246  
 実際原価の計算 246  
 標準原価に対する作成 205  
 最高価格調整 18  
 「在庫価格設定規則」フォーム 80  
 「在庫状況の定義」フォーム 35  
 在庫品目再発注点バッチ購買オーダー  
 の生成プログラム(R437002)  
   実行 281  
   処理オプション 281  
   用途 280  
 「在庫品目発注点の処理」フォーム 275  
 最低価格調整 18  
 債務 7  
   繰越の実行 349  
   検討 339  
   作成 338, 341  
   処理 341  
   テーブルの管理 339  
   元帳の使用 340  
   理解 337  
   リリース 338  
 債務繰越 349  
 債務繰越のタイミング 350  
 債務繰越プログラム(R4317)  
   実行 350  
   処理オプション 350  
   用途 349  
 財務状況  
   オーダーの検討 177  
 「財務状況照会の処理」フォーム 178  
 財務状況情報 178  
 作業原価 2  
 「作業原価固定情報」フォーム 92, 93  
 「サンプル・サイズ・テーブルの処理」  
 フォーム 304  
 サービス・ユニット 125, 138, 187, 200,  
 217, 312  
   購買要求に表示 256  
   出力 168  
   見積オーダーでの表示 266

## し

## 仕入先

- 新しい価格の生成の例 319
- 価格の入力 78
- 価格割引の入力 78
- 許可状況の定義 136
- 契約価格の設定 79
- 原価パフォーマンスの検討 322
- 限度額の換算 317
- 購買指示の設定 68
- 購買指示の定義 72
- 購買用の指定 136
- 情報の設定 67
- 代替通貨での価格の生成 318
- 通貨換算の実行 317
- 電子カタログ情報へのアクセス 136
- 在庫情報の印刷 206
- 納入パフォーマンスのガイドラインの  
設定 68
- 納入パフォーマンスの検討 322
- パフォーマンス集計情報の検討 322
- パフォーマンス集計情報の設定 69
- パフォーマンス情報の検討 321
- パフォーマンス情報の取込み 321
- 品質のモニタリング 69
- 品質パフォーマンスのガイドラインの  
設定 69
- 品質パフォーマンスの検討 322
- 品目関係の作成 68
- 見積オーダー要求の印刷 264
- 見積価格の入力 263
- 割引規則の添付 79
- 仕入先価格 78
  - 入力 81
- 仕入先価格/カタログ・テーブル  
(F41061) 362
- 「仕入先カタログの改訂」フォーム 80
- 仕入先カタログの管理プログラム  
(P41061)
  - 処理オプション 80
- 「仕入先カタログの処理」フォーム 139
- 仕入先管理 9
- 仕入先原価パフォーマンス 322
- 仕入先購買指示
  - 定義 72
- 仕入先/事業所関係テーブル  
(F43100) 363
- 仕入先実績テンプレートの再作成プロ  
グラム(R43815)

## 処理オプション 61

- 仕入先スケジュール・マスター  
(F4321) 364
- 仕入先スケジュール・マスター  
(F43211) 364
- 仕入先選択テーブル(F4330) 364
- 「仕入先の価格比較」フォーム 139
- 「仕入先の処理」フォーム 264
- 仕入先のパフォーマンス情報 69, 321
- 仕入先パフォーマンス情報  
集計の定義 76
- 仕入先/品目関係
  - 作成 74
- 仕入先/品目関係テーブル(F43090) 362
- 仕入先/品目関係の再作成プログラム  
(R43900)
  - 実行 325
  - 処理オプション 325
  - 用途 325
- 「仕入先/品目関係の処理」フォーム 70, 303
- 「仕入先/品目関係」フォーム 70, 74, 303
- 仕入先/品目関係プログラム(P43090)
  - 処理オプション 73
- 仕入先品目の追加工程テーブル  
(F43094) 363
- 「仕入先/品目の追加工程」フォーム 70
- 「仕入先分析サマリー」フォーム 71, 323
- 仕入先分析サマリー・プログラム
  - 処理オプション 75
- 仕入先分析レポート(R04602)
  - 印刷 251
  - 処理オプション 251
- 仕入先分類コード 95, 137, 216, 254
  - 出力 168
- 仕入先別購買オーダー集計レポート  
(R43415) 369, 370
- 仕入先ページ・ハイパーリンク・テーブル  
(F4350) 365
- 仕入先ページ・ハイパーリンク・テーブル  
(F4351) 365
- 仕入先マスター(F0401) 361
- 「仕入先マスターの改訂」フォーム 70
- 「仕入先マスターの処理」フォーム 70
- 仕入先マスター・プログラム(P04012)
  - 処理オプション 71
- 「仕入先元帳照会」フォーム 178, 220, 244, 249
- 「しきい値の変更」フォーム 89

## 事業所固定情報

在庫状況の設定 38

設定 35

「事業所固定情報の処理」フォーム 35

「事業所固定情報」フォーム 35

「試算表/元帳比較」フォーム 159

## システム

固定情報の設定 38

固定情報の定義 39

設定 25

「システム固定情報」フォーム 35, 39

実績およびコミット金額の累積 157

## 自動採番

概要 27

設定 27

## 集計情報

オーダーの検討 177

集計伝票照合テーブル(F43800) 365

住所録 2

住所録マスター(F0101) 361

受注オーダー 125

受注オーダー/購買テキスト明細行テーブル(F4314) 364

出荷情報 124

「照会カラムの処理」フォーム 70

「照会カラムの定義」フォーム 71

「照会パスの処理」フォーム 71

「照会パスの定義」フォーム 71

「照会フォーマット定義」フォーム 71

「照会フォーマットの処理」フォーム 71

「使用可能なバージョン」フォーム 358

使用可能予算額の算出 158

## 状況コード

更新 333, 334

設定 32

状況コードの進行図 13

状況スピード更新プログラム(P43025)

処理オプション 334

## 条項

購買オーダーに対する出力 169

「照合するオーダーの選択」フォーム 220, 244

「照合する入荷の選択」フォーム 220

「条項」フォーム 117, 127

## 詳細レベル

検索シナリオの使用 157

「承認委任の処理」フォーム 288

承認/却下の理由テーブル(F4318) 364

## 承認経路

オーダーへの割当 115

概要 286

作成 286, 288

変更 286

予算承認者の割当 287

割当 287

承認経路の処理の図 290

「承認状況サマリーの処理」フォーム 291

「承認の委任」フォーム 288

「承認必須フィールド」フォーム 294

承認フィールド固定情報テーブル  
(F43080) 362承認フィールド固定情報プログラム  
(P43080) 294

## 承認プロセス

オーダーの却下 293

オーダーの承認 293

概要 9, 285

権限の委任 287, 289

承認権限の委任 287

承認担当者の検討 290

承認待ちオーダーの検討 290, 292

承認メッセージの検討 287, 289, 291

フィールド固定情報の設定 294

有効化 115

予算承認者のバイパス 287

「承認待ちオーダーの処理」フォーム 291, 294

「承認レベル改訂の処理」フォーム 288

承認レベル・テーブル(F43008) 362

「承認レベルの改訂」フォーム 288

承認レベルの改訂プログラム(P43008)  
処理オプション 288

用途 286

## 除去

概要 357

プログラム 357

## 処理規則

記述 12

設定 32

例 13

## シリアル番号

入荷品目への割当 200

割当 202, 311

## 仕訳

差異の検討 205

差異の作成 246

伝票トランザクションの検討と転  
記 247

入荷工程から除去された品目 302

入荷工程から除去された品目の検討 312  
 入荷工程の品目に対する更新 299  
 入荷トランザクションに対する検討 205  
 入荷に対する仕訳の検討 204  
 「仕訳入力プロンプト」フォーム 249

## す

数量区切りテーブル(F4331) 364  
 数量別価格 137

## せ

請求書  
   仮情報の印刷 249  
   原価変更の記録 239  
   商品入荷前の仮作成 248  
   代替通貨で受け取る 219  
   入力 249  
 請求対象外の留保金に対するT勘定の  
   変化の図 241  
 請求対象外留保金  
   AAI(自動仕訳)の設定 47  
 税情報  
   AAI(自動仕訳)の設定 46  
   Vertexの使用 15  
   オーダーに対する入力 115  
   伝票に対する入力 214  
   明細行に対する入力 124  
 「生成済み購買オーダー」フォーム 275  
 製造 2  
 製品ガイド  
   注文 xxii  
 製品統合 1  
 セルフサービス  
   Webでのオーダーの参照 353  
   Webでの入荷の参照 353  
   事前設定の処理 21  
   処理オプションのアクティブ化 23  
   セキュリティ問題への対応 22  
   設定 22  
   設定の概要 22  
   見積要求への回答 354  
 前提知識 xxi

## そ

総額 123  
 相互参照 xxv

## た

貸借一致調整  
   AAI(自動仕訳)の設定 47  
 代替品目 125  
 「代替品目」フォーム 127  
 多通貨  
   オーダーへの入力 114, 122  
   伝票に対する入力 214  
   入荷の検討 186

## ち

「置換情報」フォーム 313  
 置換品目 125  
 注意 xxv  
 注意事項 xxv  
 注記  
   オーダーに対する追加 115  
   明細行に対する追加 122  
 調達価格設定 17  
 調達管理  
   AAI(自動仕訳)の設定 44  
   概要 1  
   機能、用語および概念 10  
   共通フィールド xxx  
   導入手順 4  
   ワークフロー 367  
 調達管理セルフサービス・トランザクシ  
   ョン・ログ・テーブル(F43001) 362  
 調達管理のための価格再設定 20

## つ

「追加選択基準」フォーム 178  
 追加ドキュメンテーション xxii  
 追加プロパティ 96, 137, 168, 254  
 通貨  
   仮定の検討 177  
   換算の実行 317  
   契約のタイプ 177  
 通貨別仕入先/カタログ購買価格の生成  
   プログラム(R4106101)  
   実行 320  
   処理オプション 320  
   データ選択 320

## て

テキスト行の終了プログラム  
   (R43960) 357  
 手入力による購入価格一時変更 19  
 電子カタログ 122, 136

## 電子データ交換

概要 2

購買オーダー情報の保管 175

電子メール・メッセージ 287, 289, 291

## 伝票

AAI(自動仕訳)の設定 45

許容規則の割当 49

金額貸借一致の検証 247

作成 209

作成するオーダー明細行の照合 237

支払伝票を作成する個々のレコード  
の照合 214

照合時の経費処理 216

情報の印刷 250

仕訳の検討 245

仕訳の生成 245

新規の購買オーダー明細行の追  
加 214

設定 209

転記 247

伝票と照合する入荷レコードの選  
択 237

入荷別印刷 251

入荷レコードを使用した伝票の作  
成 245

明細行別の情報印刷 250

戻し 214

予備伝票からの作成 248

予備の作成 248

陸揚費用に対する作成 212, 214

留保金のある場合の入力 244

留保金レコードを使用した伝票の作  
成 239留保金をリリースするための入力 244  
レコードを使用した作成 213

伝票照合時の経費処理 216

伝票照合選択テーブル(F4314Z) 364

「伝票照合」フォーム 220, 244, 249

伝票照合複数勘定科目タグ・テーブル  
(F43146T) 364

伝票照合プログラム(P4314)

処理オプション 227

伝票仕訳帳(R04305)

処理オプション 248

用途 248

「伝票仕訳振替の処理」フォーム 249

「伝票選択」フォーム 58

「伝票タイプの例外」フォーム 58

「伝票入力 - 支払情報」フォーム 249

「伝票の再計算」フォーム 220

## テンプレート

品目の発注 137

## データ

除去 358

データの除去 357

「テーブル変換プロンプト」フォーム 358

## と

## 統合

一般会計 1

買掛管理 1

作業原価 2

住所録 2

製造 2

製品 1

電子データ交換(EDI) 2

ロジスティクス 2

## 導入手順

概要 3

グローバル 4

調達管理 4

## ドキュメンテーション

関連 xxii

最新版 xxii

ダウンロード xxii

ドキュメンテーションのダウンロード xxii

特殊オーダー処理 8

特殊オーダー入力 135

## に

## 入荷

AAI(自動仕訳)の設定 45

AAIの使用 204

一括入荷の入力 199

オーダー明細行の選択 237

価格設定 19

許容規則の割当 49

公式の処理 181

工程の作成 299

残高の締め 237

仕入先別の情報の印刷 206

状況の印刷 206

情報の印刷 205

情報の入力 199

処理時の陸揚費用の入力 211

シリアル番号の割当 200

仕訳の検討 204

転記 205

伝票と照合するレコードの選択 237

- 取消 237
- 入荷工程外の品目の戻し(逆仕訳) 312
- 入力 184
- 発注残の印刷 206
- 非公式の処理 181
- 部分実行 237
- 未決済伝票情報の印刷 251
- 戻し 200, 204
- ロットの割当 200
- 入荷確認(F43121)の除去プログラム(R43121P) 357
- 入荷確認書
  - 印刷 183
  - 記述 182
  - 個別オーダーの印刷 184
  - バッチ・モードによる印刷 184
- 入荷確認書印刷プログラム(R43510)
  - 処理オプション 183
  - 用途 183
- 入荷確認照会プログラム(P43214)
  - 処理オプション 202
  - 用途 210
- 入荷確認請求対象外テーブル(F43127) 363
- 入荷確認タグ・テーブル(F43121T) 363
- 入荷確認テーブル(F43121) 363
- 「入荷確認の照会」フォーム 353
- 「入荷確認の処理」フォーム 201, 210
- 「入荷確認」フォーム 187, 201
- 入荷確認複数勘定科目タグ・テーブル(F43126T) 363
- 入荷確認複数勘定科目テーブル(F43126) 363
- 入荷確認プログラム(P4312)
  - 処理オプション 187
- 入荷工程 9
  - AAI(自動仕訳)の設定 46
  - アクティブ化 302
  - 概要 297
  - 作業間の品目移動 305, 311
  - 作業の定義 299
  - 作成 298
  - 仕様の定義 304
  - 処分カテゴリの設定 302
  - 仕訳について 299
  - 代替の割当 303, 304
  - 入荷の戻し 200
  - 抜き取り検査要件の検討 311
  - 抜き取り検査要件の定義 304
  - 標準の割当 303
  - 品目移動の戻し(逆仕訳) 312
  - 品目現行状況の検討 311
  - 品目仕様の検討 311
  - 品目除去カテゴリの設定 302
  - 品目除去の戻し(逆仕訳) 312
  - 品目に対する仕訳の作成 299
  - 品目の除去 311, 313
  - 品目の処理 305
  - 品目への割当 303
  - 品目履歴の検討 313, 314
  - 返品品目の置換 312
  - 元帳の検討 313
  - 例 297
- 入荷工程UDC(43/RC) 300
- 「入荷工程コードの処理」フォーム 301, 302
- 入荷工程作業UDC(43/OC) 300
- 「入荷工程状況の処理」フォーム 306, 313
- 入荷工程の移動/処分プログラム(P43250)
  - 処理オプション 306
  - 用途 311
- 「入荷工程の移動」フォーム 306
- 入荷工程の作業 299
- 入荷工程の図例 297
- 「入荷工程の定義」フォーム 301, 302
- 入荷工程マスター(F43091) 362
- 入荷工程未編集トランザクション・テーブル(F43092Z1) 362
- 入荷工程履歴照会プログラム(P43252)
  - 処理オプション 314
- 入荷工程履歴テーブル(F43099) 363
- 「入荷工程履歴の処理」フォーム 314
- 入荷工程ワークファイル・テーブル(F43092Z) 362
- 入荷情報
  - 印刷情報の使用 205
- 入荷処理 8
- 入荷処理中オーダー
  - 検討 210
- 入荷請求仮勘定残高調整レポート(R43450) 251
- 入荷/伝票状況レポート(R43412)
  - 印刷 250
  - 処理オプション 250
- 入荷トランザクション
  - 仕訳の検討 205
- 入荷品目へのロット割当 200

入荷未編集トランザクション・テーブル  
(F43121Z1) 363  
「入荷明細情報」フォーム 323  
入荷レコード 214  
入荷ワークファイル・テーブル  
(F43121Z) 363

## ぬ

抜き取り検査要件  
定義 304  
理解 304

## ね

値引  
明細行に対する入力 124

## の

「納期の改訂」フォーム 335  
納入パフォーマンス  
ガイドラインの設定 75  
仕入先に対するガイドラインの設  
定 68  
仕入先の検討 322  
「納入分析詳細」フォーム 323  
「納入分析」フォーム 323

## は

バッチ印刷 167  
発注残状況プログラム(R43525)  
処理オプション 206  
発注提示在庫品目テーブル(F4371) 365  
「発注提示在庫品目の詳細」フォー  
ム 281  
「発注提示在庫品目の処理」フォー  
ム 281  
発注提示在庫品目プログラム(P4371)  
処理オプション 284  
用途 281  
パフォーマンス情報  
仕入先集計の定義 76

## ひ

非在庫品目  
概要 54  
設定 54, 56  
明細行での入力 122  
「非在庫品目の改訂」フォーム 55, 56  
非在庫品目マスター・プログラム  
(P4101N)

処理オプション 55

用途 54

日付

オーダーに関する入力 115

複数のオーダー要求/約束日付の改  
訂 335

費用

加重平均の使用 246

合計の入力 123

差異の作成 246

請求書に対する変更の記録 239

多通貨での入力 122

標準の使用 205

品目に対する取得 122

品目に対する入力 78

陸揚費用の設定 52

評価済入荷決済 245

評価済入荷決済プログラム(R43800)

処理オプション 246

表記規則 xxiv

標準原価差異 205

品質属性 19

品質属性による価格設定 19

品質パフォーマンス

仕入先に対するガイドラインの設  
定 69

仕入先の検討 322

「品質分析詳細」フォーム 323

「品質分析」フォーム 70, 323

「品質分類」フォーム 70

品目

合格品目のガイドラインの設定 69,  
76

再発注 281

作業間の移動 305, 311

仕入先価格の入力 78

仕入先カタログを使用した発注 156

仕入先関係の作成 68

仕入先品質のモニタリング 69

情報の設定 67

追加 68

テンプレートを使用した発注 137

入荷記録の印刷 206

入荷工程からの除去 311, 313

入荷工程からの処分 302

入荷工程状況の検討 311

入荷工程中の引当可能数量の更  
新 299

入荷工程に対する仕様の定義 304

入荷工程の処理 305



入荷工程の戻し(逆仕訳) 312  
 入荷工程の割当 303  
 入荷工程履歴の検討 313, 314  
 入荷への複数保管場所およびロット  
   の割当 200  
 非在庫の入力 122  
 非在庫品目の設定 54  
 品目仕入先の選択 156  
 複数の保管場所およびロットへの割  
   当 202  
 見積品目の入力 262  
 明細行の入力 122  
 履歴の検討 313  
 割引規則の入力 78  
 品目原価 122  
 品目原価テーブル(F4105) 361  
 品目除去に対する支払適格性 302  
 「品目制約の改訂」フォーム 70  
 品目の仕様  
   定義 304  
   理解 304  
 品目別発注残ワークファイル・テーブル  
   (F43632Z) 365  
 品目保管場所テーブル(F41021) 361  
 品目マスター(F4101) 361

## ふ

フィールド固定情報  
   承認処理の設定 294  
 複数勘定科目配賦  
   テーブルの更新 214  
   用途 123  
 複数購買要求テーブル(F4332) 364  
 「複数保管場所からの選択」フォー  
   ム 201  
 「プリンタの選択」フォーム 176

## へ

変更オーダー  
   検討 177  
   コピー 133  
   入力 125  
 返品された品目  
   置換 312

## ほ

保管場所  
   入荷品目の割当 200  
   入荷への複数保管場所の割当 200

保留 97, 216, 240  
   オーダーの設定 50  
   外注契約支払への割当 214  
   概要 7  
 「保留オーダー固定情報の処理」フォー  
   ム 51  
 保留オーダー・テーブル(F4209) 362  
 「保留オーダーの処理」フォーム 160  
 保留オーダー・リリース・プログラム  
   (P43070)  
   処理オプション 161

## ま

マトリックス品目  
   概要 18  
   許容範囲の処理 18  
   入荷 186  
   入荷確認の生成 18

## み

見積オーダー  
   概要 7  
   購買要求からの作成 262  
   仕入先の選択 262  
   締め 266  
   処理 261  
   入力 262  
 「見積オーダーのリリース」フォーム 267,  
   268  
 見積オーダーのリリース・プログラム  
   (P43360)  
   処理オプション 267  
 「見積回答の入力」フォーム 264  
 見積回答の入力プログラム(P4334)  
   処理オプション 265, 354  
   用途 354  
 「見積仕入先の入力」フォーム 264  
 「見積照会」フォーム 354  
 「見積数量別価格」フォーム 264, 267  
 見積要求  
   セルフサービスを使用した回答 354  
 見積要求レポート(R4350) 263  
 見積を依頼する仕入先の選択の図 262

## め

明細行  
   勘定科目コード別の入力 122  
   既存のものからのオーダー作成 156

既存のものからの購買オーダー作成 137  
 検討 122  
 税情報の入力 124  
 代替品目または置換品目の入力 125  
 注記の追加 122  
 定義 121  
 伝票情報の印刷 250  
 取消 122  
 値引条件の入力 124  
 品目番号別の入力 122, 128  
 レポート・コードの入力 124  
 明細行の価格規則 124  
 明細行のレポート・コード 124  
 明細情報  
   オーダーの印刷 180  
   オーダーの検討 177  
 「メディア・オブジェクト・ビューア」フォーム 58, 117

## も

モデル購買オーダー複数勘定科目テーブル(F4316M) 364  
 モデル・ログ  
   コピー 167  
   作成 63  
 「モデル・ログの処理」フォーム 165  
 「モデル・ログ」フォーム 63  
 戻し(逆仕訳)  
   伝票に対して実行 214  
 「戻し(逆仕訳)の確認」フォーム 201  
 元帳 340

## ゆ

ユーザー定義コード  
   移動コード(43/MC) 43  
   印刷メッセージ(40/PM) 42  
   オーダー・タイプ(00/DT) 33  
   オーダー・テンプレート(40/OT) 42, 59  
   価格カテゴリ・タイプ(42/CT) 43  
   貨物/運賃取扱コード(42/FR) 43  
   基準計画ファミリ(41/P4) 43  
   工程コード(43/RC) 44  
   購買リポート・オーダー・タイプ(43/RB) 44  
   顧客価格グループ(40/PC) 42  
   コミットメント・オーダー・タイプ(40/CT) 91

コミットメント伝票タイプ(40/CT) 42  
 作業コード(43/OC) 43  
 仕入先リポート・コード(41/P3) 43  
 状況コード(40/AT) 32  
 商品クラス・コード(41/PI) 42  
 商品補助クラス・コード(41/P2) 43  
 進捗支払の表示(43B/VW) 44  
 スケジュール名(40/AS) 41  
 設定 41  
 相互参照タイプ・コード(41/DT) 42  
 伝票タイプ(00/DT) 41  
 トランザクション・セット目的コード(47/PU) 44  
 入荷工程(43/RC) 300  
 入荷工程作業(43/OC) 300  
 認可状況(43/CR) 43  
 品目価格グループ(40/PI) 42  
 品目変更テーブル(40/IC) 42  
 平均原価計算(40/AV) 41  
 保留コード(42/HC) 43, 51  
 未処理ログ・タイプ(43/OL) 43  
 モデル・ログ(43/ML) 63  
 モデル・ログ・タイプ(43/ML) 43  
 元帳転記カテゴリ(41/9) 42  
 陸揚費用規則(41/P5) 43, 53  
 陸揚費用構成要素(40/CA) 41  
 陸揚費用レベル(41/CA) 53  
 リポート状況(43/RS) 44  
 リポート・タイプ(43/RT) 44  
 「ユーザー定義コードの処理」フォーム 65  
 「ユーザー定義コード」フォーム 58, 92  
 ユーザー定義コード・リスト  
   リポート・オーダー・タイプ(43/RB) 86

## よ

要求日付別発注残レポート(R43640)  
   処理オプション 370  
   用途 370  
 要求別発注残レポート(R43640)  
   用途 369  
 予算  
   検討 158, 159  
   処理 156  
   チェック 156  
   チェックのアクティブ化 156  
   チェックの設定 156  
 予算額の累積 157  
 予算合計 158  
 予算承認者 287

予算保留  
承認待ちオーダー・リリース 293  
入力 160  
リリース 163

## リ

陸揚費用  
AAI(自動仕訳)の設定 47  
AAIの使用 52  
概要 52  
個別処理による入力 211  
設定 52, 53  
伝票の作成 212, 214, 245  
入荷処理時の入力 211  
入力 184, 211  
陸揚費用選択プログラム(P43291)  
処理オプション 212  
用途 211  
「陸揚費用の改訂」フォーム 53  
「陸揚費用の処理」フォーム 53  
「陸揚費用の選択」フォーム 212  
リベート  
概要 327  
基本情報の入力 86  
契約に適用された数量または金額の  
変更 329  
契約の購買トランザクションの検  
討 328  
契約の集計情報の検討 327  
購買限度額の定義 89  
取得条件の定義 87  
状況に関する情報の処理 327  
情報の更新 330  
処理 327  
設定 85  
入力 86  
リベート契約  
基本情報の入力 86  
組込規則の定義 87  
購買限度額の定義 89  
購買トランザクションの検討 328  
集計情報の検討 327  
状況に関する情報の処理 327  
情報の更新 330  
設定 85  
適用された数量または金額の変  
更 329  
入力 86  
「リベート実績照会の処理」フォー  
ム 328, 329

「リベート実績明細」フォーム 328, 329  
「リベート調整の改訂」フォーム 329  
リベートの処理 327  
リベート・レポート(R43400)  
実行 330  
処理オプション 330  
用途 330  
流通AAI  
設定 48  
流通AAIプログラム(P40950)  
処理オプション 48  
流通/製造AAI値テーブル(F4095) 361  
流通/製造AAIレコード・タイプ・テーブル  
(F4090) 361  
流通/製造固定情報テーブル  
(F4009) 361  
留保金 97, 216, 240  
伝票の入力 244  
留保金に対するT勘定の変化の図 239  
留保金レコード  
伝票作成のための照合 239  
伝票の作成 239  
リリース 244

## れ

レコード情報 237  
連絡先情報 xxvi

## ろ

ログ  
階層レベルの設定 66  
概要 163  
機能のアクティブ化 66  
情報の処理 163  
表示オプションの設定 66  
モデルの作成 63  
モデル・ログからのコピー 167  
ログ階層固定情報テーブル(F4304) 362  
「ログ階層固定情報」フォーム 65  
ログ階層レベル  
設定 66  
ログ情報  
入力 166  
ログ入力プログラム(P4305)  
処理オプション 165  
「ログの処理」フォーム 165  
ログ表示オプション  
設定 66  
ログ・マスター(F4303) 362

ログ・マスター (F4305) 362  
ログ・モデル・テーブル (F4303M) 362  
ログ・レポート/更新プログラム (R43300)  
    実行 166  
    処理オプション 167  
ロジスティクス 2

## わ

割引  
    規則の入力 78  
    仕入先への添付 79  
割引規則 78  
    購買価格の作成 81  
    品目および仕入先に対する価格の添付 83  
ワークフロー  
    購買オーダー承認 367  
    約束日付変更 368  
ワークベンチ  
    「購買オーダー・ワークベンチ」について 136  
    複数の仕入先に対するオーダー入力 136